

# 上ノ村遺跡Ⅲ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V

2012.3

高 知 県 教 育 委 員 会  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



かみのむら  
上ノ村遺跡Ⅲ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V

2012.3

高知県教育委員会  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



## 序

上ノ村遺跡は、高知平野の西部を潤す仁淀川下流にある縄文時代から近代にいたる遺跡です。これまで、仁淀川下流域では戦国期の山城が幾つか知られていましたが、平地部での遺跡の分布はほとんど認められていませんでした。平成16年度、国土交通省高知河川国道事務所による波介川河口導流事業に伴う試掘調査によって新居城周辺から2つの遺跡が新たに確認され、新居城西方の遺跡を北ノ丸遺跡、南に展開する遺跡を上ノ村遺跡と命名しました。

高知県埋蔵文化財センターでは、平成16年の秋から北ノ丸遺跡、17年度には上ノ村遺跡の発掘調査に着手し平成21年度まで6カ年にわたる調査を実施してまいりました。その結果、上ノ村遺跡は古代から中世前半を中心に営まれた集落であることが明らかとなりました。そして西日本各地の土器や貿易陶磁器が多く持ち込まれており、当時の地域間交流を知ることが出来ると同時に、当遺跡が河川交通要衝であったことが考えられるようになりました。このことはこれまでほとんど判っていなかった仁淀川下流域の歴史を飛躍的に明らかにすると共に、この地域が歴史の中で重要な役割を果たしてきたことを示すものです。

この度刊行になった『上ノ村遺跡Ⅲ』は、19年度調査に実施した第3地点の発掘調査報告書です。この地点は仁淀川に最も近い調査区ですが、中世の遺構・遺物が検出されており、中世集落がさらに広がっていたことを示しています。これまでの成果に加えて上ノ村遺跡の内容がさらに豊かになると確信しております。本書が斯学の向上と共に、地域理解のための一助となり、地域発展に資することができれば幸いです。今後とも埋蔵文化財の保護、調査に対しましてご理解とご協力を下さいますようお願い申し上げます。

最後に、調査に対して全面的な協力を下さった地元新居地区のみなさま、国交省高知河川国道事務所、発掘作業に携わって下さった現場作業員のみなさまに厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター

所長 森田尚宏

## 例　言

1. 本書は、~~高知県文化財団埋蔵文化財センター~~（以下高知県埋蔵文化財センター）が平成19年に実施した波介川河口導流事業に伴う上ノ村遺跡第3地点の発掘調査報告書である。
2. 調査は、国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所の委託を高知県教育委員会が受託し、高知県埋蔵文化財センターが再委託して発掘調査を実施した。
3. 上ノ村遺跡は、土佐市新居上ノ村字土居屋敷5100-1他に所在する。
4. 調査期間及び調査面積  
調査期間：平成19年6月～20年2月　　面積：5,280m<sup>2</sup>
5. 調査体制

総括	高知県埋蔵文化財センター所長	浜田幸一
	タ	次長 森田尚宏
	タ	調査課長 廣田佳久
総務	タ	総務課長 戸梶友昭
調査担当	タ	調査課第三班長 出原恵三
	タ	専門調査員 野田秀夫
	タ	坂本憲昭
	タ	調査員 柴岡理恵

6. 扱筆は第3地点1・4・5区を出原が、第3地点2・3区は坂本が行った。本書の編集は坂本が行ったが文章中の表現、表については統一を図っていない。
7. 19年度現場作業では下記の調査補助員から協力を得た。  
高知県埋蔵文化財センター技術補助員 片岡和美 坂本憲彦  
タ　測量補助員　岡林真史 谷川齊
8. 出土遺物については浜田恵子（高知市教育委員会）からご指導を頂いた。記して謝意を表したい。
9. 出土遺物の自然科学分析に付いては下記の機関に依頼した。  
鍛冶関連遺物については金属学的調査を九州テクノリサーチ・TACセンターに依頼した。
10. 遺物実測、トレースなどの整理作業は下記の方々が従事して下さった。  
片岡和美　岡林真史　高橋由香　竹村延子　土居初子　東村知子　吉本由佳　山中美代子  
入野三千子　藤原ゆみ　竹村加奈子　志摩村美保　高橋加奈　その他多くの方々の協力を得た。
11. 遺構については、SK（土坑）、SD（溝跡）、P（ピット）、SX（性格不明遺構）、IKO（攢乱等近現代遺構の可能性がある部分）等の略号を使用した。掲載している挿図の縮尺はそれぞれに記載しており、方位Nは世界測地系による方北である。

12. 位置図、全体図は基本的に上を方位Nとした。方位Nは世界測地系による方眼北である。
13. 遺物については縮尺1/4を基本とし、石器等必要に応じて縮尺を変えているが、各挙図にはスケールを表示している。
14. 出土遺物は、18年度調査分が「06-8TK」、19年度調査分が「07-8TK」、20年度分が「08-8TK」と注記して高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

## 本文目次

第Ⅰ章 調査区の概要.....	1
第Ⅱ章 3-1区の調査.....	3
1. 基本層準 .....	3
2. 上層の遺構と遺物.....	6
3. 中層の遺構と遺物.....	11
4. 下層の遺構と遺物.....	44
第Ⅲ章 3-2区の調査.....	75
1. 3-2区の概要 .....	75
2. 上面の遺構と遺物.....	77
3. 中面の遺構と遺物.....	77
4. 下面の遺構と遺物.....	96
第Ⅳ章 3-3区の調査.....	127
1. 3-3区の概要.....	127
2. 上面の遺構と遺物.....	129
3. 下面の遺構と遺物.....	142
第Ⅴ章 3-4・5区の調査.....	183
1. 3-4区の調査.....	183
2. 3-5区の調査.....	183
第VI章 自然科学的分析.....	199
1. 上ノ村遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査.....	199
2. 上ノ村遺跡出土土器の年代学的調査.....	208

## 挿図目次

1-1 図 上ノ村遺跡調査区位置図.....	2
2-1 図 3地点調査区位置図.....	3
2-2 図 3-1区上層全体図.....	4
2-3 図 3-1区基本層準.....	5
2-4 図 SK1・2 遺構・遺物 .....	7
2-5 図 SK3・6・7 遺構・遺物.....	8
2-6 図 SD3 ~ 9 セクション・遺物 .....	9
2-7 図 上層ピット出土遺物.....	11
2-8 図 中層遺構全体図.....	12
2-9 図 SK10・11・41 遺構・遺物.....	13
2-10図 SK12・13・35 遺構・遺物 .....	14
2-11図 SK14・15 遺構・遺物.....	16
2-12図 SK16・17 遺構・遺物.....	17
2-13図 SK18 ~ 20・29 遺構・遺物 .....	18
2-14図 SK21 ~ 23 遺構・遺物 .....	19
2-15図 SK24・25 遺構・遺物.....	20
2-16図 SK27・28 遺構・遺物.....	21
2-17図 SK30 ~ 34 遺構・遺物 .....	22
2-18図 SK38・42 ~ 45 遺構・遺物 .....	23
2-19図 SK46 ~ 48 遺構・遺物 .....	24
2-20図 SD20集石出土状況.....	27
2-21図 SD20セクション及び上層出土遺物①.....	28
2-22図 SD20上層出土遺物②.....	29
2-23図 SD20上層出土遺物③.....	30
2-24図 SD20上層出土遺物④.....	31
2-25図 SD20中・下層出土遺物 .....	32
2-26図 SD20集中出土遺物 .....	33
2-27図 SD22・23セクション及びSD21 ~ 23出土遺物 .....	34
2-28図 SD25セクション及びSD24・25出土遺物 .....	35
2-29図 中層ピット出土遺物①.....	36
2-30図 中層ピット出土遺物②.....	37
2-31図 集石1(W・E)平面・エレベーション及び出土遺物 .....	38
2-32図 集石2平面・エレベーション及び出土遺物 .....	39
2-33図 中層土器集中1 ~ 3出土遺物 .....	40
2-34図 下層遺構全体図.....	42

2-35図	SK49～51 遺構・遺物	43
2-36図	SD31セクション及び出土遺物	44
2-37図	SD32セクション及び出土遺物	45
2-38図	SD33・35a・35bセクション及びSD33出土遺物	46
2-39図	SD34～36出土遺物	47
2-40図	SD37・38セクション及び出土遺物	47
2-41図	SD39・40セクション及び出土遺物	48
2-42図	下層ピット出土遺物	49
2-43図	包含層出土遺物①	50
2-44図	包含層出土遺物②	51
3-1図	調査区位置図	75
3-2図	TR28・中央バンクセクション図	76
3-3図	中面遺構全体図	78
3-4図	中面遺物分布図	79
3-5図	SK1遺物集中出土遺物	82
3-6図	SK1	83
3-7図	SK9・13・23・26	84
3-8図	SK24・30・38	85
3-9図	SK44	86
3-10図	SD1・2	89
3-11図	SD3・4・6・7・9・10	90
3-12図	SD8	91
3-13図	SD20	92
3-14図	中面ピット出土遺物	94
3-15図	SX1	95
3-16図	下面遺構全体図	97
3-17図	下SK1～6	98
3-18図	SD35・36	100
3-19図	SD37	101
3-20図	4層出土遺物1	102
3-21図	4層出土遺物2	103
3-22図	4層出土遺物3	104
3-23図	4層出土遺物4	105
3-24図	4層出土遺物5	106
3-25図	4層出土遺物6	107
3-26図	4層出土遺物7	108
3-27図	4層出土遺物(石器・鉄器)	109
3-28図	4・5層出土遺物	110

3-29図 5層出土遺物	111
3-30図 5・5・2・6層・表採及び攪乱出土遺物	112
4-1図 調査区位置図	127
4-2図 セクション図	128
4-3図 上面遺構全体図	130
4-4図 SK1～5	131
4-5図 SE1	133
4-6図 SE1	134
4-7図 SE1	135
4-8図 SE1 出土遺物	136
4-9図 SD1・7・石列1	138
4-10図 石列1・2・3	139
4-11図 上面ピット出土遺物	141
4-12図 下面遺構全体図	143
4-13図 SB1・2	145
4-14図 SB3～6・柱穴列1	146
4-15図 下SK3・8・16	150
4-16図 下SK17・19・22	151
4-17図 下SK26・27・29・31	152
4-18図 下SD1	153
4-19図 下面ピット出土遺物	155
4-20図 下IKO1	157
4-21図 下IKO2	158
4-22図 下IKO2 遺物出土分布	159
4-23図 下IKO2 出土遺物	160
4-24図 下IKO2 出土遺物	161
4-25図 下IKO3	162
4-26図 包含層 4層 出土遺物1	163
4-27図 包含層 4層 出土遺物2	164
4-28図 包含層 4層 出土遺物3	165
4-29図 包含層 4層 出土遺物4	166
4-30図 包含層 5層 出土遺物	167
4-31図 包含層 5・2層 出土遺物	168
4-32図 包含層 出土遺物	169
5-1図 3-4区平面図	183
5-2図 3-4区基本層準	184
5-3図 3-5区遺構全体図	185
5-4図 3-5区基本層準	186

5-5図 SK1～3平面・エレベーション・出土遺物	187
5-6図 SK4・5平面・セクション及び出土遺物	188
5-7図 SK5出土遺物	189
5-8図 SK6・7平面・セクション及び出土遺物	190
5-9図 SK8平面・セクション	191
5-10図 SK8出土遺物	192
5-11図 護岸状遺構	192
5-12図 ピット出土遺物	193
5-13図 トレンチ出土遺物	193
5-14図 3-5区包含層出土遺物	194
6-1図 上ノ村1の確立密度分布	210
6-2図 上ノ村2の確立密度分布	210
6-3図 上ノ村3の確立密度分布	210
6-4図 大分市玉沢条里跡第7次出土上晉生B式土器と上ノ村遺跡出土土器	212

## 挿入表目次

表1 上層検出の土坑一覧	6
表2 中層検出の土坑一覧	15
表3 3-1区土器観察表1	55
表4 3-1区土器観察表2	56
表5 3-1区土器観察表3	57
表6 3-1区土器観察表4	58
表7 3-1区土器観察表5	59
表8 3-1区土器観察表6	60
表9 3-1区土器観察表7	61
表10 3-1区土器観察表8	62
表11 3-1区土器観察表9	63
表12 3-1区土器観察表10	64
表13 3-1区土器観察表11	65
表14 3-1区土器観察表12	66
表15 3-1区土器観察表13	67
表16 3-1区土器観察表14	68

表17 3-1区土器観察表15	69
表18 3-1区土器観察表16	70
表19 3-1区土器観察表17	71
表20 3-1区土器観察表18	72
表21 3-1区土器観察表19	73
表3-1 中面土坑一覧表	80
表3-2 中面ピット計測表	93
表3-3 下面土坑一覧表	96
3-2区遺物観察表1	113
3-2区遺物観察表2	114
3-2区遺物観察表3	115
3-2区遺物観察表4	116
3-2区遺物観察表5	117
3-2区遺物観察表6	118
3-2区遺物観察表7	119
3-2区遺物観察表8	120
3-2区遺物観察表9	121
3-2区遺物観察表10	122
3-2区遺物観察表11	123
3-2区遺物観察表12	124
3-2区遺物観察表13	125
表4-1 上面土坑一覧表	129
表4-2 溝跡一覧表	137
表4-3 上面ピット計測表	140
表4-4 掘立柱建物跡計測表	142
表4-5 下面土坑計測表	147
表4-6 下面ピット計測表	154
3-3区遺物観察表1	171
3-3区遺物観察表2	172
3-3区遺物観察表3	173
3-3区遺物観察表4	174
3-3区遺物観察表5	175
3-3区遺物観察表6	176
3-3区遺物観察表7	177
3-3区遺物観察表8	178
3-3区遺物観察表9	179
3-3区遺物観察表10	180
3-3区遺物観察表11	181

3-3区遺物観察表12	182
表3-5区土器観察表1	195
表3-5区土器観察表2	196
表3-5区土器観察表3	197
表6-1 供試材と履歴と調査項目	206
表6-2 供試材の化学組成	207
表6-3 出土遺物の調査結果のまとめ	207
表6-4 土器付着炭化物の測定結果一覧	209

## 写真目次

- 図版 1 3地点調査前の全景 南上空から・同上 南東から
- 図版 2 3地点調査前の全景 北から・渡し場跡
- 図版 3 3-1区上層完掘状況 真上から・同上 南側上空から
- 図版 4 3-1区上層石列 南から・同上 西から
- 図版 5 3-1区上層石列 東から・北壁土層堆積状況①
- 図版 6 3-1区北壁土層堆積状況②・SD7・SD9セクション・SK7、SK3土瓶(3)出土状況
- 図版 7 3-1区中層完掘状況 直上から・同上 北上から
- 図版 8 ✕ SD20 碓出土状況・同上遺物集中出土状況
- 図版 9 ✕ SD20 碓出土状況 南から・同上 北から
- 図版 10 ✕ 中層集石1 東から・SD22・23完掘状況 南から
- 図版 11 ✕ 中層集石1 南から・同 西から
- 図版 12 ✕ SK10完掘状況、SK12・14セクション、SK15検出状況・礫出土状況・完掘状況、SK17土器出土状況
- 図版 13 ✕ SK21~24・40完掘状況、SK18・25セクション、SK46礫出土状況
- 図版 14 ✕ SK42~44・47完掘状況、SD20・22・23・25セクション
- 図版 15 ✕ SD20土器集中出土状況、集石2、4層土器集中2、4層出土の瓦器椀
- 図版 16 ✕ SD23出土の青磁碗、4層土器集中1、4層出土の青磁・白磁・土師質杯・瓦器椀
- 図版 17 3-1区下層完掘状況・同上 北東方向上空から
- 図版 18 ✕ SK51完掘状況と焼土の広がり・下層東端の石列
- 図版 19 ✕ SK51セクション、SD31~33セクション、SD33出土の瓦器椀・青磁碗・SD39出土の東播系甕

- 図版 20 3 - 1 区 SK14・17・27・34 出土の土師質杯
- 図版 21 タ SD20 出土の土師質杯
- 図版 22 タ SD20 出土の土師器杯、SD23・32・33・集石 2・包含層出土の瓦器椀
- 図版 23 タ SK3 出土の土瓶、SD33 出土の青磁碗、土器集中 1 及び包含層出土の白磁碗・温石
- 図版 24 タ 東播系捏鉢、常滑甕・鉢
- 図版 25 タ 常滑甕脛部押印、紀伊型甕
- 図版 26 タ 青磁碗
- 図版 27 タ 青磁皿・碗底部、白磁碗・皿
- 図版 28 タ 近世陶磁器
- 図版 29 3 - 2 区中面完掘状況 北から・中面完掘状況 上から
- 図版 30 タ 中面完掘状況遠景 北から・中面完掘状況 南から
- 図版 31 タ 下面完掘状況 上から・下面完掘状況近景 北から
- 図版 32 タ 遺構検出状況・遺物出土状況
- 図版 33 タ 出土遺物
- 図版 34 タ 出土遺物
- 図版 35 タ 出土遺物
- 図版 36 タ 出土遺物
- 図版 37 タ 出土遺物
- 図版 38 タ 出土遺物
- 図版 39 タ 出土遺物
- 図版 40 タ 出土遺物
- 図版 41 タ 出土遺物
- 図版 42 タ 出土遺物
- 図版 43 タ 出土遺物
- 図版 44 3 - 3 区上面完掘状況 上から・下面検出状況 南から
- 図版 45 タ 下層完掘状況 上から・下面完掘状況 南から
- 図版 46 タ 遺構完掘状況・出土状況・検出状況・作業風景
- 図版 47 タ 遺構検出状況・遺物出土状況
- 図版 48 タ 出土遺物
- 図版 49 タ 出土遺物
- 図版 50 タ 出土遺物
- 図版 51 タ 出土遺物
- 図版 52 タ 出土遺物
- 図版 53 タ 出土遺物
- 図版 54 タ 出土遺物
- 図版 55 タ 出土遺物
- 図版 56 タ 出土遺物

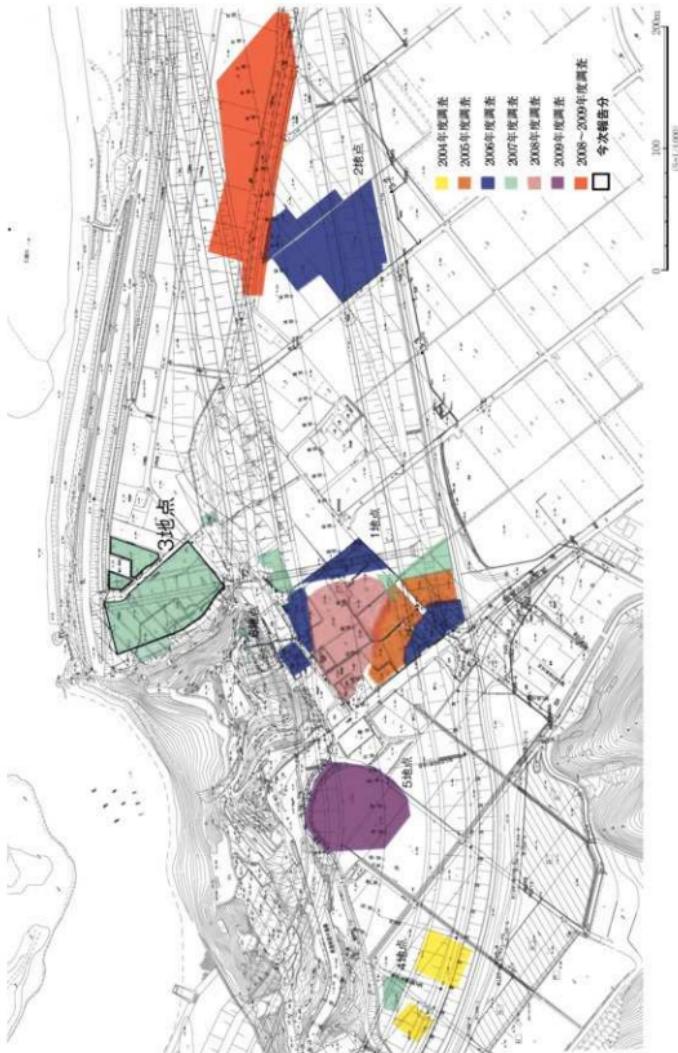
- 図版 57 3 - 3 区出土遺物
- 図版 58 タ 出土遺物
- 図版 59 タ 出土遺物
- 図版 60 タ 出土遺物
- 図版 61 3 - 4 区完掘状況（西から）、同上（東から）
- 図版 62 3 - 5 区完掘状況、同東壁セクション
- 図版 63 タ 護岸状遺構（東から）、同上（北から）
- 図版 64 タ 北壁セクションと護岸状遺構（南から）、護岸状遺構（南から）、SK5 遺物出土状況、SK4・8 完掘状況、SD3・4 セクション
- Photo.1 梶形鍛冶残滓の顕微鏡組織
- Photo.2 ガラス質滓・梶形鍛冶残滓の顕微鏡写真
- Photo.3 梶形鍛冶残滓の顕微鏡組織
- Photo.4 微細遺物の顕微鏡組織

# 第Ⅰ章 調査区の概要

第3地点は上ノ村遺跡の北東部に位置し、新居城山の東側山麓に立地している。旧堤防の外側にあり、戦後築かれた新堤防を一つ隔てて仁淀川となっている。仁淀川が城山北側の断崖にぶつかり流れをやや東に振ったところに形成された狭隘な平地部にあるが、古代以前は流路の中にあったことが2005年に実施した試掘調査の河川堆積物の状況から判っている。山裾部の高所には最近まで民家が建っており、その東側の低地部は水田が営まれていた。試掘調査では、城山裾部に近い地点から縄文晩期～中世の遺物が出土、低地部からは中世～近世の遺物・遺構が検出されたことから本調査の必要があると判断した。

調査面積は5,280m<sup>2</sup>を測る。発掘調査においては、便宜上2-1図に示したように平地部を3-1～3-5区、斜面部を第3地点拡張区とし六つの小区に分けて実施した。第3地点拡張区については2010年度に『上ノ村遺跡Ⅱ』として報告書を刊行している。拡張区からは、斜面堆積ではあるが、縄文中期から中・近世にわたる遺物が大量に出土しており、当遺跡が長期間にわたって営まれていたことを示している。わけても晩期前葉の無刻目突帯文土器の出土は注目すべきである。周知のように無刻目突帯文土器は東九州に分布の中心があり、四国においては西南部にのみ認められていたが今次調査によって高知平野での分布が確認され、しかもその成立が晩期初頭にまで遡ることが確認されたのである。当該期の高知平野の位置付けを考える上で極めて注目すべき現象であろう。

3-1区～3-5区については、3-4区を除いて中世から近世にかけての遺構・遺物が検出された。遺構面は地点によって異なるが1～3面存在している。1面は近世面で、2～3面は12～14世紀の遺構が確認されたが、それぞれの面で新旧関係を棲別して掘り分けることはできなかった。検出遺構は土坑、溝、ピット、井戸である。各遺構や包含層からは、土師質土器や瓦器を中心に、貿易陶磁器や常滑・紀伊型甕など遠隔地との交流を示す土器類が多数出土している。1地点や2010年度に報告(『上ノ村遺跡Ⅰ』)した城山の南に広がるNW・NE・S区からの出土内容と同様のものである。当該期の遺跡の広がりを示すものであり、『上ノ村遺跡Ⅰ』で位置付けた河川交通の要衝としての上ノ村遺跡の性格をさらに補強するものである。3-3区からは近世の井戸が確認された。当遺跡での近世井戸は初めての検出であり、他の調査区では認められなかった近世屋敷の存在を示唆するものである。また当調査区に近接する仁淀川右岸には、近世から戦後にかけて利用されていた「渡し場」跡が残存している。対岸の春野町西畠を結んでいた「十文字の渡し」である。3-4区は厚い河川堆積物で覆われており遺構・遺物は全く認められなかった。3-5区も東側半分は河川堆積で覆われ、西半分は中世を中心とした遺構が認められ旧川岸護岸と考えられる石列も認められた。



1-1図 上ノ村道路調査区位置図

## 第Ⅱ章 3-1区の調査

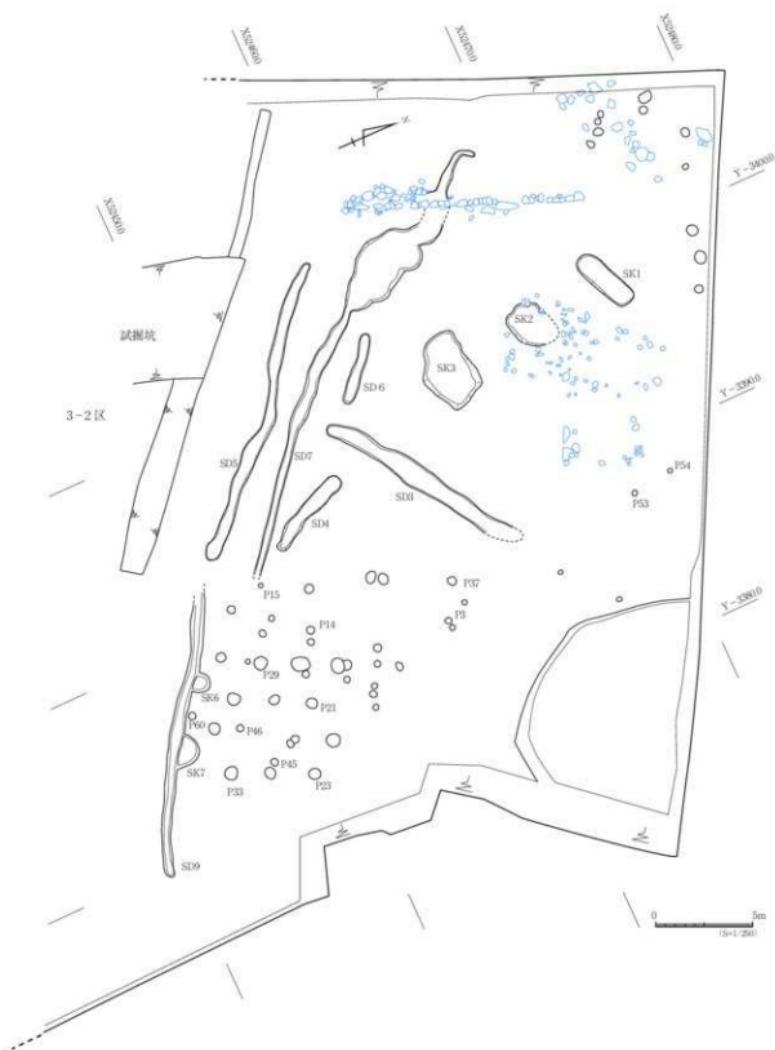
### 1. 基本層準 (2-3図)

3-1区の基本層準は、調査区北壁と中央部に東西方向のセクションベルトを二本残して観察した。山側(西部)裾に地山面の12層が斜めに堆積するが、それ以外はすべて仁淀川の河川堆積物である。その層準の中に山からの崩落した大型礫(多くの場合砂岩、砂岩風化礫)が散乱している。現代表土の地目である水田耕作を除去した段階からの基本層準であるが、北壁については耕作土が削られて厚い置土が見られた。河川による堆積土は深さ2m以上に及ぶ。各ベルトとともに1層(灰色～灰褐色砂)は共通しており、本層準が上層遺構の検出面となっている。3～6層は中世の遺物を含む包含層である。4層の上面が中層の遺構検出面、4層、或は4・6層を除去した面に下層の遺構検出面はある。それよりも下層には生活面は形成されていない。しかし下層と中層とでは遺物を見る限り大きな差違は認められない。

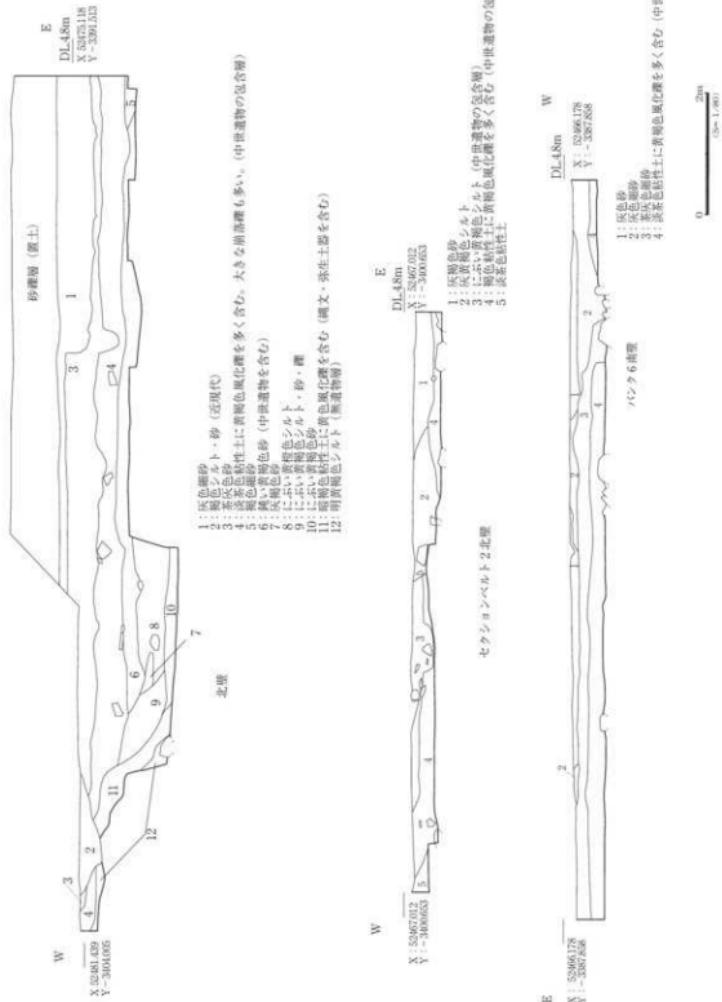
「上ノ村遺跡II」で報告した山側斜面裾では、標高2m程のレベルで縄文時代から古墳時代の遺物を



※ 3地点拡張区については「上ノ村遺跡II」で報告  
2-1図 3地点調査区位置図



2-2図 3-1区上層全体図



2-3図 3-1区基本層準

含んだ砂層が確認できている。したがって3地点で安定した平野が形成され生活面として活用されるのは中世を待たなければならぬ。上ノ村遺跡の中世遺構の広がりは、仁淀川の河川堆積による安定した平野形成が前提となっている。

## 2. 上層の遺構と遺物

### (1) 土坑

#### SK1 (2 - 4図)

調査区の東北部にある。隅丸長方形の土坑で長軸3.4m、短軸1.16m、深さ10cmを測る。埋土は茶灰細砂である。埋土中から土師質土器や瓦器細片が出土しており、瓦器椀1点1のみ図示し得た。近世土坑である。

#### SK2 (2 - 4図)

SK1の南にある。長軸2.5m以上を測る不整形の土坑である。埋土は茶灰細砂である。埋土中から土師質土器や瓦器細片が出土しており、瓦器椀1点2のみ図示し得た。近世土坑である。

#### SK3 (2 - 5図)

調査区中央部に位置する。長軸3.7m、短軸2.56mの不整形プランを呈し、深さは20cmを測る。埋土は灰色砂層である。埋土中から土師質土器や瓦器、常滑、須恵器、近世陶磁器などが出土している。3は土瓶、4は肥前系擂鉢である。前者は赤褐色に発色し焼締めによる陶器土瓶丸形である。印刻による如意頭文が見える。内面にはロクロ目が顕著である。19世紀前半に多いタイプである。後者は外面鉄釉、内面は口縁部のみ施釉し、細い条線が認められる。19世紀中葉と考えられる。

#### SK6 (2 - 5図)

調査区南部にありSD9に切られている、短軸1m前後の楕円形プランを呈するものと考えられる。埋土は、鈍い黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器の細片が出土しているが図示できるものは無い。

#### SK7 (2 - 5図)

SK6の隣にある。SD9に切られているが、楕円形プランの土坑と考えられる。埋土は、鈍い黄褐色シルトに小礫を含んでいる。埋土中から土師質土器や瓦器、備前、近世磁器片が出土している。近世の陶器椀5を図示した。口縁部が僅かに外反する。焼成不良で釉が白濁している。

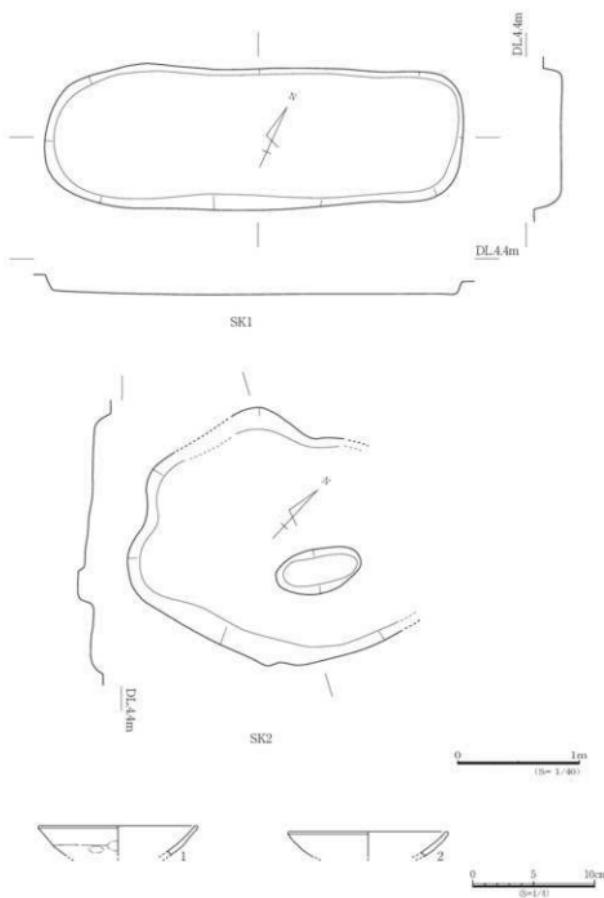
### (2) 溝跡

#### SD3 (2 - 6図)

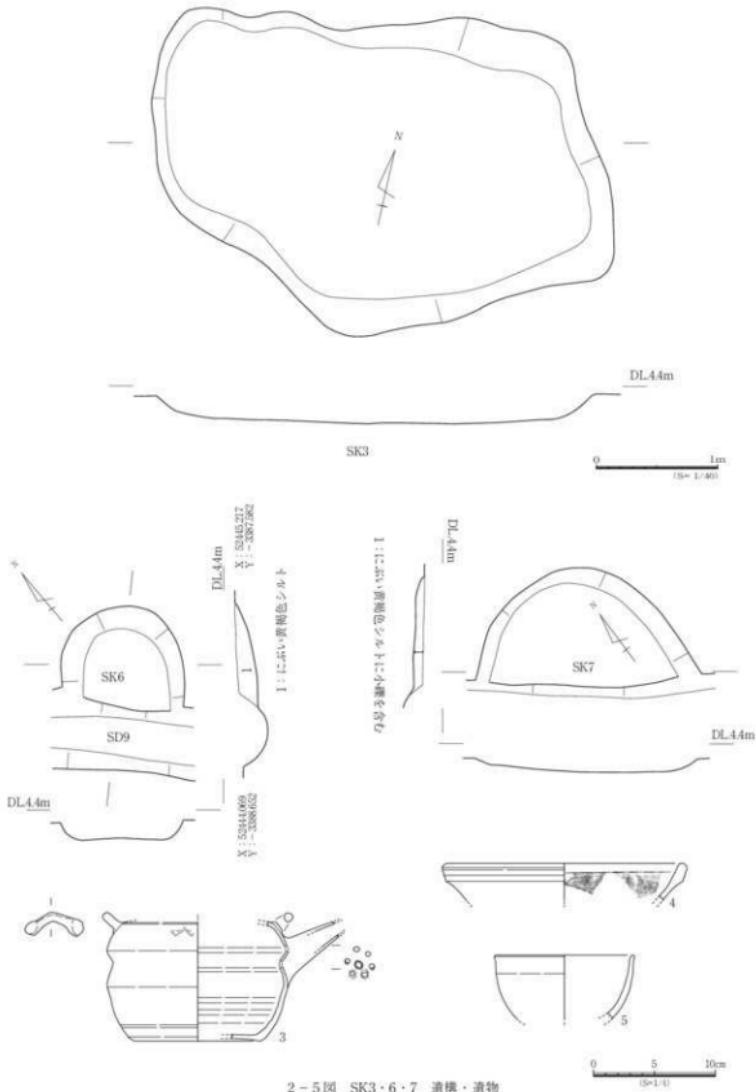
中央部を東西に走る溝で確認延長11m、幅は0.6~1.0m、深さ10cm前後を測る。埋土は黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器の細片が多く出ている。6・7は土師質杯、8は口禿白磁皿である。

表1 上層検出の土坑一覧

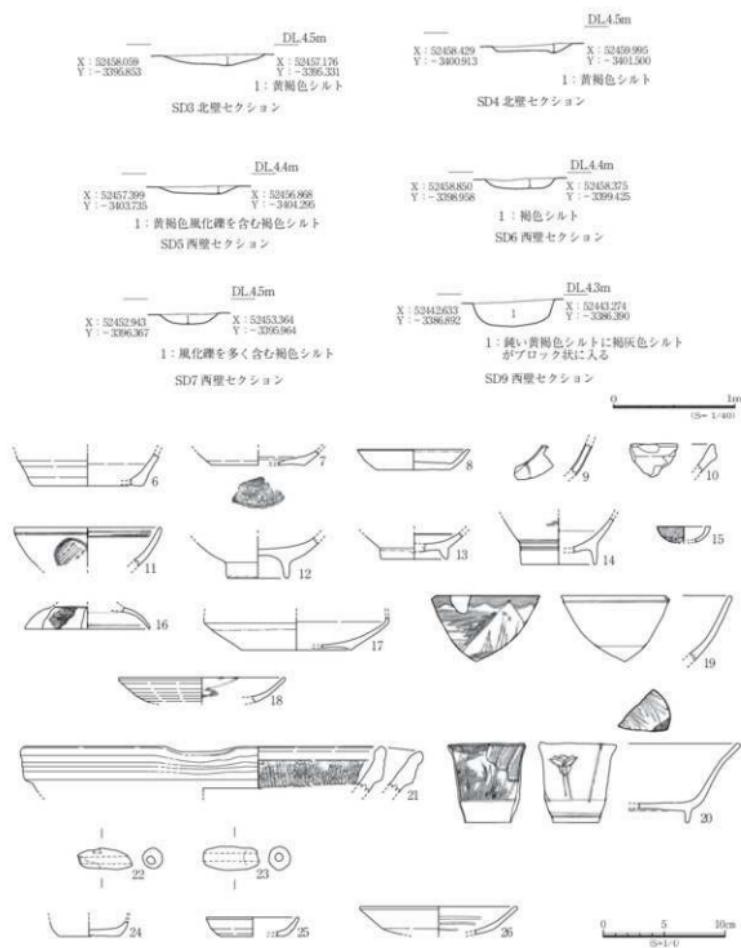
土坑番号	平面形態	断面形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	備考
SK1	隅丸長方形	箱形	3.4	1.16	10	
SK2	不整形	U字形	2.5以上	1.8	8	
SK3	不整形	U字形	3.7	2.56	20	
SK6	楕円形	逆台形	不明	1	16	
SK7	楕円形	船底形	不明	不明	8	



2-4図 SK1・2 造構・遺物  
SK1(瓦器楕:1) SK2(瓦器楕:2)



2-5図 SK3・6・7 遺構・遺物  
SK3 (土瓶:3 肥前系擂鉢:4) SK7 (陶器鉢:5)



2-6図 SD3-9 セクション・遺物

SD3 (土師質杯: 6・7 白磁皿: 8) SD5 (青磁碗: 9 東播系捏鉢: 10) SD6 (染付碗: 11)  
SD7 (灰陶碗: 12 白磁碗: 13 丸付碗: 14・16・19 同鉢: 20 同皿: 18 土瓶: 17 紅皿: 15 備前搖鉢: 21  
土縫: 22・23)  
SD9 (土師質杯: 24 同小皿: 25 瓦器鉢: 26)

#### SD4 (2 - 6図)

中央部にあり南北方向に走る溝である。延長5m、幅0.6m、深さ10cm前後を測る。埋土は黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器、瓦器、近世陶磁器の細片が出土しているが、図示できるものはない。

#### SD5 (2 - 6図)

調査区南にあり東西方向に伸びる確認延長16.3m、幅0.4~0.6m、深さ10cm前後である。埋土は黄褐色風化礫を含む褐色シルトである。遺物は埋土中から土師質土器、瓦器、近世陶磁器などの細片が出土している。9は青磁碗、10は東播系捏鉢である。9は鍋蓮弁文を有する。

#### SD6 (2 - 6図)

長さ3.5m、幅0.5~0.6m、深さ10cm前後の短い溝である。埋土は褐色シルトである。遺物は埋土中から土師質土器片、瓦器などの細片が出土している。近世染付碗11を図示した。11は中碗丸形で内面に二重圓線、外面に丸文を施す。肥前産で18世紀後半から幕末期に属する。

#### SD7 (2 - 6図)

東西方向に延びる溝で確認延長25mを測る。西部は石列に破壊されており、中央部より西は土坑状に広がっている。土坑状部分の幅は25m、深さ20cm前後、その他の部位では幅35cm、深さ10cmを測る。埋土は褐色シルトである。遺物は土坑状部分に多く、縄文土器から近世に至るまで出土している。13は白磁碗、12・14~21は近世陶磁器、22・23は土鍤である。12は灰釉丸碗で肥前産あるいは肥前系である。18世紀代に属する。14は染付け廣東碗で、肥前産または肥前系、18世紀末~幕末に属する。15は肥前産の白磁紅皿で、菊花形型押し成形による。18世紀末~幕末に属する。16は肥前産染付け、廣東碗の蓋である。外面には松が描かれている。17は陶器の鉄軸土瓶で内面全面施釉、外面は下半露胎、19世紀に属する。18は肥前産の染付け皿である。19は中碗廣東形で外面には山水を描き口縁内面に二重圓線を巡らしている。20は肥前系染付け鉢匂千形で外面芙蓉手、内面と見込みに葦、蛇ノ目凹形高台を有す。18世紀後半~幕末に属する。21は備前捏鉢である。

#### SD9 (2 - 6図)

調査区東南部を東西方向に延びる。確認延長15m、幅0.6~0.7m、深さ20cmを測る。SD5と同一の溝になる可能性もある。埋土は鈍い黄褐色シルトに灰褐色シルトがブロック状に入る。遺物は土師質土器や瓦器細片が出土している。24は土師質杯底部、25は同小皿、26は瓦器椀である。

##### (1) ピット出土の遺物 (2 - 7図)

P3: 27は土師質杯底部である。

P4: 40は肥前産の磁器染付小皿で、見込みに編み目文を描き、口縁部は輪花形、高台には褐色の粗砂が付着している。

P9: 28は肥前産の陶器小皿丸形である。口縁部内外面は鉄釉、他は灰釉。肥前産で1590年代~1610年に属する。

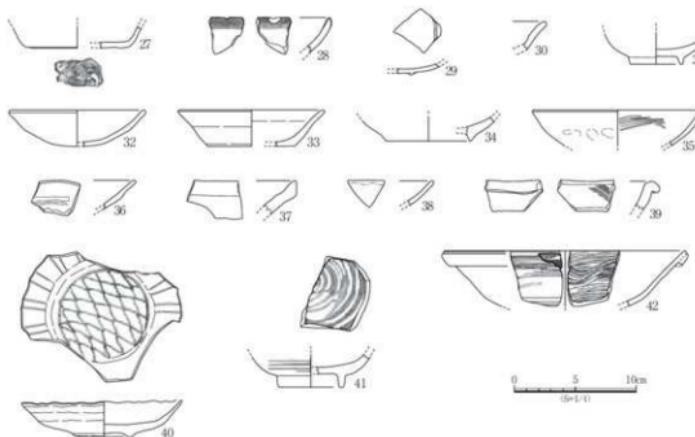
P14: 29は瓦器椀底部で退化した高台が付く。

P21: 30は近世陶器皿、内外灰釉を施釉。

P23: 41は肥前産の陶器中碗である。17世紀第4四半期~18世紀前半に属する。

P29: 31は肥前産陶器中碗、42は同中皿である。ともに17世紀第4四半期~18世紀前半に属する。

P33: 32は瓦器椀である。底部に高台は見られない。



2-7図 上層ピット出土遺物

P3（土師質杯：27） P4（染付小皿：40） P9（陶器小皿：28） P14（瓦器碗：29） P21（陶器皿：30）  
P23（陶器椀：41） P29（陶器碗：31 同中皿：42） P33（瓦器椀：32） P37（土師質杯：33）  
P45（瓦器椀：35・36 東播系捏鉢：37） P46（陶器小皿：38） P54（陶器鉢：39） P60（陶器椀：34）

P37：33は土師質杯、内外横ナデ調整、糸切りである。

P45：35と36は瓦器椀、37は東播系捏鉢である。37は口縁部が黒色を帯びる。

P46：38は肥前内野山窯の小皿で内面銅緑釉、外面灰釉で17世紀後半～18世紀前半に属する。

P54：39は陶器鉢である。産地などは判らない。

P60：34は近世陶器碗、二次的に被熱変色している。

## (2) 石列

調査区西寄りで南北方向に並ぶ石列を検出した。延長12m程を測り、近世のSD7を切っている。  
畑あるいは屋敷地の石垣の基底部と考えられる。

## 3. 中層の遺構と遺物

### (1) 土坑

#### SK10 (2-9図)

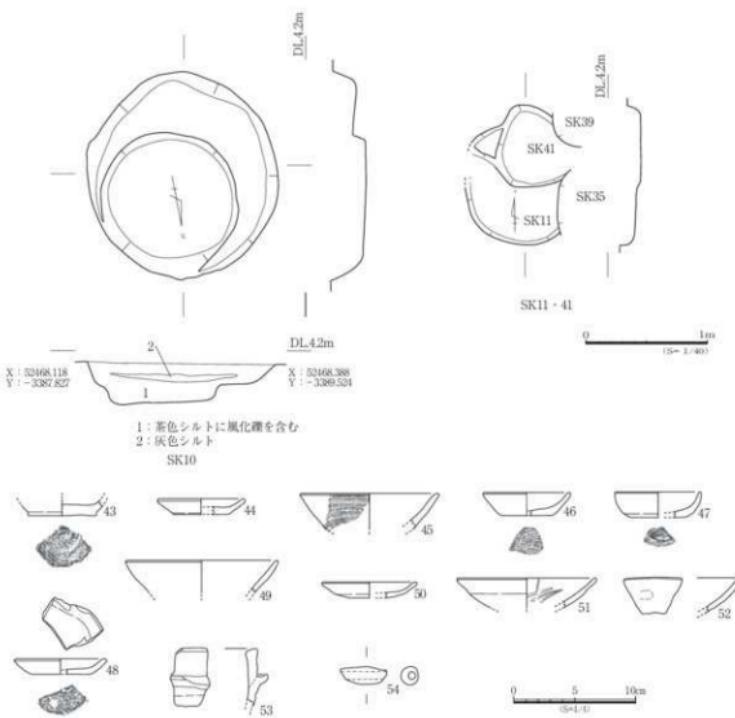
調査区北部に位置する。径1.7m前後の円形プランを呈し二段に掘り込まれており深さは15～35cmを測る。埋土は1：茶色シルトに風化礫を含む、2：灰色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器細片が多く出土している。43・45は土師質杯、44は同小皿、51は瓦器碗、50は同小皿、53は瓦質羽釜、54は土師質土錘である。

#### SK11 (2-9図)

中央部の土坑密集地点にある。径1.1m前後の隅丸方形状を呈し、深さ15cm前後を測る。SK41やSK35と切り合っている。埋土は、1～5cm大の黄色風化礫を含む褐色シルトである。46は土師質小杯、52は瓦器碗である。この他、土師質土器や瓦器細片が多く出土している。



2-8図 中層遺構全体図



2-9図 SK10・11・41遺構・遺物

SK10 (土師質杯: 43・45 同小皿: 44 瓦器小皿: 50 同椀: 51 瓦質羽釜: 53 土鍋: 54)  
SK11 (土師質小杯: 46 瓦器椀: 52) SK41 (土師質小杯: 47・48 同杯: 49)

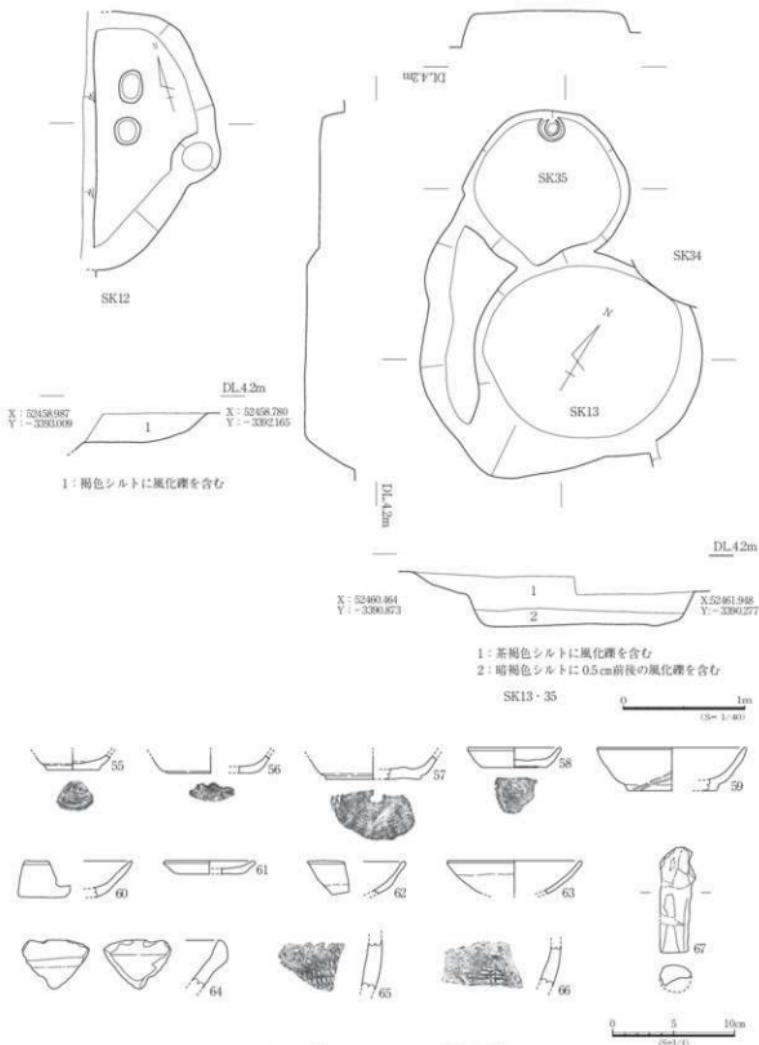
## SK12 (2-10図)

中央部にある。長軸 2.1m 程の不整形土坑であるが搅乱坑に大きく切られている。埋土は褐色シルトで風化砾を含んでいる。土師質土器や瓦器細片が多く出土している。55~57は土師質杯底部、58は同小皿、61は瓦器小皿、62は同椀、67は瓦質三足脚である。

## SK13 (2-10図)

中央部の土坑密集地点にある。SK34・35と切り合うが先後関係は不明である。長軸 2.2m 前後、短軸 1.8m 前後を測り、平面形は楕円形状を呈する。深さは 40cm である。埋土は 1: 風化砾を含む茶褐色シルトである。2: 0.5cm 前後の風化砾を含む暗褐色シルトである。

遺物は埋土中より出土している。59は土師質杯、63は瓦器椀、64は東播系捏鉢、65・66は常滑甕である。64は内外面に自然釉がかかっている。常滑甕は袈裟形押印が見られる。この他、土師



2-10図 SK12・13・35 遺構・遺物

SK12 (土師質杯: 55~57 同小皿: 58 瓦器小皿: 61 同椀: 62 瓦質羽釜足: 67)  
 SK13 (土師質杯: 59 瓦器椀: 63 東播系捏鉢: 64 常滑: 65・66)  
 SK35 (土師質杯: 60)

表2 中層検出の土坑一覧

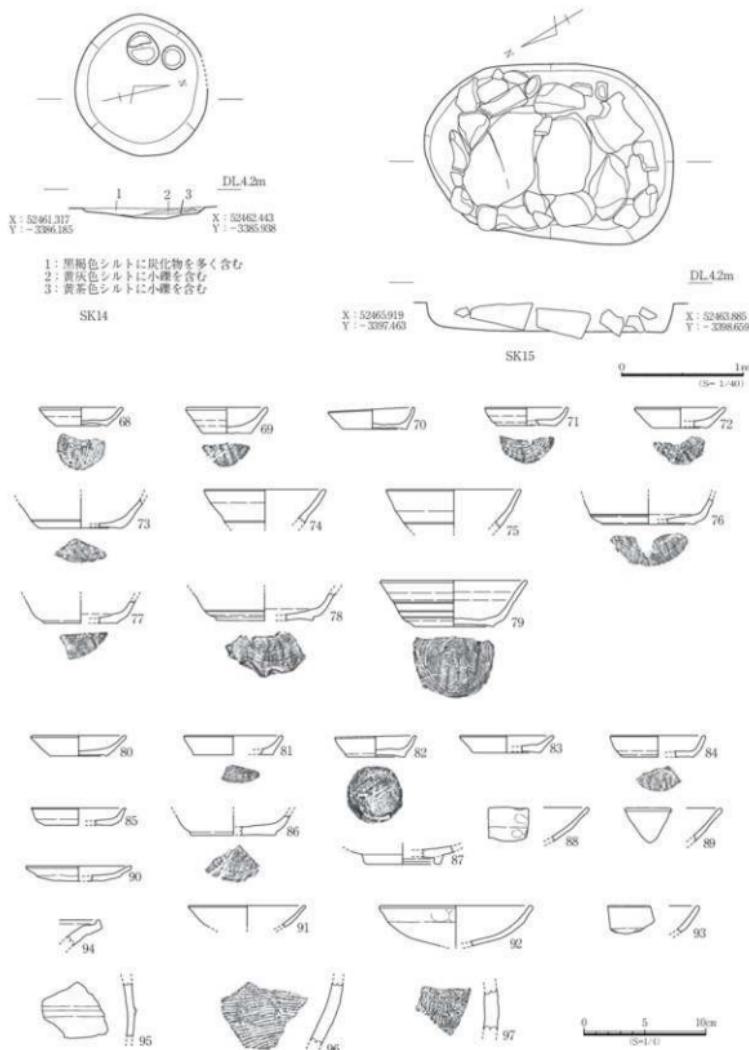
土坑番号	平面形態	断面形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	備考
SK10	円形	船底形	1.7		15~35	
SK11	隅丸方形	U字形	1.1		15	
SK12	不整形	船底形	2.1	1.39	25	
SK13	梢円形	船底形	2.2	1.8	40	
SK14	円形	船底形	1.1		10	
SK15	梢円形	船底形	2.04	1.4	24	
SK16	不整形	船底形	2	1.34	10~20	
SK17	不明	船底形	2.0以上	1.2以上	10~20	
SK18	梢円形	船底形	1.1	1		
SK19	不明					
SK20	梢円形	船底形	1.1		10	
SK21	*	逆台形	1.67	1.53	20	
SK22	隅丸方形	逆台形	1.28	1.17	20	
SK23	*	逆台形	1.1	0.98	20	
SK24	不整形	船底形	1.16	0.75	25	
SK25	*	船底形	1.7	1.49	23	
SK27	梢円形	船底形	1.54	1.16	32	
SK28	*		1.54	1.16	32	
SK29	梢円形	船底形	0.7			
SK30	不明	船底形	1.0以上		10	
SK31	隅丸方形	船底形	1.4	1.12	24	
SK32	円形	船底形	1.3		16	
SK33	梢円形	船底形	1.35以上	1.24	23	
SK34	*	船底形	1.0以上		22	
SK35	隅丸方形	船底形	1.38		30	
SK38	梢円形	船底形	1.7以上	1.3	16	
SK41	不明	船底形				
SK42	梢円形	船底形	0.97	0.86	13	
SK43	*	船底形	1.4	1.2	10~30	
SK44	*	船底形	0.96	0.85	23	
SK45	*	船底形	0.6	0.56	5	
SK46	円形	船底形	1.62	1.48	20	
SK47	*	船底形	1.5		24	

質杯類、瓦器細片が多く出土している。

#### SK14 (2-11図)

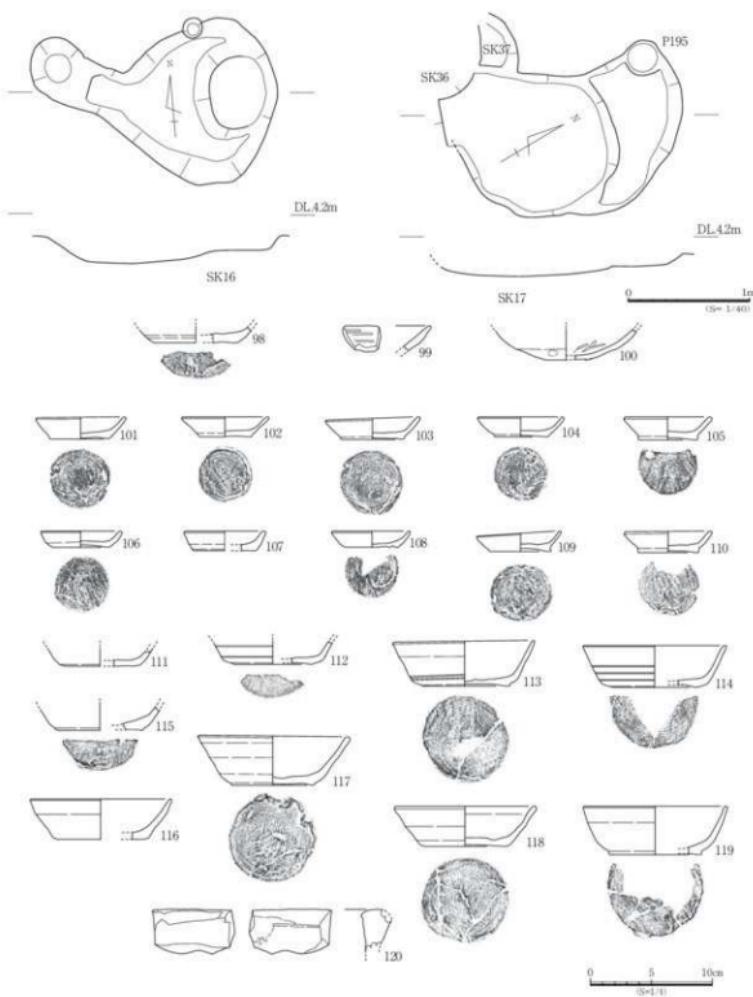
土坑集中地点の東よりにありSK38を切っている。直径1.1mの円形プランを有し、深さは10cm、断面船底形を呈する。埋土は1:炭化物を多く含む黒褐色シルト、2:小礫を含む黄灰色シルト、3:小礫を含む黄茶色シルトである。床面に小ビットがあるが伴うものかどうか不明である。

遺物は埋土中から土師質土器片が多く出土している。68~72は土師質小皿・小杯、73~79は土師質杯である。すべてロクロ成形による。杯の多くには外面に器面調整時に生じたと考えられる細い沈線が見られる。



2-11図 SK14・15 造構・遺物

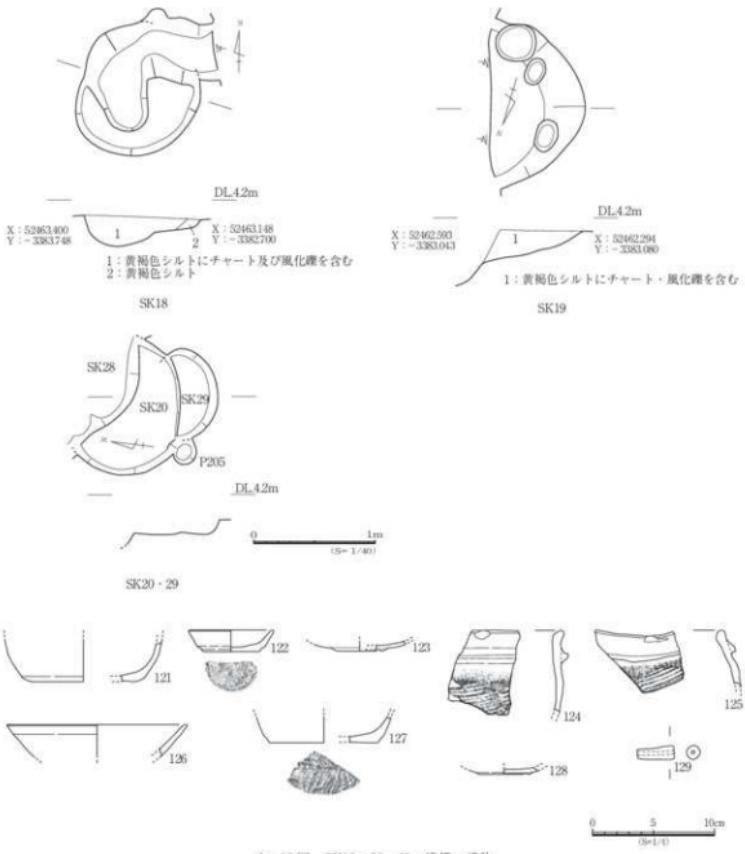
SK14 (土師質小杯・小皿: 68~72 同杯: 73~79)  
SK15 (土師質小皿・小杯: 80~82・84・85 同杯: 86 同碗: 87 瓦器柄: 88・89・91~93 同小皿: 83・90  
紀伊甕: 94・95 東播系甕: 96 常滑: 97)



2-12図 SK16・17 遺構・遺物

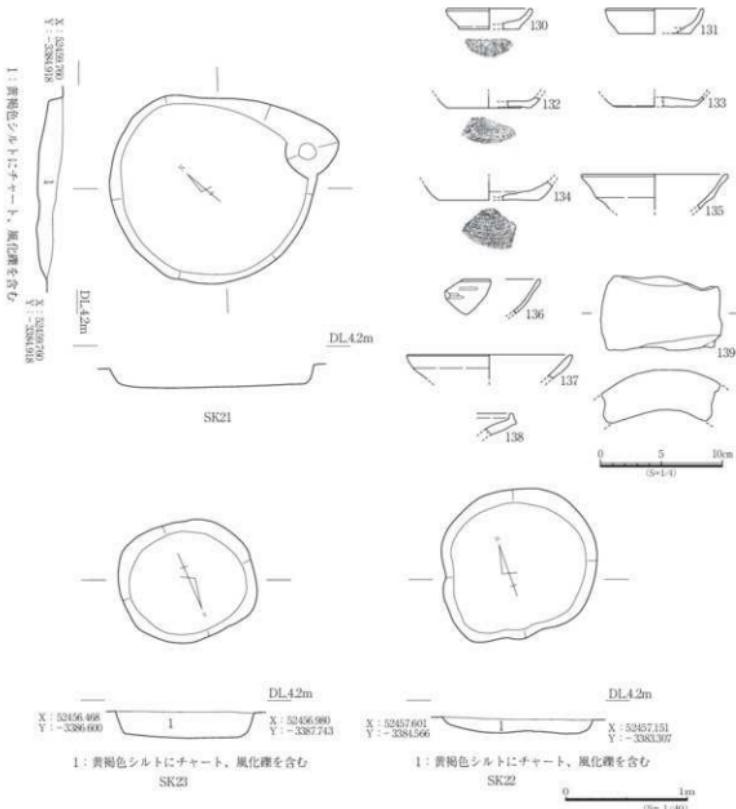
SK16 (土師質杯: 98 瓦器楕: 99・100)

SK17 (土師質小杯: 101~110 同杯: 111~119 瓦質火鉢: 120)



2-13図 SK18~20・29 遺構・遺物

SK18 (土師質杯: 121) SK20 (土師質杯: 126・127 瓦器碗: 128 土鍤: 129)  
SK19 (土師質小杯: 122 瓦器碗: 123 東播系羽釜: 124・125)

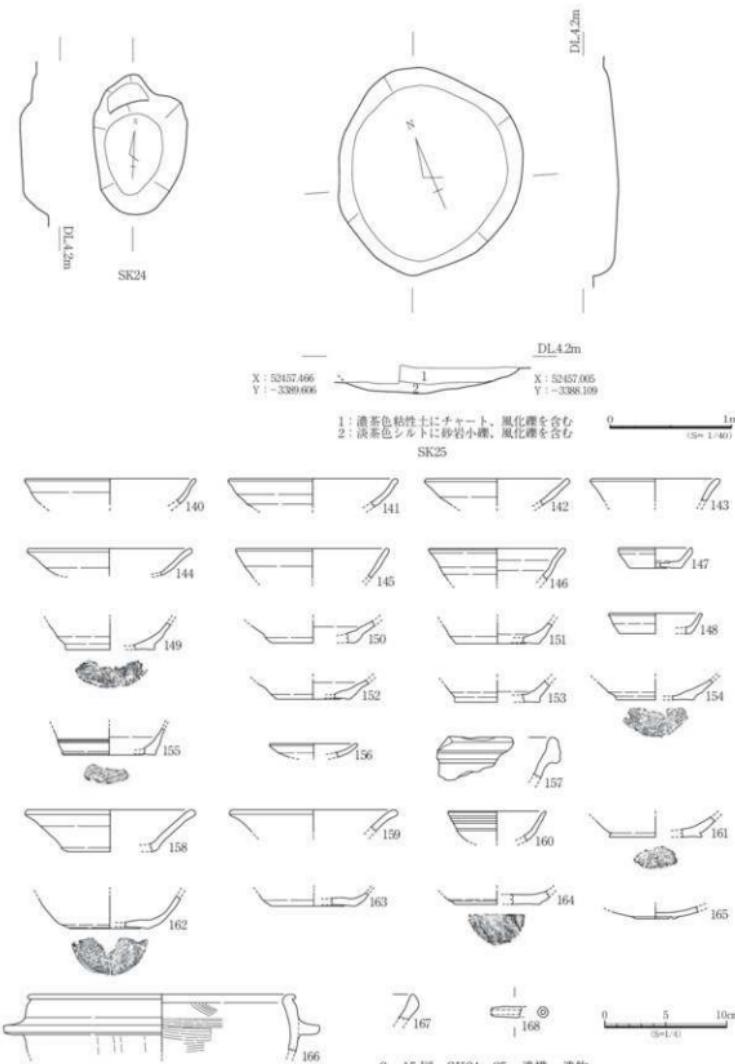


2-14 図 SK21~23 遺構・遺物  
SK21 (土師質小杯: 130・131 同杯: 132・134 白磁皿: 133 瓦器碗: 135 瓦: 139)  
SK22 (土師質杯: 137 紀伊型甕: 138) SK23 (瓦器碗: 136)

### SK15 (2-11図)

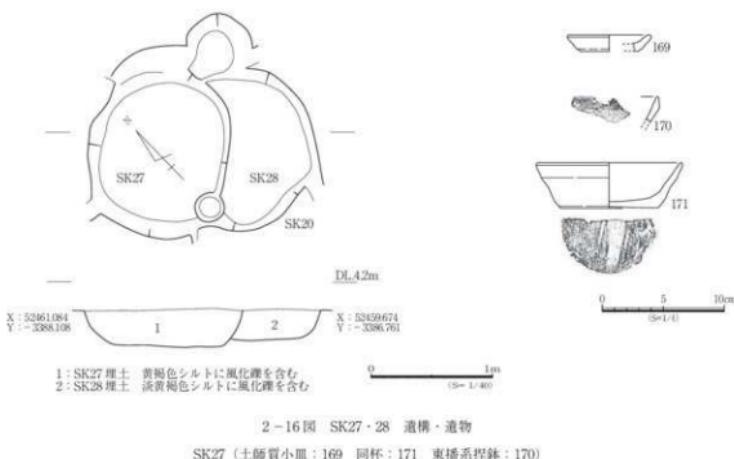
調査区中央部にある。長軸 2.04m、短軸 1.40m の楕円形のプランを呈し、深さは 24cm を測る。図示したように大小の礫が詰まっている。礫はすべて砂岩で円礫が多く中には角礫もみられ、被熱赤変しているものもある。なお、土坑プランを確認する上にも礫の集中が見られ、礫を取り除く中でプランが確認できた。この礫の集中については、集石 1として後で取り上げる。

土坑埋土は黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器が多く出土している。80~82・



2-15図 SK24・25 遺構・遺物

SK24 (土師質杯: 140~146, 149~155 土師質小杯: 147, 148 瓦器小皿: 156 東播系捏鉢: 157)  
SK25 (土師質杯: 158~164 瓦器椀: 165 瓦質羽釜: 166 東播系捏鉢: 167 土鍤: 168)



2-16図 SK27・28 遺構・遺物  
SK27 (土師質小皿: 169 同杯: 171 東播系捏鉢: 170)

84・85は土師質小皿・小杯、86は同杯、87は同碗、88・89・91～93は瓦器碗、83・90は同小皿、94・95は紀伊型甕、96は東播系甕、97は常滑甕である。土師質小皿・杯の多いのが特徴である。  
SK16 (2-12図)

東北部に位置する。長軸2.0m、短軸1.34mの不整形プランを呈し、深さ10～20cmを測る。埋土はチャートや風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土中から出土している。98は土師質杯底部、99・100は瓦器碗である。この他にも土師質杯類や瓦器細片が多く出土している。

#### SK17 (2-12図)

土坑集中部の中央に位置する。長軸2.0m以上、幅1.2m前後であるが、SK36、37と切り合っており正確なプランや規模は不明である。深さは10～20cmを測り、床面北側が高くなっている。埋土は風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土中より出土しており、土師質杯類が多く瓦器は少ない。

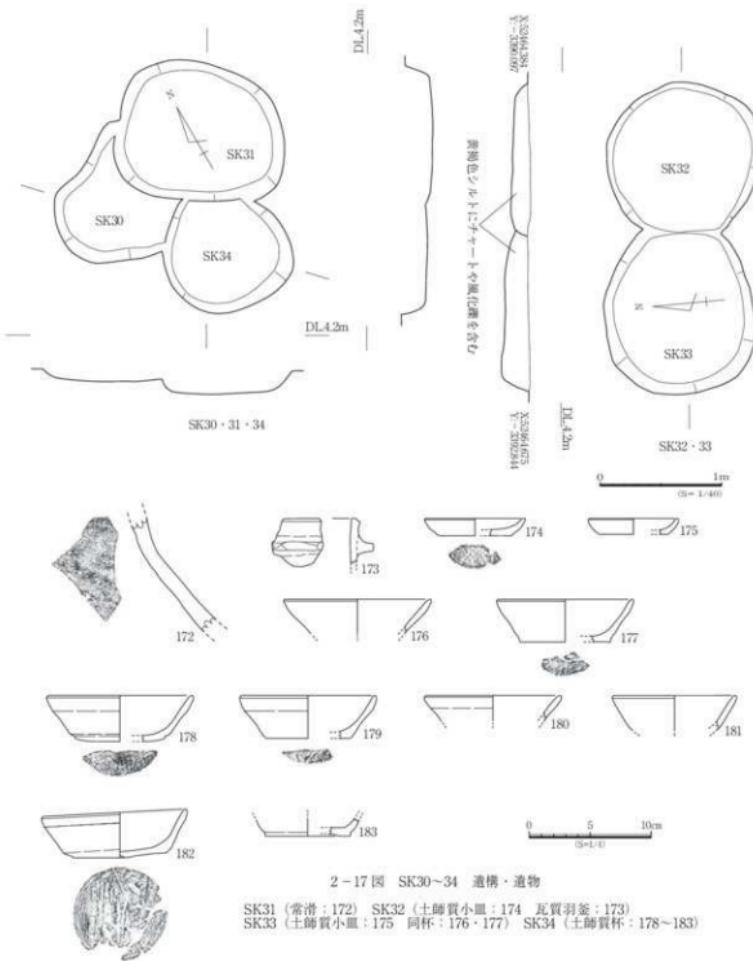
101～110は土師質小杯、111～119は同杯、120は瓦質火鉢である。土師質小杯・杯が目立つ。土師質杯はここでも器面調整時に生じた条線（沈線）を持つ例112～114がある。

#### SK18 (2-13図)

東部に位置する。長軸1.1m、短軸1.0m前後を測る梢円形プランを持った土坑と考えられるが、北部を溝状の遺構と切り合っている。埋土は1:チャート及び風化礫を含む黄褐色シルト、2:黄褐色シルトである。埋土1から土師質杯類や瓦器細片が多く出ているが図示可能なものは土師質杯1点121である。

#### SK19 (2-13図)

SK18に南接する。仁淀川の流水によって東側が大きく削り取られておりプランや大きさは不明である。埋土はチャート及び風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土中から出土している。



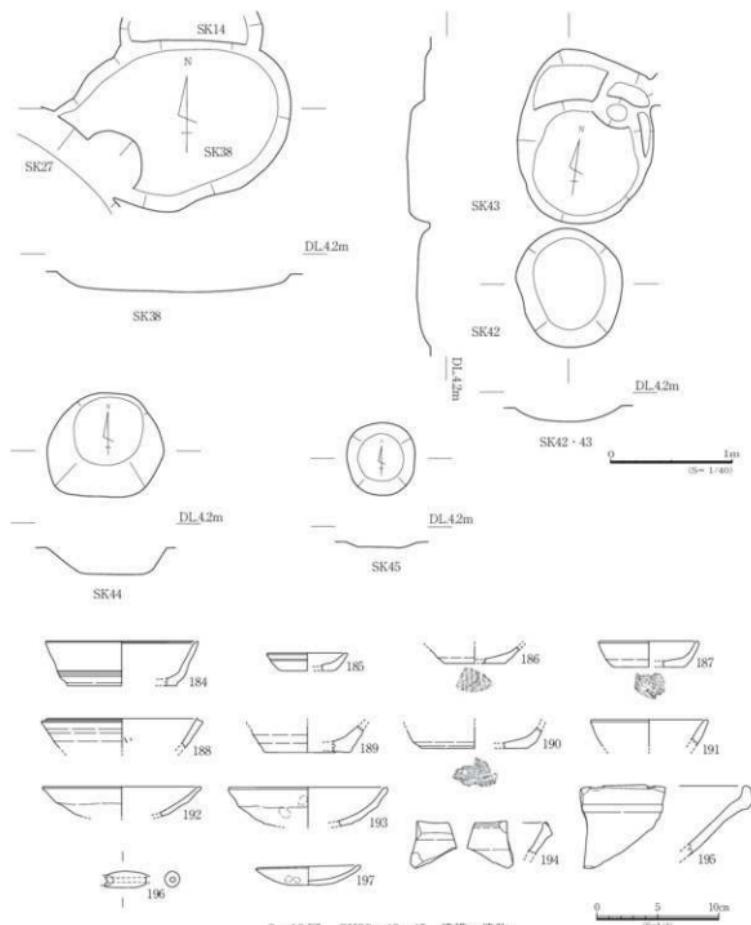
2-17図 SK30~34 造構・遺物

SK31 (常滑: 172) SK32 (土師質小皿: 174 瓦質羽釜: 173)  
SK33 (土師質小皿: 175 同杯: 176·177) SK34 (土師質杯: 178~183)

122は土師質小杯、123は瓦器椀底部、124・125は東播系羽釜である。この他に土師質土器や瓦器細片が多く出土している。

SK20 (2-13図)

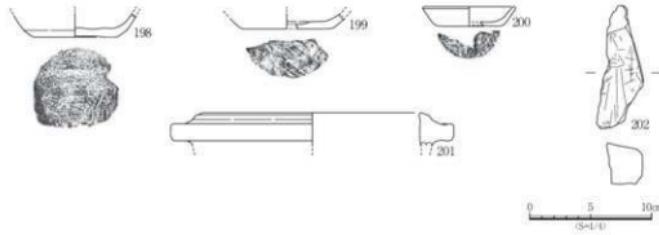
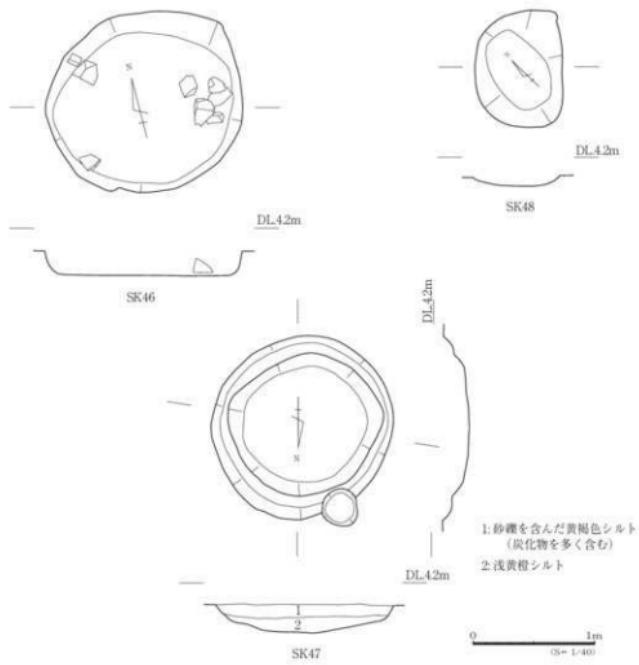
土坑密集部にありSK28・29と切り合っているが先後関係は不明である。長軸1.1m前後の梢円



2-18図 SK38~42~45 遺構・遺物

SK38 (土師質杯: 184 同小杯: 185) SK42 (土師質杯: 186)  
 SK43 (土師質小杯: 187 同杯: 189~191 漆戸皿: 188 瓦器椀: 192・193 瓦質擂鉢: 194 東播系捏鉢: 195  
 土鍤: 196) SK45 (瓦器小皿: 197)

形プランを有するものと考えられる。深さは10cm前後を測る。埋土はチャート及び風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土中から出土している。126・127は土師質杯、128は瓦器椀、129は土師質土鍤である。この他に土師質杯類や瓦器細片が多く出土している。



2-19図 SK46~48 遺構・遺物

SK46（土師質杯：199 同小杯：200 砥石：202） SK47（土師器羽釜：201） SK48（土師質杯：198）

## SK21 (2 - 14図)

土坑密集地の東部に位置する。長軸 1.67m、短軸 1.53m の楕円形を呈し、深さ 20cm を測る。東壁で小ピットと切り合っており変形しているが、ピットとの先後関係は不明である。埋土はチャート・風化礫を含んだ黄褐色シルトである。埋土中より土師質杯類の細片が多量に出土している。130・131 は土師質小杯、132・134 は土師質杯、133 は白磁皿底部である。口禿タイプであり外底も全面施釉されている。135 は瓦器椀、139 は瓦片である。139 は凹面にモコツ痕が見られる。

## SK22 (2 - 14図)

土坑密集部の東隣にある。長軸 1.28m、短軸 1.17m の隅丸方形プランを有し深さ 20cm を測る。埋土はチャート・風化礫を含んだ黄褐色シルトである。埋土から多量の土師質杯類が出土しているが、図示できるものは少ない。137 は土師質杯、138 は紀伊型甌である。

## SK23 (2 - 14図)

土坑密集地点の東部に位置する。長軸 1.1m、短軸 0.98m の隅丸方形形状のプランを有し、深さは 20cm 前後である。埋土はチャート・風化礫を含んだ黄褐色シルトである。遺物は少ない。136 は瓦器椀である。

## SK24 (2 - 15図)

土坑密集地点の東部に位置する。長軸 1.16m、短軸 0.75m の不整形プランを呈する。北側は二段に掘られている。深さ 25cm を測る。埋土は SK23 と同じである。埋土中から多量の土師質杯類が出土しているが、瓦器は極少量である。140～146・149～155 は土師質杯、147・148 は土師質小杯、156 は瓦器小皿、157 は東播系捏鉢である。土師質杯はすべてロクロ成形であるが、口縁形態は外反するもの 140・143・144・146 と直線的に立上がるるもの 141・142・145 が見られる。また 155 は外面体部下半に調整時に生じた条線が見られる。

157 の口縁部外面には 2 条の凹線が見られる。

## SK25 (2 - 15図)

土坑集中地点にある。長軸 1.7m、短軸 1.49m の不整円形を呈する。深さは 23cm を測る。埋土は 1: チャート・風化礫を含んだ濃茶色粘性土で炭化物も多く含んでいる。2: 砂岩小礫や風化礫を含む淡茶色シルトである。土師質杯類や瓦器片を多く含んでいる。158～164 は土師質杯で、160 の外面には調整時に生じた条線が顯著である。165 は瓦器椀、166 は瓦質羽釜、167 は東播系捏鉢、168 は土師質土鍤である。

## SK27 (2 - 16図)

土坑密集地の中央部にある。SK28 を切っている。SK20、36 などとも切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.54m、短軸 1.16m の楕円形プランを呈し、深さ 32cm を測る。埋土は風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は埋土から土師器杯類片を中心に出土している。169 は土師質小皿、171 は同杯、170 は東播系捏鉢である。

## SK28 (2 - 16図)

SK27 とはほぼ同様のプラン、大きさを持つ土坑である。埋土は風化礫を含む淡黄褐色シルトである。遺物は埋土中に少量の土師質細片や瓦器片を含んでいるが図示できるものは無い。

## SK29 (2 - 13図)

土坑密集地点中央部にある。SK20 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 0.7m 前後

の梢円形の土坑である。埋土は風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は見られない。

#### SK30 (2 - 17 図)

土坑密集地点にある。SK31 や SK34 などと切り合っており正確なプランや大きさを掴むことができない。長軸 1.0m 以上を測り、深さは 10cm 前後である。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質や瓦器細片が出土しているが図示できるものはない。

#### SK31 (2 - 17 図)

長軸 1.4m、短軸 1.12m の隅丸方形プランを呈し、深さ 24cm を測る。埋土は SK30 と同じである。埋土中から土師質土器、瓦質土器細片が出土している。172 は常滑窯の肩部片である。

#### SK32 (2 - 17 図)

土坑集中地点にあり SK33 を切っている。径 1.3m の円形を呈し、深さ 16cm を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質や瓦器細片が出土している。174 は土師質小皿、173 は瓦質羽釜である。

#### SK33 (2 - 17 図)

長軸 1.35m 以上、短軸 1.24m の梢円形状を呈し、深さ 23cm を測る。SK32 に切られているが埋土は同じである。埋土中から土師質杯類や瓦器椀片が大量に出土している。175 は土師質小皿、176・177 は土師質杯である。この他に図示し得なかつたが、片切り彫りの蓮弁文を持つ青磁碗 (I 5 a 類) 細片が出土している。

#### SK34 (2 - 17 図)

SK30 や SK31 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.0m 以上の梢円形状プランを呈し、深さ 22cm を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質杯類、瓦器細片が多く出土している。178 ~ 183 は土師質杯である。図示し得なかつたが鍋蓮弁文の青磁碗 (I 5b 類) の細片が出土している。

#### SK35 (2 - 10 図)

土坑密集地にあり SK13 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.38m 前後の隅丸方形を呈し、深さは 30cm を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質や瓦器細片が少量出土している。

60 は土師質杯である。

#### SK38 (2 - 18 図)

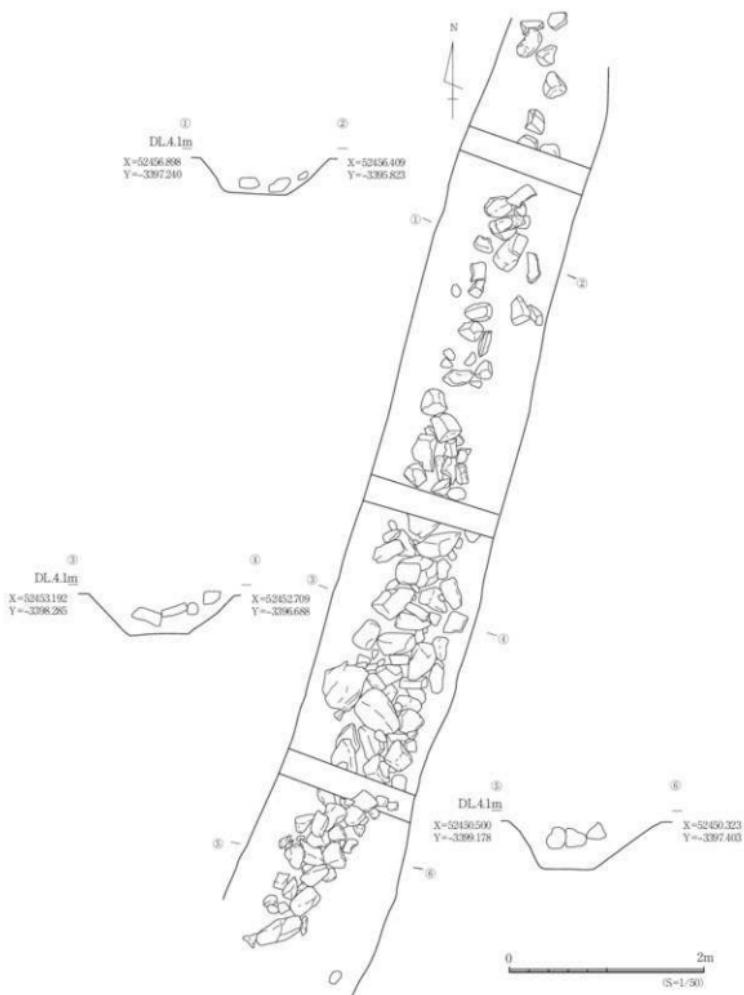
土坑密集地にあり SK14 や SK27 と切り合っているが先後関係は不明である。長軸 1.7m 以上、短軸 1.3m の梢円形状のプランを有し、深さは 16cm 前後を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器片が出土している。184 は土師質杯、185 は同小杯である。184 の外面には調整時に生じた条線が見られる。

#### SK41 (2 - 9 図)

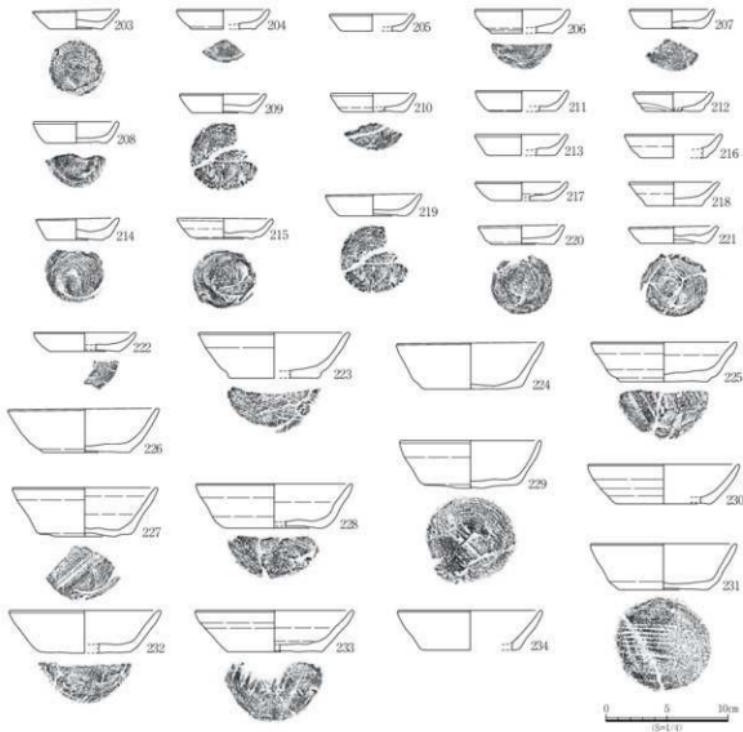
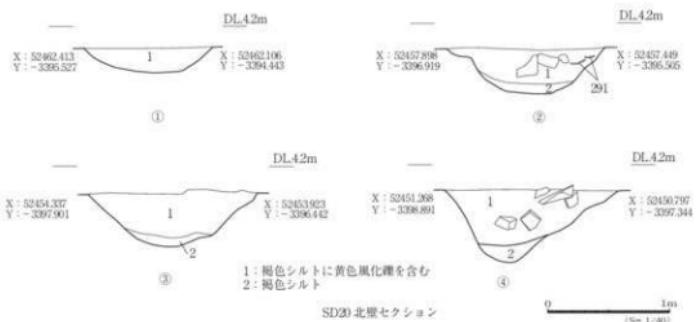
土坑密集地にあり SK11 や SK35、SK39 と切り合っており、プランや規模を掴むことは難しい。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。遺物は、土師質土器や瓦器細片が出土している。47・48 は土師質小杯、49 は同杯である。

#### SK42 (2 - 18 図)

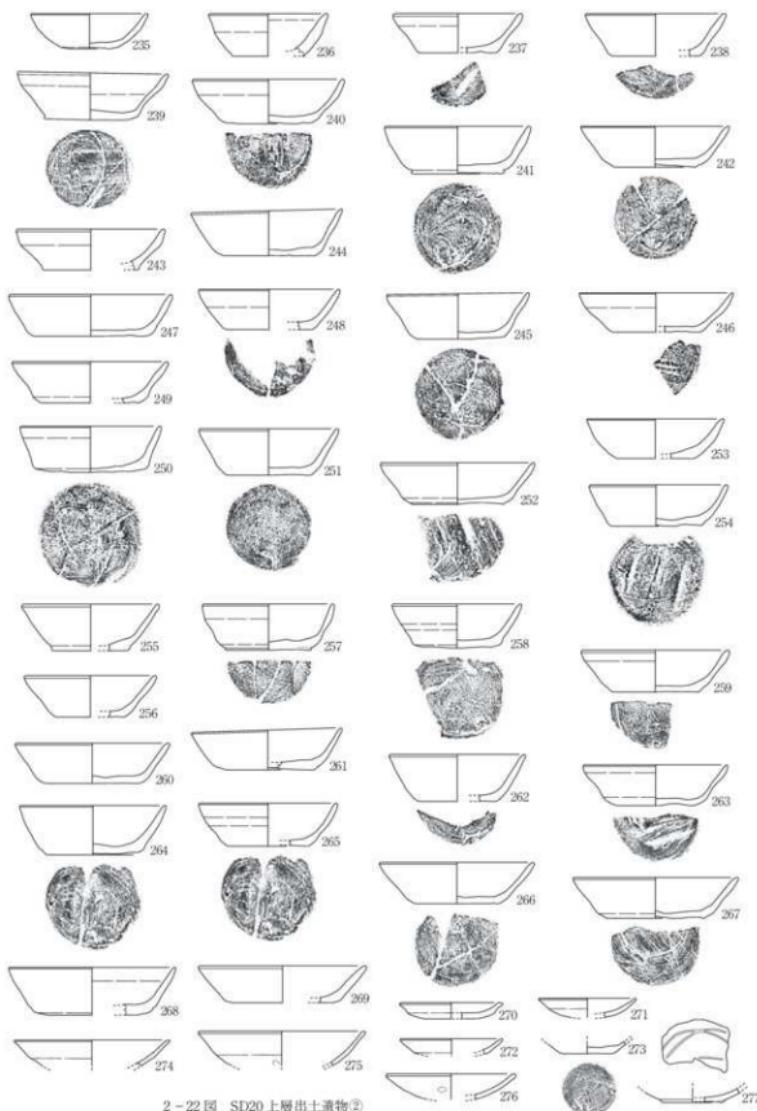
調査区東部にある。長軸 0.97m、短軸 0.86m の梢円形を呈し、深さは 13cm 前後である。埋土は



2-20図 SD20 集石出土状況



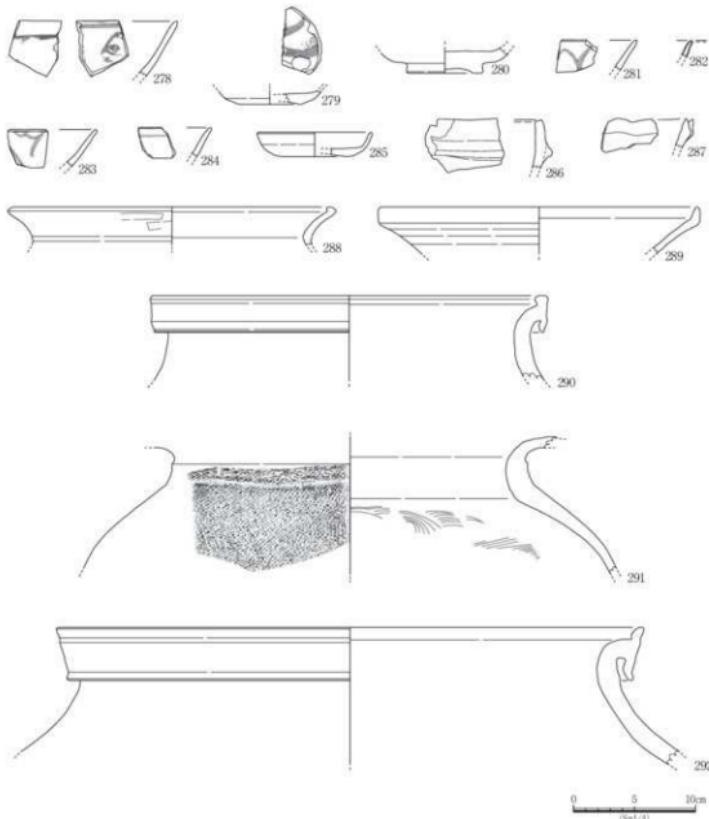
2-21図 SD20セクション及び上層出土遺物①  
土師質小杯: 203~219 同小皿: 220~222 同杯: 223~234



2-22図 SD20上層出土遺物②

土師質杯: 235~269・273 瓦器小皿: 270~272 同椀 274~277





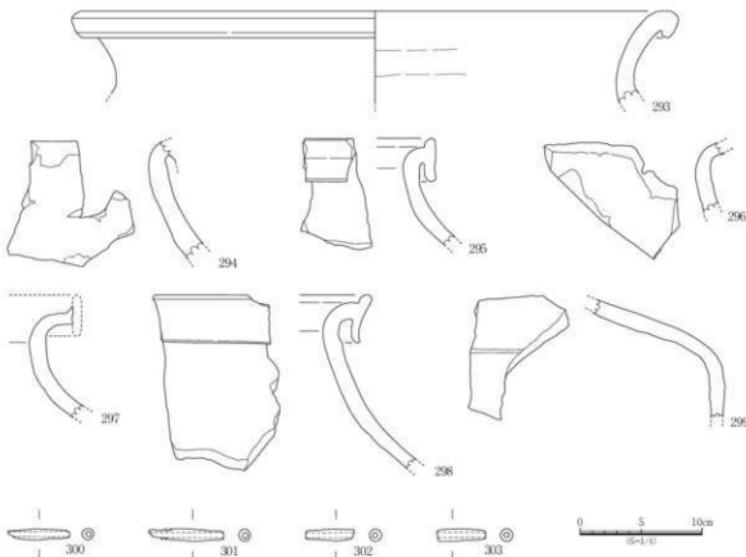
2-23図 SD20上層出土遺物③

青磁碗：278・280～284 青磁皿：279 瓦質羽蓋：286 東播系捏鉢：287・289 東播系壺：291 紀伊型壺：288  
常滑：290・292 白磁皿：285

チャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。土師質杯類の細片が多く、瓦器片が少量出土している。186は土師質杯である。

#### SK43(2-18図)

SK42の北隣にある。長軸1.4m、短軸1.2mの楕円形を呈する。北側は二段に掘られており、深さ30cm、テラス部は10cm前後を測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質、瓦器片が多く出土している。187は土師質小杯、189～191は土師質杯、188は古瀬戸おろし皿、192・193は瓦器椀、195は東播系捏鉢、194は瓦質擂鉢、196は土師質土錘である。



2-24図 SD20上層出土遺物④  
須恵質甕：293 常滑甕：294～299 土鉢：300～303

#### SK44 (2-18図)

調査区東端にある。長軸0.96m、短軸0.85mの楕円形プランを有し、深さ23cmを測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器細片が出土している。

#### SK45 (2-18図)

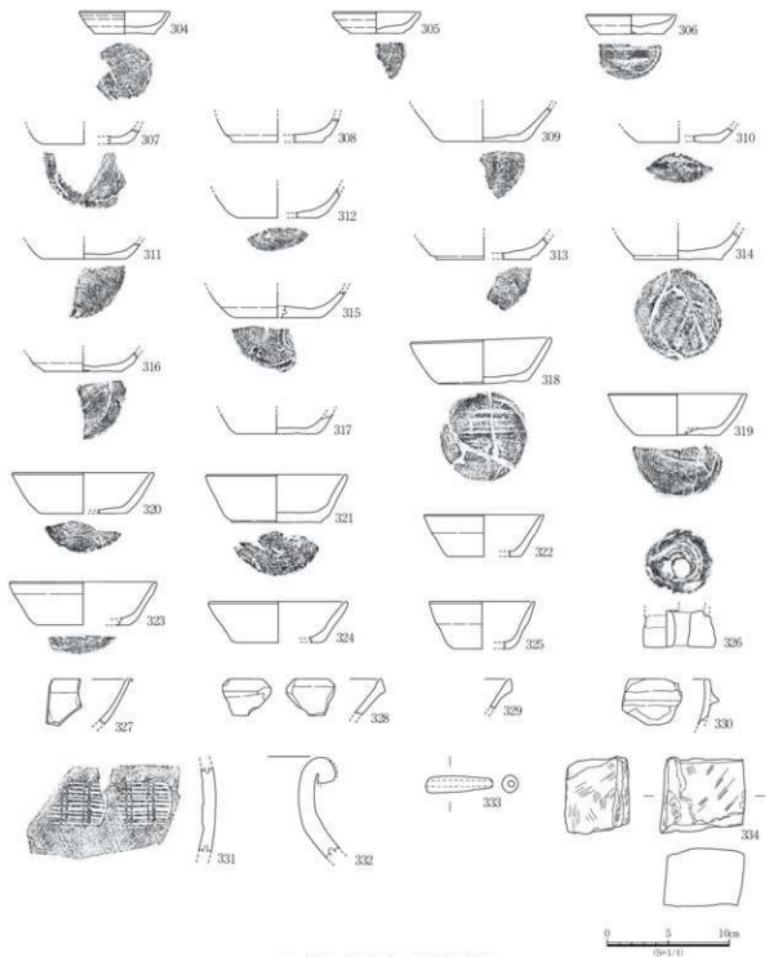
調査区東部にある。長軸0.6m、短軸0.56mの楕円形プランを有し、深さ5cmを測る。埋土はチャート・風化礫を含む黄褐色シルトである。埋土中から土師質土器や瓦器細片が出土している。197は瓦器小皿である。

#### SK46 (2-19図)

調査区南東隅にある。長軸1.62m、短軸1.48mの円形プランを有し、深さ20cmを測る。埋土は灰茶色砂土である。床面直に人頭大の角礫が見られる。土師質・瓦器細片が多いが近世磁器片を含む。199は土師質杯、200は同小杯、202は砥石片である。泥岩製で使用面は一面、使用による条線が見られる。SK46は中層で検出したが近世遺構である。

#### SK47 (2-19図)

調査区東南にある。径1.5mの円形プランを有し、深さは24cmを測る。段状に掘り込まれている。埋土は1：砂礫を含んだ黄褐色シルトで炭化物を多く含んでいる。2：浅黄橙シルトである。埋土中から土師質・瓦器細片が出土している。201は古代の土師器羽釜であり混入品である。



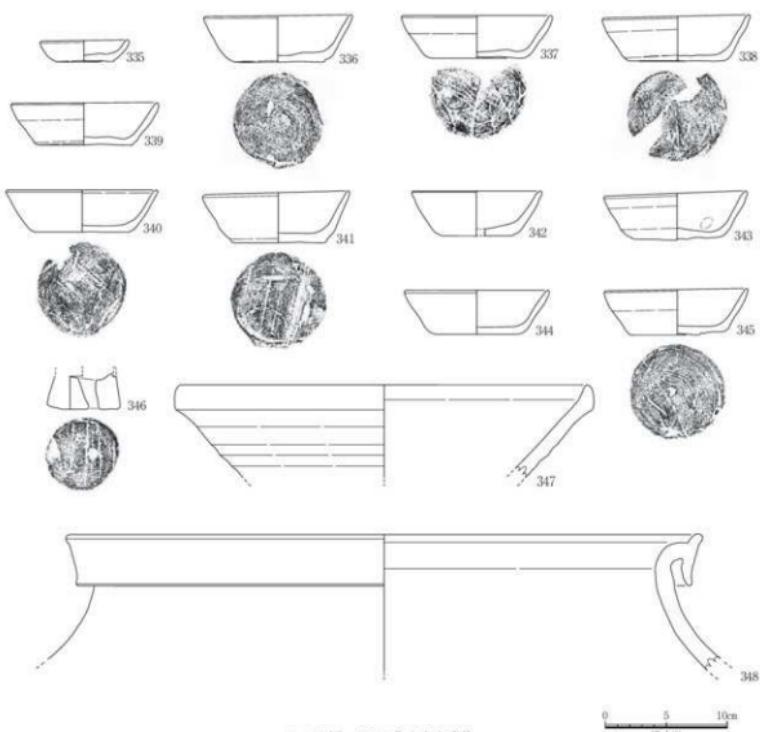
2-25図 SD20中・下層出土遺物

土師質小杯：304～306 同杯：307～326 白磁碗：327 東播系程跡：328・329 瓦質羽釜：330  
常滑燒：331・332 土鍾：333 砥石：334

## (2) 溝

SD20 (2-20 ~ 26図)

調査区中央部を南北方向に延びる溝である。確認延長 15m、幅は南部で 1.5m、北部で 1.0m 前後

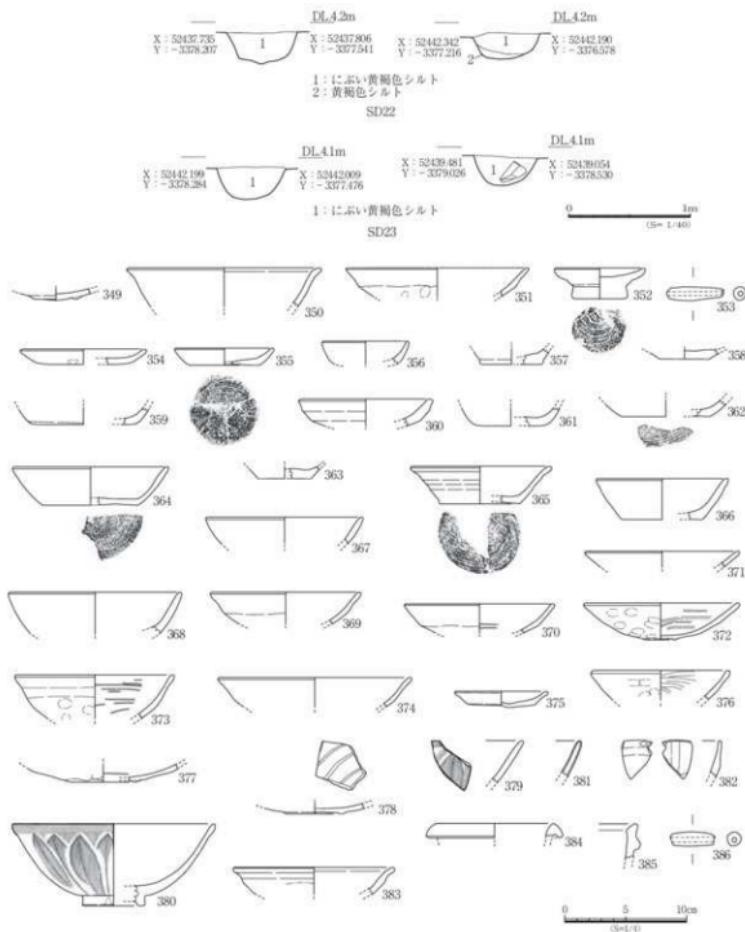


2-26図 SD20集中出土遺物  
土師質小杯:335 同杯:336~346 東播系捏鉢:347 常滑窯:348

を測る。SD20 の北端には東西方向にトレンチが入っており、端部の形状を把握することができない。北端部から北に伸びる細い溝 (SD21) とは同一の溝状造構となることが考えられる。SD20 の深さは南端部で 60cm、北端部で 20cm 前後を測り、南程深くなっている。断面形は、概ね U 字形をなし、2-21 図北壁セクション④で示したように左右の壁の立ち上がりの長さが著しく異なっている場所も見られる。埋土は 1：黄色風化礫を含む褐色シルトが大半を占め、2：褐色シルトは下層に薄く堆積している。1 は先に見た土坑の埋土と共通するもので、2 は下層に薄く堆積が見られる。2 は壁の崩落土であろう。

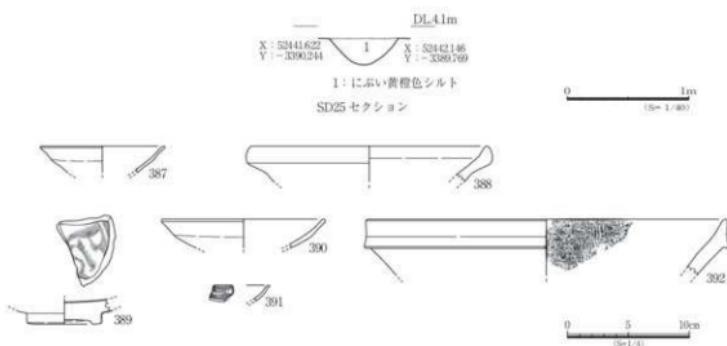
SD20 は 2-20 図に示したようにほぼ全体から拳大から人頭大の罐が出土した。層位的には中～下層に多く床面には見られない。SD20 廃絶時に意識的に投げ込まれたものと考えられる。

遺物は土師質土器を中心に大量に出土している。遺物は、埋土中位から上を上層、中位から下を



2-27図 SD22・23セクション及びSD21~23出土遺物

SD21 (瓦器輪: 349) SD22 (須恵器輪: 350 瓦器輪: 351 土師質杯: 352 土鍤: 353)  
SD23 (瓦器小皿: 354・375 土師質小杯: 355・356 同柄: 357~368 瓦器輪: 369~374・376~378  
青磁碗: 379~381 白磁碗: 382 白磁四耳壺: 383 東漢系羽釜: 384 土鍤: 385 土鍤: 386)



2-28図 SD25セクション及びSD24・25出土遺物

SD24(瓦器楕:387 東播系捏鉢:388)  
SD25(瓦器楕:390 青磁楕:389 朱付皿:391 備前捏鉢:392)

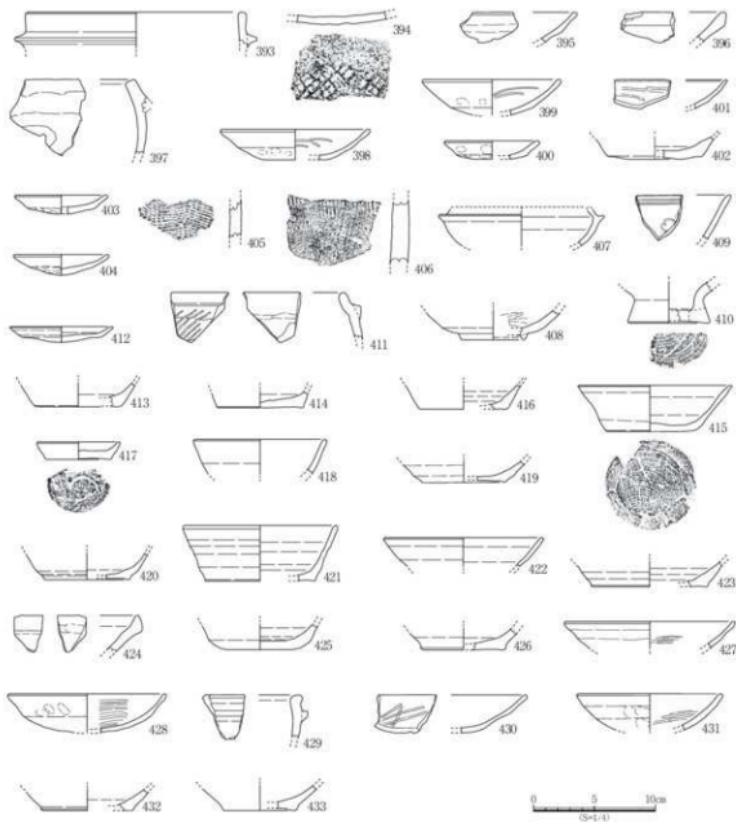
中・下層として取り上げ、さらに北部に土器の集中が見られ集中出土遺物として取り上げた。各層位、地点で出土遺物の時間的な違いは認められない。疊と共に廃棄時に廃棄されたものと考えられる。

#### 上層の遺物 (2-21~24図)

203~219は土師質小杯、220~222は同小皿、223~269・273は同杯である。これらの土師質土器はすべてロクロ成形、糸切りである。273の焼成は瓦質である。270~272は瓦器小皿、274~277は瓦器楕である。瓦器楕の胎土には精土とチャートの細・粗粒砂を含むもの(275・276)が見られる。278・280~284は龍泉窯系青磁碗である。281と282は竪蓮弁を持つI 5b類、283は片切彫りによる蓮弁のI 5a類である。278は口縁部外面を段状に削り、内面は櫛による横沈線と片切彫りによる飛雲文を描く。279は龍泉窯系青磁皿、体部中位で屈曲するタイプで見込みに櫛状工具を用いて文様を描くI 2類に属する。285は白磁皿である。286は瓦質羽釜である。287と289は東播系捏鉢である。288は口縁部を上方に拡張する紀伊型の壺である。290・292・294~299は常滑壺である。291は東播系の壺である。293は灰色でやや軟質な須恵質壺で产地は不明である。300~303は土師質土鍤である。

#### 中・下層の遺物 (2-25図)

304~306は土師質小杯、307~326は同杯である。これらは例外無く粘土紐巻き上げによるロクロ成形、糸切り、横ナデ調整で仕上げられるが、319は内底、体部内外面ともにハケ状原体によるナデ調整がなされている。326は足高高台杯の底部と考えられるが、厚さ3cmの底部に径1cmの円孔が焼成前に貫通している。327は白磁碗で口縁端部を水平に折り曲げている。太宰府分類V類に属する。328・329は東播系捏鉢で、口縁部は断面三角形状に拡張されている。330は瓦質羽釜である。



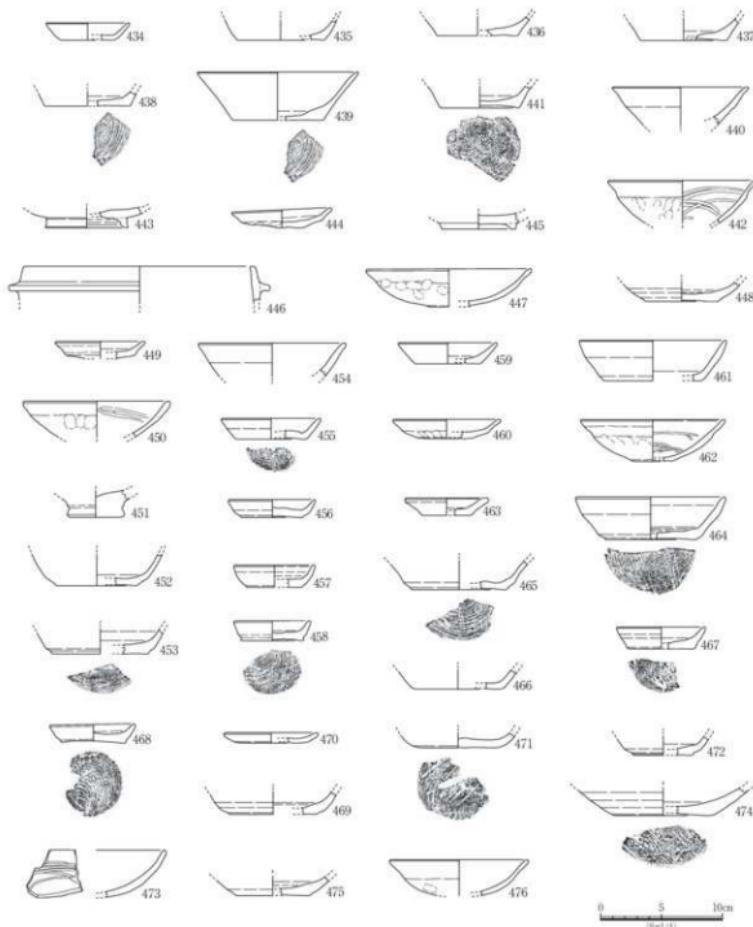
2-29図 中層ピット出土遺物①

P70 (土師質鍋: 394) P76 (東播系捏鉢: 396) P80 (瓦器碗: 391・399) P82 (瓦器碗: 395) P84 (瓦器小皿: 400)  
 P86 (瓦質羽釜: 393) P89 (東播系羽釜: 397) P90 (瓦器碗: 401) P91 (土師質杯: 402) P93 (瓦器小皿: 403)  
 P95 (瓦器小皿: 404) 須恵器杯: 407) P96 (東播系甕: 405) 常滑甕: 406) P102 (土師質碗: 408) P105 (青磁碗: 409)  
 P106 (土師質杯: 410) P126 (東播系羽釜: 411) 瓦器小皿: 412) P141 (土師質杯: 413~415) P143 (土師質杯: 425)  
 P144 (土師質杯: 416) P145 (土師質小皿: 417 同杯: 418~423 東播系捏鉢: 424) P149 (土師質杯: 426)  
 P162 (瓦器碗: 427) P163 (瓦器碗: 428) P174 (東播系羽釜: 429) P207 (瓦器碗: 430・431) P216 (土師質杯: 432・433)

331・332は常滑甕の胴部と肩部片で前者には細長格子の押印痕が見られる。333は土錘、334は砥石で使用面は三面、流文岩製である。

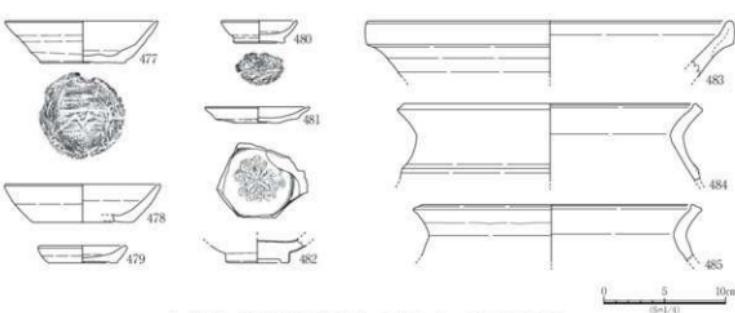
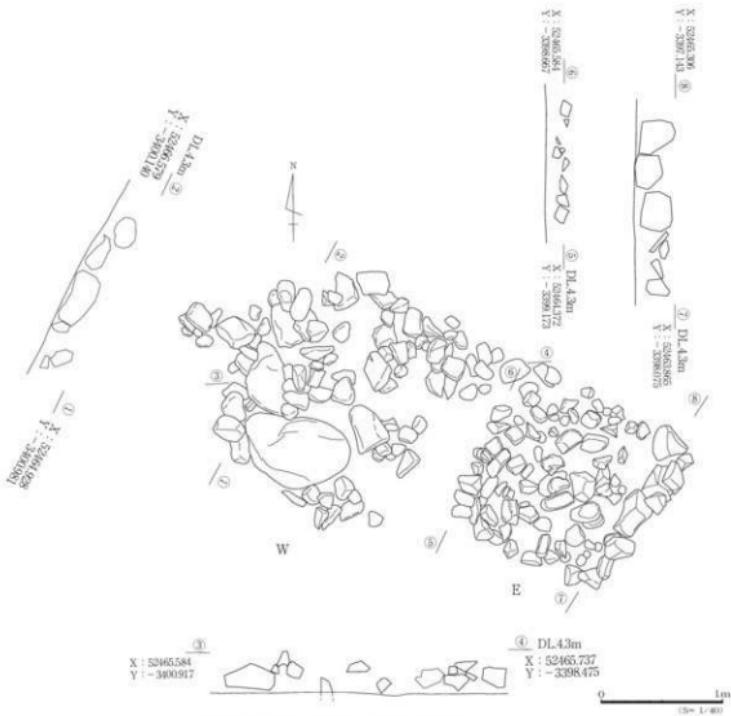
#### 集中出土の遺物 (2-26図)

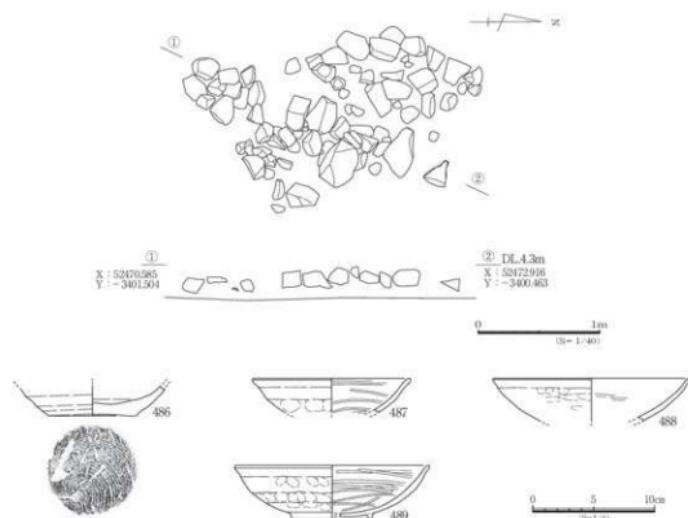
335は土師質小杯、336～345は同杯である。346は足高高台杯の底部と考えられるが、厚さ3cmの底部に径1cm前後の円孔が焼成前に斜め貫通している。347は東播系捏鉢で、口縁部は三角に肥



2-30図 中層ピット出土遺物②

- P219 (土師質小皿: 434 同杯: 435~441) P224 (瓦器碗: 442 同小皿: 444 土師質碗: 443)  
 P225 (土師質碗: 445 瓦質羽釜: 446) P228 (瓦器碗: 447) P232 (土師質杯: 448 瓦器小皿: 449)  
 P234 (瓦器碗: 450) P235 (土師質杯: 451) P239 (土師質杯: 452) P240 (土師質杯: 453)  
 P246 (土師質杯: 454 同小杯: 455~457) P247 (土師質小皿: 458~459) P251 (土師質杯: 461 瓦器小皿: 460)  
 P256 (瓦器碗: 462) P257 (土師質碗: 463) P261 (土師質杯: 464~466 同小杯: 467~468) P263 (土師質杯: 469)  
 P264 (瓦器小皿: 470) P270 (土師質杯: 471) P273 (瓦器碗: 473) P276 (土師質杯: 472) P281 (東播系捏鉢: 474)  
 P287 (土師質杯: 475) P288 (瓦器碗: 476)





2-32図 集石2 平面・エレベーション及び出土遺物

土師質杯：486 瓦器椀：487～489

厚している。348は常滑大壺である。

## SD21 (2-27図)

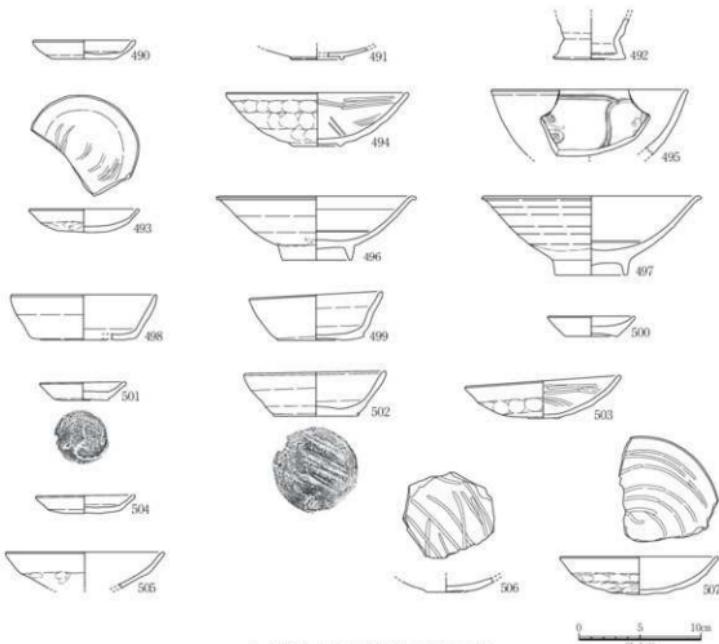
すでに触れたようにSD20の北から伸びる細長い溝で、逆L字状にカーブしている。延長16m、幅0.4m、深さ20cmを測る。埋土はSD20の1と同じである。埋土中から土師質土器や瓦器細片が少量出土している。349は瓦器椀底部である。

## SD22 (2-27図)

調査区東端を南北方向に伸びる確認延長12.7m、幅0.5～1.0m、深さ25cm前後の溝である。埋土は1：にぶい黄褐色シルト、2：黄褐色シルトである。遺物は埋土中から土師質や瓦器片を中心に出土している。350は須恵器椀である。351は瓦器椀、352は足高高台杯、353は土錐である。

## SD23 (2-27図)

調査区の東部に位置しクランク状を呈する。SD24を切っており、SD22とも重複しているが先后関係は不明である。確認延長13.5m、幅0.5～0.7m、深さ25cm前後を測る。埋土はにぶい黄褐色シルトである。遺物は土師質、瓦器を中心に多く出土している。355・356は土師質小杯、357～368は土師質杯、354・375は瓦器小皿、369～374・376～378は瓦器椀である。379～381は青磁碗、379・380は鎬蓮弁を有する。382は白磁碗で輪花に作られている。383は灰釉皿で近世に属するものである。384は白磁四耳壺の口縁部細片、385は東播系羽釜である。386は土錐である。383の灰釉皿は混入によるものと考えられる。



2-33図 中層土器集中1~3出土遺物

土器集中1 (土師質小皿: 490 同杯: 492 瓦器椀: 491・494 同小皿: 493 青磁碗: 495 白磁碗: 496・497)

土器集中2 (土師質小皿: 500 同杯: 498・499)

土器集中3 (土師質小杯: 501 同杯: 502 瓦器小皿: 504 同椀: 503・505~507)

#### SD24 (2-28図)

調査区の東部にあり、SD23に切られている。延長6m、幅50cm前後、深さ10cm程を測る。埋土は明黄褐色シルトである。土師質土器や瓦器片が出土している。387は瓦器椀、388は東播系捏鉢である。

#### SD25 (2-28図)

調査区南を東西に走る溝でSD23に切られている。確認延長18m、幅0.5~0.6m、深さ20cm前後を測る。埋土はぶい黄橙色シルトである。埋土中から土師質、瓦器細片が中心に出土している。389は青磁碗底部、390は瓦器椀、391は近世の染付皿、392は備前描鉢である。

#### (3) ピット出土の遺物 (2-29・30図)

ピットからは、土師質杯 (P91: 402、P106: 410、P141: 413~415、P143: 425、P144: 416、P145: 418~423、P149: 426、P216: 432~433、P219: 435~441、P232: 448、P235: 451、P239: 452、P240: 453、P246: 454、P251: 461、P261: 464~466、P263: 469、P270: 471、P276: 472、P287: 475)、同小杯 (P145: 417、P219: 434、P246: 455~457、P247: 458~459、

P261:467・468)、同椀(P102:408、P224:443、P225:445、P257:463)、瓦器椀(P80:398・399、P82:395、P90:401、P162:427、P163:428、P207:430・431、P224:442、P228:447、P234:450、P256:462、P273:473、P288:476)、瓦器小皿(P84:400、P93:403、P95:404、P126:412、P224:444、P232:449、P251:460、P264:470)、須恵器杯(P95:407)、青磁碗(P105:409)、東播系捏鉢(P76:396、P145:424、P281:474)、土師質碗(P70:394)、東播系羽釜(P89:397、P126:411、P174:429)、瓦質羽釜(P86:393、P225:446)、常滑甕(P96:406)、東播系甕(P96:405)などが出土している。

#### (4) 集石遺構

##### 集石1 (2-31図)

調査区中央部よりやや西で集石を検出した。4.5m × 2.0mの範囲に拳大から人頭大、或はそれよりも大きな河原石が集中していた。石の密集度から西(W)と東(E)に分けることができる。両者とも2m四方の広がりを持ち、Eが比較的小さな礫を整然と並べているのに対して、Wは大型の礫を含み密度がやや弱い。先述したようにEの集石を除くと大きな礫を並べ置いたSK15が検出された。集石1のEはSK15と関連があるかもしれない。集石1の礫の間からは比較的多くの遺物が出土している。477・478は土師質杯、479・480は同小杯、481は瓦器小皿、482は青磁碗で見込みに印花文が見られる。483は東播系捏鉢、484・485は紀伊型甕である。477と478はWから他はEから出土している。13世紀後半から14世紀前半に属するもので、SK15と同時期と考えられる。

##### 集石2 (2-32図)

調査区西よりに位置する。南北に長軸をとる2.5m × 1.5mの範囲に拳大から人頭大の円礫が密集している。石材はすべて砂岩である。中には被熱赤変している礫も見られるが、集石で被熱したのではなく被熱した礫を用いたものと考えられる。この集石に伴う遺構は認められない。遺物は、集石間から瓦器椀や土師質土器が出土している。486は土師質杯、487～489は瓦器椀である。489はしっかりと断面三角形の高台を貼付し、内底が使用により磨耗し暗文が消えている。

#### (5) 土器集中地点出土の土器 (2-33図)

基本層準IV層からの出土であり遺構に伴うものではないが、狭い範囲から集中して出土しており出土状況から見て一括性が高いと判断することができる。

##### 土器集中1

調査区西北部に位置する。490は土師質小皿、492は同足高高台杯、491・494は瓦器椀、493は同小皿である。495は青磁碗で内面を2条の沈線で区画し、その中に草花文などを配するI4類に属する。496・497は白磁碗でともに口縁部が強く外反するV類に属する。瓦器椀はIII-2期に属するものであり、青磁・白磁から13世紀初頭頃に属するものと考えられる。

##### 土器集中2

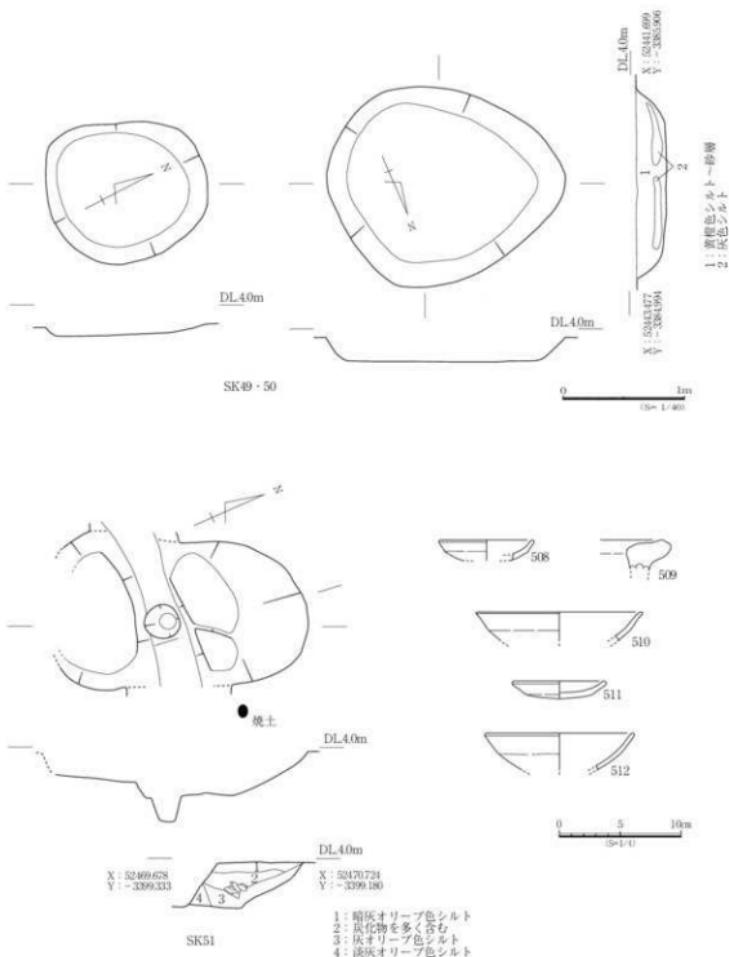
498・499は土師質杯、500は同小皿である。

##### 土器集中3

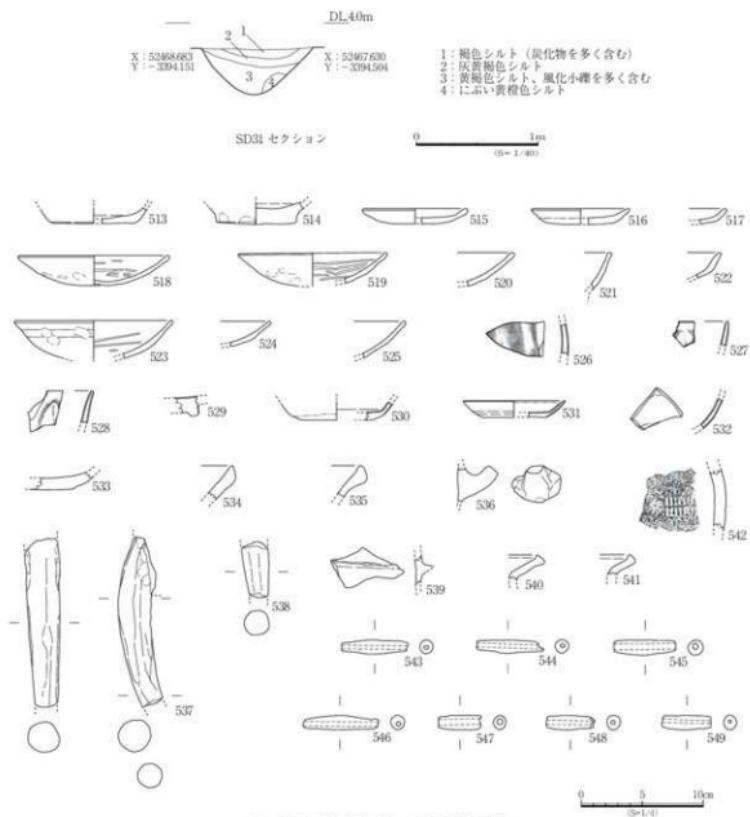
調査区東部に位置する。501は土師質小杯、502は同杯である。503・505～507は瓦器椀、504は同小皿である。503・506の高台は著しく退化し507は高台が見られない。IV期に属し、14世紀代に属する。



2-34図 下層造構全体図



2-35図 SK49~51遺構・遺物  
SK49(瓦器小皿:508 同椀:510 土師器羽釜:509) SK51(瓦器小皿:511 瓦器碗:512)



2-36図 SD31セクション及び出土遺物

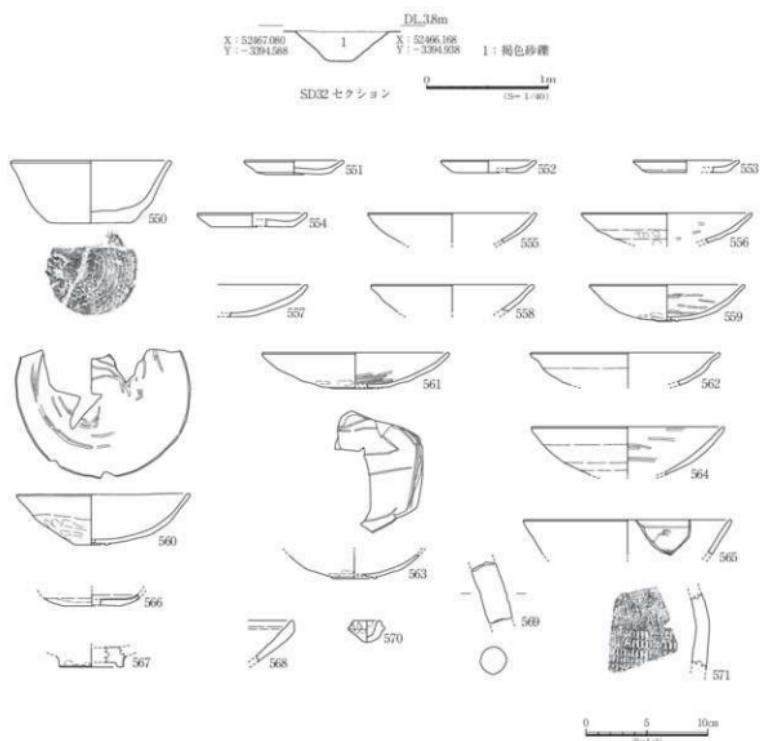
土師質杯: 513・514 瓦器碗: 518~525 同小皿: 515~517 青磁碗: 526~529 同皿: 530 白磁皿: 531 同碗: 532 土拂系挂鉢: 533~535 須恵器把手: 536 瓦質羽釜: 537・538 瓦質羽釜: 539 紀伊型甕: 540・541 常滑甕: 542 土鍋: 543~549

#### 4. 下層の遺構と遺物

##### (1) 土坑

SK49 (2-35図)

調査区中央部にある。楕円形の平面形を呈し長軸 1.32m、短軸 1.13m、深さ 10cm を測る。埋土は黄褐色シルト～砂層である。埋土中から瓦器細片が多く出土している。508 は瓦器小皿で内面に暗文が施されている。509 は土師器羽釜、510 は瓦器碗である。509 は古代に屬し混入品である。



2-37図 SD32セクション及び出土遺物

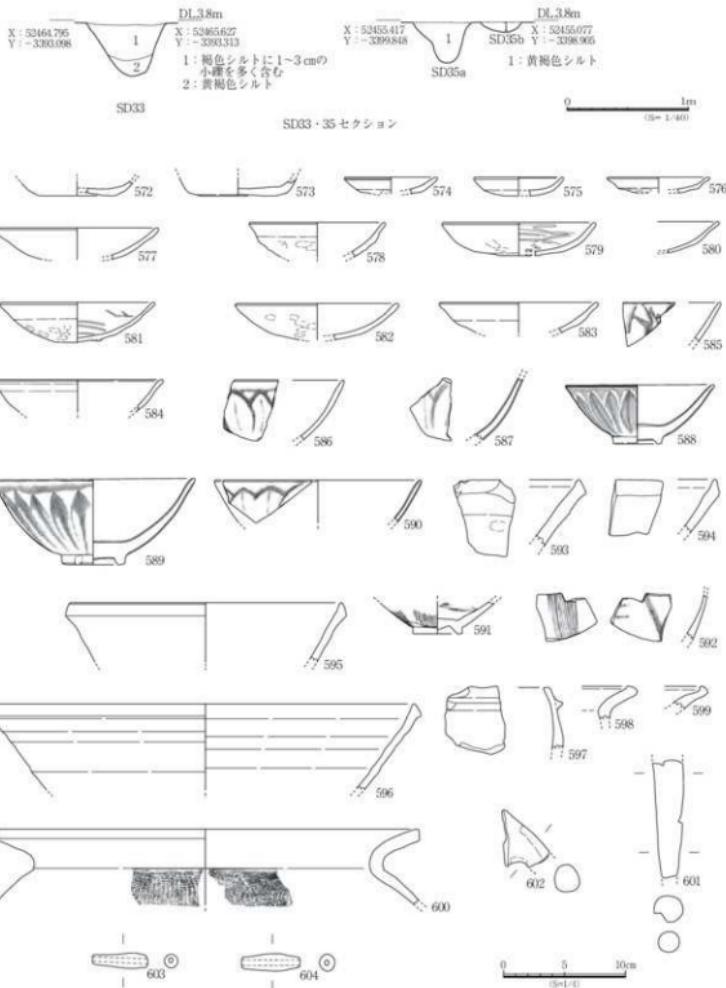
土師質杯: 550 瓦器小皿: 551~554 同楕: 555~564 青磁碗: 565・567 同小皿: 566  
束縛系捏鉢: 568 瓦質羽輪: 569 常滑甕: 571 ミニチュア土製品: 570

## SK50 (2-35図)

調査区東南に位置する。隅丸台形状の平面形を呈し長軸1.97cm、短軸1.6m、深さ25cmを測る。埋土は1:黄橙色シルト～砂層、2:灰色シルトである。土師質杯類や瓦器細片が多く出土しているが図示できるものはない。

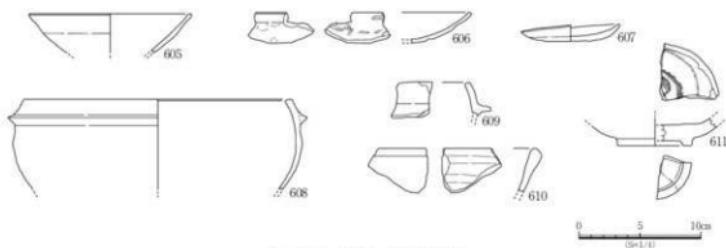
## SK51 (2-35図)

調査区西部に位置する。SD31に切られており、且つ南半分の大部分は擾乱により切られている。楕円形の平面形を呈し長軸は2m余り、短軸1.2m、深さ40cm程度を測る。SD31の床面で柱穴と考えられるP383を検出したが、SK51に伴う可能性もある。また東壁の肩部には地面が径15cmの円形に真黒変色しているところがある。高熱によって変色したものである。SK51の埋土は1:暗灰色



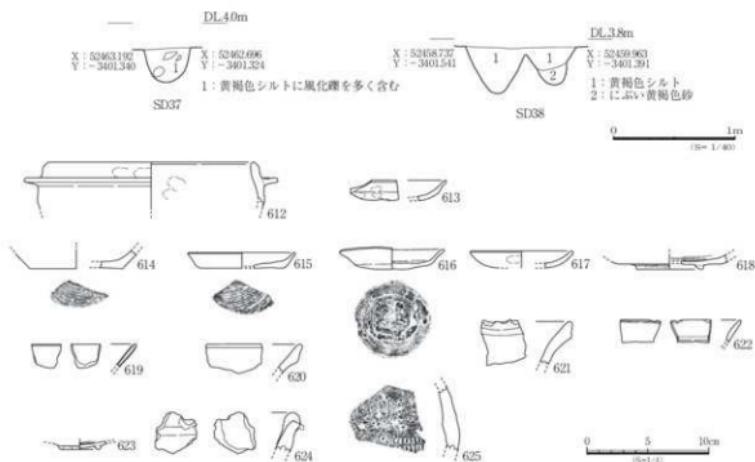
2-38図 SD33・35a・35b セクション及びSD33出土遺物

土師質杯: 572・573 瓦器小皿: 574~576 同柄: 577~584 青磁碗: 585~592 東播系捏鉢: 593~596  
瓦質羽釜: 597 同脚: 601・602 紀伊型甕: 598・599 陶器甕: 600 土鍤: 603・604



2-39図 SD34~36出土遺物

SD34(瓦質羽釜:608) SD35(青磁碗:611 瓦器柄:605)  
SD36(瓦器柄:606 同小皿:607 瓦質羽釜:609 東播系捏鉢:610)

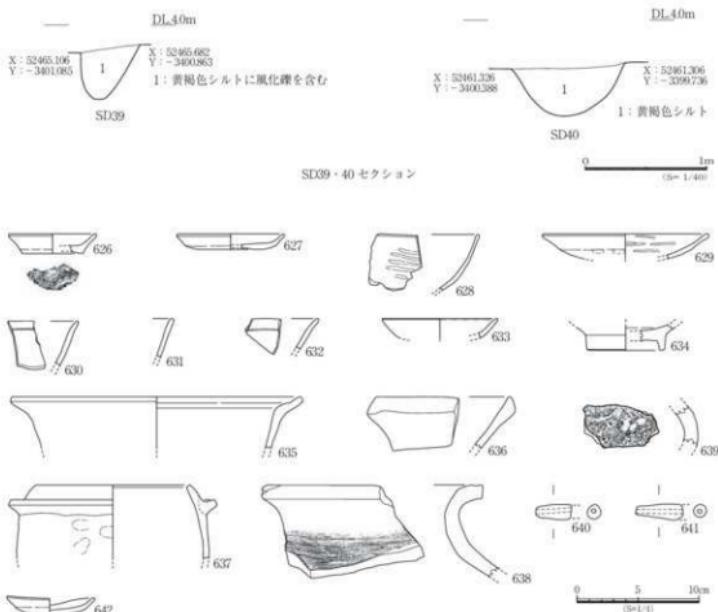


2-40図 SD37・38セクション及び出土遺物

SD37(瓦器小皿:613 瓦質羽釜:612)  
SD38(土師質杯:614 同小皿:615・616 瓦器小皿:617 瓦器柄:618・623 青磁碗:619 東播系捏鉢:620・621  
白磁皿:622 陶器鉢:624 常滑窯:625)

オリーブ色シルト、2:炭化物を多く含む、3:灰オリーブ色シルト、4:淡灰オリーブ色シルトであり、他の土坑埋土とは大きく異なる。

遺物は瓦器や土師質土器と共に、ふいごの羽口片や鍛冶滓、海締状の土器片などが出土している。後述のように鍛冶滓や東壁肩部の変色部位の土壤について金属学的分析を行ったところ鍛鍊鍛冶滓であることや微細遺物中から黒炭も確認された。SK51は鍛冶関連遺構、東壁肩部の熱変色部分は鍛冶炉跡と考えられる。511は瓦器小皿、512は同椀であり前者の内面には暗文が見られる。



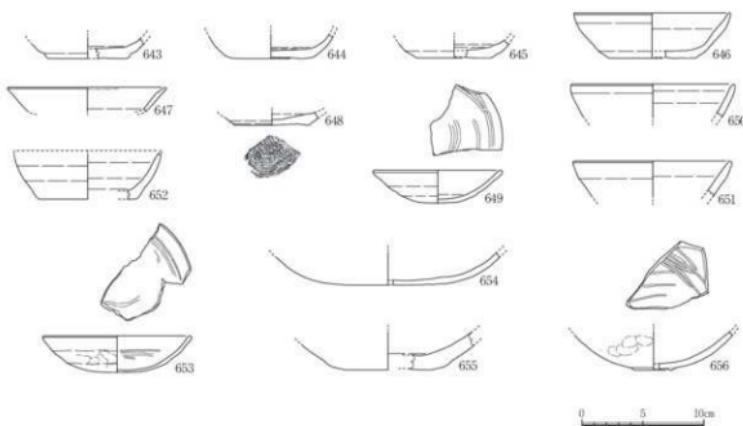
2-41図 SD39・40セクション及び出土遺物

SD39 (土師質小杯: 626 瓦器椀: 628・629 同小皿: 627 青磁碗: 630～632 白磁小皿: 633 同碗: 634 瓦質鉢: 635 東播系捏鉢: 636 瓦質羽釜: 637 東播系甕: 638 陶器甕: 639 土鍤: 640・641)  
SD40 (瓦器小皿: 642)

## (2) 溝

SD31 (2-36図)

調査区北よりを東西に走る溝でSK51を切っている。延長11.0m、幅0.9m、深さ25cm前後を測る。埋土は1:炭化物を多く含んだ褐色シルト、2:灰黄褐色シルト、3:風化小砾を多く含む黄褐色シルト、4:にぶい黄橙色シルトで、4は壁の崩落土である。遺物は埋土中から出土している。513・514は土師質杯で後者は底部ヘラ切りである。515～517は瓦器小皿、518～525は瓦器椀である。瓦器椀は細片が多いが、総じて口径12cm前後と小型が多く、高台は見られない。小皿も内面の暗文は認められない。IV期に属するものである。526～529は龍泉窯系青磁碗で、前三者は鎬蓮弁を持つI5b類である。530は腰折れタイプの同青磁皿で内面無文、外面屈曲部以下は無釉である。531は白磁口禿皿、532は白磁碗細片である。533は東播系捏鉢底部、534・535は同口縁部である。この他に瓦質羽釜脚(537・538)、瓦器羽釜(539)、紀伊型甕(540・541)、常滑甕(542)、土鍤(543)



2-42図 下層ピット出土遺物

P294 (土師質杯: 644) P299 (土師質杯: 643) P320 (土師質杯: 645・646) P324 (白磁皿: 647)  
P331 (瓦器碗: 649) P358 (土師質杯: 650・652) P361 (瓦器碗: 653) P366 (土師質杯: 648)  
P369 (瓦質羽釜底: 654) P384 (東播系捏鉢: 655) P414 (瓦器碗: 656)

～549）などが出ている。白磁碗や須恵器など古いものも見られるが、瓦器碗や白磁小皿から見て14世紀前半代に埋没した構と考えられる。

#### SD32 (2-37図)

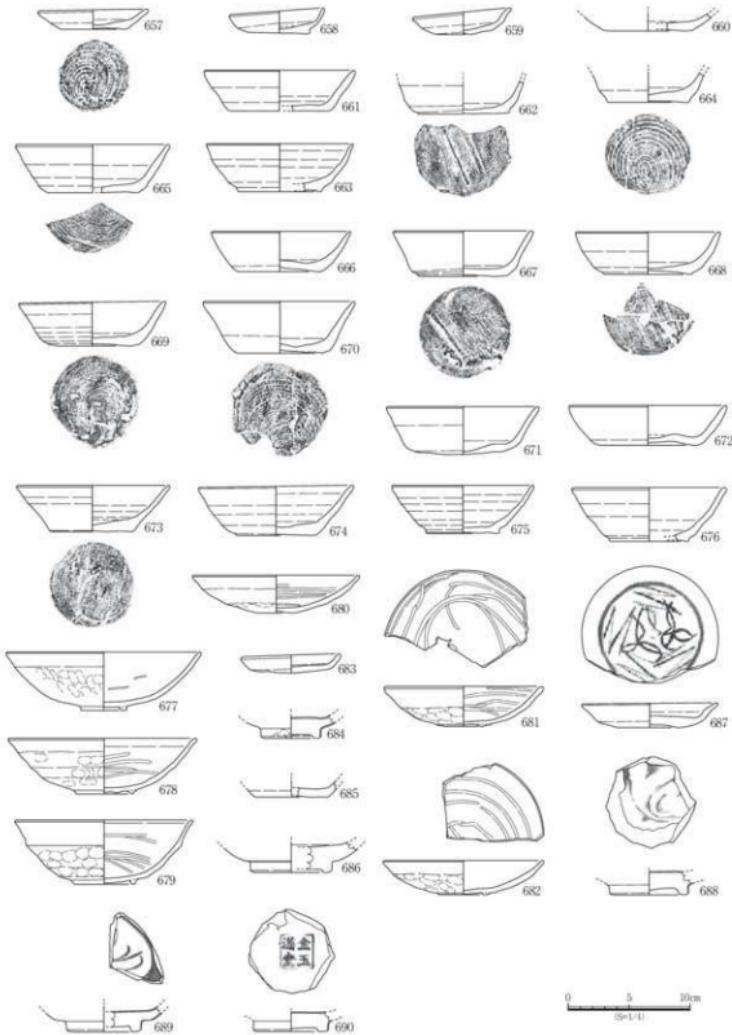
SD31と平行して走る溝である。延長5.5m、幅0.8m、深さ25cm前後を測り、東端でSD33と切り合っているが先後関係は不明である。埋土は褐色砂礫である。遺物は埋土中から瓦器片が多く出土している。550は土師質杯、551～554は瓦器小皿、555～564は瓦器碗である。瓦器碗は細片が多く正確な口径を測り難いものが多いが14cm前後を示しているものと考えられる。高台はかなり退化している。560は著しく左右対称性を欠いている。565・567は龍泉窯系青磁碗で、前者は内面区画内に文様を配するI4類に属する。566は腰折れの青磁小皿である。568は東播系捏鉢、569は瓦質羽釜脚、571は常滑窯、570はミニチュア状の土製品である。SD32の時期比定は難しいが、瓦器や青磁碗からみてSD31に先行するものと考えられる。

#### SD33 (2-38図)

東西方向に走る溝でSD39・34・32と切り合っているが先後関係は不明である。延長14m、幅0.5～1.0m、深さ45cm前後を測る。埋土は1:小礫を多く含んだ褐色シルト、2:黄褐色シルトである。埋土から瓦器や土師器杯類、貿易陶片などが出土しているが、瓦器類が最も多い。572・573は土師質杯、574～576は瓦器小皿、577～584は瓦器碗である。585～592は青磁碗で、585～590は鎮運弁文を持つ龍泉窯系青磁碗、591・592は櫛目文を有する同安窯系碗である。593～596は東播系捏鉢、597は瓦質羽釜、601と602は瓦質羽釜脚である。598・599は紀伊型甕、600は外面に格子目印を有する陶器甕である。603・604は土鍤である。

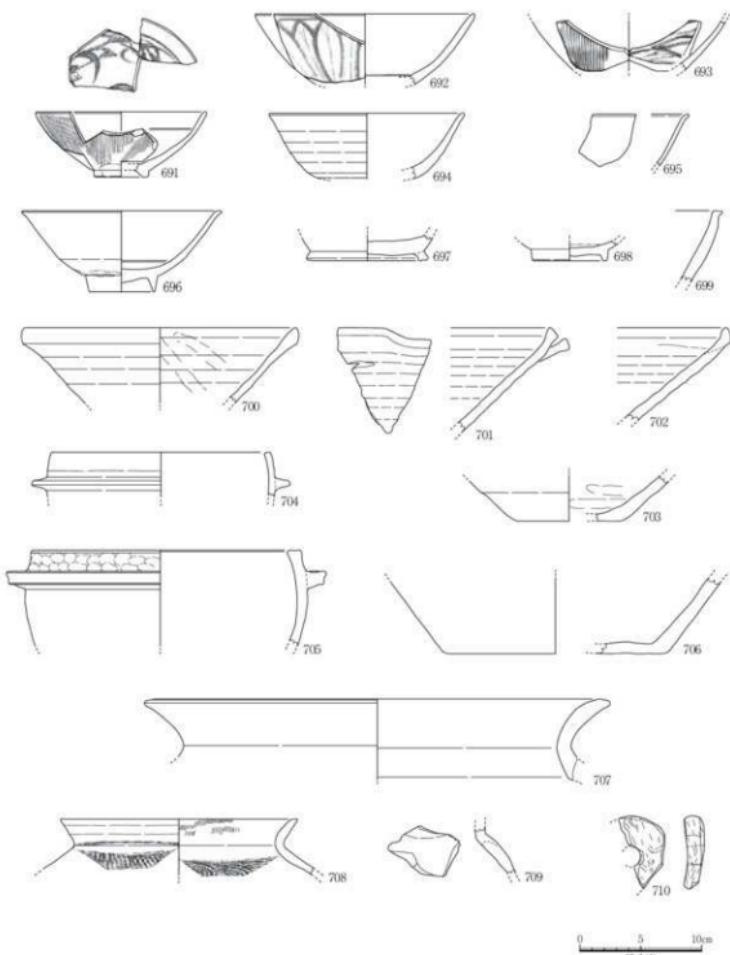
#### SD34 (2-39図)

確認延長3m、幅0.5～0.7m、深さ20cm前後を測る。埋土は黄褐色シルトである。遺物は瓦器碗



2-43図 包含層出土遺物①

土師質小皿：657 同小杯：658・659 同杯：660～676 瓦器板：677～682 同小皿：683  
青磁碗：684・686・688～690 青磁皿：687 白磁皿：685



2-44図 包含層出土遺物②

青磁碗：691～694 白磁碗：695・696・698 痘瘍器壺：697・708 常滑鉢：699 東播系捏鉢：700～703  
瓦質羽釜：704・705 常滑甕：706 陶器甕：707 古瀬戸梅瓶：709 溫石転用品：710

細片が多く見られるが図示できるものは無い。608は瓦質羽釜である。

SD35(2-38・39図)

南北方向に延びる溝である。北端でSD38と切り合っているが先後関係は不明である。確認延長

10m、幅 1.0m 前後を測る。SD38 と別個の溝として捉えたが、北で屈曲して SD38 と一つの溝になる可能性も考えられる。また 2 - 34 図では二条の溝が平行しているように見えるが、一条の溝が部分的に W 状を呈している。埋土は黄褐色シルトである。605 は瓦器椀、611 は龍泉窯系青磁碗底部である。見込みに印花文が見られる。

#### SD36 (2 - 39 図)

東西方向に僅かに弧を描きながら 9m 程延びた後、直角に折れて南に 5m 延びる。東西方向の西部で中層の SD20 に切られている。幅は東西方向で 0.4 ~ 0.5m、南北方向で 0.2 ~ 0.3m である。深さはそれぞれ 20 ~ 40cm、10cm 程である。埋土は黄褐色シルトである。遺物は埋土から出土している。606 は瓦器椀、607 は同小皿、609 は瓦質羽釜、610 は東播系捏鉢である。土師質土器類よりも瓦器椀類の破片が多い。

#### SD37 (2 - 40 図)

SD33 の南を走る細い溝である。確認延長 4.5m、幅 0.3 ~ 0.4m、深さ 30cm を測る。埋土は風化礫を多く含む黄褐色シルトである。遺物はここでも瓦器椀類が土師質杯類よりも多い。613 は瓦器小皿、612 は瓦質羽釜である。この他に鐵治滓が出土している。

#### SD38 (2 - 40 図)

東西方向に延びる溝である。延長 7m、幅 0.7 ~ 1.2m、深さ 40cm 前後を測り、断面は SD35 で見たような W 字状を呈している。埋土は 1：黄褐色シルト、2：にぶい黄褐色砂である。遺物は土師質杯類、瓦器椀類片が多く、特に後者が前者の 3 倍近く出土している。614 は土師質杯、615・616 は同小杯、617 は瓦器小皿、618・623 は瓦器椀である。619 は青磁碗、620・621 は東播系捏鉢、622 は白磁皿、625 は常滑甕、624 は常滑の片口である。この他に鐵治滓も数点出土している。

遺物の中で土師質小杯の 616 が床面、他は埋土からの出土である。616 は、これまでの土師質杯・皿類が全て糸切り手法であったのに対してヘラ切り手法である。SD35 と SD38 は断面形状が同じであり、遺物が同時期ものとして矛盾ないことから一体の溝として捉えるべきであろう。

#### SD39 (2 - 41 図)

SD33 に向かって幅を広げながら延びている。延長 5m、幅 0.4 ~ 1.0m、深さ 40cm 前後を測る。埋土は風化礫を含む黄褐色シルトで SD33 と同じである。SD33 と先後関係にあるのか、SD33 から分岐している溝であるのかを検出状態から判断することはできない。遺物は口縁口禿の白磁小皿 633 が床面出土、他は埋土出土である。626 は土師質小杯、628・629 は瓦器椀、627 は同小皿、630 ~ 632 は龍泉窯系青磁碗、634 は白磁碗、635 は瓦質鉢、636 は東播系捏鉢、637 は瓦質羽釜、638 は東播系甕、639 は产地不明の陶器壺、640・641 は土錘である。なお、ここでも土師質杯類に比べて瓦器椀類が多く出土している。

#### SD40 (2 - 41 図)

SD33 と SD38 を連結するような位置にあるが、両者と先後関係があるのか一体の溝であるのか検出状況から明らかにすることは難しい。延長 3.9m、幅 0.4m、深さ 20cm 前後を測る。埋土は黄褐色シルトである。遺物は僅少で図示し得たのは瓦器小皿 642 のみである。

#### (3) ピット出土の遺物 (2 - 42 図)

ピットからは、土師質杯 (P294 : 644, P299 : 643, P320 : 645・646, P358 : 650 ~ 652, P366 : 648)、瓦器椀 (P331 : 649, P361 : 653, P414 : 656)、白磁皿 (P324 : 647)、東播系捏鉢 (P384 :

655)、瓦質羽釜底(P369:654)が出土している。

### 5. 包含層出土の遺物(2-43・44図)

基本層準4層出土の主な土器を図示した。657は土師質小皿、658・659は同小杯、660～676同杯である。これら土師質供膳形態すべて回転台成形による横ナデ調整、糸切りを基調としているが、663・676外面にはハケ目状原体の痕跡が見られる。667・668・670の外底には板目状圧痕が見られる。677～682は瓦器碗、683は瓦器小皿である。瓦器碗は器高が5cm前後の深くて大振りのもの(677～679)と3cm前後の浅くてやや小振りもの(680～682)とに分けることができる。前者は高台もしかりしている。684・686・688～694は青磁碗である。691と693が櫛目文を持つ同安窯系、他は龍泉窯系である。691は外面櫛目、内面は沈線下にジグザグ文と丸ノミによる文様が描かれる。I-1類に属する。688・689は見込みに片彫りの花文、690は「金玉満堂」の吉祥句のスタンプが施されている。692は鎬運弁文を有するI-5b類である。687は同安窯系青磁皿で、内面に櫛目のジグザグ文と片彫りによる花文を配し、外底は釉を搔きとっている。皿I-2類に属する。685は口禿タイプの白磁皿底部、695・696・698は白磁碗、前二者はV類、698は見込みの釉を搔き取る鐘類に属する。697は須恵器壺底部、708は同口縁部である。699は常滑鉢、706は同壺である。700～703は東播系捏鉢である。704・705は瓦質羽釜で705の胴部外面はナデ仕上げである。709は古瀬戸梅瓶の肩部、710は滑石製の温石の細片である。710は少し湾曲しており径1.5cmの円孔が穿たれている。



表3 3-1区土器観察表1

遺物番号	器種	出土地点	口径 (cm)	留高 (cm)	底径 (cm)	粘土・色調	特徴	参考
1	瓦器 梶	SK1	(13.0)	(2.43)		粘土 黑色	口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面指謹压痕。	
2	*	SK2	(13.0)	(2.0)		粘土 黄灰色	口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面指謹压痕。外面煤けむ。	
3	両耳 土瓶丸形	SK3		(10.5)	10.4	粘土 赤褐色		19世紀前半
4	陶器 瓢	*	(19.2)	(3.1)		粘土 黑褐色	外面部施釉、内面は口縁部のみ施釉。以下無釉。	
5	陶器 梶	SK7	(11.2)	(5.3)		やや粗い白色の粘土 施黄褐色	口縁部が僅かに外反。燒成不足全面に白濁色の釉が付着。	
6	土器質 作	SD3		(2.7)	(9.0)	粘土 浅黄褐色	内外面横ナデ調整。あ切り。	
7	*	*		(1.2)	(7.6)	粘土 明黄褐色	*	
8	白磁 小皿	*	(9.3)	1.68	(6.0)	やや粗い 白色	口壳、見込みに太い沈溝あり。	
9	青磁 陶	SD5				灰白色 灰綠色	鍋魁文。	太宰府分類 15b型
10	東播系 岩鉢	*		(1.9)		やや粗く粒状を含む 灰色	内外面横ナデ調整。	
11	磁器染付 中碗丸形	SD6	(12.0)	(3.2)		白磁が暗褐色に染色	外面上丸文・團繩、口縁部内面二重の團繩。	肥前窯 18世紀後半～幕末
12	灰釉 丸瓶	SD7	(3.4)		(5.0)	淡黃褐色	淡黃褐色の釉。細かな貫入、高台施釉。	肥前窯または肥前系、18世紀
13	白磁 瓢	*		(2.2)	(5.4)	灰白色 鮮綠	見込みに沈溝。	太宰府分類 V期
14	染付 宝雲形	*		(3.9)	(6.0)	白色精緻	見込みに一重の團繩、高台脇と高台外側にも團繩。	肥前窯または肥前系、18世紀末～幕末
15	白磁 瓢	*	(4.3)	(1.3)		白色精緻	菊花形、型押し成形。	肥前窯 18世紀後半～幕末
16	染付 広 重影綱通	*	(10.2)	(3.3)		*	外面部施釉、内面に團繩。	肥前窯
17	陶器 瓢袖土瓶	*		(2.7)	(9.0)	灰黃褐色精緻	内面前部施釉、外面部下部施釉、底部部に化粧物付着。	19世紀
18	染付 花	*		(13.5)	(2.1)	白色精緻	内面に綠色の花彫。	肥前窯
19	染付 中碗 宝束形	*		(5.3)		*	外面上山水文、口縁部内面に二重の團繩。見込みに團繩。	
20	染付 花子形	*		(6.5)		*	外面上美手、内面垂。高台外に二重團繩、蛇ノ目彫形高台。	肥前窯 18世紀後半～幕末
21	備前 接脚	*	(29.9)	(3.8)		灰褐色	口縁部外間に二条の凹縫。内面に鷺目。	
22	土瓶	*				粘土 粉色	全長4.3cm、径1.6cm、孔径0.7cm、重さ9.1g	
23	*	*				*	全長4.6cm、径1.9cm、孔径0.6cm、重さ11.9g	
24	土器質 作	SD9	(1.2)	(5.0)	粘土 粉色	糸切り、内外表の荒れがひどい。		
25	*	(7.5)	(1.5)	(5.2)		チャート地の粗粒砂を多く含む。	内外面横ナデ調整。あ切り。	
26	瓦器 梶	*	(12.9)	(2.3)		粘土 黑色	口縁部内外横方向のナデ調整、内面数条の短文。	
27	土器質 作	P3			(7.2)	赤色風化繩を多く含む	内外面横ナデ調整。あ切り。	
28	陶器小皿 丸形	P9				灰釉 口縁部内外面に施釉		肥前窯 1990年代～2010年
29	瓦器 梶	P14				粘土	退化した高台。	
30	瓦器 盆	P21				粗い動土 灰白色 内外灰釉		
31	瓦器 中碗	P29		(2.6)	4.3	灰釉 内外白化粧土による内面磨目	高台施釉。	肥前窯 17世紀第4四半期～18世紀前半
32	瓦器 盆	P33	(19.9)	3.1	(7.1)	粘土	口縁部内外面横方向ナデ調整。	
33	土器質 作	P37	(11.8)	2.9	(7.1)	*	内外横ナデ調整、糸切り。	
34	陶器 梶	P60		(2.0)		*	二次的に被熱変。	
35	瓦器 梶	P45	13.7	(3.0)		*	口縁部内外横方向のナデ調整。	
36	*	*				*	*	
37	東播系 岩鉢	*				*	内外面横ナデ調整。	
38	陶器小皿	P46				内面側斜面 外面灰釉		肥前窯内野山窯 17世紀後半～18世紀前半

表4 3-1区土器観察表2

遺物番号	復種	出土地点	口徑(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考	
39	陶器	P54			粘土	口縁部は強く折り曲げる。		
40	磁器合付 小皿	P4	13.0	3.0	4.8	内面麗み口文。口縁部輪花彩。高台に褐色の粗糾が付着。	更南産 17世紀前半	
41	陶器 中碗	P23		(2.8)	5.3	灰釉 内外白化粧土 刷毛目	高台施釉。	
42	陶器 中皿	P29	19.8	(4.6)		*	外縁下半は無釉。口縁部外前に割離体の口縁部片が接着。	
43	土師質 杯	SK10		(1.2)	(5.6)	粘土 にぶい黄褐色	系切り。	
44	* 小皿	*	(7.0)	(1.0)	(4.6)	*	内外面横ナデ調整。系切り。	
45	* 作:	*	(11.0)	(2.9)		*	外面は旗ナデ調整による沈線条の条帶が見られる。	
46	* 小杯	SK11	(7.0)	1.9	(4.0)	*	内外面横ナデ調整。系切り。	
47	*	SK41	(6.9)	2.1	(4.6)	*	*	
48	*	*	(7.5)	1.3	(4.8)	*	内外面横ナデ調整。系切り後両方から掘んでいる。	
49	* 杯	*	(12.4)	(2.7)		*	内外面横ナデ調整。系切り。	
50	瓦器 小皿	SK10	(7.6)	1.3	3.2	粘土 灰白色	口縁部内外面四側ナデ調整。	
51	*	梅	*	(11.0)	(2.5)	*	*	
52	*	SK11		(2.9)	粘土 にぶい黄褐色	口縁部外面窓、横方向のナデ調整。		
53	瓦質 引茶	SK10		(4.7)	チャートを多く含む 灰色	口縁部内外側ナデ調整。口縁部と胴部の接合部を觀察できる。		
54	土師質 土瓶	*			粘土 棕色	全長3.8cm、径1.4cm、孔径0.6cm、重さ5.2g		
55	作:	SK12		(4.0)	粘土 にぶい黄褐色	内外面横ナデ調整。系切り。		
56	*	*		(7.2)	*	*		
57	*	*		(7.7)	*	*		
58	* 小皿	*	(7.6)	1.6	(5.2)	*	*	
59	* 杯	SK13	(12.1)	3.5	(7.2)	*	内外面横ナデ調整。系切り。円盤高台状の底部を有する。	
60	*	SK35		3.0		*	内外面横ナデ調整。系切り。	
61	瓦器 小皿	SK12	(7.4)	1.1	(5.4)	粘土 にぶい黄褐色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。	
62	*	梅	*	(2.7)	粘土 棕色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。内面に暗斑を認む。		
63	*	SK13	(11.0)	(2.7)	粘土 灰黄色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。体部外面は粗粒質あり。		
64	刺繍 呂跡	*		(4.0)	粘土 灰色	重ね焼の痕跡が明確。内面と口縁部外側から下に自然粒がかかる。		
65	常滑 窯	*		(4.0)	にぶい褐色	細い横子目の押印。		
66	*	*	(2.4)		灰黄色	*		
67	瓦質 茶器の脚	SK12	(8.6)	粘土 灰白色	基部近くは長軸2cmの凹凸形を呈する。			
68	土師質 小杯	SK14	(6.8)	(1.5)	(4.3)	粘土 にぶい黄褐色	内外面横ナデ調整。系切り。	器高指數21.9
69	*	*	(6.5)	2.1	(4.0)	*	*	器高指數32.3
70	*	*	6.9	1.6	5.1	*	*	器高指數32.2
71	*	*	6.7	1.5	4.8	*	*	器高指數22.4
72	*	*	(7.0)	1.7	(4.2)	*	*	器高指數23.3
73	* 杯	*	(2.5)	(6.8)	*	内外面横ナデ調整。系切り。外面に回転による沈線を認む。		
74	*	*	(10.0)	(2.8)	粘土 灰色	内外面横ナデ調整。系切り。		
75	*	*	(11.0)	(3.0)	粘土 黄灰色	内外面横ナデ調整。外面に回転による沈線を認む。		
76	*	*	(2.1)	(7.6)	粘土 にぶい黄褐色	内外面横ナデ調整。系切り。外面に回転による沈線を認む。		

表5 3-1区土器観察表3

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	胎土・色調	特徴	備考
77	土師質杯	SK14		(2.9)	(6.2)	胎土 にぶい黄褐色 内外面横ナデ調整、糸切り。	
78	*	*		(2.4)	(8.0)	胎土 淡黄褐色 内外面横ナデ調整、糸切り。外面に回転による沈殿を認む。	
79	*	*	12.0	3.8	6.4	胎土 にぶい黄褐色 内外面横ナデ調整、糸切り。外面に回転による沈殿を3条認む。	器高指數31.7
80	* 小皿	SK15	(7.6)	1.7	(4.6)	*	内外面横ナデ調整、糸切り。 器高指數21.8
81	*	*	(8.0)	1.6	(8.1)	胎土 淡黄褐色	*
82	* 小杯	*	6.6	1.7	4.8	胎土 にぶい橙色	*
83	瓦質焼成小皿	*	(7.8)	1.4	(5.4)	胎土 灰白色 内外面横ナデ調整、糸切り。土師質小皿の作りで焼成は瓦器。	
84	土師質小皿	*	(7.6)	1.8	(6.0)	胎土 にぶい橙色 内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指數23.7
85	*	*	(7.8)	1.4	(5.4)	胎土 淡黄褐色	*
86	土師質杯	*		(1.7)	(7.0)	*	*
87	土師質碗	*			(6.0)	*	内外面横ナデ調整、貼付高台。
88	瓦器碗	*		(2.8)		胎土 灰白色 口縁部横方向ナデ調整、内面に縞文あり。	
89	*	*		(2.8)		*	*
90	瓦器小皿	*	(8.7)	1.3	(4.5)	*	口縁部外面横方向のナデ調整、外底指圧痕。
91	瓦器碗	*	(9.5)	(1.8)		チャートの粗粒砂多し 灰白色 口縁部内外面横方向ナデ調整。	
92	*	*	(12.0)	(3.4)		*	口縁部内外面横方向ナデ調整。側部外底は指圧痕+ナデ調整。
93	*	*	(2.2)		胎土 灰白色	口縁部内外面横方向ナデ調整。	
94	土師質壺	*			石英・長石・チャート 粗粒砂を含む 褐色	口縁部内面に凹張、内外横ナデ調整。	紀伊型
95	*	*		(4.5)		*	外面に三角形の小突筋を貼付、内外面ナデ調整。外底保ける。
96	束縛系壺	*		(5.2)		暗灰褐色 外面平行叩き。	
97	常滑型	*		(3.5)		輪伏の押印、外面自然釉がかかる。	
98	土師質杯	SK16	(1.3)	(6.6)	胎土 灰白色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
99	瓦器碗	*		(2.1)		*	内面に縞文。
100	*	*		(2.5)		胎土 灰白色 内面に縞文、外面は指圧痕痕著。	
101	土師質小杯	SK17	7.2	1.8	4.9	粗粒砂を含む にぶい橙色 内面に縞文。	内外面横ナデ調整、糸切り。
102	*	*	(7.1)	1.6	4.2	*	*
103	*	*	7.2	1.9	5.2	*	*
104	*	*	(6.9)	(1.6)	4.3	胎土 にぶい橙色	*
105	*	*	(7.1)	1.8	(4.8)	*	器高指數23.2 器高指數25.7
106	*	*	6.5	1.3	4.6	チャートの粗粒砂を含む	*
107	*	*	(6.7)	1.6	5.0	胎土 にぶい橙色	*
108	*	*	6.4	1.3	4.4	*	器高指數23.9 器高指數20.3
109	*	*	6.8	1.6	5.0	*	*
110	*	*	7.1	1.7	4.9	*	内外面横ナデ調整、糸切り。 器高指數24.3 器高指數23.9
111	土師質杯	*	(1.5)	(5.6)	胎土 淡黄褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
112	*	*	(1.9)	(6.3)	胎土 にぶい橙色 内外面横ナデ調整、外面に横ナデ調整の際に生じた条縞が認る。 糸切り。	外面ハケ状底筋を用いた横ナデ調整、糸切り。下脚部に横ナデ調整の跡に付いたと考えられる太い条縞あり。	器高指數32.5
113	*	*	11.4	3.7	7.2	赤色風化層を含む 外面ハケ状底筋を用いた横ナデ調整、糸切り。外面に横ナデの跡に付いたと考えられる太い条縞あり。	器高指數29.0
114	*	*	(11.7)	(3.4)	(6.9)	胎土 にぶい橙色	

表6 3-1区土器観察表4

遺物番号	機種	出土地点	口徑 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
115	土師質杯	SK17		(2.0)	(7.0)	胎土 灰黄色 にぶい黄褐色	内外面横ナゲ調整、系切り。
116	*	*	(11.7)	3.3	(7.4)	胎土 棕色	*
117	*	*	12.2	4.1	6.8	胎土 にぶい黄褐色	内外面ハケ状原体による横ナゲ調整、系切り。外底にハケ状原体によると考えられる圧痕がある。
118	*	*	(11.4)	3.3	(6.9)	胎土 灰黄色	内外面ハケ状原体による横ナゲ調整、系切り。内面焼ける。
119	*	*	(11.6)	4.0	(7.6)	胎土 にぶい黄褐色	内外面ハケ状原体による横ナゲ調整、系切り。
120	瓦質大鉢	*		(3.6)	胎土	口縁部は内外に肥厚、内外面横ナゲ調整。	
121	土師質杯	SK18		(3.5)	(8.7)	胎土 にぶい棕色	ナゲ調整、系切り。
122	土師質小杯	SK19	(6.8)	1.78	(4.6)	*	内外面横ナゲ調整、系切り。外底にハケ状原体の圧痕。
123	瓦器柄	*		(3.6)	胎土 灰色	内面暗緑、断面三角形状の高台。	
124	東播系引茎	*		(6.8)	胎土 にぶい棕色	口縁部削ぎ、溝上下は横方向ナゲ調整、脇部外延平行叩き、内面は側ハケ調整。	
125	*	*		(5.1)	胎土 棕色	口縁部内外面横方向ハケ調整、脇部外延平行叩き、内面は横ハケ調整、横ナゲ調整、脇部外延焼ける。	
126	土師質杯	SK20	(14.7)	(2.6)	胎土 浅黄褐色	内外面横ナゲ調整。	
127	*	*		(2.1)	(8.9)	*	内外面横ナゲ調整、系切り。
128	瓦器柄	*		(4.1)	胎土 灰色	断面三角形状の高い高台。	
129	土鍋	*			胎土 にぶい棕色	全長3.1cm、径1.1cm、孔径1.1cm、重さ30g	
130	土師質小杯	SK21	(6.9)	(1.7)	(4.4)	*	内外面横ナゲ調整、系切り。
131	*	*	(7.8)	2.1	(5.9)	胎土 浅黄褐色	*
132	土師質杯	*			(6.8)	*	*
133	白磁皿	*		(0.9)	(6.7)	白色精緻	底中央部が厚い作りである。全面施釉。
134	土師質杯	*		(1.6)	(8.2)	胎土 にぶい棕色	内外面横ナゲ調整、系切り。
135	瓦器柄	*	(11.9)	(2.9)	チャートの粗粒砂を含む	口縁部外延強い横方向のナゲ調整。	
136	*	SK23		(2.8)	胎土 灰色	*	
137	土師質杯	SK22		(13.5)	胎土 にぶい棕色	内外面横ナゲ調整。	
138	紀伊盤窓	*			チャートの粗粒砂を含む にぶい棕色	*	
139	平瓦	SK21	全長 9.6	全幅 6.1	全幅 3.6	胎土 灰白色	背面にモコフ痕が見られる。摩耗が激しい。
140	土師質杯	SK24	(14.6)	(2.1)	胎土 浅黄褐色	口縁部内外面横方向ナゲ調整。	
141	*	*		(13.9)	胎土 にぶい棕色	内外面ハケ状原体による横ナゲ調整。	
142	*	*	(11.5)	(2.2)		内外面横ナゲ調整。	
143	*	*	(10.4)	(1.9)		*	
144	*	*	(13.4)	(2.2)		内外面ハケ状原体による横ナゲ調整、内面焼ける。	
145	*	*	(12.4)	(2.5)	チャート他の粗粒砂を多く含む	内外面横ナゲ調整。	
146	*	*	(11.6)	(2.7)	チャートの粗粒砂を含む	内外面ハケ状原体による横方向ナゲ調整。	
147	土師質小杯	*	(6.0)	1.7	(4.2)	胎土 棕色	内外面横ナゲ調整、系切り。
148	*	*	(7.6)	(1.7)	(5.6)	胎土 にぶい棕色	*
149	土師質杯	*		(2.3)	(7.2)	胎土 棕色	内外面ハケ状原体による横方向ナゲ調整。内面はナゲしていない。系切り。
150	*	*		(1.8)	(6.7)	*	内外面横ナゲ調整、外底はハケ状原体による。系切り+ナゲ調整。
151	*	*		(2.3)	(6.7)	*	内外面横ナゲ調整、系切り。
152	*	*		(1.6)	(6.1)	*	内外面ハケ状原体による横方向ナゲ調整、系切り。

表7 3-1区土器観察表5

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	粘土・色調	特徴	備考
153	土師質杯	SK24	(1.8)	(7.0)	粘土 棕色	内外面横ナデ調整、糸切り。		
154	*	*	(1.7)	(6.3)	*	*	*	
155	*	*	(2.2)	(7.7)	粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整、外面糸切り。		
156	瓦器 小皿	*	(7.1)	(1.1)	粘土 灰色	口縁部内外面は横方向のナデ調整。		
157	東播系 指鉢	*	(3.5)		粘土 灰白色	口縁部外面に深い凹線が二条ある。内外面横ナデ調整。		
158	土師質杯	SK25	(1.37)	(3.4)	(7.2)	粘土 浅黄褐色	内外面ハケ状原体による横ナデ調整、糸切り。	
159	*	*	(13.2)	(1.9)		黒化した小窪を含む浅黄褐色	口縁部外面は横方向のナデ調整。	
160	*	*	(8.0)	(2.5)	粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整、外面には横ナデの間に生じた条縞が顯著。糸切り。		
161	*	*	(1.7)	(7.6)	粘土 灰色	糸切り。		
162	*	*	(2.7)	(6.4)	粘土 灰褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。		
163	*	*	(1.1)	(7.0)	粘土 浅黄褐色	*	*	
164	*	*	(1.1)	(7.0)	*	*	*	
165	瓦器 丼	*	(1.0)	(3.0)	粘土 灰色	内面に暗い、指擦圧痕あり。		
166	瓦質 瓶兼	*	(21.6)	(4.8)	*	口縁部は内済しながら立ち上がり窓部は短く折り曲げ、幅2cmのしつかりした跡、瓶部外縁引け、内面横ハケ調整。		
167	東播系 指鉢	*	(2.2)		粘土	内外面横ナデ調整。		
168	土錠	*			粘土 淡黄色	全長(2.5) cm、径0.9cm、孔径0.3cm、重さ16g		
169	土師質 小皿	SK27	(6.8)	(1.3)	(4.2)	粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
170	東播系 指鉢	*	(2.1)		粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整。		
171	土師質杯	*	(11.8)	(3.7)	(8.1)	*	内外面横ナデ調整、糸切り、外底に平行圧痕。	
172	常滑型	SK31					内面横ナデ調整、粘土帯接合部にハケ、外縁に自然輪。	
173	瓦質 瓶兼	SK32	(3.9)			長石粒を多く含む	内外面横ナデ調整、1.5cm幅のしつかりした跡。	
174	土師質 小皿	*	(8.2)	(1.4)	(6.0)	粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整、糸切り。	
175	*	SK33	(7.2)	(1.3)	(5.6)	*	*	
176	土師質杯	*	(12.0)	(2.8)	*	*	*	
177	*	*	(11.1)	3.5	(7.4)	*	*	
178	*	SK34	(11.8)	3.8	(7.4)	*	*	
179	*	*	(11.0)	3.5	(6.9)	*	*	
180	*	*	(11.1)	(2.1)	*	*	*	
181	*	*	(1.0)	(2.9)	*	*	*	
182	*	*	(11.7)	4.0	7.7	*	*	器高指標299
183	*	*	(1.5)	(6.9)	*	*	*	
184	*	SK38	(12.3)	(3.6)	(8.8)	*	口縁部内面に段、内外面横ナデ調整、外面には横ナデの間に生じた条縞が見られる。	器高指標293
185	土師質 小杯	*	(6.5)	(1.4)	(4.2)	*	内外面横ナデ調整、糸切り。外面に沈縞が深る。	器高指標223
186	土師質杯	SK42			(5.0)	*	内外面横ナデ調整、糸切り。	
187	土師質 小杯	SK43	(8.0)	1.6	(5.7)	*	内外面横ナデ調整、糸切り。	器高指標200
188	繩目 おろし器	*	(12.2)	(2.4)	粘土 黄白色	口縁部は四枚を出し、口縁部に薄い緑色の釉がかかる。それ以外は落胎。内面に僅かにおろし目が見られる。		
189	土師質杯	*	(2.2)	(7.1)	粘土 棕色	内外面横ナデ調整、糸切り。		
190	*	*	(1.8)	(8.8)	粘土 にぶい褐色	*	*	

表8 3-1区土器観察表6

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	粘土・色調	特徴	備考
191	土師質杯	SK43	(9.5)	(2.2)		粘土 にぶい褐色	*	
192	瓦器 横	*	(13.0)	(2.4)		粘土 キャートの小窪を含む 灰黄色	口縁部外側強い、横方向のナデ調整。胴部外側に捺圧痕あり。	
193	*	*	(12.6)	(3.2)		粘土 浅黄色	*	
194	瓦質 鎖跡	*		(2.6)		粘土 灰色	内外面横ナデ調整。	
195	東播系 呂鉢	*		(6.0)		*	*	
196	土瓶	*				粘土 にぶい褐色	全員(35) cm, 径13cm, 孔径0.4cm, 重さ4.4g	
197	瓦質 小皿	SK45	8.6	1.6	2.5	粘土 灰色	内面ナデ調整、外縁捺圧痕。	器高指数17.4
198	土師質 仔	SK48	(2.2)	(6.8)		粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整。底切り。	
199	*	SK46		(7.5)		粘土 浅黄褐色	*	
200	土師質 小杯	*	(7.4)	1.6	(5.4)	粘土 にぶい褐色	*	器高指数21.6
201	土師器 引葉	SK47	(17.0)	(3.3)		石英粒を多く含む にぶい褐色	内外面横ナデ調整。	
202	石器 肥石	SK46	全員 10.1	3.3	3.4	泥岩	仕様面1、无数の柔織走る。.	重量117.6g
203	土師質 小杯	SD20 土瓶	7.0	1.6	4.4	砂紋多し 褐色	内外面横ナデ調整。底切り。	器高指数21.4
204	*	*	(7.4)	1.6	(5.4)	粘土 にぶい褐色	*	
205	*	*	(6.8)	1.4	(4.9)	*	*	
206	*	*	(7.7)	1.9	(5.1)	*	*	器高指数25.3
207	*	*	(6.8)	1.5	(5.0)	*	*	器高指数23.2
208	*	*	(6.8)	1.7	(5.0)	*	*	
209	*	*	(7.0)	1.6	(5.0)	粘土 浅黄褐色	*	器高指数22.9
210	*	*	(6.9)	(1.5)	(5.0)	粘土 にぶい褐色	*	
211	*	*	(7.5)	(1.7)	(5.6)	粘土 浅黄褐色	*	
212	*	*	(6.5)	1.5	(4.6)	粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整。底切り。条折け痕跡が大きく残る。	
213	*	*	(7.5)	1.7	(5.7)	*	内外面横ナデ調整。底切り。	
214	*	*	6.7	1.8	4.7	粘土 褐色	*	器高指数26.9
215	*	*	7.8	1.7	5.0	粘土 浅黄褐色	*	器高指数21.8
216	*	*	(7.8)	(1.9)	(5.6)	粘土 にぶい褐色	*	器高指数25.0
217	*	*	(7.5)	1.5	(4.8)	*	*	
218	*	*	(7.3)	1.9	(4.6)	粘土 褐色	*	
219	*	*	7.8	1.8	5.5	粘土 浅黄褐色	*	器高指数23.1
220	土師質 小瓶	*	6.8	1.6	5.2	*	*	器高指数23.5
221	*	*	7.2	1.4	5.4	粘土 にぶい褐色	*	器高指数19.4
222	*	*	(8.3)	(1.5)	(5.2)	*	*	器高指数18.7
223	土師質 仔	*	(12.4)	3.7	(7.4)	キャートの小窪、赤色 風化輝緑岩粒を含む	*	器高指数30.2
224	*	*	11.9	3.8	8.1	*	内外面横ナデ調整。底切り。底部に平行压痕。	器高指数31.9
225	*	*	(11.8)	3.2	(7.2)	粘土 にぶい褐色	*	器高指数27.5
226	*	*	(11.7)	4.0	(7.5)	*	内外面横ナデ調整。底切り。底部に平行压痕。	器高指数29.3
227	*	*	(11.7)	4.0	(7.5)	*	内外面横ナデ調整。底切り。底部に平行压痕。	器高指数34.2

表9 3-1区土器観察表7

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	粘土・色調	特徴	備考
228	土器質 杯	SD20 上層	(12.6)	3.6	(7.6) 砂粒砂を含む 浅黃 褐色	内外面横ナデ調整。糸切り。	
229	*	*	(11.4)	3.9	(7.6) 砂粒砂を含む 浅黃 褐色	内外面横ナデ調整。糸切り。底部に平行圧痕。	器高指數34.2
230	*	*	(12.0)	3.2	(7.7) 粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整。糸切り。	器高指數36.4
231	*	*	(11.6)	3.8	(7.4) 砂粒多し 浅黃褐色	内外面横ナデ調整。糸切り、底部に平行圧痕。	
232	*	*	(12.0)	3.5	(7.4) *	内外面横ナデ調整。糸切り。	器高指數28.8
233	*	*	(12.6)	3.4	(7.6) 砂粒砂を含む にぶ い褐色	*	
234	*	*	(11.6)	3.2	(8.0) 粘土 にぶい褐色	*	
235	*	*	(9.5)	2.8	(4.6) 粘土 浅黃褐色	*	
236	*	*	(9.7)	3.5	(5.9) 粘土 にぶい褐色	*	
237	*	*	(10.4)	3.2	(6.4) *	*	
238	*	*	(11.4)	3.5	(7.0) *	*	
239	*	*	12.2	4.0	7.3 *	内外面横ナデ調整。糸切り。底部に平行圧痕。	器高指數32.8
240	*	*	(12.2)	3.6	(7.4) *	内外面横ナデ調整。糸切り。	器高指數29.5
241	*	*	(11.7)	3.9	(7.6) *	*	器高指數33.3
242	*	*	(12.1)	3.3	6.8 風化輝 石の跡紅多 し浅黃褐色	*	器高指數27.3
243	*	*	(12.0)	3.3	(7.8) 粘土 褐色	*	
244	*	*	12.4	3.8	7.5 粘土 にぶい褐色	*	器高指數30.6
245	*	*	11.6	3.8	7.2 粘土 浅黃褐色	内外面横ナデ調整。糸切り、底部に平行圧痕。	器高指數32.8
246	*	*	(12.5)	3.2	(7.4) チャート、風化レキ の跡紅多 し	外面ハケ状泥棒を用いた横ナデ調整。糸切り、平行圧痕あり。	
247	*	*	(13.6)	3.4	(6.4) 赤色風化輝を含む 褐色	内外面横ナデ調整。糸切り。	器高指數25.0
248	*	*	(11.5)	3.3	(7.1) 粘土 にぶい黃褐色	*	器高指數28.7
249	*	*	(12.7)	3.4	(7.8) 粘土 にぶい褐色	内外面横ナデ調整。糸切り。内底強いナデ調整。	器高指數36.8
250	*	*	(11.4)	3.6	(9.0) *	内外面横ナデ調整。糸切り。内底はナデにより凹凸が見られる。	器高指數33.3
251	*	*	(11.0)	3.6	7.0 砂粒砂を多く含む 浅黃褐色	内外面横ナデ調整。糸切り。	器高指數33.6
252	*	*	(12.5)	3.4	(7.5) 粘土 にぶい褐色	外面ハケ状泥棒を用いた横ナデ調整。糸切り、平行圧痕あり。	器高指數27.2
253	*	*	(11.1)	3.2	(6.4) *	内外面横ナデ調整。糸切り。	
254	*	*	(11.2)	3.4	(7.6) *	外面ハケ状泥棒を用いた横ナデ調整。糸切り、平行圧痕あり、内底に強いナデ調整。	器高指數30.4
255	*	*	(11.6)	3.8	(6.2) *	内外面横ナデ調整。糸切り。	
256	*	*	(10.6)	3.4	(5.7) *	*	
257	*	*	(10.6)	3.8	(7.0) *	内外面横ナデ調整。糸切り。内底突出部を有する。	器高指數35.8
258	*	*	(10.5)	3.6	(7.0) 粗粒砂を多く含む にぶい褐色	内外面横ナデ調整。糸切り。	
259	*	*	(12.0)	3.4	7.2 粘土 にぶい褐色	*	器高指數28.3
260	*	*	(12.4)	3.3	(8.4) 粘土 浅黃褐色	*	器高指數36.6
261	*	*	12.2	3.4	7.3 *	*	器高指數27.9
262	*	*	(11.0)	3.8	(6.4) 粘土 にぶい褐色	*	器高指數35.0
263	*	*	(11.7)	3.3	(7.0) *	内外面強い横ナデ調整。糸切り。平行圧痕あり。	器高指數28.6
264	*	*	(11.9)	4.0	7.8 *	内外面横ナデ調整。糸切り。内底強いナデ調整。	器高指數33.6
265	*	*	(11.2)	3.5	6.7 *	内外面横ナデ調整。糸切り。	器高指數31.3

表10 3-1区土器観察表8

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
366	土師質杯	SD20 上層	(12.6)	3.4	(6.8)	粗粒砂を含む にぶい褐色	内外面横ナデ調整、系切り。	器高指数27.0
367	*	*	(13.5)	3.4	(9.0)	胎土 浅黄褐色	*	器高指数21.6
368	*	*	(13.6)	3.9	(9.0)	*	*	
369	*	*	(13.7)	2.5	(8.8)	胎土 にぶい褐色	*	
270	瓦器 小器	*	(8.3)	1.3	4.6	胎土 灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	
271	*	*	(8.0)	(1.5)	4.0	*	口縁部外面横方向ナデ調整。	
272	*	*	(8.4)	(1.2)		*	*	
273	土師質杯	*			4.2	*	瓦質焼成、系切り、土師質杯の作りで焼成は瓦器。	
274	瓦器 例	*	(12.7)	(2.1)		胎土 にぶい褐色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	
275	*	*	(13.6)	(2.8)		チャート他の粗粒砂にぶい褐色	口縁部外面横方向ナデ調整、体部外腹指捺圧痕。	
276	*	*	(10.6)	(2.1)		チャート他の粗粒砂灰褐色	内外ナデ調整。口縁部外腹の強い横方向ナデ調整なし。	
277	*	*	(1.2)	(5.0)		胎土 にぶい褐色	扁平な三角高台を貼付する。土師質の焼成。	
278	青磁碗	*		(4.6)		灰白色精緻	口縁部外面は段上に削り出し、内面は輪による直線文、体部内面にも文様を認める。	
279	青磁盤	*		(1.1)	(5.2)	*	見込みに飾り、外底は釉様き落點。	1.2類
280	青磁碗	*		(2.1)	(6.0)	灰白色精緻	見込み縁部が段上に削られる。	
281	*	*	(2.6)			*	輪進文。	1.5b類
282	*	*	(1.4)			*	*	*
283	*	*	(3.1)			*	外腹片切り彫りによる蓮弁文。	1.5a類
284	*	*	(2.5)			*	極めて精緻 灰色	口縁部内面に僅かに沈線を認む。
285	白磁皿	*	(9.3)	2.0	(5.9)	胎土 灰色	外底以外白濁の釉がかかる。	
286	瓦質引葉	*		(4.4)		*	口縁部面取り、断面三角の溝。	
287	東掛系呪詠	*				胎土	口縁部外面は凹状を呈する、片口部。	
288	紀伊型甕	*	(26.0)	(3.2)		粗粒砂を多く含む 灰褐色	口縁部内外面強い横ナデ調整、縦部は断面三角形。	
289	東掛系呪詠	*	(25.8)	(3.9)		胎土 灰白色	内外面横ナデ調整。	
290	常滑甕	*	(32.2)	(7.0)		にぶい褐色	口縁部は上下に延長、内外面丁寧な横方向のナデ調整。	
291	東掛系呪詠	*		(11.3)		胎土	頭側部外面は平行引き、脇部内部は部分的にハケ調整を認む。	產地不明
292	常滑甕	*	(48.0)	(10.2)		小禮を含む 灰色	口縁部は上に延長、内外面ハケ状原体で丁寧な横方向ナデ調整を施す。	
293	須賀甕	*	(48.5)	(7.6)		粗粒砂を含む 灰色	口縁部は外方に肥厚し、内外面四脚ナデ調整。	產地不明
294	常滑甕	*				小禮を含む 黄灰色	内外面ハケ状原体による横方向ナデ調整。外面に自然釉。	
295	*	*	(9.1)			胎土 にぶい褐色	内外面ハケ状原体による横方向ナデ調整。	
296	*	*				胎土	内外面ハケ状原体による横方向ナデ調整。	
297	*	*				粗粒砂を含む 灰色	口縁部が横口底から削離、接合面にはハケ調整痕が見られる。内外面横方向のナデ調整。	
298	*	*		(14.3)		粗粒砂を含む 灰褐色	口縁部上下に延張、内外面横ナデ調整、外面自然釉。	
299	*	*				*	外腹横方向ナデ調整、内面は凹凸が顕著。	
300	土鍋	*				胎土 にぶい褐色	全長5.1cm、径0.9cm、孔径0.4cm、重さ29g	
301	*	*				*	全長6.1cm、径1.0cm、孔径0.4cm、重さ40g	
302	*	*				*	全長4.0cm、径1.0cm、孔径0.4cm、重さ25g	
303	*	*				*	全長4.0cm、径1.0cm、孔径0.4cm、重さ31g	

表11 3-1区土器観察表9

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
304	土師質小杯	SD20中・下層	(7.2)	(1.6)	(5.0)	胎土：灰黃褐色 内外面模ナメ調整。外面はハケ状原体による。糸切り。		
305	*	*	(7.0)	1.7	(4.3)	細粒砂を多く含む灰黃褐色	内外面模ナメ調整。糸切り。	
306	*	*	(7.2)	1.6	(5.4)	胎土：にぶい褐色	内外面模ナメ調整。糸切り。外底に平行圧痕。	
307	土師質杯	*			(6.8)	*	内外面模ナメ調整。糸切り。	
308	*	*			(7.4)	胎土：灰黃色	*	
309	*	*			(2.7)	(6.7)	細粒粒砂を含む灰黃色	*
310	*	*			(1.2)	(6.8)	胎土：にぶい褐色	*
311	*	*			(1.3)	(7.1)	*	*
312	*	*			(2.5)	(6.7)	*	*
313	*	*			(1.9)	(7.8)	*	*
314	*	*			(2.4)	7.2	胎土：浅黃褐色	内外面模ナメ調整。糸切り。外底に平行圧痕。
315	*	*			(2.2)	(7.0)	細粒砂を含むにぶい褐色	内外面模ナメ調整。糸切り。
316	*	*			(1.6)	(6.4)	胎土：浅黃褐色	*
317	*	*			(1.7)	(6.7)	*	*
318	*	*	11.4	3.5	7.4	胎土：にぶい褐色	内外面模ナメ調整。糸切り。外底に平行圧痕。	器高指標307
319	*	*	(11.7)	3.4	(6.8)	胎土：にぶい黄色	体部外縁および内底はハケ状原体による横方向ナメ調整+捺ナメ調整。糸切り。	
320	*	*	(11.5)	3.3	(7.2)	*	内外面模ナメ調整。糸切り。	
321	*	*	(11.4)	3.9	(7.4)	*	*	器高指標342
322	*	*	(9.7)	3.9	(6.0)	*	*	
323	*	*	(11.9)	3.5	(7.6)	細粒砂を含む浅黃褐色	*	
324	*	*	(11.3)	3.3	(7.6)	胎土：にぶい黄色	*	
325	*	*	(8.6)	3.8	(5.1)	*	*	
326	*	*			(3.0)	5.6	細粒砂を含む浅黃褐色	厚さ3cmの底部に直径1cm前後の凹孔を焼成時に穿つ。内外面模ナメ調整。
327	白磁碗	*			(3.8)	白色精緻	口縁部を水平に折り曲げる。内面口縁部下に施釉面線あり。器壁が薄い。	
328	東張系挂鉢	*			胎土：灰白色	口縁部は断面三角形で上に弧張る。内外面模ナメ調整。		
329	*	*			(3.4)	*	内外面四側ナメ調整。口縁部外は重ね縁により黒く発色。	
330	丸質羽釜	*			(3.8)	チャート・頁岩の粗粒砂を含む	断面三角形の器。口縁部内外面、器の上下は横方向ナメ調整。	
331	帯環支突	*			胎土：灰白色	外縁に横長格子の押印あり。内面には胎土絆の単位が明瞭。		
332	*	*			小織を含む灰白色	内外面ハケ状原体による横方向のナメ調整。		
333	土縫	*			胎土：にぶい黄色	全長55cm、津13cm、孔径0.5cm、重さ81g		
334	石器 硯石	*	全長 6.3	全幅 7.0	全厚 4.8	流文岩		重量3133g
335	土師質小杯	SD20集中出土	7.2	1.8	4.7	*	内外面模ナメ調整。糸切り。	
336	土師質杯	*	12.0	3.9	7.4	チャート・石英など細粒粒砂を多く含むにぶい褐色	*	器高指標325
337	*	*	(12.2)	3.5	(7.6)	胎土：にぶい黄色	内外面模ナメ調整。糸切り。底部平行圧痕。	器高指標26.7
338	*	*	12.0	3.8	8.0	細粒砂を含むにぶい褐色	内外面模ナメ調整。糸切り。	器高指標31.7
339	*	*	11.9	3.5	7.6	赤色風化繊を含む薄黃褐色	*	器高指標29.4
340	*	*	(12.3)	3.4	(8.0)	胎土：にぶい黄色	*	器高指標27.4
341	*	*	11.8	4.2	7.7	*	内外面強横ナメ調整。糸切り。内底一部が壊ける。	器高指標36.0

表12 3-1区土器観察表10

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
342	土師質 杯-	SD20 集中出土	(10.6)	3.7	(5.8) 粘土 浅黄褐色	内外面横ナデ調整、余切り。	器高指數34.9
343	*	*	11.6	4.0	7.3 粘土 にい黄色	*	器高指數34.5
344	*	*	(11.6)	3.6	(7.0) 粘土 浅黄褐色	*	器高指數30.5
345	*	*	11.6	3.8	7.8 *	*	器高指數32.8
346	土師質 足高高台杯	*		(2.9)	6.1 *	足高高台杯、楕ナデ調整、余切り、外底平行仕痕。底部に貫通孔が斜めにあけられている。内底幅13cm、外底幅0.8cm。	
347	東摺系 足掛	*	(33.4)	(6.9)	粘土 灰白色	内外面横ナデ調整、口縁~外部内面に自然釉が厚くかかる。	
348	常滑 窯	*	(51.6)	(10.7)	粘土 灰褐色	口縁部を上方に大きく強化、外底寧々楕ナデ調整、外面は網目ふり状の自然釉がかかる。	
349	瓦器 碗	SD21		(3.6)	粘土 にい黄色	内面に縮文あり。	
350	須恵器 碗	SD22	(16.0)	(3.2)	粘土 浅黄色	内外面強い楕ナデ調整。	
351	瓦器 碗	*	(14.9)	(2.4)	チャートの細粒鉄を多く含む 灰黄色	口縁部外面強+横方向のナデ調整。体部沿岸圧痕著。	
352	土師質 足高高台杯	*	(7.4)	3.0	(4.4) 粘土 にい黄色	内外面横ナデ調整、余切り。厚さ1cmの高台。陶器のような焼成。	
353	土罐	*			粘土 赤褐色	全長4.7cm、径1.1cm、孔径0.4cm、重さ4.5g	
354	瓦器 小皿	SD23	10.1	1.2	粘土 灰色	内外面横ナデ調整。	
355	土師質 小杯	*	(8.0)	1.4	(5.9) 粘土 にい黄色	内外面横ナデ調整、余切り。	器高指數17.5
356	土師質 小杯	*	(7.6)	(1.9)		内外面横ナデ調整。	
357	土師質 杯-	*		(5.6)	*	内外面横ナデ調整、余切り。	
358	*	*		(4.2)	*	*	
359	*	*		(8.6)	*	*	
360	*	*	(11.0)		*	*	
361	*	*		(5.9)	*	*	
362	*	*		(7.2)	粘土 灰褐色	*	
363	*	*		(4.4)	赤色風化層を含む 薄黄褐色	*	
364	*	*	(12.7)	3.1	(7.8) 粘土 にい黄色	*	
365	*	*	11.6	3.6	6.6 粘土 浅黄褐色	内外面横ナデ調整、余切り。楕ナデの原体が壊滅状に残る。	器高指數26.7
366	*	*	10.7	3.3	6.6 粘土 にい黄色	内外面横ナデ調整。	
367	*	*	(12.7)	(2.2)	*	*	
368	*	*	(14.6)	(3.4)	*	*	
369	瓦器 碗	*	(12.2)		粘土 灰色	口縁部外側方向ナデ調整。	
370	*	*	(12.2)	(2.4)	*	口縁部外側方向ナデ調整。	
371	*	*	(12.6)		*	ナデ調整。	
372	*	*	(12.5)	3.0	2.3 チャート他の顕微鉄鉱を多く含む 灰色	口縁部外側の横方向ナデ調整がほとんど見られない。内面縮文あり。	
373	*	*	(12.9)	(3.6)	粘土 灰色	口縁部外側は二段の横方向ナデ調整、内面縮い縮文。	
374	*	*	(15.7)		*	口縁部外側横方向ナデ調整。	
375	瓦器 小皿	*	7.5	1.3	5.4 *	口縁部内外横方向ナデ調整。底部は凹凸が激しい。	
376	瓦器 碗	*	11.0		*	内面に縮い縮文。	
377	*	*		5.3	粘土 浅黄色	内面に縮文。	
378	*	*		4.8	粘土 灰色	内面に縮文。	
379	青磁 碗	*			灰色精緻	輪廻形。	太宰府 5b

表13 3-1区土器観察表11

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
380	吉瑞 瓢	SD23	(16.5)	6.7	5.1	灰白色精緻	口縁部僅かに肥厚、高台は鋭く削り出し、費付け器胎。	太宰府 15b
381	*	*				灰白色精緻	胎が無い。	
382	白瑞 瓢	*				白色精緻	口縁部模花風。	
383	灰釉陶器皿	*	(13.0)			灰白色精緻	口縁部内面に段、緑灰色の釉が内面と外面上半にかかる。	產地不明
384	白釉西耳壺	*	(9.7)	1.2		灰白色精緻	口縁部強く下方に折り曲げる。	
385	東播系 乳頭	*				胎土 にびい橙色	内外面横ナデ調整。	
386	土瓶	*				*	全長36cm、径11cm、孔径0.4cm、重さ40kg	
387	瓦器 機	SD24	(10.0)	(2.1)		胎土 灰褐色	口縁部外面横方向ナデ調整。焼成は土瓶質。	
388	東播系 拉鉢	*	(19.3)			胎土 灰色	口縁部内外面横ナデ調整。並ね後の痕跡あり。	
389	吉瑞 瓢	SD25				灰白色精緻	見込みに片切り取りによる花文。	
390	瓦器 機	*	(13.4)	(2.3)		チャートの粗粒砂を含む オリーブ黒	口縁部外面強い横方向のナデ調整。	
391	東播系 染付皿	*				白色精緻	口縁部外反。	
392	撫頭 鉢	*	29.3			灰褐色	内外面横方向ナデ調整。	
393	瓦質 刷毛	P86	(17.4)	(2.9)		胎土 灰白色	口縁部外面面横ナデ調整、跨上下横ナデ調整。	
394	土罐質 刷毛	P70				粗粒砂を含む	外底砂子目叩き。	
395	瓦器 機	P82				胎土 にびい黄褐色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
396	東播系 拉鉢	P76				胎土 灰白色	内外面横ナデ調整。	
397	東播系 刷毛	P89	(6.6)			粗粒砂を含む 橙色	跨斜蒸、内外面横方向ナデ調整。	
398	瓦器 機	P80	(12.1)	(2.5)		胎土 灰白色	口縁部外面横方向ナデ調整、内面に焰文。	
399	*	*	(11.0)	(2.9)		*	口縁部外面、二段の横方向ナデ調整。	
400	瓦器 小皿	P84	7.6	1.5		*	外面強い横方向ナデ調整。	
401	瓦器 機	P90				小窪、細粒粒砂を含む にびい黄褐色	焼成は土瓶質、内面に断文。	
402	土罐質 棒	P91		7.7		胎土 浅黃橙色	内外横ナデ調整、切り離し法不明。	
403	瓦器 小皿	P93	7.4	1.6	5.0	胎土 灰白色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
404	*	P95	7.6	1.7	5.0	*	*	*
405	東播系 甕	P96				胎土 灰褐色	外面部手叩き、内面ナデ調整。	
406	常滑 甕	*				灰白色	外面部手の押印あり、内面は荒いナデ調整。	
407	須志型 杯身	P95		(3.2)		胎土 灰色	内外面横ナデ調整、外面上に自然釉。	
408	土罐質 機	P102		(2.4)		胎土 にびい黄褐色	内面ハミガキ、外面部横方向、断面三角の高台。	
409	吉瑞 瓢	P105				灰白色精緻	口縁部内面二条の掘線を片切り取りで施す。	
410	土罐質 棒	P106		(3.4)	6.5	胎土 にびい黄褐色	足高高台、赤切り、内面煤ける。	
411	東播系 刷毛	P126				胎土 明黄褐色	口縁部外面強い横ナデ調整、外面上上がりの叩き。	
412	瓦器 小皿	*	8.3	1.3	6.4	胎土 灰色	口縁部外面横方向ナデ調整、底部押し出し顯著。	
413	土罐質 棒	P141		(2.0)	6.8	胎土 にびい橙色	内外面横ナデ調整、赤切り。	
414	*	*	(1.4)	7.0	*	*	*	
415	*	*	12.5	3.8	7.3	粗粒砂を含む にびい黄褐色	内外面強い横ナデ調整、赤切り。内外面赤色顔料塗布。	
416	*	P144		(2.0)	7.0	胎土 浅黃橙色	内外面横ナデ調整、赤切り。	
417	土罐質 小皿	P145	6.6	1.5	5.2	水色化粧化を含む 橙色	内外面横ナデ調整、赤切り。一部陶質を呈する。	

表14 3-1区土器観察表12

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
418	土師質杯	P145	(10.6)	(2.9)		胎土 浅黄褐色	内外面横ナギ調整。	
419	*	*		(2.3)	6.8	*	内外面横ナギ調整。系切り。	
420	*	*			7.0	赤色風化斑を含む 橙色	*	
421	*	*	12.4	4.5	9.0	胎土 に赤い褐色	*	
422	*	*	12.7	(2.4)		細粒砂を含む 橙色	内外面横ナギ調整。ハケ状突起による可能性あり。	
423	*	*		(2.1)	9.4	細粒砂を含む に赤い黃褐色	内外面横ナギ調整。系切り。	
424	束縛系 鉢	*		(3.0)		胎土 灰色	内外面横ナギ調整。	
425	土師質杯	P143			5.6	胎土 橙色	内外面横ナギ調整。系切り。	
426	*	P149			6.6	胎土 灰褐色	*	
427	瓦器 碗	P162	(13.7)			胎土 灰色	口縁部外面横方向ナギ調整、内面暗文。	
428	*	P163	(12.7)	(3.2)		胎土 灰白色	口縁部外面横方向ナギ調整、内面暗文。	
429	束縛系 鉢	P174		(3.6)		胎土 橙色	内外面横方向ナギ調整、断面三角形の跡。	
430	瓦器 碗	P207		(5.1)		胎土 に赤い黃褐色	口縁部外面横方向ナギ調整、側面部外縁粗粒化、内面暗文。	
431	*	*	(11.6)	(3.0)		チャートの粗粒砂を含む 浅黄色	口縁部外面横方向ナギ調整、側面部外縁粗粒化、内面暗文。器壁が厚い。	
432	土師質杯	P216		(1.6)	7.4	胎土 に赤い黃褐色	内外面横ナギ調整。	
433	*	*			6.0	*	内外面横ナギ調整。系切り。	
434	土師質小皿	P219	6.8	1.4	4.4	*	*	
435	土師質杯	*		(1.7)	(7.2)	*	*	
436	*	*		(1.6)	6.8	*	*	
437	*	*			7.0	細粒砂を多く含む に赤い黃褐色	*	
438	*	*	13.2	3.9	7.6	細粒砂を多く含む に赤い黃褐色	内外面横ナギ調整。系切り。外底僅ける。	
440	*	*	(11.6)	(3.7)		細粒砂を含む に赤い黃褐色	内外面横ナギ調整。	
441	*	*		(1.8)	6.4	胎土 橙色	内外面横ナギ調整。系切り。	
442	瓦器 碗	P224	(12.0)	(3.5)		胎土 灰白色	口縁部外面強い横方向のナギ調整。内面暗文。	
443	土師質碗	*			6.7	胎土 に赤い黃褐色	内外面横方向ナギ調整。しっかりした貼付高台。	
444	瓦器 小皿	*	8.1	1.7	4.1	胎土 灰白色	口縁部外面横方向ナギ調整。外底押し出し、内面丁寧なナギ調整。	
445	土師質 碗	P225			6.0	胎土 に赤い黃褐色	外底は系切り後、ナギ調整。貼付高台。	
446	瓦器 小皿	*	(19.0)			チャート他の細粒砂を多く含む 灰色	内外面横ナギ調整。	
447	瓦器 碗	P226	13.3	(3.1)		胎土 灰白色	口縁部外面横方向のナギ調整、側面部外縁粗粒化。	
448	土師質杯	P232			5.8	胎土 橙色	内外面横ナギ調整。系切り。	
449	瓦器 小皿	*	7.3	1.4		胎土 所白色	体部外面強い横方向ナギ調整。	
450	瓦器 碗	P234	11.8			胎土 灰色	口縁部外面横方向のナギ調整。	
451	土師質杯	P235			4.3	胎土 に赤い黃褐色	内外横ナギ調整。	
452	土師質杯	P239		(2.6)	6.8	*	内外面横ナギ調整。系切り。	
453	*	P240		(2.1)	7.8	*	*	
454	*	P246	(9.4)	(2.8)		*	内外横ナギ調整。	
455	土師質 小杯	*	8.0	1.7	5.6	*	内外面横ナギ調整。系切り。	器高指數21.1

表15 3-1区土器観察表13

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
456	土師質小杯	P246	7.5	15	5.0	胎土：にぶい黄褐色 細粒砂を含む 内面：にぶい黄褐色	内外面横ナデ調整、余切り。	器高指数30.0
457	*	*	6.6	18	4.6	胎土：にぶい黄褐色	*	
458	*	P247	6.0	16	5.0	胎土：にぶい黄褐色	*	器高指数27.7
459	*	*	8.0	17	5.4	胎土：褐色	*	器高指数21.2
460	瓦器小皿	P251	8.8	16	4.2	胎土：灰褐色	底部押し出し、指捺圧痕顯著。	
461	土師質杯	*	12.0	3.4	8.0	胎土：褐灰色	内外横ナデ調整。	
462	瓦器碗	P256	11.8	3.4	3.2	胎土：灰白色	口縁部外面強い横方向のナデ調整、内面暗文、外縁指圧痕。	
463	土師質碗	P257	6.6	15	4.2	胎土：にぶい黄褐色	内外面横ナデ調整、余切り。	
464	土師質杯	P261	12.1	3.5	7.4	*	口縁部が僅かに内凹、内外面横ナデ調整、余切り。	
465	*	*	(2.1)	8.0	*	*	内外面横ナデ調整、余切り。	
466	*	*		7.6	*	*	*	
467	土師質小杯	*	7.2	18	5.3	*	*	
468	*	*	5.9	16	5.2	*	*	
469	土師質杯	P263	(1.9)	7.2	*	*	*	
470	瓦器小皿	P264	7.6	0.9	6.0	胎土：暗灰褐色	外縁横方向のナデ調整。	
471	土師質杯	P270	(0.7)	(6.6)	胎土：灰黃褐色	内外面横ナデ調整、余切り、外底に平行圧痕。		
472	*	P276	(2.6)	4.8	胎土：にぶい褐色	内外面横ナデ調整、余切り。		
473	瓦器碗	P273	(3.9)	胎土：灰白色	口縁部外面横方向のナデ調整、内面暗文。			
474	束縛系作跡	P281	(2.3)	8.0	5.0	風化後の粗粒砂を多く含む	外底余切り、外縁横ナデ調整。	
475	土師質杯	P287	(1.6)	(6.0)	胎土：浅黃褐色	内外横ナデ調整、余切り。		
476	瓦器碗	P288	(11.2)	(3.0)	胎土：黃灰色	強い横方向ナデ調整。		
477	土師質杯	朱石1	(12.6)	3.4	7.0	胎土：にぶい褐色	外底はハケ状原形によるナデ調整、余切り、外底は平行圧痕。	
478	*	*	(12.7)	3.1	(8.4)	*	内外横ナデ調整、余切り。	
479	土師質小杯	*	7.0	14	5.6	*	内外横ナデ調整、余切り。一部が焼ける。	器高指数20.0
480	*	*	6.0	19	4.0	*	内外横ナデ調整、余切り。	器高指数31.7
481	瓦器小皿	*	8.6	13	3.5	胎土：灰白色	口縁部外面強い横方向のナデ調整、内面暗文、外縁指圧痕。	器高指数15.1
482	青磁破	*			4.9	灰色粗粒	見込みに印花文、唇付底部の落底部は黃白色に榮色。	
483	束縛系作跡	*	29.6	(4.7)	胎土：黃灰色	内外面横ナデ調整。口縁部及び体部内部に自然粘。		
484	紀伊里要	*	24.4	(6.4)	胎土：石英など の粗粒砂を含む 茶褐色	口縁部端を上に摘み上げ、口縁内外面横ハゲ、上側部に断面三 角形の小突起を貼付、外縁焼ける。		
485	*	*	23.0	(4.7)	胎土：チャート等の粗 粒砂多し にぶい褐色	口縁部内外面横ナデ調整、端部は摘み上げ。外縁焼ける。		
486	土師質杯	朱石2	(2.5)	7.3	胎土：浅黃褐色	内外横ナデ調整、余切り。		
487	瓦器碗	*	(10.8)	(3.2)	胎土：灰褐色	口縁部外面横方向のナデ調整、内面暗文。		
488	*	*	(16.0)	(3.5)	胎土：灰褐色	*		
489	*	*	16.0	4.4	6.6	胎土：灰褐色	口縁部外面横方向の強いナデ調整、外縁指圧痕、内面暗文、断面三角のしきりたし高台貼付される。	
490	土師質小皿	土器集中1	8.4	(1.6)	5.2	胎土：にぶい褐色	内外横ナデ調整、余切りと考えられるが完全にナデ酒している。	器高指数19.0
491	瓦器碗	*	(1.0)	4.2	胎土：灰褐色	断面カマボコ状の高台。		
492	土師質杯	*	(3.4)	5.9	胎土：浅黃褐色	内外ナデ調整、ヘラ切り。		

表16 3-1区土器観察表14

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
493	瓦器 小皿	土器集中1	8.8	1.9		胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。内面暗文。	
494	瓦器 梗	*	14.7	4.4	3.8	細粒粗粒を含む 灰色	口縁部外面横方向ナデ調整はほとんどない。但頭圧痕顯著。暗文あり。	器高指數29.9
495	青磁 瓶	*	16.0	(5.4)		灰色精緻	透光度のある釉、口縁内面二条の沈漫で区画され、区画内に草花文。	
496	白磁 瓶	*	16.0	6.0	5.7	白色精緻	内板と体部内面に撫摩、口縁は近く扇曲、高台は高く細い、高台點に施釉。	
497	*	*	17.4	6.5	5.9	*	見込みに撫摩、口縁部は近く屈曲する。高台は高く高い、外底中央部に僅かに施釉を有す。	
498	土師質 杯	土器集中2	12.0	3.7	8.4	胎土 にぶい褐色	内面暗模ナデ調整、余切り。	
499	*	*	11.0	5.0	7.2	粗粒砂多く含む にぶい褐色	内外面暗模ナデ調整、余切り。外底に平行压痕。	
500	土師質 小皿	*	7.0	1.6	4.4	胎土 にぶい褐色	内外面暗模ナデ調整。余切り。	器高指數22.9
501	土師質 小杯	土器集中3	7.0	1.5	4.3	胎土 棕色	内外模ナデ調整、余切り。	器高指數21.4
502	土師質 杯	*	11.5	3.7	7.0	*	内外面模ナデ調整、余切り。外底に平行压痕。	器高指數32.8
503	瓦器 梗	*	13.2	3.5	2.5	チャートの粗粒砂を含む 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。内面に暗文。	器高指數22.7
504	瓦器 小皿	*	8.0	1.5		胎土 灰色	外縁横方向のナデ調整。	器高指數18.7
505	瓦器 梗	*	13.0	(3.0)		チャートの粗粒砂を含む 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
506	*	*	(1.2)	3.2		チャートの粗粒砂を多く含む 灰白色	微隆起帶に退化した高台、内底に暗文。	
507	*	*	12.8	3.1		粗粒砂を僅かに含む	口縁部外面横方向ナデ調整。底部が僅かに突出、高台無し。内面に暗文。	
508	瓦器 小皿	SK49	(7.7)	(1.7)		胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。外底指捺痕。	
509	土師器 引葉	*				石英、長石粒を多く含む	内面暗模ナデ調整、僅ける。	
510	瓦器 梗	*	(13.6)	(2.4)		胎土 にぶい黄褐色	内面暗模ナデ調整。	
511	瓦器 小皿	SK51	(7.6)	(1.4)		胎土 帽状色	口縁部外面横方向のナデ調整。外底指捺痕。	器高指數19.1
512	瓦器 梗	*	(12.2)	(2.5)		胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
513	土師質 杯	SD31	(1.3)	6.9		胎土 にぶい黄褐色	内面暗耗。	
514	*	*	(1.6)	6.5		チャートの粗粒砂を含む 棕色	内外面模ナデ調整。へラ切り(?)	
515	瓦器 小皿	*	(8.6)	(1.2)		胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
516	*	*	(8.0)	(1.3)		チャートの粗粒砂を多く含む	口縁部外面横方向のナデ調整。	
517	*	*	(1.3)			胎土 灰色	*	
518	瓦器 梗	*	12.2	2.5		*	口縁部外面のナデ調整は弱い。外底指捺痕。	
519	*	*	12.0	(2.8)		チャートの小粒を少し含む 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。胴部外側は滑面による凹凸顯著。内面に暗文。	
520	*	*	(2.5)			胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
521	*	*	(3.1)			胎土 にぶい黄褐色	*	
522	*	*	(2.1)			胎土 灰色	*	
523	*	*	12.9	(3.1)		チャート粗粒砂を含む 灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。内面暗文。	
524	*	*	(2.1)			胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
525	*	*	(3.0)			チャート型粗粒砂を含む 灰色	*	
526	青磁 瓶	*				灰色精緻	施薙弁文、胎色の釉がやや厚くかかる。	太宰府分類15b類
527	*	*				灰白色精緻	施薙弁文。	*
528	*	*				*	茎付けまで施釉。	*
529	*	*				*		*
530	青磁 盆	*		(5.8)		灰色精緻	堅折れタイプ。外底は無釉。	

表17 3-1区土器観察表15

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	留高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
531	白磁皿	SD031	18.0	(1.2)	(5.2)	白色精緻	口丸。	
532	白磁碗	*				*	見込みに撲摺。	
533	東播系西鉢	*				胎土 灰色	外底系切り。	
534	*	*				*	内外側ナデ調整。口縁部外側に自然軸。	
535	*	*				*	内外側横ナデ調整。口縁部外側に自然軸。	
536	須志夢把手	*				胎土 灰色	接合部付近に指捺压痕顯著。	
537	瓦質鉢	*				胎土 灰色	丁寧なナデ調整。	
538	*	*				*		*
539	瓦質鉢	*				*	内外面横方向ナデ調整。	
540	紀伊型壺	*				風化跡やチャートの砂粒を含む 明赤褐色	*	
541	*	*				結晶片岩・チャートの砂粒を多く含む	*	
542	常滑窯	*				粗粒砂を含む にぶい粒	外面は董状と菊花状の押印。	
543	土瓶	*				胎土 にぶい・橙色	全長5.5cm、径1.0cm、孔径0.3cm、重さ19g	
544	*	*				*	全長5.5cm、径1.1cm、孔径0.3cm、重さ45g	
545	*	*				*	全長5.1cm、径1.2cm、孔径0.5cm、重さ6.3g	
546	*	*				*	全長6.1cm、径1.1cm、孔径0.3cm、重さ5.4g	
547	*	*				*	全長3.5cm、径1.2cm、孔径0.4cm、重さ3.7g	
548	*	*				*	全長4.0cm、径1.3cm、孔径0.3cm、重さ4.4g	
549	*	*				*	全長4.1cm、径1.2cm、孔径0.25cm、重さ4.4g	
550	土師質杯	SD032	10.8	4.9	7.1	赤色風化履歴を含む 橙色	内外側ナデ調整、赤切り、底端が厚い。	
551	瓦器小皿	*	8.0	1.6	6.0	胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。外底指捺压痕顯著。	
552	*	*	6.7	1.0	5.7	*	外面横方向の強いナデ調整。	唇高指数14.9
553	*	*	(8.6)	(1.0)	(6.1)	*		*
554	*	*	8.7	1.1	6.4	*		*
555	瓦器碗	*	13.8	3.9		胎土 浅黄褐色	口縁部外面横方向のナデ調整は弱い。	
556	*	*	(14.0)	(2.5)		*	口縁部外面横方向のナデ調整。	
557	*	*	(2.6)			胎土 にぶい黄褐色	口縁部外面の横方向ナデ調整なし、内面はヘラ巻き。	
558	*	*	(13.2)	(2.3)		胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
559	*	*	(12.4)	3.1	1.6	*	口縁部外面横方向のナデ調整。胴部は指捺压痕、内面暗文。	
560	*	*	14.0	4.1	2.5	*	口縁部外面横方向のナデ調整。胴部外面指捺压痕顯著、断面カマフラージ状の高台、高台の笠置が中心軸から大きくずれている。	
561	*	*	15.2	2.9	3.5	*	口縁部外面横方向のナデ調整はほとんど見られない。	
562	*	*	(15.0)	(2.7)		*	口縁部外面横方向のナデ調整。	
563	*	*	(2.0)			*	内底に平行暗文。	
564	*	*	(15.6)	(4.0)		*	口縁部外面横方向のナデ調整はほとんど見られない。内面に暗文。	
565	青磁碗	*	16.8	(2.9)		灰白色發緋	口縁部内面に壓摺。	
566	青磁小皿	*	4.6			灰色精緻	外底底部付近有裂。	
567	青磁碗	*	5.2			*	高台脇まで施調。	
568	東播系控鉢	*	(3.4)			胎土 灰色	内外面横ナデ調整。	

表18 3-1区土器観察表16

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
569	瓦質 脚	SD32				胎土 灰白色	ナデ調整。	
570	ミニチュア 土製品	*	2.6	1.7		胎土 にぶい黄褐色	胎頭圧痕跡	
571	常滑 更	*				粗粒砂を含む 灰褐色	格子目押印あり。	
572	土師質 杯	SD33	(1.2)	6.2		胎土 浅黄色	内外模ナデ調整。系切り。	
573	*	*	(1.6)	6.2		胎土 にぶい橙色	*	
574	瓦器 小皿	*	7.4			胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
575	*	*	7.1			*	*	
576	*	*	8.2	1.2		*	*	
577	瓦器 例	*	13.2	(2.6)		胎土 浅黄色	口縁部外縁の横方向ナデ調整はほとんどない。土師質器の後成である。	
578	*	*	11.0	(2.8)		胎土 灰白色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。体部外縁凸が顯著。	
579	*	*	12.5	2.25	3.0	粗粒砂を含む 灰褐色	*	
580	*	*		(2.5)		粗粒砂を多く含む	口縁部外面横方向のナデ調整。	
581	*	*	10.5	3.3	3.6	小埋、粗粒砂を含む 灰色	*	唇高指数26.4
582	*	*	(13.0)	(3.0)		胎土 灰色	口縁部外面の横方向ナデ調整はほとんどない。	
583	*	*	12.9	2.5		赤色風化難を含む	口縁部外面横方向のナデ調整。土師質土器の後成。	
584	*	*	13.8	(2.7)		胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
585	青磁 碗	*				やや深い胎土 灰色	幅広い進井文。	太宰府分類1 5b類
586	*	*	(5.0)			灰色精緻	進井文。	太宰府分類1 5b類
587	*	*				*	*	*
588	*	*	12.1	4.8	4.0	やや粗い胎土 灰色	小振りの輪。高台外面まで施釉。豊付けも一部施釉。	*
589	*	*	16.4	7.0	5.1	やや粗い胎土 灰色	進井文。豊付け外縁を斜めに指す。高台外面まで施釉。	*
590	*	*	16.8	3.5		灰色精緻	進井文。	*
591	*	*	(2.6)	4.0		灰色精緻	外縁輪振を縱方向に施文。内面はジグザク文。高台は断面台形状にて常に削る。外底は円錐状を呈する。	
592	*	*	(3.8)			灰白色精緻	外縁輪振を縱方向に施文。内面はジグザク文。	
593	東播系 呂跡	*	(6.6)			胎土 灰色	内外模横十字調整。後成は瓦質。	
594	*	*	(5.2)			*	内外模横ナデ調整。口縁外黒色。	
595	*	*	(23.0)	(4.8)		粗粒砂を含む 灰褐色	内外模横ナデ調整。	
596	*	*	(34.0)	(6.6)		胎土 灰色	口縁部に自然釉。内外模横ナデ調整。	
597	瓦質 盆	*	(5.1)			*	口縁下に断面三角の溝を貼付する。	
598	紀伊型 更	*	(2.5)			チャート他の粗粒砂 多し 棕色	内外面横方向ナデ調整。	
599	*	*	(2.0)			*	*	
600	陶器 更	*	(34.7)	(6.3)		胎土 灰色	口縁部内外横ナデ調整。脚部外縁格子押き。内面は青釉液状の当て追加痕跡あり。	
601	瓦質 訓並 脚	*				チャート粗粒砂多し 灰色	最大径2.4cm。ナデ調整。	
602	*	*				*	体部接合部から剥落している。ナデ調整。	
603	土師質 土鉢	*				胎土 浅黃橙色	全長45cm。径13cm。孔径0.4cm。重さ67g	
604	*	*				*	全長48cm。径14cm。孔径0.4cm。重さ67g	
605	瓦器 碗	SD35	(13.3)	(3.2)		胎土 浅黄色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	
606	*	SD36	(2.5)			胎土 灰色	口縁部外面横方向の強いナデ調整。	

表19 3-1区土器観察表17

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
607	瓦器 小皿	SD06	7.9	1.4	3.5	胎土 灰色	口縁部外面横方向のナデ調整、底一定方向のナデ調整、口縁内面に細い沈線。	器高指数17.6
608	瓦器 弓足	SD04	22.0	(7.4)		胎土 灰黄色	断面二角のしきりした溝を有す。口縁部内外、脚上下横方向ナデ調整。脚底外面は凹凸が見られる。外縁僅ける。	
609	瓦器 弓足	SD06		(2.8)		胎土 淡褐色	内外面横方向ナデ調整。	
610	東播系 振鉢	*				粗粒砂を含む 灰褐色	内外面ナデ調整。	
611	青磁 瓢	SD05		(6.0)		やや粗い胎土 灰色	見込みに印伝文。一部高台内面まで施釉。	
612	瓦器 弓足	SD07	(17.0)	(3.9)		胎土 灰色	口縁部内外、脚上下横方向ナデ調整、脚部指腹圧痕著。	
613	瓦器 小皿	*				胎土 灰黄色	口縁部外面横方向のナデ調整、底部指腹圧痕著。	
614	土師質 朴	SD08		7.7		胎土 淡黄色	内外壁ナデ調整、赤切り。	
615	土師質 小杯	*	8.6	1.8	7.0	胎土 にびい黄褐色	*	
616	*	*	8.4	1.8	2.5	胎土 淡黄褐色	ヘラ切り。	
617	瓦器 小皿	*	8.3	(1.4)		胎土 灰黑色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
618	瓦器 瓢	*		(1.2)	5.4	胎土 灰黄色	高台は断面台形状でしきりしている。内面暗文。	
619	青磁 瓢	*		(2.6)		灰白色精緻	内外無文。	
620	東播系 振鉢	*		(2.5)		胎土 灰白色	口縁部外面横方向のナデ調整。	
621	*	*		(3.6)		胎土 灰色	口縁部外面に自然釉、内外壁ナデ調整。	
622	白磁 瓢	*		(1.8)		灰白色精緻	内面に細い沈線。	
623	瓦器 瓢	*		(3.2)		胎土 灰白色	断面マボコ状の高台。	
624	陶器 方口 (箱形?)	*		(3.4)		粗粒砂を含む 黄色	口縁部は丸味をもつ。	
625	常滑窯	*		(7.2)		灰白色	猪子目押印あり。外縁に自然釉。	
626	土師質 小杯	SD09	7.1	1.6	5.1	胎土 にびい黄褐色	内外壁ナデ調整、赤切り。	
627	瓦器 小皿	*	8.7	1.3	5.4	胎土 灰黑色	外面横方向のナデ調整。	器高指数14.9
628	瓦器 瓢	*		(4.6)		胎土 灰白色	口縁部横方向ナデ調整、内面暗文。	
629	*	*		(13.6)	(2.1)	*	*	
630	青磁 瓢	*		(4.0)		灰白色精緻	口縁部内面に沈線。	
631	*	*		(3.3)		*	内外面無文。	
632	*	*		(2.9)		*	内面に片切り彫りによる沈線が施される。	
633	白磁 小皿	*	5.4	(2.1)		白色精緻	口光。	
634	白磁 瓢	*		(2.1)	6.4	*	外面露胎。	
635	瓦器 瓢	*	(24.0)	(4.5)		胎土 灰色	口縁部は「く」字伏に外反、内面は段をなす。外縁僅ける。	
636	東播系 振鉢	*		(4.2)		胎土 にびい黄褐色	内外面横ナデ調整。	
637	瓦器 弓足	*	12.6	(6.1)		胎土 灰色	口縁内外、脚の上下横方向ナデ調整。脚部外縁は指腹圧痕が残る。	
638	東播系 振鉢	*		(7.6)		胎土 灰白色	口縁部外面横ナデ調整、同外面平行叩き。	
639	陶器 壺	*		(3.1)		粗粒砂を含む、にびい程	外縁自然釉。	
640	土錐	*				胎土 にびい黄褐色	全長29cm、径1.2cm、孔径0.3cm、重さ39g	
641	*	*				*	全長39cm、径1.1cm、孔径0.3cm、重さ42g	
642	瓦器 小皿	SD10	7.1	1.5	5.5	チャート粗粒を含む 灰褐色	外縁強い横方向のナデ調整。	
643	土師質 朴	P299	(1.8)	6.5		胎土 灰黃褐色	内外面横ナデ調整。	
644	*	P294	(2.0)	6.4		胎土 灰色	*	

表20 3-1区土器観察表18

遺物番号	機種	出土地点	口径 (cm)	底径 (cm)	胎土・色調	特徴	備考
645	土師質杯	P320		(1.3)	6.1 粘土 灰色	内外面横ナゲ調整。	
646	*	*	12.8	37	7.0 粘土 にぶい黄褐色	口縁部外側強い・横ナゲ調整。系切り。	
647	白磁皿	P324	13.0	(2.0)	白色精細	口壳。	
648	土師質杯	P366		6.2	粘土 灰黃褐色	内外横ナゲ調整。系切り。	
649	瓦器 梗	P331	10.6	2.7	3.6 粘土 灰色	口縁部外側強い・横ナゲ調整。内面暗文。	
650	土師質杯	P358	(13.2)	(2.6)	粘土 にぶい黄褐色	内外面ナゲ調整。	
651	*	*	(12.6)	(3.0)	*	*	
652	*	*	(3.3)	8.1	赤色風化層を含む 粘土	*	
653	瓦器 梗	P361	12.0	3.0	粘土 灰色	口縁外面横方向ナゲ調整。内面暗文。	
654	瓦質引葉	P369	(2.7)	10.0	粘土 灰色	底部。内面はハケ状原体によるナゲ調整。外縁はナゲ調整。縦け る。	
655	東播磨芦井	P384	(3.1)	(7.0)	粗粒砂を含む 灰色	内面の掌托が顯著である。	
656	瓦器 梗	P414	(3.2)	3.0	粘土 灰色	内底は平行の暗文。	
657	土師質小皿	4層	8.8	1.7	5.9 細粒粒砂を含む 粘 色	内外面横ナゲ調整。系切り。	器高指數 19.3
658	土師質小杯	*	7.6	2.1	5.0 粘土 にぶい・褐色	*	器高指數 27.6
659	*	*	7.9	2.2	4.5 粘土 粉色	*	
660	土師質杯	*			7.0 粘土	*	
661	*	*	12.2	3.4	8.0 粘土 浅黄色	*	器高指數 27.9
662	*	*	(2.7)	7.6	*	内外面横ナゲ調整。系切り。底部に平行圧痕。	
663	*	*	12.0	3.9	6.8 粘土 灰黃褐色	内外面強い横ナゲ調整。系切り。外縁はハケ口状の条縫が顯着。	
664	*	*	(2.5)	6.6	粘土 浅黄色	内外面横ナゲ調整。系切り。	
665	*	*	12.3	4.0	7.4 細粒粒砂を含む 粘 色	*	
666	*	*	11.2	3.3	6.8 細粒粒砂を含む 粘 色	*	
667	*	*	11.3	3.7	7.2 粘土 浅黄色	内外面横ナゲ調整。系切り。底部に平行圧痕。	器高指數 32.7
668	*	*	11.7	3.5	7.2 粘土 にぶい・褐色	*	器高指數 29.9
669	*	*	11.8	3.6	6.3 粘土 黄褐色	内外面横ナゲ調整。系切り。	器高指數 30.5
670	*	*	12.0	4.3	7.0 細粒粒砂を含む に ぶい・褐色	内外面横ナゲ調整。系切り。底部に平行圧痕。	器高指數 35.5
671	*	*	12.6	3.9	7.4 粘土 にぶい・褐色	内外面横ナゲ調整。系切り。	器高指數 30.9
672	*	*	12.8	3.2	8.2 細粒粒砂多い 褐色	内外面横ナゲ調整。内面側に保ける。	器高指數 25.0
673	*	*	12.4	3.8	6.7 粘土 にぶい・褐色	内外面横ナゲ調整。系切り。	
674	*	*	12.5	4.1	6.5 粘土 にぶい・褐色	*	器高指數 32.0
675	*	*	11.6	4.0	6.0 細粒粒砂多い にぶ い・褐色	内外面横ナゲ調整。系切り。底部に平行圧痕。	
676	*	*	12.2	4.4	6.4 粘土 にぶい・褐色	外縁ハケ状原体による強い横ナゲ調整。系切り。	
677	瓦器 梗	*	16.0	4.8	3.8 粘土 灰色	口縁部外側強い・横方向のナゲ調整。体部外縁は凹凸が顯著。断面 台形狀のしきりした高台。	器高指數 30.0
678	*	*	15.5	4.6	4.6 粘土 灰色	口縁部は傷みに外反。外縁は横方向ナゲ調整。体部外縁は指縫に よる凹凸面著。断面三角形のしきりした高台。内面暗文。	器高指數 29.7
679	*	*	14.5	5.3	5.0 粘土	口縁部外側強方向向のナゲ調整。体部外縁凹凸面著。断面ガマ ギ口状のしきりした高台。	器高指數 34.5
680	*	*	13.5	3.1	3.0 粘土 灰黃色	口縁部外側強方向ナゲ調整。内面暗文。	器高指數 23.0
681	*	*	12.9	3.3	4.4 粘土 灰色	口縁部外側強方向ナゲ調整。内面暗文。微粒起状の高台。	
682	*	*	13.1	2.8	3.9 粘土	*	

表21 3-1区土器観察表19

遺物番号	種類	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
683	瓦器 盆	4層	7.9	1.6	6.5	胎土 黄色	口縁部外側横方向のナデ調整。	器高指数30.2
684	青磁 瓢	*		(19)	4.5	灰色精緻	唇付けまで施釉。	
685	白磁 瓢	*		(13)	6.0	白色精緻	口壳。外底露胎、露胎部は褐色。	
686	青磁 瓢	*		(25)	6.7	灰黄色精緻	厚い底盤である。	
687	青磁 瓢	*	11.0	2.0	5.2	灰白色精緻	見込みに櫛足によるジグザグ文と片切り取り。全面施釉後に外底露胎取り。	同安窯系I-2類
688	青磁 瓢	*		(19)	6.0	灰色精緻	外底に深3cm程の凹跡、唇付けの一部にまで施釉。見込みに片切り取り。	
689	*	*		(31)	6.1	灰白色精緻	見込みに片切り取り。高台内面の胎を焼き取り。	
690	*	*		(16)	5.7	*	見込みに四文字印押、唇付けの一部にまで施釉。	
691	*	*	13.9	5.4	4.5	灰色精緻	外表面方向の櫛引き、内面は沈線から下に櫛によるジグザグ文と丸ノミによる文繙を描く。高台は削面形。	同安窯系I-1b類
692	*	*	17.9	(5.8)		灰白色精緻	外底露胎弁文。	龍泉窯系I-5b類
693	*	*		(41)		灰色精緻	外底露胎方向の櫛引き、内面は櫛によるジグザグ文。	同安窯系I-1b類
694	*	*	15.8	(5.4)		*	内外面無文。	龍泉窯系I-1類
695	白磁 瓢	*		(43)		灰白色精緻	口縁部が短く外反し端部は丸い。器深が薄い。	V 3類
696	*	*	16.4	5.9	5.4	やや粗い 黄白色	口縁部は短く外反し上面が水平な面をなす。見込みに沈線。高台は△形を呈し細く長い。高台の近くまで施釉。	V ta類
697	須恵器 甕	*		(21)	9.8	胎土 黄色	太くしっかりした高台とハ字状に踏ん張る。外底露胎ナデ調整。	
698	白磁 瓢	*		(1.6)	6.1	灰白色精緻	見込みの胎を輪状にかき取る。外底は割りの上を丁寧に処理している。	雄類
699	常滑 足	*		(5.9)		小窪を含む	口縁部が短く外反。内面は湖南ふり状に自然彫がかかる。	
700	東播系 楠鉢	*	22.2	(6.2)		貝岩粗粒を含む	内外面横ナデ調整。内面は前面による斜め方向のナデ。	
701	*	*		(8.6)		胎土 黄色	内外面横ナデ調整。	
702	*	*		(7.6)		貝岩その他の粗粒砂を多く含む	*	
703	*	*		(3.8)	8.6	小窪、粗粒砂を含む 黄色	外面横方向ナデ調整、希切り。内面は使用による省糞痕者。	
704	瓦質 刷筆	*	18.0	(3.7)		胎土 黄色	脇の幅10cm。内外面、脇の上下はハケ状原体による横ナデ調整。	
705	瓦質 刷筆	*	22.8	(7.9)		粗粒砂を含む 黄白色	脇15cm程度のしっかりした溝を有す。内面ハケ状原体による横方向のナデ調整、外沿はナゼ仕上げ。外底保ける。	
706	常滑 甕	*		(6.3)	18.4	胎土 黄色	底部に口縁付着、内外面粗。	
707	陶器 壺	*	(36.6)	(6.7)		胎土 黄色	外表面強い横ナデ調整。胴部は接合部から調整。	產地不明
708	須恵器 甕	*	17.4	(4.7)		胎土 黄色	口縁部は直面的に立上がり、口幹部は強い横ナデにより凹状をなす。胴部外面平行叩き、内面は香港波文。	
709	古窯址 拗瓶	*		(3.6)		灰白色精緻	外面上灰釉。内面上胎土帶接合部を認む。	
710	石製品 銅石用	*	全長 令幅	(6.0)	(3.8)	全厚 1.6		重量(41.8)g



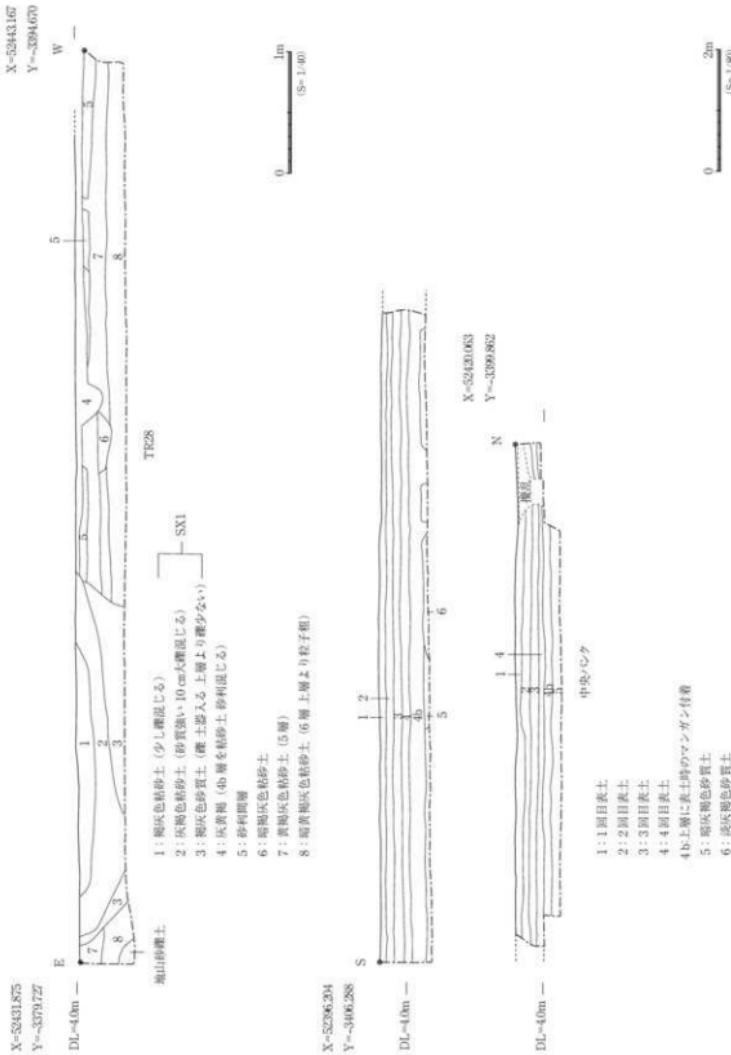
## 第Ⅲ章 3-2区の調査

### 1.3-2区の概要

3地点は城山東山麓に位置し各調査区の中で現況最も仁淀川に近接する調査地点で、3-2区は3地点を調査の便宜上3分割した中央に位置し、北側を3-1区、南側を3-3区と接している。調査前は宅地及び水田となっており、標高は約5.5mであった。基本層序は1~6層に大きく分けることができ4~6層が遺物包含層となっている。遺物包含層からは古代から近世までの遺物が出土し、13世紀から14世紀の遺物が大部分で瓦器が多く出土している。遺構は上面、中面、下面の三面で検出しており、中面は2回に分け検出作業を行った。土坑43基、ピット89個、溝跡15条、井戸跡1基、性格不明遺構などを検出することができた。遺構の多くは中面から検出しており、上面はピット4個、下面是土坑6基、ピット6個、溝6条を検出したのみである。



3-1図 調査区位置図



3-2図 TR28・中央バンクセクション図

## 2. 上面の遺構と遺物

ピット4個を検出したのみである。いずれも灰色シルトが埋土となっており、近世以降のものと考えられる。

## 3. 中面の遺構と遺物

中面は2回に分け遺構検出、掘削を行った。中の上面の検出標高は約4.1～3.9mで埋土は暗褐色粘質土が多く4層相当と考えられる。検出した遺構は土坑22基、ピット43個、溝跡4条、井戸跡1基、性格不明遺構1基である。中の下面の検出標高は3.9～3.8mで埋土は中の上面と同じく暗褐色粘質土がその中心である。検出した遺構は土坑16基、ピット50個、溝跡8条、性格不明遺構1基である。

以下は精査の結果欠番となった遺構である。

中の上面

土坑 SK3・SK4・SK6・SK7・SK8・SK16

ピット P12・P14・P15・P16・P17・P19・P21・P23・P25・P27・P31・P33・P38・P39・P40・P50・P51・P52・P58

溝跡 SD5

性格不明遺構 IKO3

中の下面

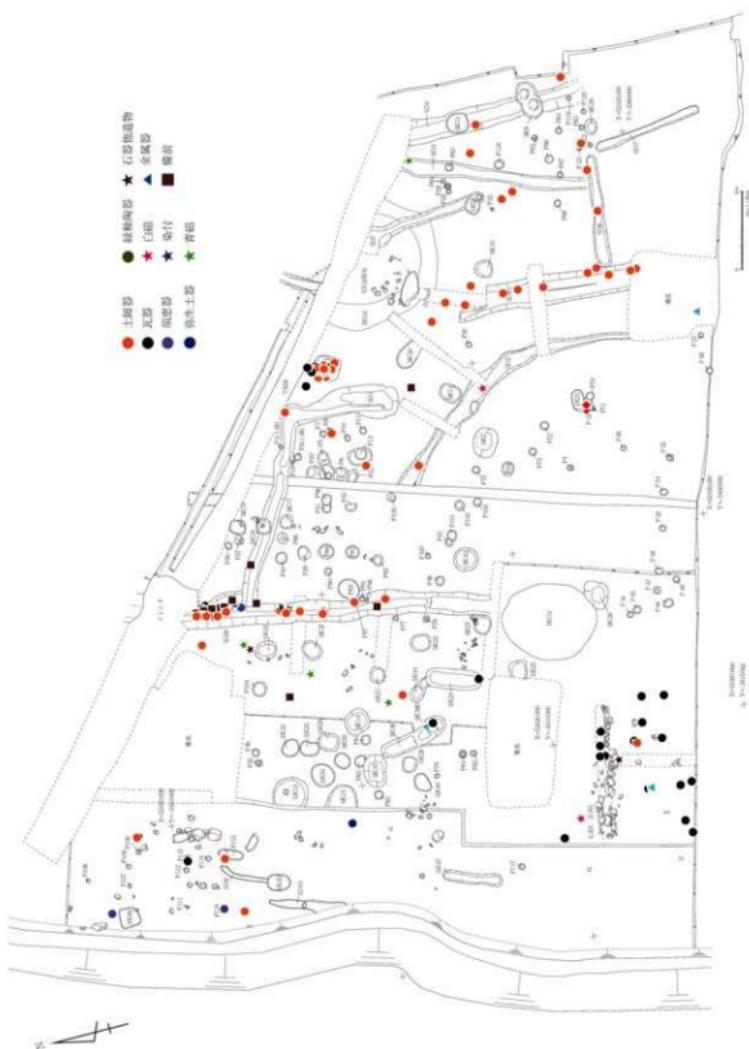
土坑 SK4・SK36・SK39・SK41

ピット P61・P69・P74・P76・P77・P80・P87・P88・P93・P94・P96・P98

溝跡 SD5



3-3図 中面造構全体図



3-4図 中面遺物分布図

### (1) 土坑 (SK)

土坑は47基検出しており、検出時遺構番号を付けたが精査の結果、掘削しなかったものが9基あり、いざれも遺構番号は欠番とした。中の上面で検出した土坑はSK1～28まで欠番を除くと22基である。中の下で検出した土坑はSK29～47で欠番を除くと16基である。埋土はSK5・9・10・12が灰色シルトで、その他は暗褐色～灰褐色系粘質土が埋土となっており4層相当と考えられる。遺構の時期は埋土が灰色シルトのものは近世以降と考えられ、それ以外は中世と考えられる。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	1.38 × 1.25 × 0.17	楕円形	瓶状	N - 32° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・土鏡	14～15世紀前	土器多く出土
SK2	1.48 × 1.26 × 0.19	楕円形	瓶状	N - 68° - W		土師質土器・瓦器		
SK3	欠番							
SK4	欠番							
SK5	0.8 × 0.77 × 0.10	楕円形	瓶状	N - 37° - E		土師質土器		織片のみ
SK6	欠番							
SK7	欠番							
SK8	欠番							
SK9	(1.00) × 1.10 × 0.13	—	—	N - 68° - E	ピット	土師質土器・近現代陶器等	SD4 を切る	
SK10	0.89 × 0.86 × 0.19	楕円形	瓶状	N - 14° - E		土師質土器		織片のみ
SK11	1.12 × 0.89 × 0.14	楕円形	瓶状	N - 40° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK12	1.10 × 1.03 × 0.20	楕円形	瓶状	N - 0° - E				炭
SK13	1.78 × (1.26) × 0.56	円形	椭形	N - 14° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・白磁	12～13世紀	土器織片多く出土
SK14	1.30 × 1.15 × 0.34	長方形	逆台形	N - 18° - W		土師質土器・瓦器・青磁		
SK15	(1.20) × 1.60 × 0.04	—	瓶状	N - 75° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK16	欠番							
SK17	0.70 × 0.66 × 0.20	楕円形	逆台形	N - 77° - W		土師質土器		
SK18	0.78 × 0.74 × 0.26	長方形	—	N - 63° - W		土師質土器	SD1 を切る	
SK19	0.65 × 0.72 × 0.21	楕円形	椭形	N - 21° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK20	1.05 × 0.96 × 0.17	楕円形	逆台形	N - 20° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・白磁		織片多く出土
SK21	0.82 × 0.81 × 0.16	長方形	瓶状	N - 20° - E		土師質土器		
SK22	0.98 × 0.90 × 0.25	長方形	椭形	N - 7° - E				
SK23	0.97 × 0.86 × 0.30	不規方形	椭形	N - 66° - W		土師質土器・瓦器・常滑窯		土器質土器織片多い
SK24	2.86 × 1.63 × 0.33	長方形	—	N - 18° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		土器質土器織片多い
SK25	(0.8) × 1.11 × 0.28	—	逆台形	N - 75° - W				
SK26	0.81 × 0.73 × 0.32	楕円形	椭形	N - 73° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器		
SK27	1.03 × 0.84 × 0.16	楕円形	逆台形	N - 55° - E		土師質土器・瓦質土器		
SK28	1.35 × 1.23 × 0.29	長方形	逆台形	N - 73° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK29	0.83 × 0.62 × 0.20	楕円形	瓶状	N - 71° - W		土師質土器・瓦器		
SK30	(1.20) × 0.83 × 0.08	長方形	瓶状	N - 41° - W		土師質土器・瓦器・鉄釘	13世紀半ば～	和室型瓦器等期～
SK31	1.12 × 0.67 × 0.18	楕円形	椭形	N - 85° - W		土師質土器・瓦器		
SK32	0.93 × 0.86 × 0.08	楕円形	瓶状	N - 76° - W				
SK33	1.02 × 0.72 × 0.05	楕円形	瓶状	N - 16° - E		瓦器		
SK34	1.36 × 1.28 × 0.14	長方形	瓶状	N - 28° - E		土師質土器・瓦器		
SK35	0.83 × 0.72 × 0.60	楕円形	瓶状	N - 30° - E		土師質土器		
SK36	欠番							
SK37	1.65 × 1.09 × 0.56	長方形	逆台形	N - 87° - W		瓦器・瓦質土器・須恵器・鉄滓		
SK38	3.65 × 0.98 × 0.62	楕円形	—	N - 20° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・東播系須恵器・青磁・鉄釘		土器多く出土
SK39	欠番							
SK40	1.00 × 0.70 × 0.65	楕円形	瓶状	N - 66° - E		土師質土器		
SK41	欠番							
SK42	1.22 × 1.17 × 0.20	楕円形	瓶状	N - 11° - E		土師質土器・瓦質土器		
SK43	1.12 × 0.93 × 0.26	楕円形	逆台形	N - 7° - W		土師質土器・瓦質土器		
SK44	1.47 × 0.71 × 0.34	楕円形	角瓶形	N - 40° - W		土師質土器・瓦器		
SK45	1.18 × 0.97 × 0.12	楕円形	瓶状	N - 0° - E	溝状部分	土師質土器・瓦器		
SK46	1.15 × 1.00 × 0.07	長方形	瓶状	N - 8° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK47	3.14 × 0.50 × 0.16	楕円形	角瓶形	N - 18° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		

表3-1 中面土坑一覧表

## SK1

SK1は調査区北端中央部で検出した。平面形は隅丸長方形で長軸1.38m、短軸1.25m、深さ約17cmを測る。断面形は長軸は皿状である。短軸は西側が浅くなっている舟形を呈する。埋土は褐灰色粘質土で炭化物が多く混じる。遺物は土師質土器杯、小皿を中心に多く出土しており一括性の高いものと考えられる。検出当初プランが確認できず遺物集中1として取り上げた遺物も同時に図示し、土師質土器、瓦器、瓦質土器、土鍤などが図示できた。瓦器碗は器高が低く高台が無くなつており14世紀以降と考えられる。瓦質羽釜は鍔がやや退化しており瓦器碗と同じく14世紀代以降と考えられる。

## SK13

SK13は調査区西側の山際に近い部分に位置し西側を調査区に切られる。平面形は円形に復元できる。残存長は1.78mで深さは56cmである。床面中央部から直径約30cm、深さ10cmのピットを検出した。土坑埋土は灰褐色粘質土で黄褐色小礫が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器の細片が多く出土するが図示できたのは4点のみである。48は土師器の鍋で口縁端部を摘み上げ拡張するもので紀伊型甕の可能性がある。その他、白磁IV類椀、古代末と考えられる羽釜50が出土するが遺構の時期は中世と考えられる。

## SK23

SK23はSD20の西で検出した不整形な方形の土坑で長軸0.97m、短軸0.86m、深さ約30cmを測る。断面形は箱形で埋土は褐灰色粘質土に黄褐色小礫が混じる。埋土中からは細片のみで土師質土器が大部分を占め、瓦器、常滑焼の細片がわずかに出土する。出土し図示できるものは無かった。

## SK24

SK24は調査区西側に位置する長方形の土坑である。SK44と切り合い、中の上面で検出したSK24が中の下面で検出したSK44を切っている。長軸2.86m、短軸1.03m、深さ33cmを測る。断面形は箱形で埋土は褐灰色粘質土に黄褐色小礫が混じり、炭化物を含んでいた。遺物は土師質土器、瓦器が大部分を占め、その他須恵器、青磁が出土する。細片が多く図示できたものは52の青磁底部のみである。厚手の底部で高台見込みまで施釉される。中世に属すると考えられる。

## SK30

SK30は中の下面で検出した遺構で調査区北側に位置する。SD2の確認用に設定したトレンチに東側を壊されるが、平面形は長方形に復元できる。長軸は残存長1.7m、短軸は0.83m、深さは8cmを測る。断面形は浅い皿状で埋土は灰褐色粘質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、鉄釘が出土している。図示できたものは土師質土器小皿、鉄釘である。瓦器は図示できなかつたが高台が退化し無くなつたものがみられSK30の時期を示すものと考えられる。

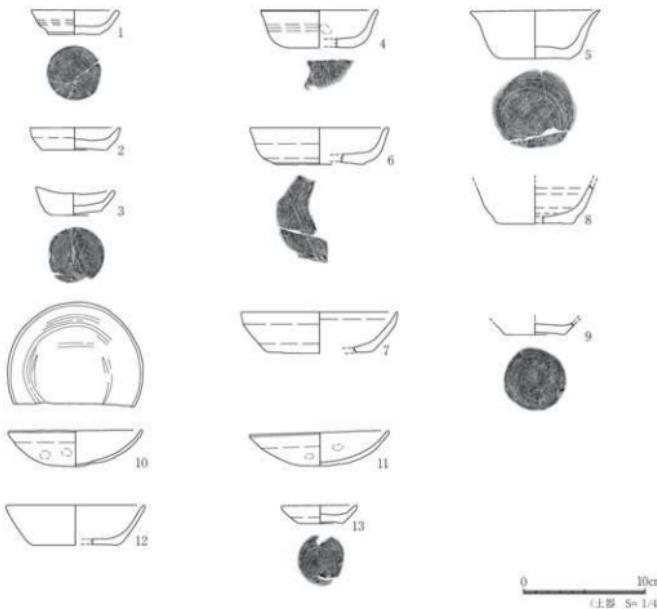
## SK38

SK38は調査区西側で検出した南北方向の溝状の土坑である。長軸方向は全長3.65mで北端部から約2mで緩やかに屈曲する。短軸は北側では0.85mで南側では約1.0mである。また床面も大きく2つの部分からなり北側は約20cm、南側は中央部のピット状になっている最も深い部分で62cmとなっている。便宜的に北側をSK38、南側をSK38Bとする。2基の土坑が切り合っている可能性を検討したが、埋土は褐灰色粘質土に黄褐色小礫の混じったものでSK38からSK38Bへの漸次変化は認められるが検出時、掘削時とも判然とせず、2基に分離することは困難であった。埋土中か

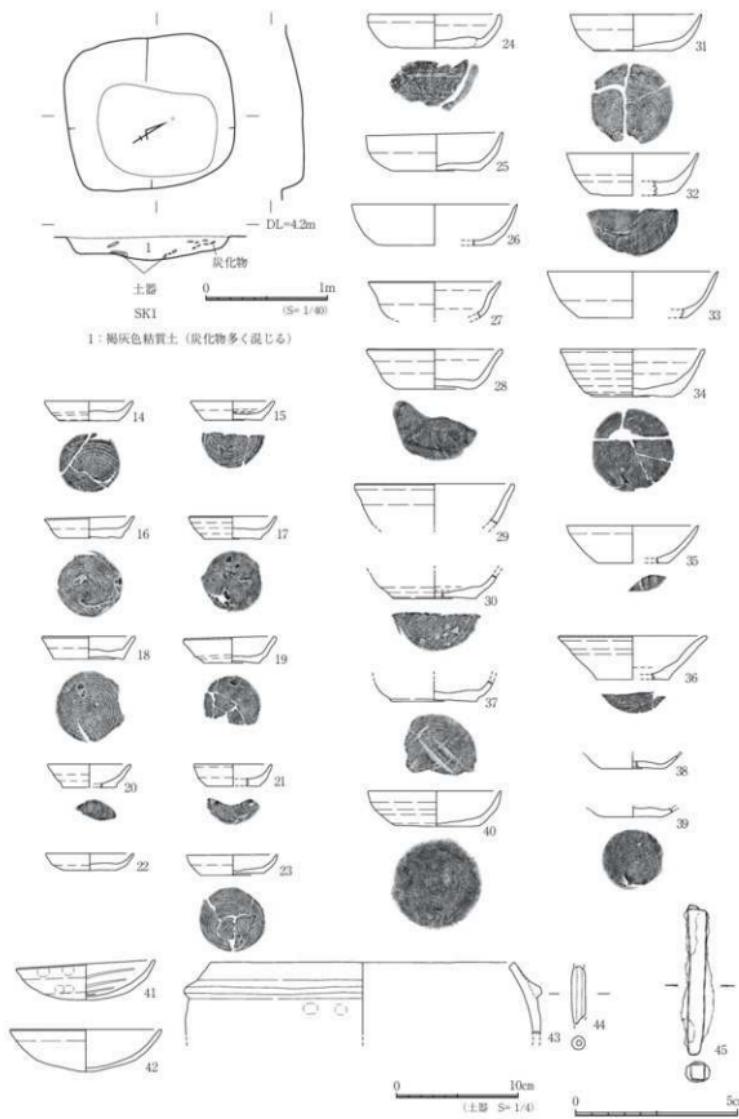
らは土師質土器、瓦器、瓦質土器、東播系須恵器、青磁、鉄釘が出土している。土師質土器、瓦器はいずれも細片であるが瓦器の方が比率が高くなっている。図示できたものでは 55 の瓦質鍋が注目される。掘削時、口縁を上にした状態で完形で残存していたが、取り上げて確認すると底部が抜けた状態であった。14 世紀半ば～15 世紀前半までの可能性が考えられる所謂「土佐型鍋」である。

SK44

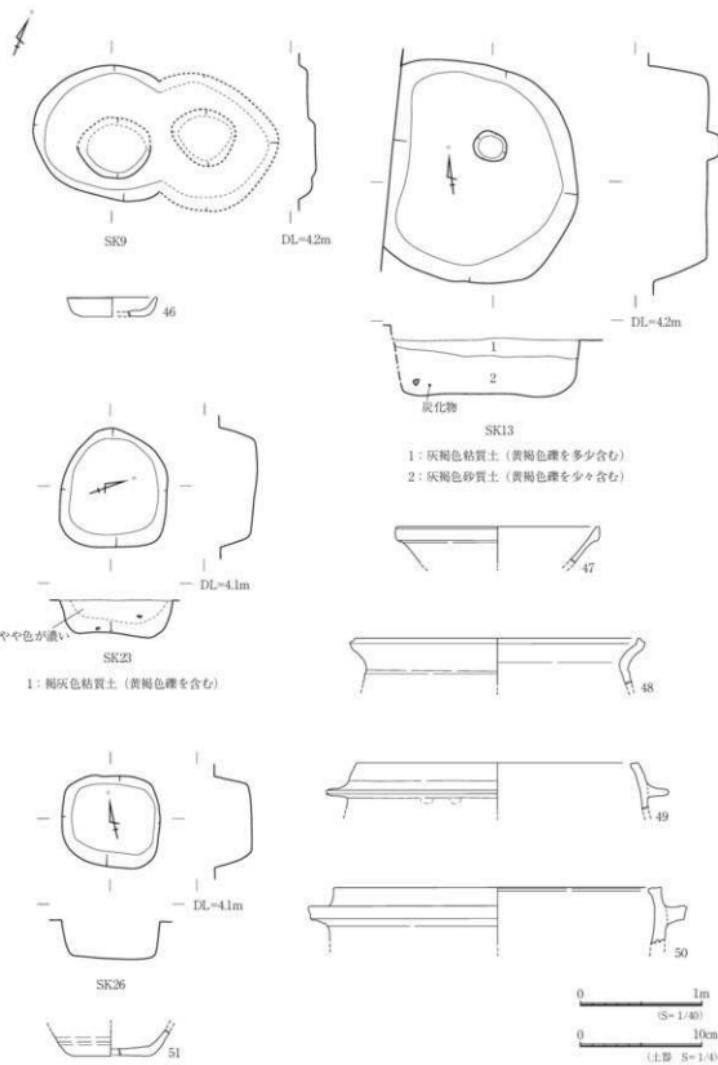
SK44 は中の下面で検出した遺構で SK24 に東側を切られる状態で検出した。平面形はやや歪みのある楕円形で長軸 1.47 m、短軸 0.71 m である。床面は長軸側に二段になっており西側が浅く約 25cm、SK24 に切られる東側がそれより約 10cm 深くなっている。断面形は外側に開く U 字状で、埋土は上層が暗褐色粘質土で下層はやや暗い灰褐色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器の細片が出土し、図示できたのは平坦な底部の瓦器皿のみである。2 基の土坑の可能性も考えられるが検出時や掘削時の埋土の状況から 2 基に分離することは困難であった。



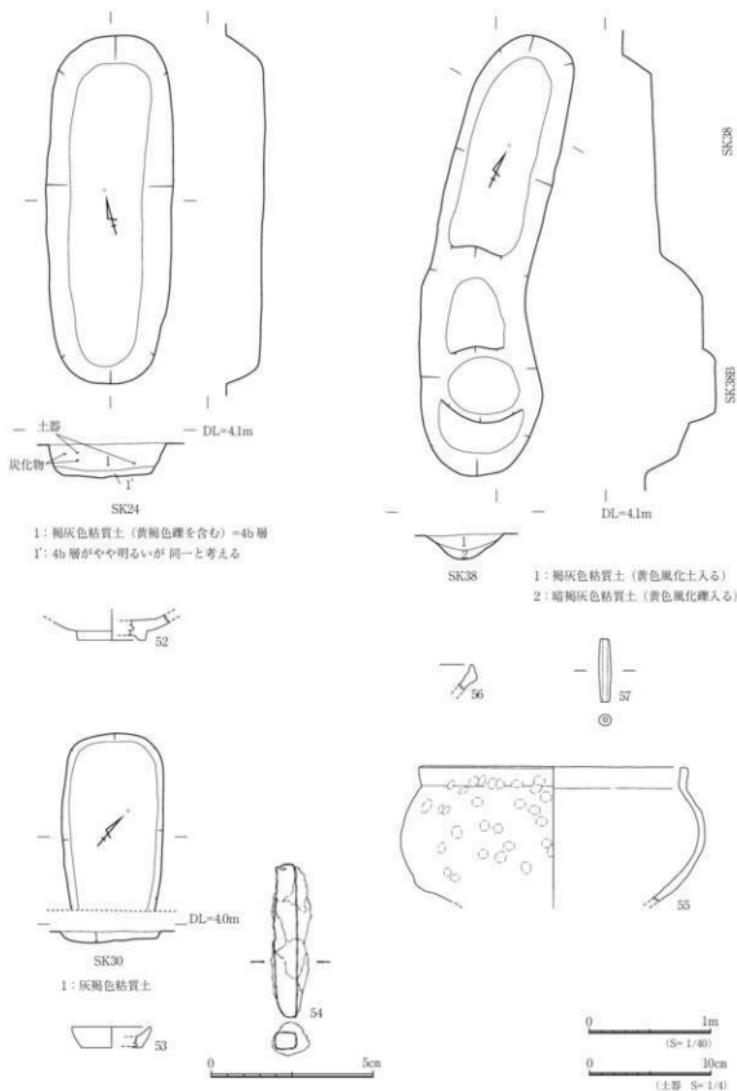
3-5 図 SK1 遺物集中出土遺物



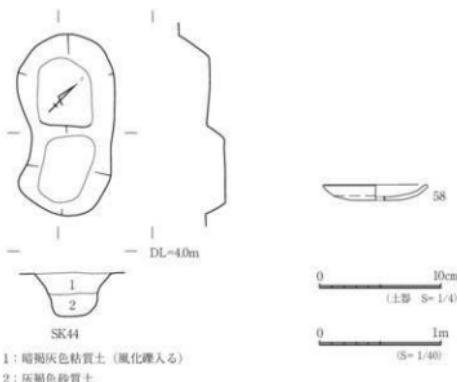
3-6図 SK1



3 - 7 図 SK9・13・23・26



3-8図 SK24・30・38



3-9図 SK44

## (2) 溝跡 (SD)

溝跡は SD1 ~ 10までと SD20の遺構番号を付け検出を行った。中の上面で検出した溝跡は SD1 ~ 5で SD5は欠番であるため 4条の溝跡を確認できた。中の下面では SD5 ~ 10まであり SD2と SD5が中の上面と重複している。SD20は北側調査区である3-1区から連続したものであるため同一名称とした。

### SD1

SD1は調査区北端部で中央バンクを貫通する状態で検出した。平面形態はL字状で東西方向の東端部に南に延びる部分が接続する。西端部はSD20が切る。検出規模は東西方向部分が延長約10.2m、上端幅0.8m、深さは約45cmを測り断面形は端部が開く逆台形である。埋土は褐色粘質土で黄褐色小礫を含む4b層相当と考えられ、床面直上には人頭大の黄褐色風化礫が多量に入る。南北方向は延長約6.0m、上端幅1.45mを測る。溝の断面形は逆カマボコ形で深さは約45cmを測る。埋土は灰褐色シルトであるが東西部分と大きな差違はなくやや暗く見える程度の違いである。上層に人頭大の黄褐色風化礫が多く入ることが東西部分と異なる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、東播系須恵器、常滑焼、備前焼、鉄釘など多く出土している。図示した68は口縁部を上下に拡張し大きく下垂する常滑焼甕口縁である。14~15世紀代の可能性が考えられる。

### SD2

SD2は調査区北側で検出した緩やかなL字状に延びる溝跡である。東西方向に直線的に延び調査区東側で緩やかに方向を南北に変える。南端部は擾乱坑によって切られている。下SD37と同一で合わせた検出規模は東西方向部分が延長約23.5m、上端幅0.6~0.9m、深さは約10~14cmを測り断面形は浅い皿状である。埋土は褐色粘砂土で4b層相当と考えられる。南北方向は緩やか

な弧状を描き延長約7.5m、上端幅1.1mで深さは約10cmを測る。溝の断面形は浅い皿状で埋土は褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、備前焼、白磁、青磁が出土している。

## SD3

SD3は中の上面の調査区東部で検出したSD7を切る溝跡である。直線的に北東方向に延びる。軸方向はN-21°-Eである。検出長は8.7m、上端幅0.7m、深さは約12cmを測る。断面形状は逆カマボコ形で埋土は黄褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁が出土するがいずれも細片で図示できた遺物は79の無文の青磁のみである。

## SD4

SD4は中の上面で検出した遺構で調査区東端に位置する。南北方向の溝跡で3-1区に延長する。検出長は全長が26.8mで3-2区部分は約13mである。上端幅は0.5~1.2mで深さは約40cmを測る。断面形は逆カマボコ形で埋土は黄灰色粘質土である。図示した80のような土師質土器も出土するが近世陶器が出土することやSK9・12など近世以降の土坑が埋土を切ることから近世の可能性が高いと考えられる。

## SD6

SD6は中の下面で検出した遺構で調査区東部に位置する。東西方向の溝跡でSD3・4に切られる。検出長は11.2m、上端幅0.75m、深さ18cmを測る。断面形は薄いレンズ状で埋土は灰褐色粘砂土で、土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁細片が出土している。図示できたものは土師質土器小皿81と土師質釜のみで82は15世紀代の可能性が考えられる。下面で検出した下SD1と同一遺構と考えられるため検出長については下SD1とした部分も含む。

## SD7

SD7は中の下面で検出した遺構で調査区東部に位置する。直線的にN-7°-Wに延び調査区を縦断し、3-3区に統いている。検出長は復元全長約45mで3-2区検出部分は18.6mで（間に約6mのみ検出部分含む）、上端幅は0.35mで、深さは約10cmを測る。断面形はレンズ状で浅い。埋土は灰褐色粘砂土で土師質土器、瓦器、白磁細片が出土している。図示できたものとして84の口禿げ口縁がある。

## SD8

SD8は中の下面で検出した遺構で調査区東部に位置する。南北方向の溝跡でSD2の南北方向部分と並行する。検出長は約9m、北端部はSX1確認トレンチに切られ、南端部は攪乱土坑に切られている。上端幅1.4m、深さ20cmを測る。埋土は灰褐色粘質土で、埋土中には土器を多く含みそのほとんどが土師質土器である。そのほか瓦器、東播系須恵器、常滑焼などが出土している。図示できたのはいずれも土師質土器で杯、小皿である。99は叩石で混入と考えられる。SD8は南端部を攪乱土坑によって切られるが3-3区で下面で検出した下IKO1に接続している可能性が高いと考えられる。また北端部もSD37（下面）に接続し方向を東西に変える可能性が高いと考えられ、L字状になる区画溝と考えられる。3-3区下IKO1は区画溝端部の水溜状遺構の可能性が考えられる。

## SD9

SD9は中の下面で検出した遺構で調査区西側に位置する。南北方向の溝跡で南端部はSK45に切られ、北側でわずかに曲がる。検出長は約2.6m、上端幅0.25m、深さ約10cmを測る。埋土中からは土師質土器細片がわずかに出土している。

## SD10

SD10は中の下面で検出した遺構で調査区西側に位置する。南北方向の溝跡で南端部は浅くなり消滅する。検出長は約3.0m、上端幅約0.25～0.7m、深さ約15cmを測る。断面形は逆台形状で埋土は灰褐色粘砂土である。埋土中からは主に土師質土器細片が出土し、瓦器細片もわずかに混じる。SD20

SD20は中の下面で検出した遺構で調査区西側に位置する。直線的にはほぼ南北方向であるN-Eに延び3-1区に延長する。下面で検出したSD35とはほぼ並行している。検出全長は約32mで3-2区では約15.5mを検出している。上端幅は約1.1mで深さは45cmを測る。断面形は凸凹形で中央部が深くなっている。埋土は褐灰色粘質土、褐灰色粘性シルト、黄灰色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁、白磁、常滑焼などが出土しており、遺構からの出土量としては3-2区では最も多いものとなっている。図示できた遺物は土師質土器17点、瓦器4点、青磁、土錘である。119は瓦器碗で口縁部が二段ナデによって長くなっている。紀伊産の可能性も考えられる。しっかりした溝跡であるが南端部で検出プランが弱くなり、近現代井戸跡IKO2が延長上にあるため確認できないが、南側には続かないものと考えられる。

X=52437.038

Y=-3389.927

DL=4.3m

E



SD1 北壁

- 1: 灰褐色シルト（黄色風化層入る）  
2: 灰色粘砂土（褐色土混ざる）  
3: 灰色粘砂土（褐色土少ない）

X=52437.279

Y=-3391.568

W

X=52442.167

Y=-3397.713

S

DL=4.1m

X=52443.024

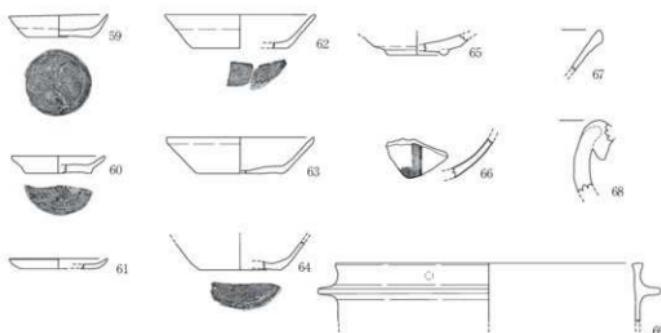
Y=-3397.325

N



SD1W 西壁

- 1: 暗褐色粘質土（黄褐色を含む）=4b 層  
2: 灰黄色粘砂土（1cm前後の塊が多少）



X=52431.579

Y=-3393.642

S

DL=4.1m

X=52434.142

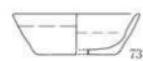
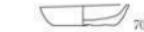
Y=-3391.279

N

SD2

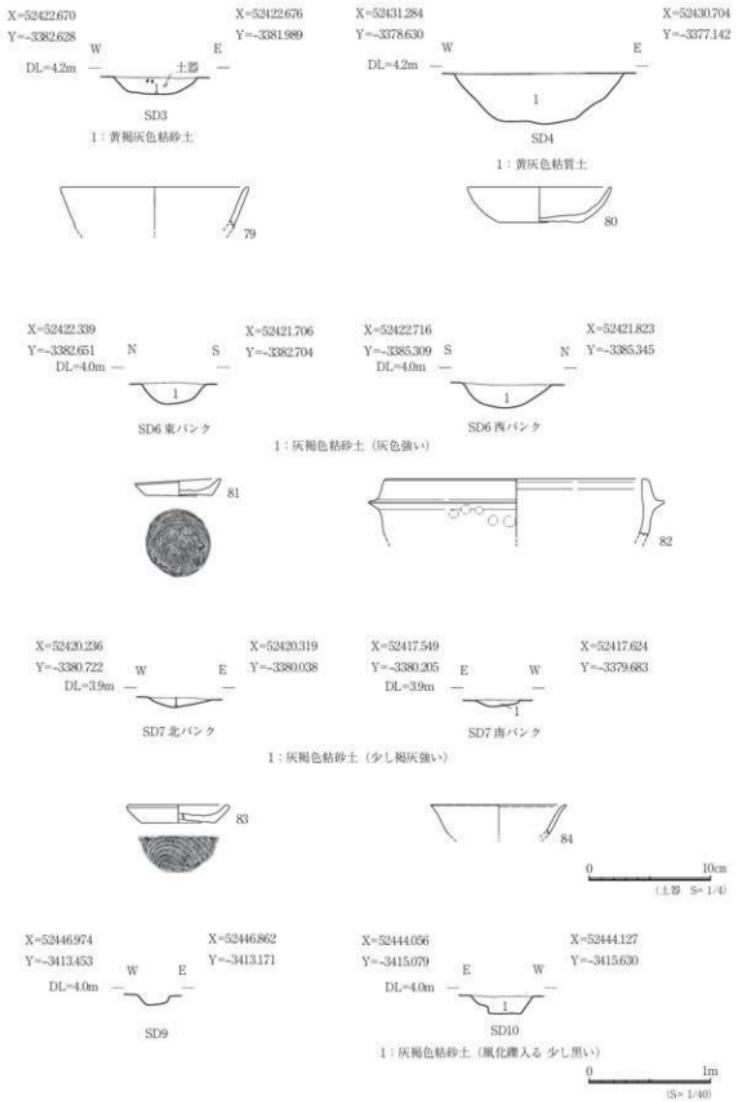
- 1: 暗褐色粘砂土  
2: 黄褐色粘砂土  
3: 黄灰褐色砂質土（5層）

0 1m  
(S=1/40)

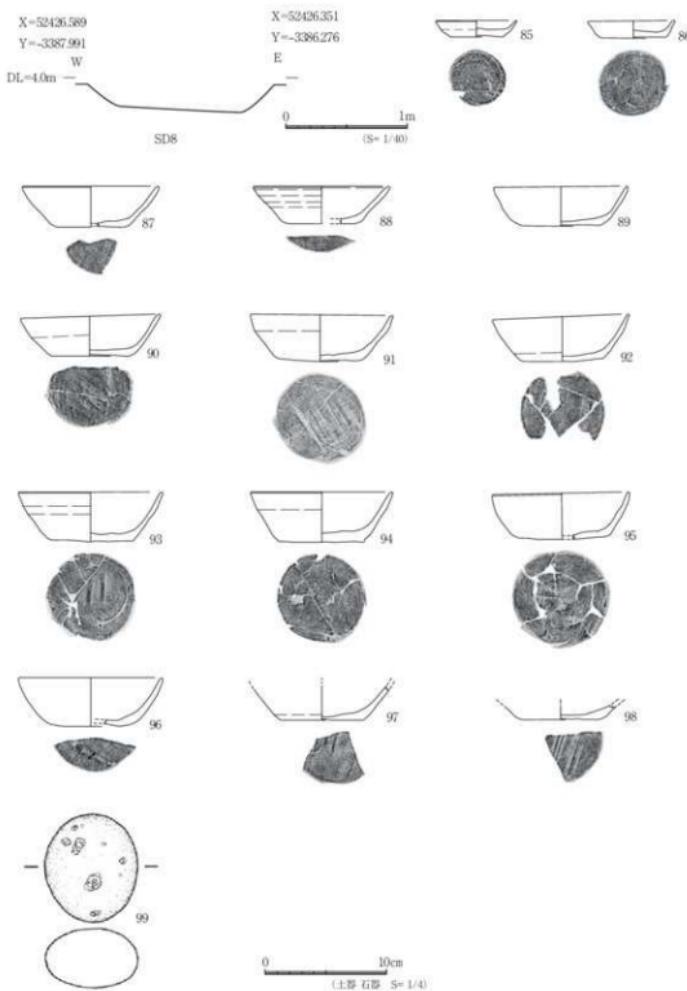


3-10 図 SD1・2

0 10cm  
(土器 S=1/4)



3 - 11 図 SD3・4・6・7・9・10

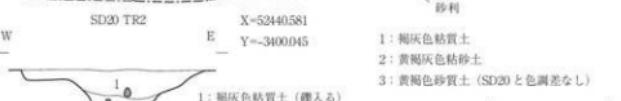


3-12図 SD8

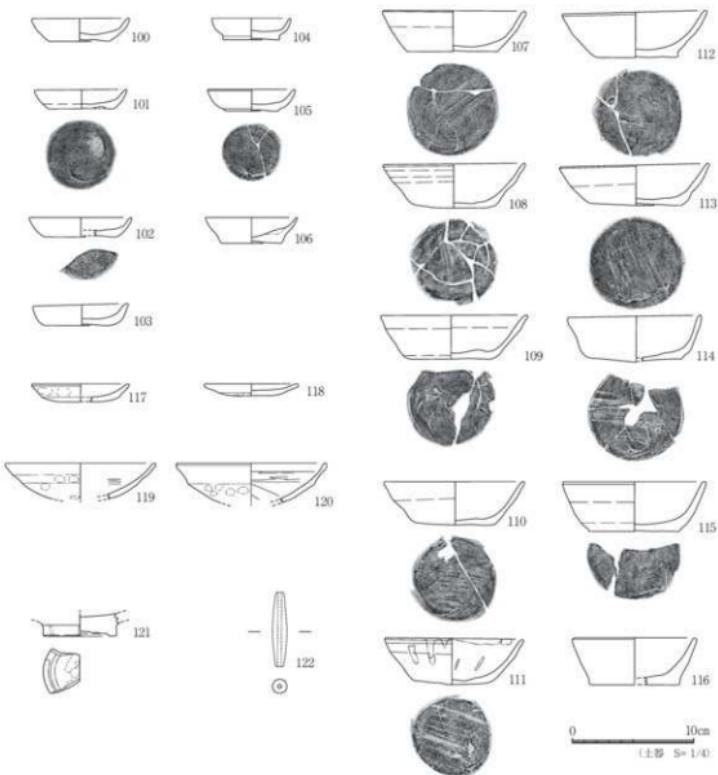
X=52438.258  
Y=-3404821 W  
DL=4.0m



X=52441.008  
Y=-3401652 W  
DL=4.0m



SD20 TR1



3 - 13 図 SD20

## (3) ピット (P)

中面で検出したピットはP5～122までの遺構番号を付けたが精査の結果欠番となったものが中の上面19個、中の下面で6個あったため、中の上面で43個、中の下面50個の計93個を検出しており図示できる遺物が出土したピットは9個である。

遺構名	平面形	長径×短径 (直径) cm	深さ cm	埋土	TR区No	出土遺物	備考
P1	円形	20	25	灰褐色シルト	123・124	廻戸小器、外面底部付近まで灰褐色 古廻戸皿 周かく 茶封	上面で検出
P6	(椭円形)	74 × (68)	23	暗褐色粘質土	125	瓦膠塊 口縁外反削り	中の上部で検出 P5・22を切る TRに埋られる
P8	円形	30	30	暗褐色粘質土	126	上師質上型杯、底部削転系切り	柱壇上部分直徑30cm、深5.9cm
P18	円形	67	27	暗褐色粘質土	127・128	127佛頭鉢 128上縁 重さ40g	
P66	円形	38	23	暗褐色粘質土	129	上師質碗 先みを垂びた各部口縁部は緩やか に外傾	中の下部で検出
P93	円形			暗褐色粘質土	130	上師質上型杯 底部削転系切り	SD20を切る
P113	椭円形	52 × 38	10	暗褐色粘質土	131	瓦膠塊 深い体部、内面ぼけ比較的緻密	中の下部で検出
P116	円形	36 × 30	34	暗褐色粘質土	132	須彌壇底盤、高台有り	中の下部で検出
P122	椭円形	25	18	暗褐色粘質土	133	瓦膠塊 高台削減、和泉型瓦器群 - 3~4期	中の下部で検出

表3-2 中面ピット計測表

## (4) 性格不明遺構 (IKO)

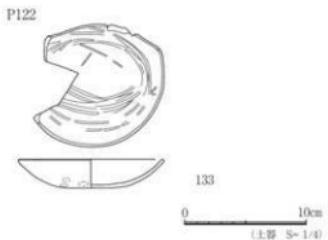
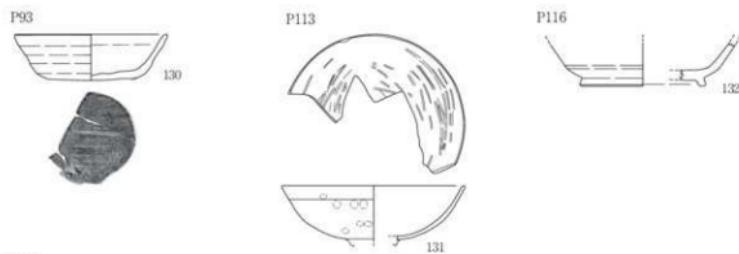
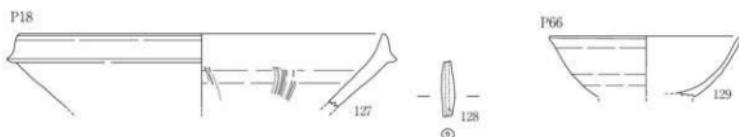
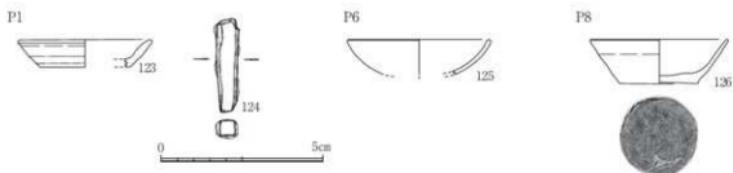
遺構検出当初規模性格不明であった遺構についてIKO1～4と名称を付け調査を行った。IKO3は検出のみで掘削を行わず欠番とした。IKO1は石列状遺構であったため石列1としIKO2は近現代井戸跡と判明したため掘削を行わなかった。IKO4はSX1と同一の遺構であることが判明した。SX1

SX1は中の上面の調査区東北部で検出した遺構で北側を近現代溝跡 (TR28) が東西に貫き北半分が壊されている。検出規模は7.0m × 6.2m、深さ約80cmの不整形な円形の遺構である。検出時には埋土が同心円状に二重に確認でき内側をSK4、外側をIKO4としたが同一の遺構であることが判明したためSX1とした。

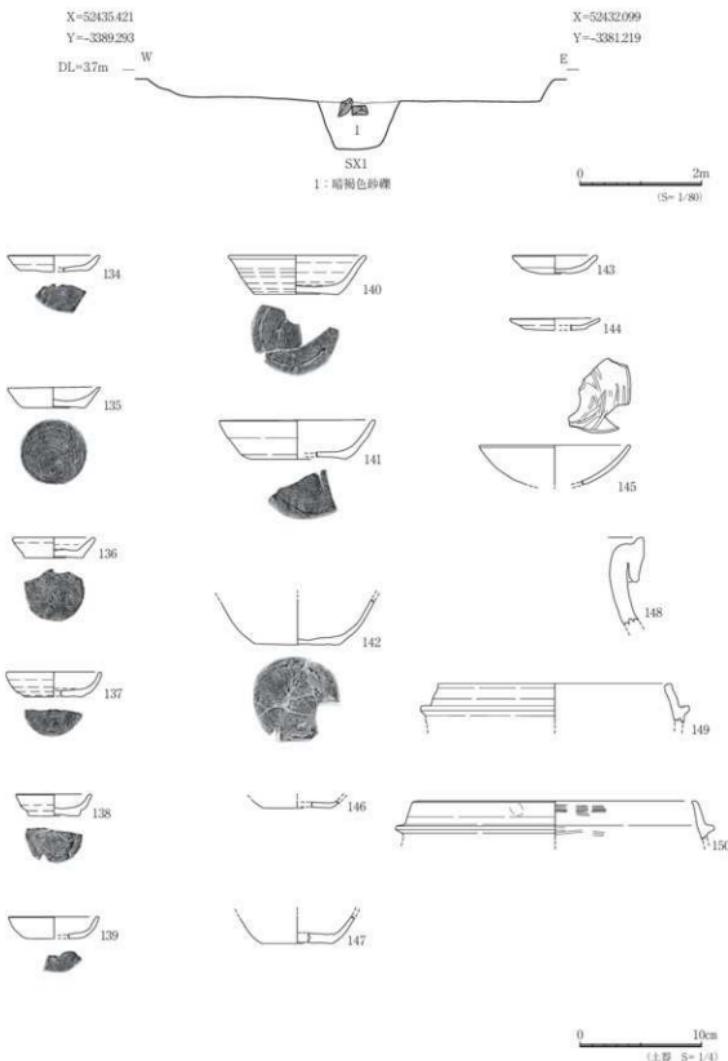
SX1の南側の中心より外れた部分に全長約1.8m、全幅約0.9mの平坦な石が据えられた状態で検出したため、井戸跡の可能性が考えられたが直下では石組み等は検出できなかつた。しかし、遺構中央部の検出面から約20cm下で1.3m × 0.9mの範囲で集石状に石が検出できた。石材は砂岩の割石で最も大きなもので30cm × 45cm程度であった。積み石状にはならず床面から浮いた状態であつた。

集石を除去すると三角形に近い不整形な土坑プランが確認でき、検出した土坑は全長1.7m、全幅1.7m、深さ76cmを測る。床面標高は約2.6mである。埋土は暗褐色砂礫土で埋土中から遺物は確認できなかつた。

SX1の埋土は灰褐色粘砂土を中心としたもので埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、東播系須恵器、白磁、青磁、常滑焼などが出土している。南側で検出した平坦な石の周辺で比較的まとまった状態で遺物が出土し土師質土器小皿6点、杯3点を図示した。その他では口縁部に付く程大きく拡張した148の常滑焼甕や150の土師質羽釜などを図示した。これらは14世紀末までの可能性が高いと考えられる。SX1は井戸の可能性が考えられるが床面中央の土坑からは湧水もなく井筒も確認できなかつたため特定できない。



3 - 14 図 中面ピット出土遺物



3-15図 SX1

#### 4. 下面の遺構と遺物

遺構検出標高は約 3.8 ~ 3.6 m である。土坑は 6 基を検出し下 SK1 ~ 6 までの遺構番号を付けた。ピットは 9 個検出でき下 P1 ~ 6 までの遺構番号を付けた。溝跡は 4 条を検出し SD35・36・37、下 SD1 とした。

##### (1) 土坑 (SK)

6 基検出し、いずれも調査区西側からの検出である。下 SK4 ~ 6 は直線上にはば 2m の等間隔で並んでおり掘立柱建物跡の可能性が考えられたが他の柱穴が検出できなかつたため土坑の中で報告する。

遺構名	長径 × 短径 × 深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
F SK1	1.24 × 1.19 × 0.26	円形	皿状	N - 0° ~ E		土師質土器・瓦器・青磁		和風型瓦器初期～
F SK2	0.65 × 0.6 × 0.10	円形	逆台形	N - 10° ~ E				
F SK3	0.91 × 0.74 × 0.08	楕円形	皿状	N - 82° ~ W				
F SK4	1.01 × 0.73 × 0.18	楕円形	皿状	N - 50° ~ W	P5	土師質土器・瓦質土器		
F SK5	0.93 × 0.85 × 0.06	楕円形	皿状	N - 32° ~ E		土師質土器		
F SK6	0.26 × 0.65 × 0.14	円形	逆台形	N - 15° ~ E		土師質土器		

表 3-3 下面土坑一覧表

##### 下 SK4

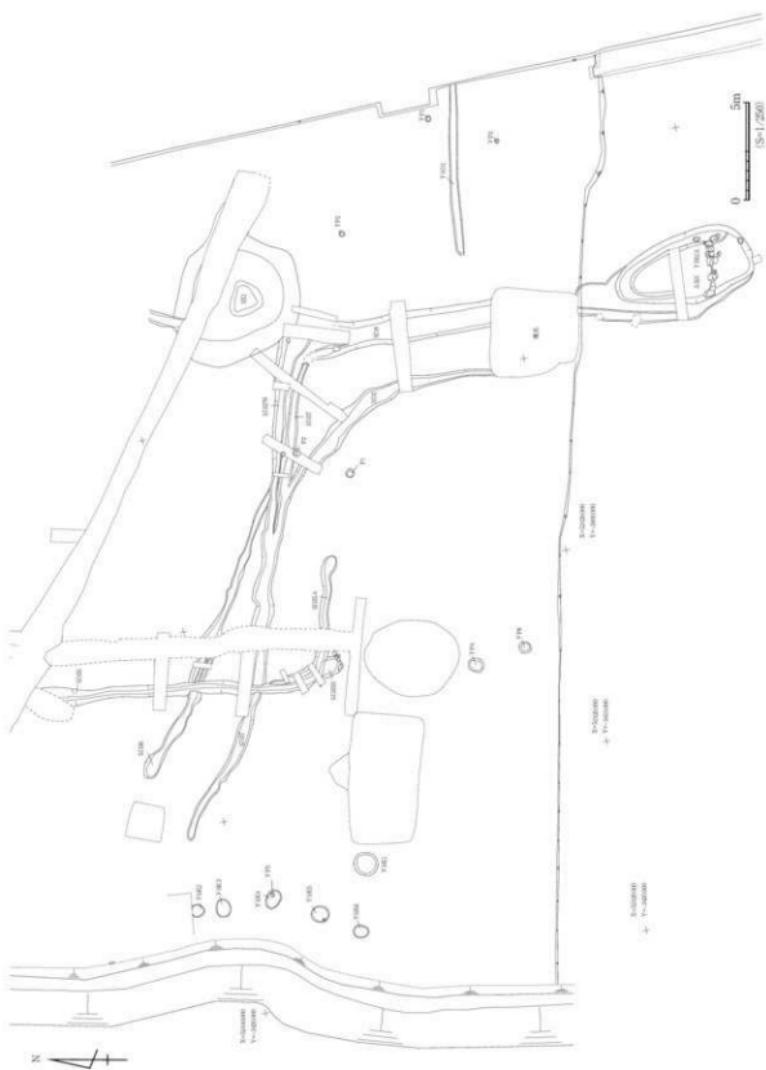
下 SK4 は下 SK4 ~ 6 の北端の土坑で平面形は楕円形で長軸約 1.0 m、短軸 0.73 m、深さ約 18cm を測る。断面形は箱形で埋土は淡灰褐色粘質土に黄色小礫が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦質土器の細片が少量出土している。西側床面から下 P5 を検出したが、埋土も同一で下 SK4 の一部と考えられる。下 P5 は直径約 18cm、深さ約 7cm を測り遺物は出土しない。

##### 下 SK5

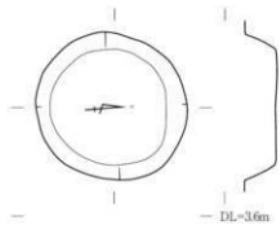
北側の下 SK4 と中心間で 2.2 m、南側の下 SK6 とは中心間で約 2.1 m 離れた土坑列の中央に位置する土坑である。平面形は円形で長軸 0.93 m、短軸 0.85 m、深さ約 6cm を測る。断面形は皿状で埋土は淡灰褐色粘質土に黄色小礫が混じる。埋土中からは土師質土器の細片が少量出土している。中の上面で検出した SK47 が上層に存在する。

##### 下 SK6

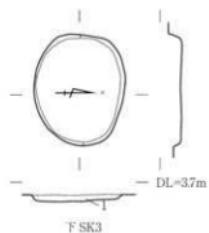
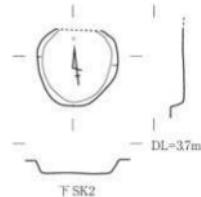
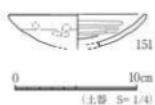
土坑列の南端に位置する。平面形は楕円形で長軸 0.76 m、短軸 0.65 m、深さ約 14cm を測る。断面形は浅い逆台形で埋土は淡灰褐色粘質土に黄色小礫が混じる。埋土中からは土師質土器の細片が少量出土している。



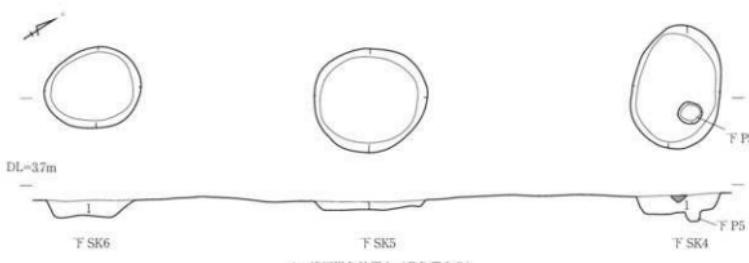
3-16图 下面遗構全体図



1: 暗灰色粘質土  
2: 黄褐色粘砂土（地山より少し色濃い）



1: 淡灰褐色粘質土（黄色砂質雜入る）



3 - 17 図 下 SK1 ~ 6

## (2) 溝跡 (SD)

溝跡は4条を検出し遺構番号をSD35～37、下SD1とした。SD35～37は3-1区を担当した調査班が調査を行ったため3-1区からの連番となっており、3-2区ではSD21～34は存在しない。下SD1は中の下面で検出したSD6と同一遺構の可能性が高く、SD6で報告した。

## SD35

SD35は南北方向部分から南端部で90°屈曲し東に延びるL字状の溝跡（A部分）と北端部から約9.7m南で重なるように分かれ短く方向を東に変え終結する部分（B部分）が存在する。南北部分は検出長約12.5m、上端幅約0.6m、深さ約28cmを測る。東西部分は検出長約6.0m、上端幅約0.5m、深さ25cmを測る。断面形はいずれも舟底形であり埋土はにぶい黄褐色粘性土で黄褐色風化小礫を含む。埋土中からは土師質土器、瓦器、白磁、土錘などの細片が多く出土している。出土遺物では小皿が多く貯蔵具は出土しない。煮炊具は瓦質土器の胴部の細片のみが出土している。A部分とB部分については埋土に大きな違いが見られず検出も同一の溝跡として行っており、時間差のない掘り直しの可能性が考えられる。いずれも端部がやや丸みを帯び大きく水溜状になることなどから区画溝の可能性が高いと考えられる。

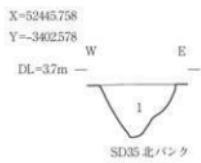
## SD36

SD36は調査区北側で検出したN-54°-W方向に延びる溝跡でSD35とSD37に切られている。検出長は約15.8m、上端幅約0.85m、深さ8cmを測る。埋土は暗灰色シルトで埋土中からは土師質土器、瓦器、常滑焼などの細片が少量出土する。図示できた遺物は柱状高台の小皿と158の完形の瓦器椀のみである。158は口径約12cm、器高3.0cmと口径比して器高が低くなり高台も退化しづかに残るのみで和泉型瓦器椀IV-2期～IV-3期で14世紀代と考えられる。

## SD37

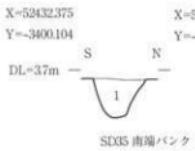
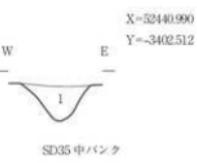
SD37は下面で検出したN-72°-W東西方向の溝跡で西端部から約16mの地点で2条の溝に分かれ並行して東進する。南側のSD37と北側のSD37NとともにSX1より東側では検出できなかった。SD37の検出長は25.1m、上端幅約0.5m、深さ約19cmを測る。SD37Nは検出長約26.2m、上端幅約0.6m、深さ約35cmを測る。断面形はSD37が逆カマボコ形、SD37N部分が箱形で深くなっている。埋土は同一で灰褐色シルトに1～2cm大の礫を含むものである。また一部下層で洪水堆積によると考えられる灰黄色シルトが堆積している。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、青磁、鉄滓が出土している。図示できたものでは159・162・165～167・171・173～175・178・179がSD37部分出土、160・161・163・164・168～170・172・176・177がSD37N部分出土の遺物である。土器様相に差異は認められず同時期と考えられる。177は、和泉型瓦器のIV-2期～IV-3期と考えられる。

SD37と他の溝跡との関係では中面で検出したSD2と南北の直線部分が重なることから同一の溝跡と考えられる。またSD2と並行するSD8とも下層で検出した東端部で接続している可能性が考えられる。いずれもL字状の平面形で区画溝の可能性が高く、同時併存もしくはあまり時期差のない掘り直しの可能性が考えられる。



X=52445.609  
Y=-3401859

X=52441.117  
Y=-3403.239  
DL=3.7m



X=52432.884  
Y=-3399.949

X=52434.720  
Y=-3404.515  
DL=3.7m



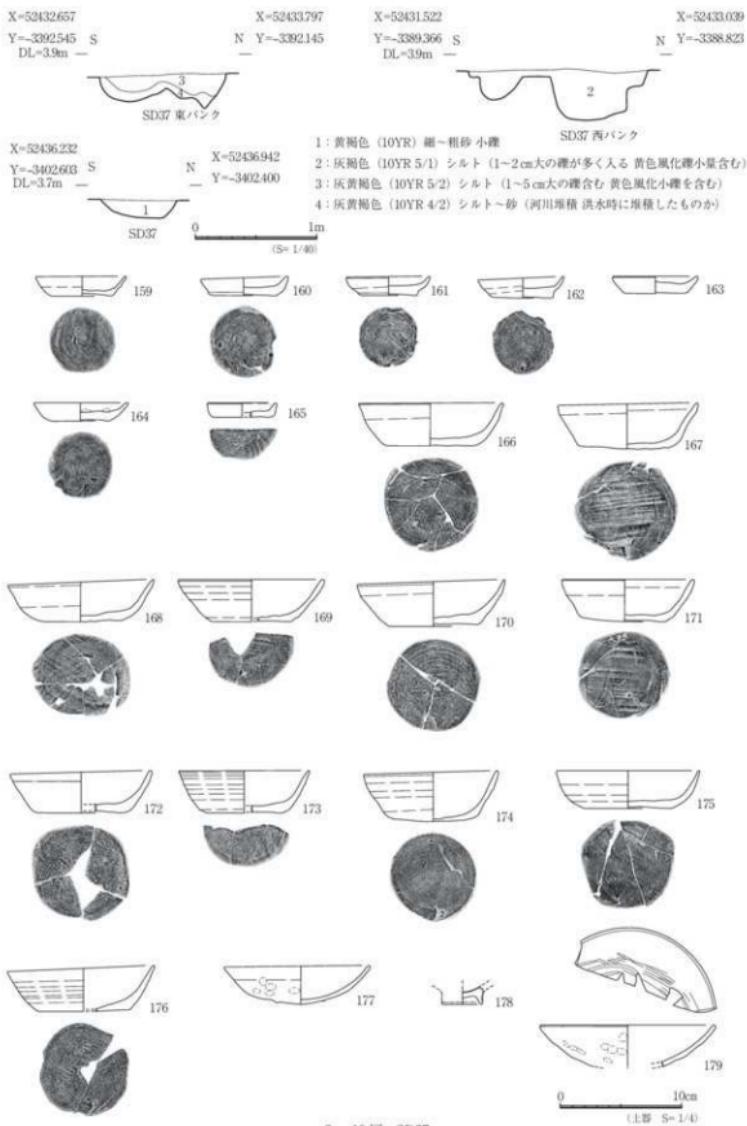
1: にぶい黄褐色 (10YR) 粘性土



X=52439.526  
Y=-3402.933



0 1m  
(S= 1/40)  
0 10cm  
(S= 1/4)



3-19図 SD37



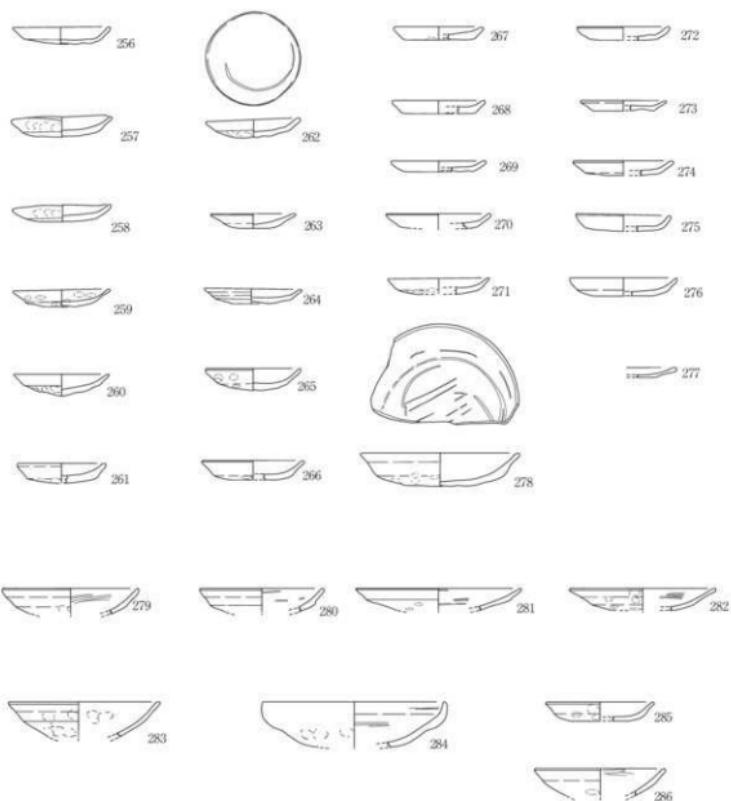
3 - 20 図 4層出土遺物 1



3-21図 4層出土遺物2

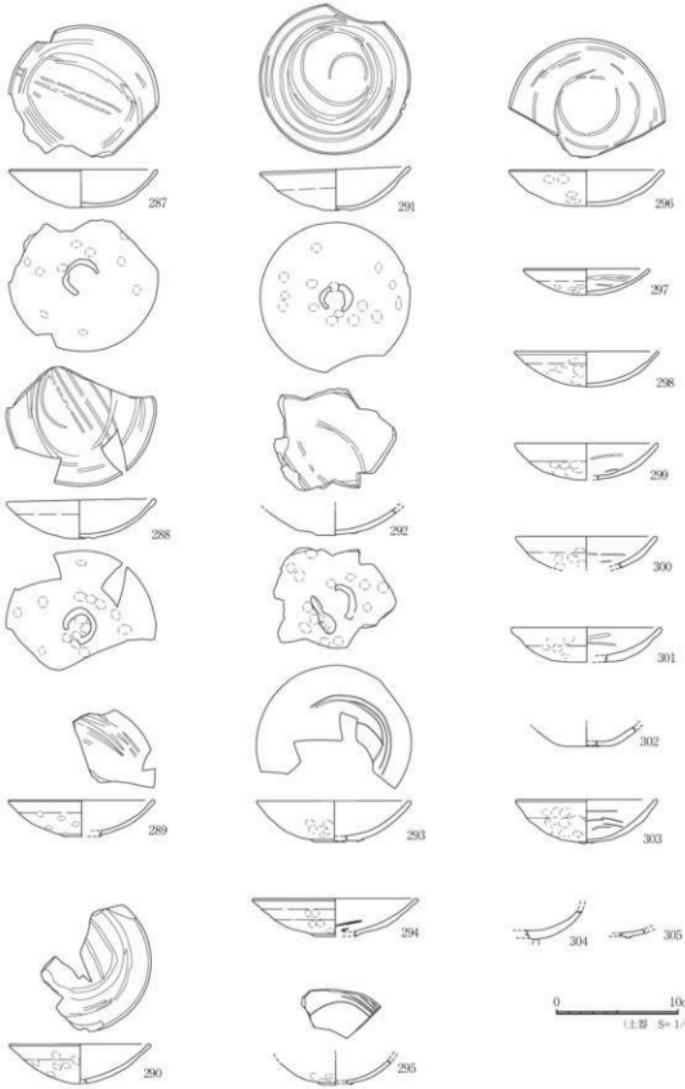


3 - 22 図 4層出土遺物 3

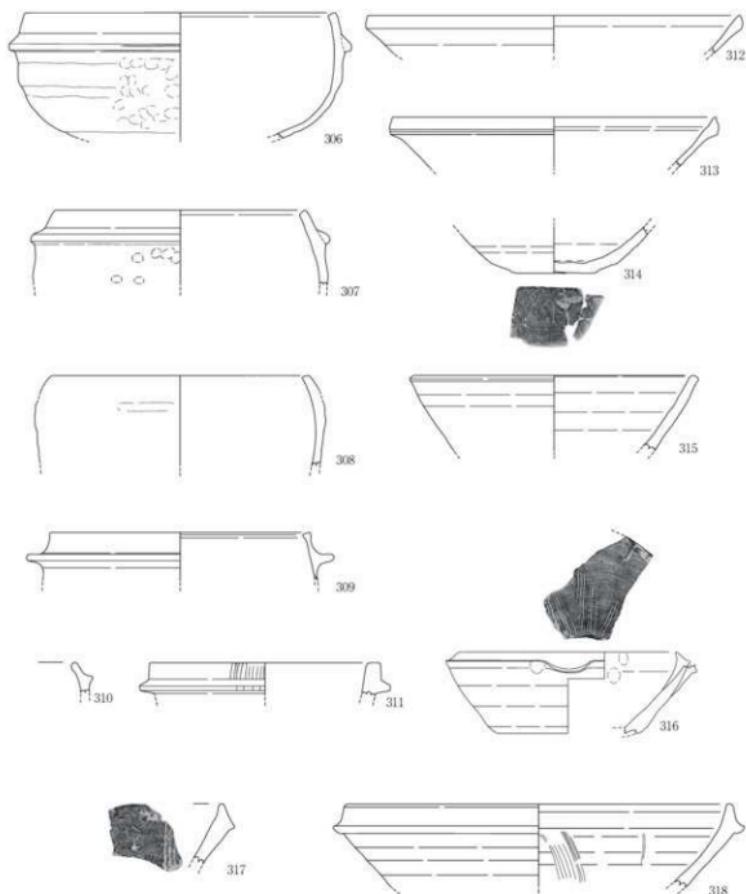


0 10cm  
(上図 S=1/4)

3-23図 4層出土遺物 4

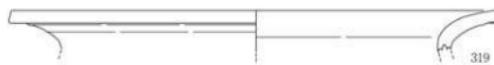


3 - 24 図 4層出土遺物 5



0 10cm  
(3.37 S=1/4)

3-25図 4層出土遺物 6



319



320



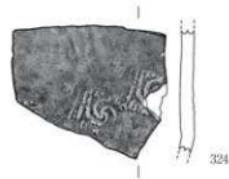
321



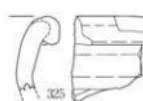
322



323



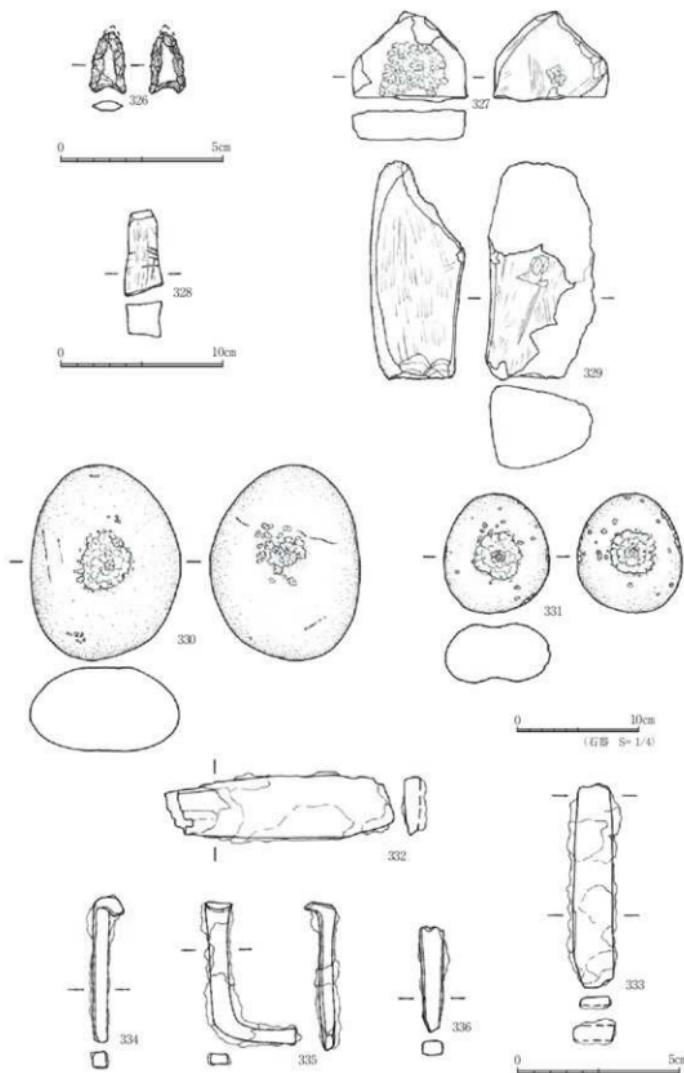
324



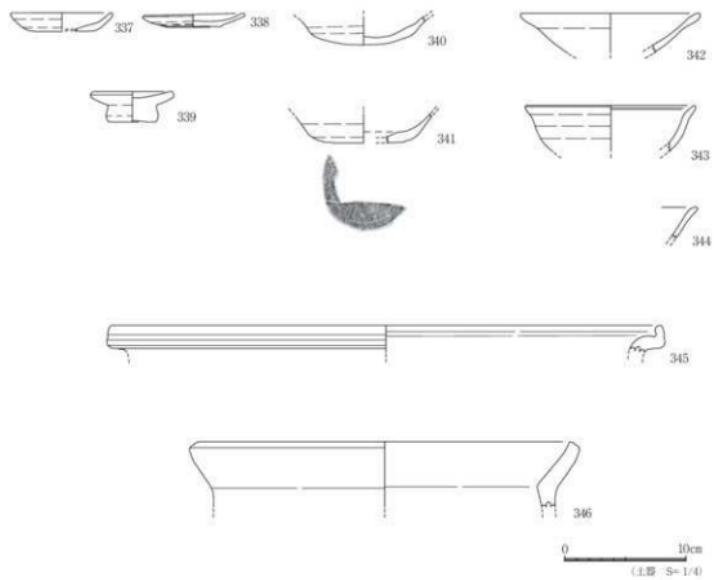
325

0 10cm  
(土器 S=1/4)

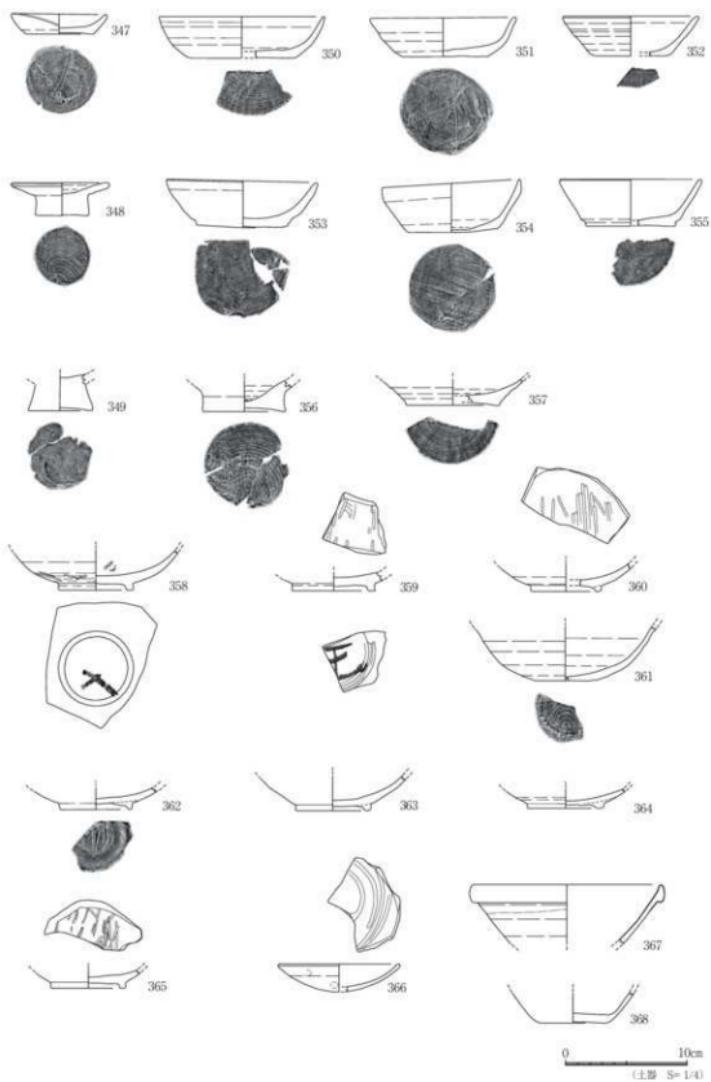
3-26図 4層出土遺物7



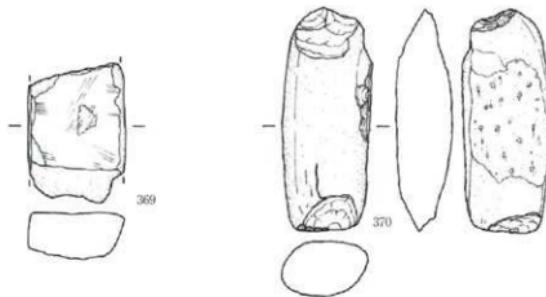
3-27図 4層出土遺物（石器、鉄器）



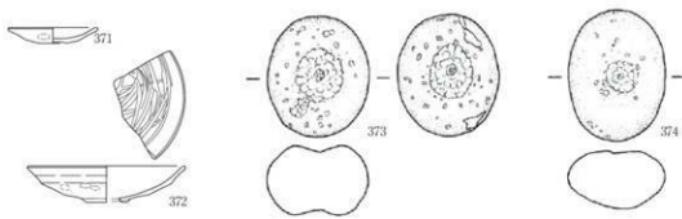
3-28 図 4・5層出土遺物



3-29図 5層出土遺物



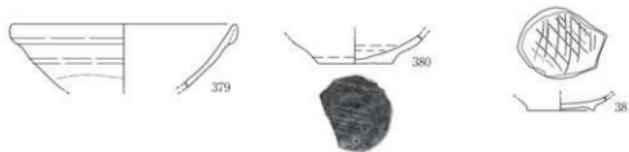
5層出土遺物石器



5-2層出土遺物



6層出土遺物



表採および擾乱出土遺物

0 10cm  
(土器 石器 S=1/4)

3-30図 5・5-2・6層、表採及び擾乱出土遺物

3-2区遺物觀察表1

3-2区遺物観察表2

測定 式 法 等 級 番 号	種別	部類	出土遺構	層位	口径 cm	高さ cm	幅員 cm	内面色	外側色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2 28 土師質 土器	杯	SK1	マ	11.0	3.3	6.6	浅黄褐	浅黄褐	良	底面周1.7cm、口 縁一部残。胎土あ り	やや薄いのある少し上がり口縁部分 で少し凹む。内面胎土少く回転 子で残る。内輪赤切り		
3-2 29 土師質 土器	杯	SK1	マ	12.8	(3.1)	浅黄褐	浅黄褐	普通	口縁一部残	斜め上方に立ち上がる体部。外側 回転ナラ型			
3-2 30 土師質 土器	杯	SK1	マ	(20)	6.8	浅黄褐	浅黄褐	普通	底面周1.2cm	内輪高台の下地内成中央窓。 内輪赤切り			
3-2 31 土師質 土器	杯	SK1	マ	10.6	2.0	6.6	浅黄褐	浅黄褐	良	底面周一部残。口 縁一部残。胎土あ り	やや丸み帯びた内輪高台の平 底。内面胎土少く残る。 内輪ナラ型		
3-2 32 土師質 土器	杯	SK1	マ	10.8	3.5	7.0	浅黄褐	浅黄褐	良	底面周1.4cm 一部残	やや不整な底盤や丸みを帯び る。内輪赤切り。内切り	不整形に厚い底盤	
3-2 33 土師質 土器	杯	SK1	マ	11.0	(3.9)	7.0	浅黄褐	浅黄褐	良	底面周1.4cm 一部残	丸みを帯びながら直立さみ。不明		
3-2 34 土師質 土器	杯	SK1	マ	11.8	3.9	6.8	にせい 黄褐	にせい 黄褐	良	底面周一部残	立ち上がりは腰膨があるやや斜度さ みの口縁。底盤はやや内輪化にな る平底。内面胎土少く斜度重 視。内輪赤切り		
3-2 35 土師質 土器	杯	SK1	マ	10.8	3.1	5.8	浅黄褐	浅黄褐	普通	底面周1.4cm 一部残	やや圓筒形の底盤。外輪口縁部 回転ナラ型。平底		
3-2 36 土師質 土器	杯	SK1	マ	12.0	3.1	6.0	にせい 黄褐	にせい 黄褐	精良	底面周1.2cm 一部残	立ち上がり外輪。外輪。回転ナラ型。 内輪ナラ型。内切り		
3-2 37 土師質 土器	杯	SK1	マ	(1.7)	7.0	浅黄褐	浅黄褐	良	底面周1.4cm 一部残	内輪高台の下地から丸みをお びた立ち上がり。内面胎土少く方 向性有り。内輪赤切り。内輪赤切 り			
3-2 38 土師質 土器	小皿	SK1	マ	(1.1)	5.1	直径	直径	普通	底面周1.4cm 一部残	底盤のみ外形で内盤状に残る。回 転赤切り			
3-2 39 土師質 土器	小皿	SK1	マ	(0.8)	4.9	にせい 黄褐	にせい 黄褐	普通	底面周	底盤のみ外形で内盤状に残る。回 転赤切り	底盤のみ外形で内盤状に残る。回 転赤切り	底盤のみ外形で内盤状に残る。回 転赤切り	
3-2 40 土師質 土器	杯	SK1	マ	10.7	3.0	6.85	深	深	普通	底面周一部残。口 縁一部残。胎土有 り	外反丸み立ち上がり丸みをお びた底盤。口縁高さは上方に向く内 輪半円凹凸。残してせず。回転赤切 り		
3-2 41 瓦器	碗	SK1	マ	11.3	3.3	灰	灰	2mm大の 石入心	底	底盤周1.4cm 一部残	底盤小さく為外なし。同心内凹2 周輪き有り	良品吸収するが、焼成甘い。	
3-2 42 瓦器	碗	SK1	マ	12.3	3.45	灰	底	1mm大の 砂入心	底	底盤周1.4cm 一部残	底盤周在ではない。口縁部ナラ 型	内面に土柱のうごれあり	
3-2 43 瓦器土器	皿	SK1	マ	21.6	(6.0)	9.6	灰	2mm大の 砂入心	口縁一部残。胎土有 り	やや内傾する口縁部漆黒みを帯 び、口縁部。回転ナラ型。溝アリ。胎 土ナラ			
3-2 44 上縁	SK1	マ	金張 14.7	9.9	孔径 1.1	にせい 白	にせい 白			両端に孔	重量3.8 g		
3-2 45 銀器	釣	SK1	マ	金張 14.6	9.9	全幅 0.9 (0.5)	全厚 0.6	底	底		重量3.8		
3-2 46 土師質 土器	小皿	SK9	マ	7.3	1.6	5.1	黄褐	黄褐	良	底面周1.4cm 一部残。胎土有 り	底盤から上方に立ち上がる。平頭。 内輪赤切り		
3-2 47 白陶	碗	SK13	マ	16.6	(3.1)	底白	底白	白色	口縁周一部残	口縁部玉ねぎ型の体部	H型		
3-2 48 土師質 土器	盤	SK13	マ	23.2	(3.9)	盤	盤	底	底	口縁周わざかに残 る	口縁部玉ねぎ型の突起有り		
3-2 49 土師質 土器	盤	SK13	マ	23.0	(3.9)	盤	盤	1~2mm大 砂粒入心	口縁周一部残	口縁部内輪み高高い。頂上面一 回転ナラ型			
3-2 50 瓦器土器	皿	SK13	マ	26.8	(4.7)	底白	底白	1mm大の 砂入心	口縁周わざかに残る	口縁部底盤端はもとげたよ る凹陷。しゃかりしたつくり。厚手		相人の可能性。燒成度の差 異	
3-2 51 上脚器	杯	SK26	マ	(2.2)	2.2	にせい 白	にせい 白	普通	底面周1.4cm 一部残	平底の底盤。内輪ナラ。不 良			
3-2 52 青磁	碗	SK26	マ	(2.1)	5.6	にせい 白	オリー ー白	底	底盤周一部残	内輪まで焼成			
3-2 53 土師質 土器	小皿	SK26	マ	6.1	1.7	5.0	にせい 黄褐	にせい 黄褐	普通	底盤周わざかに残 る	底盤周わざかに上方に立ち上がる。 内輪焼成のやや底盤厚い。切り 離し。不明		
3-2 54 青磁	碗	SK26	マ	金張 6.7	9.9	全幅 1.1	1.0	底	底	全体に芋引口筋。断面四角。打	重量5.8 g		
3-2 55 瓦器土器	盤	SK26 B	マ	21.7	(10.0)	底白	底白	底	口縁周全部な し。	直下する口縁部底盤が脚部中央に 位置。内輪内側とも内核ナラ			
3-2 56 東漢名 銀器	耳口	SK26	マ	(2.1)	底白	底白	底白	底	口縁周わざかに残 る	口縁部底盤内側へ倒向化付 着			
3-2 57 上縁	SK26	マ	金張 5.2	9.9	全幅 1.0	底	底	底	底盤周1.4cm 一部残	全体のふくらむ門限断	重量3.7 g		
3-2 58 瓦器	盤	SK44	マ	8.2	1.4	底	底	底	底盤周1.4cm 一部残	内輪周的的に底盤部平成S み。口縁部ナラ型部。底盤部ナラ 式により。腹内側に芋引底盤厚 い。			
3-2 59 土師器	小皿	SDH	マ	8.0	1.9	5.1	にせい 黄褐	にせい 黄褐	普通	底盤周1.4cm 一部残	平底から上方に立ち上がる体 部。不明。内輪赤切り		
3-2 60 土師質 土器	小皿	SDH	マ	5.6	1.5	5.1	底	底	底盤周1.4cm 一部残	底盤周1.4cmと底盤周わざか に残。外反丸みに大きく開く 体部。内輪赤と内輪ナラ			

3-2区遺物観察表3

測定 区 分	測定 番号	種類	形態	出土遺構	層位	DTP cm	表面 cm	底面 cm	内側色	外側色	胎土	残存状況	想定と特徴	備考	
32	44	瓦器	板	S26 W	マ	7.6	0.9		黒灰	黒灰		壺付1/2口付 瓦 内側面一部残 番	半瓦葺きのみの底面・内側面のみの他部、外側面少しが剥落せず、瓦 壺付に難あり		
32	62	土師質 土器	板	S26	マ	12.2	2.8	7.8	浅黄褐	浅黄褐	良	壺付1/2口付 瓦 内側面一部残る 壺付	直線的に削り、全体、外側面にわずかに剥落する箇所もある。表面		
32	63	土師質 土器	板	S26	マ	12.0	3.0	7.2	浅黄褐	浅黄褐	良	壺付1/2口付 瓦 内側面わずかに残る 壺付	やや丸みをもたらす形、全体の底面はつまら上に残る。不明、未 切り		
32	64	土師質 土器	板	S26 W	マ	23.5	6.8		にじみ 真黄	真黄		壺付1/2口付 瓦 内側面一部残る 壺付	壺付1/2口付 瓦 瓦壺付、半 瓦うすい底面、不明		
32	65	土師質 土器	板	S26 W	マ	(17)	4.9	浅黄褐	浅黄褐	赤道	壺付一部残 瓦既 剥離	既と考る。断面カマボコ形の點 付高さ			
32	66	青磁		S26 W	マ	(3.0)	0.8	青 リーフ リーフ	青 リーフ リーフ	真 灰色	塔部一部残	鏡面と見られる。片割れ、極 透明度高くない			
32	67	東羅系 陶器	筒	S26	マ	(3.5)	0.8	灰	灰	墨褐	口縁部一部残	口縁部底面はほとんどなし。口縁 部や外壁に墨、口縁部底面ナ			
32	68	安達地 窯	板	S26	マ	(5.0)	0.8	灰黄	灰黄	2mm大の 砂粒入り	口縁部わずかに残 口縁部	大きな粘着された口縁部			
32	69	瓦葺土 器皿	板	S26	マ	25.0	4.9		にじみ 青黄	黒灰		口縁部一部残	口縁部底面な。全体は丸みを 帯びて見える	搬入の可能性	
32	70	土師質 土器	小瓶	S26 S26 TR	マ	7.0	1.7	5.3	にじみ 青黄	にじみ 青黄	赤道	壺付底部 口縁部 1/4残 瓦既	半球から削り立ち上がる。口縁部 ナラ付せずエラズマ、板口既切 底、内側部未		
32	71	土師質 土器	瓶	S26 S26 ササギ	マ	12.2	3.0	8.6	にじみ 青黄	にじみ 青黄	赤道	底部わずかに残 口縁部わずかに残	全体の中央から内側ぎみの口縁、底 部部は丸みを帯びて見える。不明		
32	72	土師質 土器	板	S26 TR	マ	10.3	3.1	6.0	にじみ 青黄	にじみ 青黄	青黄	壺付底部 口縁部 1/4残 瓦既	半球の底面から丸みを帯びて立ち 上がる。表面		
32	73	土師質 土器	板	S26 ササ TR	マ	10.2	3.4	6.7	浅黄褐	浅黄褐	青黄	壺付底部 口縁部 1/4残	半球の底面から表面的に立ち上が る。		
32	75	土師質 土器	板	S26 S26 TR	マ	11.7	3.15	7.4	浅黄褐	浅黄褐	良	壺付一部内 口縁 一部残 瓦既	全体中央から内側ぎみの口縁		
32	75	土師質 土器	板	S26	マ	(3.0)	0.8		にじみ 青黄	青黄	赤道	壺付1/2 瓦既	半球から削め上方に立ち上がる。 刮削跡有		
32	76	土師質 土器	小瓶	S26 ササ 1	マ	(1.2)	0.9	瘦	青	青	直道	直道より突出円盤台面ぎみの底面、 未切り			
32	77	白磁	瓶	S26 TR	マ	(2.4)	0.1	0.1	青白	青白	青黄	直道と平行に削り出された両面 内底で直道側面に入れる。直道付 近から内側面	直道と平行に削り出された両面 内底で直道側面に入れる。直道付 近から内側面	直道?	
32	78	備前地 鉢	板	S26	マ	23.0	3.11		周灰	周灰	直	口縁部わずかに残 る	口縁部わずかに残る。環状ナラにより 変形。凹面側くチリ付か		
32	79	青磁	瓶	S26	マ	15.3	(3.5)		にじみ 青	にじみ 青	直	口縁部わずかに残 る	無文、貯入する		
32	80	土師質 土器	板	S26	マ	11.6	2.9	7.0	にじみ 青	にじみ 青	青黄	直道底部 1/4既切	半球の底面から丸みを帯びて立ち 上がる	当面行着多	
32	81	土師質 土器	小瓶	S26	マ	7.0	1.5	5.4	浅黄褐	浅黄褐	青黄	直道	半球と直道の間に残る内底 中央のソリ。内底既切なし。刮削 底切り		
32	82	土師質 土器	瓶	S26	マ	21.2	(4.8)		浅黄褐	浅黄褐	細かな砂粒 多	口縁部一部残	口縁部に削り凹		
32	83	土師質 土器	板	S27	マ	8.2	1.5	6.0	浅黄褐	浅黄褐	青黄	直道底部 1/2以下既 切	半球のから丸みを削り凹一部、内 底部は丸みを削る。既切未切り	当面行着多	
32	84	白磁	瓶	S27 TR	マ	11.1	(2.5)		青白	青白	直	口縁部わずかに残 る	口縁部わずかに丸み。口既切	白磁既切	
32	85	土師質 土器	小瓶	S26	マ	6.5	1.1	5.1	瘦	瘦	直道	直道底部 壁、口縁部 既切	半球の底面、壁、口縁部中央で削創。 既切行直道既切		
32	86	土師質 土器	小瓶	S26	マ	7.1	1.5	5.4	浅黄褐	浅黄褐	青黄	直道	はざむ形 直道と直道側面未切	半球から削り直道と直道側面未切 る。既切未切り	既既既既既既
32	87	土師質 土器	板	S26	マ	11.1	3.4	6.2	にじみ 青	にじみ 青	直道	直道底部 1/4既切	半球の底面部中央から内側ぎ みの口縁。外既切		
32	88	土師質 土器	板	S26	マ	10.9	3.1		青	青	直道	直道底部 1/4既切	半球の底面、全体中央から内側ぎ みの口縁。外既切		
32	89	土師質 土器	板	S26	マ	10.9	3.3	6.6	瘦	瘦	直道	直道底部 1/2 瓦既 切	半球の底面から直道に削り上方 に立ち上がる。内外側とも体側部 既切なし。目既切なし。斜面既切ナ ラの可能性		
32	90	土師質 土器	板	S26	マ	11.4	3.45	6.8	にじみ 青	にじみ 青	直道	直道底部 2/3既切 瓦既 切	半球の底面から直道に削り上方 に立ち上がる。内外側とも体側部 既切なし。斜面既切ナラ、直道既切。 斜面既切ナラの可能性		
32	91	土師質 土器	板	S26	マ	11.6	3.9	7.0	浅黄褐	浅黄褐	直道	直道既切定形 1/4既切	半球の底面、全体中央から内側ぎ みの口縁。内底既切なし。口縁既切ナ ラ		
32	92	土師質 土器	板	S26	マ	11.1	3.9	6.8	にじみ 青	にじみ 青	直道	直道既切定形 1/4既切 既切	半球の底面から丸みを削り立ち上 がる。やや深めの底面。既切既切		

3-2区遺物観察表4

測定 式 法 番号	種別	部類	出土遺構	層段	口径 cm	高さ cm	横幅 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
32 93	土師質 土器	杯	S108	マ	11.6	4.1	6.7	にじみ 青緑	青緑	普通	底面変形 口縁周 1/4強	軽軟。平底から斜めの上身に直腹的 に立ち上がる。内面中央付近 内面とも回転ナギ。回転ホモリ。 板口型		
32 94	土師質 土器	杯	S108	マ	11.5	4.2	7.0	緑	緑	普通	底面はとんと残 口縁周1/3強	やや突出好みの底面から直腹的に 斜めの方立ち上がる。外輪、回 転ナギ、回転ホモリ		
32 95	土師質 土器	杯	S108	マ	11.2	3.9	7.6	緑	緑	細かな砂粒 多	口は変形 底部少 内面も欠損	平底の底盤少し凹四角 内底も凸 凹四角。全体中央からなるやや内 向さの3脚。板口と回転ホモリ		
32 96	土師質 土器	杯	S108	マ	11.8	4.0	7.0	浅黄緑	浅黄緑	普通	底面周1/3強 異 形 口縁周1/4強 内面わざわざ内	底面周全体丸み付ける。別脚ナ ギ。内底、ナギ。青いサム。回転 ホモリ。内底のナギあり	火照れがある	
32 97	土師質 土器	杯	S108	マ	(28)	6.8	黄緑	にじみ 青緑	普通	底面一部欠 落する	底面一部欠 落する	平底。内底ナギ外底ナギ。ホモリ ナギ		
32 98	土師質 土器	杯	S108	マ	(12)	6.8	浅黄緑	浅黄緑	普通	底面周1/4強	底面周にさりげなく。回転ホモリ ホモリを切る板口型			
32 99	石器	印石	S108	マ	9.8	9.8	4.9	青緑	青緑	普通	9.8 7.6	青緑	砂紋。片手中央に弱い墨打痕。	重量 6.61 g
32 100	土師質 土器	小瓶	S109	マ	7.9	1.9	5.1	浅黄緑	浅黄緑	普通	底面変形 口縁わ ざわざ内	外底若干手前は立つ。凸底中 央に向かってナギ。不明		
32 101	土師質 土器	小瓶	S109	マ	7.4	1.6	5.1	青緑	青緑	普通	口は変形 善長	外底若干手前は立つ。凸底一 筋で回転ホモリ		
32 102	土師質 土器	小瓶	S109	マ	8.2	1.6	6.1	にじみ 青緑	にじみ 青緑	普通	底面周縁ともわず かに残	平底から斜く開く口縁。回転ホモ リ		
32 103	土師質 土器	小瓶	S109	マ	7.6	1.8	5.9	にじみ 青緑	にじみ 青緑	普通	底面変形 口縁周 3/4強 残缺	平底から上方に立ち上がる。内底 はゆるやかな凸底。内面中央部 をさびてナギ。善長		
32 104	土師質 土器	杯	S109 TR2	マ	6.1	1.8	4.7	にじみ 青緑	にじみ 青緑	普通	底面周1/2強 内面わざわざ内	円錐形台形の底盤から丸みを帯び たナギがある。善長		
32 105	土師質 土器	小瓶	S109 - 2	マ	6.9	1.8	4.6	にじみ 青緑	にじみ 青緑	普通	底面には変形 口 縁周1/2強	薄い内底右側の底盤から丸みを 帶びた体部の内底中央ですこし突起。 外内底と内底ナギ内底回転ナギ。 回転ホモリ		
32 106	土師質 土器	小瓶	S109	マ	7.4	2.1	5.1	緑	緑	普通	底面変形 口縁 周	平底から斜く開く口縁。	火照れ	
32 107	土師質 土器	杯	S109	マ	11.5	3.0	7.5	にじみ 青緑	にじみ 青緑	真	底面変形 口 縁周2/3強	平底から丸みを帯び立ち上がる。 外底周ナギ内底、内面周 向かってナギ。回転ホモリ板口型	表面残存良好 土の感じが 立地と異なる	
32 108	土師質 土器	杯	S109	マ	11.6	2.7	6.6	浅黄緑	浅黄緑	普通	口は変形 然瓦	不規則下部外反引きナギ。外 底周ナギ内底ナギ。善長		
32 109	土師質 土器	杯	S109	マ	11.8	3.6	7.0	にじみ 青緑	にじみ 青緑	普通	底面周1/3強 口 縁周1/2強	平底から斜め上身に立ち上がる内 底中央に凹む。内外底回転ナギ内 底周ナギ向かってナギ。回転ホモリ	表面残存良好	
32 110	土師質 土器	杯	S109	マ	11.4	3.6	6.6	浅黄緑	浅黄緑	普通	底面	外反引きの底盤の底盤は立ちあが る。内底回転ナギ。		
32 111	土師質 土器	杯	S109	マ	11.3	3.8	6.2	浅黄緑	浅黄緑	普通	底面	外反引きの底盤の底盤立ちあがみ外 底手でいい。内底回転ナギ内底回転ナギ。 回転ホモリ切る板口型強烈残る	口縁内面漆によるヌス付 口縁外側漆滲テレ有	
32 112	土師質 土器	杯	S109	マ	11.7	3.9	6.9	にじみ 青緑	にじみ 青緑	普通	底面変形 口 縁周3/4強 残缺	全体に急な底部や中空部、外底二 方に回転ナギ。内底、内面周 向かってナギ。回転ホモリ		
32 113	土師質 土器	杯	S109 TR2	マ	12.0	3.5	7.5	浅黄緑	浅黄緑	普通	口は変形	不規則半球形底盤になる。底盤内 外底とも不規則。回転ホモリ。板 口型	内底底上ヶリ有。火照 れ有	
32 114	土師質 土器	杯	S109	マ	10.9	3.9	7.5	浅黄緑	浅黄緑	普通	底面周3/4強	底盤のみ半球形の底盤上に立 たるもの。内底回転ナギ。底盤体 部部分底盤は立たない。善長	110等と同じ幾度、大幅に変 化	
32 115	土師質 土器	杯	S109	マ	11.1	4.1	7.4	浅黄緑	浅黄緑	普通	底面周1/2強底1/2 口縁周1/4強	底盤のみ半球形の底盤上に立 たるもの。内底回転ナギ。底盤体 部部分底盤は立たない。善長	正面をなさない不規則な底 盤。全体に厚手	
32 116	土師質 土器	杯	S109	マ	9.8	3.9	7.4	浅黄緑	浅黄緑	細かな砂粒 多	底面周1/2強 口縁周1/4強	不規則底盤から斜め上に立 たのが底盤不規則。回転ホモリ		
32 117	瓦器	小瓶	S109	マ	7.8	1.5	6.5	緑	緑	白色の繊維 多	底盤のみ立てる。口縁周に外 底。口縫ナギナギ。切る骨盤	底盤のみ立てる。口縁周に外 底。口縫ナギナギ。切る骨盤		
32 118	瓦器	小瓶	S109	マ	2.7	1.0	5.1	灰	灰	白い繊維 多	底盤口縁周に立てる。底盤周 3/4強に外反引きナギ。底盤周 1/4強に内反引きナギ。善長	浅い		
32 119	瓦器	瓶	S109 - 2	マ	12.0	3.0	黑灰	黑灰	黑灰	口縫周わざわざ内	口縫周ぐ二段の外底。口縫二段體 ナギ体部オサツ。内底ニギナギ	紀伊型?		
32 120	瓦器	瓶	S109 TR2	マ	11.9	(3.3)	灰	白い繊維 多	白い繊維 多	口縫周1-2段	口縫周底盤に内底。外底、口縫周 ナギナギオサツ	紀伊型?		
32 121	瓦器	瓶	S109 - 2	マ	(1.9)	6.0	5.0	青緑	青緑	灰色	底面周1-2段	高台の側面に立てる。高台内面の 一部で底盤	高台内蔵 板上 雷葉	
32 122	土器	瓶	S109 TR2	マ	6.5	5.0	1.5	0.35	浅黄緑				中央に最高	差6.61 g
32 123	漆器?	小瓶	T1	下層	16.6	2.25	7.4	灰白	灰白	真	底面周1-2段	斜め上に開く。灰底、外底、底 部有り無。外底、外輪、底盤直 接	内底口縫？ 110等 か	

3-2区遺物観察表5

調査 区 回 数 多 号	種類	形態	出土遺物	層位	口径 cm	基高 cm	底径 cm	内面色	外側色	胎土	保存状況	形態と特徴	備考
3-2 121	瓦器	瓦	円	マ	2.9	0.8	0.5					瓦器、底部、先端欠損、画面方向、半空になる	重量 2.1 g
3-2 125	瓦器	板	P6	マ	11.6	(2.9)		灰	細かな白い 縦線	口縁周一部残 存	口縁外折れ、口縁ナリ弱、体部 膨らみ(エラボ)	外側 美品はげる	
3-2 126	土師質 土器	杯	P8	マ	11.2	3.7	6.4	に白い 縦線	普通	底変形	口縁周 1/3残 存	半筒から斜め上方に立ち上がる。 外側は暗めナガ、内側指サゼ、回 転系ナガ。	外側底邊から斜め方向に胎 土の凝聚力
3-2 127	陶器	盤	P18	マ・ホ	29.6	(6.1)		黒灰	青灰褐	砂粒多	口縁周一部残 存	口縁外折れ、下縁引出る。内面6 条の目地有り	内面 表面 帶風なし
3-2 128	瓦器	板	マ	自然	9.9	1.55	1.05		白	粗	はざ形	口縁外折れ	中央部に直線性
3-2 129	土師質 土器	板	P96	マ	15.8	5.0	8.0	に白い 縦線	普通	口縁周一部残 存	口縁外折れ、口縁内側に残 すだけに残	口縁から面部にかけて斜め にタル付着	
3-2 130	土師質 土器	杯	P95	マ	12.4	3.8	7.4	縦	白	普通	底変形 1/2残 存	底部から内側を立ち上げる。 底部は丸み、外側は暗めナガ。	
3-2 131	瓦器	板	P113	マ	14.6	(6.6)		灰	灰	普通	底変形 1/2残 存	底部から内側を立ち上げる。 内側は暗めナガ、外側は 底邊ナガ、内側指サゼ、回転系ナガ、 底部ナガ。	
3-2 132	瓦器	板	P116		(36)	10.3	灰白	灰白	普通	底変形 一部残 存	底部のみわざかに 残る 口縁周 1/2 残	底部ナガ、口縁外折れ、内側 底邊ナガ、内側 指サゼが 瓦の密に密にされる	
3-2 133	瓦器	板	P122	マ	11.8	2.4		黄灰	黄灰	普通	底変形 口縁周 1/3 残	ハの字の目地 瓦自ら斜め上方に 立ち上がる	
3-2 134	土師質 土器	小瓶	S33 SK1	マ	7.2	0.9	5.6	縦	に白い 縦線	普通	底変形 口縁周 1/2 残	底部、瓦ならうす子にした い部分がある底邊、半筒形が人字 内面(指サゼ)、外側、口縁内アーチ 後部、指サズミ裂、底より離しな る	反差吸収まだら お前 - 3 - 4
3-2 135	土師質 土器	小瓶	S33	マ	7.5	1.75		に白い 縦線	普通	底変形 口縁周 3/4残	底部から腰に開く既成安字く 字型、外側内転ナガ、内側、底部 まで指サゼ、到底切跡	表面残存有	
3-2 136	土師質 土器	小瓶	S33	マ	6.5	1.7	4.7	に白い 縦線	普通	底変形 1/2残 口縁 周 1/2残	底部1/2残 口縁 周 1/2残	底部や中腰部分を離して立ち上がる。 内側内転ナガ、外側底邊も指サ ゼ	
3-2 137	土師質 土器	小瓶	S34	マ	7.6	2.1	4.8	に白い 縦線	普通	底変形 口縁周 1/2 残	底部からえみを離して立ち上がる。 内側、指サズミ裂ナガ		
3-2 138	土師質 土器	小瓶	S34	マ	6.1	1.8	4.1	洗黄褐	洗黄褐	普通	底変形 1/2残 口 縁周 1/2残	内腹部や底辺の底邊からえみを離 して起き立つ上昇する。外側内転ナ ガ、内側底邊も指サゼ	付着物有
3-2 139	土師質 土器	小瓶	S34	マ	7.4	1.8	4.6	に白い 縦線	普通	底変形 1/2残 とも一端	底部や中腰部分を離して立ち上がる。 内側内転ナガ、外側		
3-2 140	土師質 土器	杯	S34	マ	11.1	3.2	6.9	浅黄	浅黄	普通	底変形 2/3残 口 縁周 1/2残	底部から表面に斜めに立ち上がる。 口縁外折れに残る、内側内転ナ ガ、内側、底邊まで指サゼ、回 転系ナガ	
3-2 141	土師質 土器	杯	S34	マ	12.4	3.2	8.0	に白い 縦線	に白い 縦線	普通	底変形 口縁周 1/2 残	底部から上り立つ体部反復 指サゼ、内側内転ナガ、外側内転ナ ガ、内側底邊も指サゼ	内側吸収の上に底灰色のマ タタク(灰)付着
3-2 142	土師質 土器	杯	S34	マ	(38)	7.0		縦	縦	普通	底変形	口縁外折れ 体部2段をなす。 丸底、指サゼ、底邊も指サゼ	表面ハクリ 売却吸収なし タバコ(底灰吸収)面のもの ?
3-2 143	瓦器	板	S34	マ	6.6	1.5		黄灰	黄灰	普通	底変形 一部残	口縁外折れ 体部2段をなす。 丸底、指サゼ、底邊も指サゼ	
3-2 144	瓦器	板	S34	マ	7.2	1.0	5.2	浅黄褐	浅黄褐	普通	口縁周一部残	口縁外折れ 体部2段をなす。 丸底、指サゼ、底邊も指サゼ	
3-2 145	瓦器	板	S34	マ	12.0	(3.7)		黑灰	黑灰	普通	口縁周わざかに残	内面(指サゼ)に入る	
3-2 146	白陶	盤	S35 SK1	マ	8.6	5.6	9.8	灰白	灰白	普通	底変形 1/2以下残	手流の底部、底部外側、輪胎褐色	
3-2 147	白陶	盤	S35		(2.3)	5.8		灰白	灰白	普通	底変形 1/2以下	底部のみささ上げる。底部まで施 釉	白陶無釉か
3-2 148	青釉陶	盤	S35	マ	(7.3)			に白い 縦線	に白い 縦線	普通	口縁周わざかに残	口縁上に大きめ抵するが底部 には施釉しない	8型式 15世紀まで
3-2 149	瓦質土 器	盤	S35	マ	19.0	0.3		灰	織かれた紗 模様	織かれた紗模 様	口縁周わざかに残	内側する口縁、口縁底邊をなす。 丸底、指サゼ、外側、口縁ナガ	底邊吸収しないが尚合は ないものと考えられる
3-2 150	土師質 土器	盤	S35	マ	22.4	(3.2)		青褐	青褐	普通	口縁周わざかに残	内側する口縁、口縁底邊をなす。 丸底、指サゼ、外側、口縁ナガ	
3-2 151	瓦器	板	T SK1	マ	11.2	(2.7)		に白い 縦線	に白い 縦線	普通	織かれた紗模 様	織かれた紗模 様	
3-2 152	土師質 土器	小瓶	S205	マ	6.6	1.3	4.2	洗黄褐	洗黄褐	普通	底変形 口縁周 1/2 残	手流の底部、底部外側、輪胎 の内側に施釉	
3-2 153	土師質 土器	小瓶	S205 二 H10	マ	6.7	1.7	5.6	洗黄褐	洗黄褐	普通	底変形 口縁周 1/2 残	うす手流の底部、底部外側、 輪胎の内側に施釉	体部外側 回転による彫痕
3-2 154	土師質 土器	小瓶	S205 二 H10	マ	9.0	2.5	6.0	に白い 縦線	に白い 縦線	普通	底変形 口縁周 1/2 残	手流らんえみを持ち立ち 上がる。外側、通透近くに強い回 転ナガ。不明	
3-2 155	瓦器	板	S205 二 H10	マ	8.8	1.15	6.8	黑灰	黑灰	普通	底変形 口縁周 1/2 残	ほほん底から届く表面に開く。 内側内転ナガ、見渡すサエ	浅く 口張大きい

3-2区遺物観察表6

測定 区 分 番号	種別	剖面	直上遺構	層位	口径 cm	高さ cm	横幅 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	想定と特徴	備考
32 136	土師質 土器	上層	S1025	マ	9.0	全幅 5.25	5.1	に赤い 黄緑				中央に最大径	重量 1.3kg
32 137	土師質 土器	中層	S1026	マ	(26)	5.6		灰	灰	普通	高台1/3残	不整な柱状窓有	
32 138	瓦	楕	S1026	床	12.2	3.0	3.4	灰	灰		江戸形	器物は低い高台に置く最もなり形 點で、外側口縁部はテラコッタ 色で、内側口縁部は灰。足見み。 平行二ぎり。	灰瓦吸着弱い
32 139	土師質 土器	小瓶	S1027	マ	7.4	1.65	5.0	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	底部完形 1/2残	平底から窓の上に立ち上がる形 態で、外側口縁部はテラコッタ 色で、内側口縁部は灰。足見み。 平行二ぎり。	
32 140	土師質 土器	小瓶	S1027	マ	7.1	1.6	5.1	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	口縁周 わざかに欠 損	底盤のみやや斜め下に平らから 立ち上がる。外側口縁部はテラコッタ 色で、内側口縁部は灰。足見み。	
32 141	土師質 土器	小瓶	S1027	マ	6.7	1.6	4.7	灰	灰	普通	完形	内側口縁部は窓の上に立てる。外側 口縁部はテラコッタ色で、内側 口縁部は灰。	
32 142	土師質 土器	瓶	S1027	マ	7.0	1.8	5.0	灰	に赤い 黄緑	普通	底部完形 1/2残	円錐形台座の半幅から立ち上る が窓の前で分岐。内側口縁部はテラコッタ 色で、外側口縁部は灰。	平行窓
32 143	土師質 土器	小瓶	S1027	マ	6.8	1.4	5.0	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	底盤 口縁周 とも 1/2残	平底から窓斜め上に窓と口縁、内 側、底盤。底盤は黒。不明	
32 144	土師質 土器	小瓶	S1027	マ	7.7	1.5	4.9	西青釉	西青釉	普通	江戸形 傷耗	平底から窓の上に立ち上がる。内側 底盤。底盤は黒。不明	
32 145	土師質 土器	小瓶	S1027	下層	5.6	1.2	5.0	西青釉	西青釉	普通	底盤1/3残 口 縁周1/3残	今後に不整な柱状窓有。平底から 窓の上方に立ち上がる。内側口 縁部は青色で、外側口 縁部は黒。足見み。	
32 146	土師質 土器	杯	S1027	マ	11.7	3.6	2.1	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	底盤1/2完形 口 縁周3/4残	平底から丸を含む立ち上がる 形で、口縁部は青色で、外側口 縁部は黒。足見み。	
32 147	土師質 土器	杯	S1027	マ	11.4	3.8	2.9	灰	灰	普通	江戸形	平底から窓足に立ち上がる 形で、口縁部は青色で、外側口 縁部は黒。足見み。	内窓あり引による軽土被 れあり。口引同一形
32 148	土師質 土器	杯	S1027	マ	11.9	3.5	2.0	西青釉	西青釉	普通	江戸形	体盤の立ち上がりで中央部窓足 有。内側口縁部は黒。外側口縁部はテラコッタ 色で、内窓足有。内窓足引。胎 土有目底。	
32 149	土師質 土器	杯	S1027	マ	11.8	3.5	6.6	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	底盤周1/2残 口 縁周1/4残	体盤と反対窓足の半幅部立ち ぎみ。内側口縁部は黒。外側口縁部はテラコッタ 色で、内窓足引。内窓足引。胎 土有目底。	表面残存良好
32 150	土師質 土器	杯	S1027	マ	12.0	3.9	7.1	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	底盤完形 口縁周 わざかに欠 損	平底から窓の上に立ち上がる。口 縁部は青色で、外側口 縁部は黒。内窓足引。	
32 151	土師質 土器	杯	S1027	下層	10.6	3.5	6.9	西青釉	西青釉	普通	江戸形 完形 1/2残	平底から窓足の後退。口縁部 は青色で、内窓足引。外側口 縁部は黒。内窓足引。	外側に粘土の吸り痕
32 152	土師質 土器	杯	S1027	マ	11.5	3.5	7.55	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	底盤中後部のみ 口縁周1/2残	底盤、体盤、底足。内窓足引により立ち 上がり。平底から窓の上に立ち上がる体 盤。外側、底盤部で青色で黒。内窓足引。 内窓足引。	
32 153	土師質 土器	杯	S1027	下層	10.8	3.5	6.4	西青釉	西青釉	普通	底盤1/2残 口 縁周1/2残	平底形状不整。平底から体盤下は 外側と内側の口縁部が窓足引。内窓 足引。外側口縁部は青色で黒。内窓 足引。	内窓足引
32 154	土師質 土器	杯	S1027	下層	11.0	4.2	6.6	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	江戸形	平底形状不整。平底から丸を含 む。外側口縁部は青色で黒。内窓 足引。	表面残存良好 167と同一形
32 155	土師質 土器	杯	S1027	マ	11.6	3.1	7.3	周灰	に赤い 黄緑	普通	底盤1/2完形 口 縁周1/3残	平底形状不整。平底から丸を含 む。外側口縁部は青色で黒。内窓 足引。	
32 156	土師質 土器	杯	S1027	マ	12.0	3.8	7.5	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	底盤中央のみ欠 損	平底の底盤から窓の上に立ち 上がる。外側口縁部は青色で黒。不 整形。方引に立。内窓足引。	
32 157	瓦	楕	S1027	マ	11.8	3.2	3.7	灰白	灰白	普通	江戸形 貝殻	器物底くぬぐい体盤表面は黒く汲く 高台より底盤が赤く変色などな い。外側、口縁部青色。	灰瓦吸着弱い
32 158	青磁	底盤 小瓶	S1027		(15)	3.3	明灰	明灰	明灰	普通	底盤完形	高台部分内側無赤系褐色。	小型器皿
32 159	瓦	楕	S1027		11.0	(35)	灰白	灰白	普通	口縁周1/4残	口縁外反引。外側口縁部青色。	内窓とも北素組成。胎 土質に違い。	
32 160	土師質 土器	小瓶	S1027	下層	8.0	1.75	6.0	に赤い 黄緑	に赤い 黄緑	普通	口縁周1/3残	平面形。不整形。平底から丸を含 む。外側口縁部は青色で黒。内窓 足引。	表面残存良好

3-2区遺物觀察表7

層位 （cm）	回収 場所	種類	器形	出土遺構	被付	DTP （cm）	器高 （cm）	底径 （cm）	内側色	外側色	胎土	残存状況	相思と特徴	備考
3-2 181	上細質土器	小瓶	4層	7.2	17.5	5.0	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒1-2段 口幅 狭わずかに残	平底から縦に斜めに立ち上がる。 素切り。あらぬき。	
3-2 182	上細質土器	小瓶	4層	7.4	23	6.5	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒変形 口幅開 上1段	平底から縦に斜めに立ち上がる。 外側ナダ。内側ナダ。内側あり	変形復元
3-2 183	上細質土器	小瓶	4層	7.3	21	5.1	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開ともわ ずかに残	平底から縦に斜めに立ち上がる。 外側、二段ナダ。内側素切り	
3-2 184	上細質土器	小瓶	4層	7.7	1.5	5.6	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開ともわ ずかに残	平底から縦に斜めに立ち上がる。 外側、二段ナダ。内側素切り	
3-2 185	上細質土器	小瓶	4層	8.6	14	5.4	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開とも 一端残	平底から縦に斜めに立ち上がる。 外側、二段ナダ。内側素切り	浅い 内側表面復元
3-2 186	上細質土器	小瓶	4層	7.1	16	5.1	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	はねた変形 總持	平底から縦に斜めに立ち上がる。 内側ナダ。マヤナダとなる。素切り	
3-2 187	上細質土器	小瓶	4層	6.9	11	5.0	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	口幅のみ一部欠損 直筒	平底から縦に斜めに立ち上がる。 外側ナダ。内側素切り	
3-2 188	上細質土器	小瓶	ホ （4層）	6.8	19	5.0	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅1段 口幅開 一部内	平底から縦に斜めに立ち上がる。 内側ナダ。内側中央ノゾミで変形。 外側ナダ。内側素切り	
3-2 189	上細質土器	小杯	4層	7.0	19	5.0	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒変形 口幅開 1段 变形	器み有底から縦に立ち上がる。 外側ナダ。内側素切り	
3-2 190	上細質土器	小瓶	4層	7.3	1.5	5.2	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開とも 一端残直筒	直筒口幅開とも 一端直筒	直筒口幅開とも 一端直筒
3-2 191	上細質土器	小瓶	4層	6.7	1.5	4.6	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒変形 口幅開 1段 变形	平底から縦に斜めに立ち上がる。 素切り	
3-2 192	上細質土器	小瓶	4層	7.1	1.5	4.4	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅1段 变形	平底から縦に斜めに立ち上がる。	全体に薄い
3-2 193	上細質土器	小瓶	4層	7.8	1.5	5.6	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅1段 口幅 1段 变形	平底から丸みを帯び立ち上がる。	
3-2 194	上細質土器	小瓶	4層	6.4	1.5	4.6	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅1段 口幅 1段 变形	全体に丸み。平底から縦に立ち上 がる。内側中央ノゾミで変形。内 側ナダ。不規	
3-2 195	上細質土器	小瓶	4層	7.1	1.5	5.6	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅1段 口幅 1段 变形	不整な丸みの底面から縦に外 反する立ち上がり。内側凸凹あり。 内側ナダ。あらぬ	
3-2 196	上細質土器	小瓶	4層	5.9	14	4.4	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開とも 一端直筒	平底から縦に斜めに立ち上がる。 外側ナダ。内側素切り	外側 表面復元
3-2 197	上細質土器	小瓶	4層	6.3	1.5	4.2	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒変形 口幅開 1段 变形	平底から縦に斜めに開く。内側。 内側ナダ。内側素切り	
3-2 198	上細質土器	小瓶	4層	7.6	1.5	5.0	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅1段 並 行2段以下 口幅 1段 变形	平底から縦に斜めに立ち上 がり星曲し 口幅2段以下。内側素切り	
3-2 199	上細質土器	杯	4層	10.9	39	2.4	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	はねた変形	平底中央突出丸み。体部下半や 内側、口幅開立ち込み、内側、同 量ナダ。内側素切り。内側 素切り。内側	焼成空孔
3-2 200	上細質土器	杯	4層	11.0	10	6.8	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	はねた変形	平底から外反立ち上がり。口 幅開立ち込み。内側ナダ。内 側素切り。内側	
3-2 201	上細質土器	杯	5層	11.7	38	7.1	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口1/2段 口 幅開1/2段 变形	平底から丸み立ち上がる。口 幅開立ち込み。内側ナダ。内側。 内側ナダ。内側素切り。内側	
3-2 202	上細質土器	杯	4層	11.1	34	7.0	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口1-4段 口幅 開わざりに残	平底から丸みを帯び立ち上 がる。内側と内側ナダ。内側素 切り	
3-2 203	上細質土器	杯	4層	11.4	33	6.5	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口1段 口幅 開わざりに残	平底から立ち上がる。内側口幅 開わざりに残	内側 溝状痕跡残る
3-2 204	上細質土器	杯	4層	11.2	32	6.5	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開とも 一端直筒	直筒口幅開とも 一端直筒	内側不整内凹。平底から立ち上 がる
3-2 205	上細質土器	杯	4層	11.8	33	8.0	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開とも 一端直筒	直筒口1-3段直筒以下。口幅開 わざりに残。平底。底部分厚壁。上 方に立ち上る。外側。内側素 切り	
3-2 206	上細質土器	杯	4層	10.0	17	6.6	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開とも 一端直筒	平底から立ち上がる。器のせり 感。内側口幅開ナダ。外側。底 部厚壁。内側素切り	内側素切り
3-2 207	上細質土器	杯	4層	11.2	33	7.0	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口1段 口 幅開わざりに残	平底から丸み立ち上 がる。内側ナダ。内側素 切り。内側	
3-2 208	上細質土器	杯	4層	11.5	35	6.4	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口幅開とも 一端直筒	平底から丸み立ち上 がる。内側ナダ。内側素 切り。内側	
3-2 209	上細質土器	杯	4層	12.0	35	6.6	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口1/2段 口 幅開わざりに残	平底から丸み立ち上 がる。内側ナダ。内側素 切り。内側	
3-2 210	上細質土器	杯	4層	11.0	32	6.6	17.5	1.5	に赤い 黄緑	に赤い 白	普通	直筒口1-3段 内側 直筒	平底から縦に斜めに立ち上 がる。内側ナダ。内側素 切り	

3-2区遺物観察表8

測定 区 分 番号	種別	形状	出土遺構	層位	口径 cm	高さ cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
3-2 211	土師質 土器	杯		4層	10.9	3.1	6.5	浅黄褐	浅黄褐	普通	底盤周囲周とも わざりなし	平底から外反好みに立ち上がる。内面底盤周とも回転ナシ	
3-2 212	土師質 土器	杯		4層	11.0	3.3	6.3	浅黄褐	浅黄褐	普通	底盤周囲周とも わざりなし	平底から内面に立ち上がる。内面とも回転ナシ。	内面とも胎土の模様有り
3-2 213	土師質 土器	杯		4層	11.6	3.0	7.5	浅黄褐	浅黄褐	普通	底盤周囲周とも わざりなし	平底から内面に立ち上がる。内面とも回転ナシ。	内面とも胎土の模様有り
3-2 214	白陶	瓶		4層	10.6	3.1	6.0	米白	米白	良	底盤周上2段、底 径上2.2段目、口 幅底1.2段、胫部 直い	平底、不規則輪郭に直い。平底から 立ち上がる。口縁端部が少 し	
3-2 215	土師質 土器	杯		中	11.5	3.9	7.4	に高い 直壁	に高い 直壁	普通	底盤周上1段、口 縁上一部	平底から内面に立ち上がり内 外反、口縁内面ハリ、外縁まで 施釉。発見場所は灰白	14世紀?
3-2 216	土師質 土器	杯		中	10.1	3.9	6.2	に高い 直壁	に高い 直壁	普通	底盤周とも一部 底盤	平底な立ち上がる外縁内面反好み 花瓶口比して滑らか、内面、回転ナシ。 回転系無し。胎土灰	
3-2 217	土師質 土器	杯		中	9.8	3.6	6.6	浅黄褐	浅黄褐	普通	底盤周とも一部 底盤	内腹古窓の底盤から立ち上がる。 外縁、回転底有り。内面、底盤回 転系、回転系切り	
3-2 218	土師質 土器	杯		中	12.0	3.0	8.5	浅黄褐	浅黄褐	普通	底盤周ともわざ りなし	平底から立ち上がる外縁底つまみ 上口底端膨らむ。内面とも直い 回転ナシ。胎土灰地	
3-2 219	土師質 土器	杯		4層	15.0	4.9	6.6	浅黄褐	浅黄褐	普通	底盤わざりなしに外 縁	底盤内面に見える。底盤、 外縁の内面に直い。内面、底盤回 転系、回転系ナシ。胎土灰	内腹古窓に見えるが平底 のつまみ
3-2 220	土師質 土器	杯		4層	(17)	7.0	浅黄褐	浅黄褐	普通	底盤周上2段・底 盤	底盤周上2段・底 盤	やや突出下のみの底盤から立ち上 がる。内面、底部のみ。内面底 盤	
3-2 221	土師質 土器	杯	底盤	4層	(10)	6.6	に高い 直壁	に高い 直壁	底盤	底盤完形	底盤直	底部のみ。内面底	
3-2 222	土師質 土器	杯		4層	(12)	6.0	直	直	直	底盤周わざりなしに残 れ	底盤周わざりなしに残 れ	平底	
3-2 223	土師質 土器	杯		4層	(14)	7.0	に高い 直壁	に高い 直壁	底盤	底盤周わざりなしに残 れ	平底から立ち上がる		
3-2 224	土師質 土器	杯		4層	(20)	6.8	浅黄褐	浅黄褐	底盤	底盤周上2段・底 盤	平底から立ち上がる。内面とも 回転系、底切り		
3-2 225	土師質 土器	杯		4層	(28)	6.9	に高い 直壁	に高い 直壁	底盤	底盤完形	底盤	平底から外縁上方に立ち上がる。 内面、底盤まで直い内縫底。内縫 系ナシ。内面内縫にナラ根筋。底切り	
3-2 226	土師質 土器	杯		4層	(22)	5.0	浅黄褐	に高い 直壁	底盤	底盤	底盤	内縫に直い。少しした足付横高 脚。外縁、強い内縫底	表面一部に赤色斑
3-2 227	土師質 土器	杯		4層	(22)	5.6	瘦	瘦	底盤	底盤周上2段・底 盤	底盤	外縁、回転底残る。わざか外反 する内縫。体底込みを伴ひ。	重い
3-2 228	土師質 土器	杯		4層	11.0	(25)	浅黄褐	浅黄褐	底盤	口縁周わざりなしに残 れ	底盤	輪高からゆるめかな丸みを持 立つながら。外縁、内縫ナシ。直 角	
3-2 229	赤色地 彩文土器	水		(17.5)	10.1	明黄褐 一部赤	明黄褐 一部赤	良	高台一部	高台	しおりした模高台。高台内側は 赤色地		
3-2 230	赤色 土器	水		4層	4.4	灰	灰	灰	灰	高台周上1段	細い板面凸状の足付横高台	胎土黄褐色で無質。黒色B 少	
3-2 231	瓶	瓶		4層			灰	灰	底盤	底盤	ボンボンのまろやかな舟形底。 内縫。ハラウズ		
3-2 232	瓶	瓶		4層	(24)	10.0	灰白	灰白	底盤	高台1/4段	中央部がなんだ高台。高台から上 方に立ち上がる。	内窓。胎土緑褐色地現る	
3-2 233	瓶	瓶	底盤	4層	(13)	8.0	灰黄	灰黄	底盤	高台一部	高台。私が地底凹地現れ三角形狀 に立ちながら。内窓。ナラ		
3-2 234	瓦質土器	瓶		4層	11.5	5.0	灰白	灰	灰	高台完形。口縫底 わざりなし	高台内側底で縦縫のみ突き出さ せ。底付口しん。体底。底を密び。 口縫で外縫。切り離しなし	内窓に土上斜巻き底現り、 底付口しん。底付底。内縫底 は縦縫に似る	
3-2 235	瓶	小口		4層	(7.0)		灰白	底盤	底盤	底盤ののみ現			
3-2 236	青磁	瓶		4層	21.0	(18)	オリーブ グリーン	オリーブ グリーン	口縫	口縫わざりなしに残 れ	口縫折れ底端つまみ出す		
3-2 237	青磁	瓶		4層	16.0	(17)	灰	灰	底盤	口縫周わざりなしに残 れ	青磁底内張無し手の運搬輪	底部外側現化	
3-2 238	青磁	瓶		水	(12)		灰オ リーブ グリーン	灰オ リーブ グリーン	底盤	底盤周上部底	青磁底内張無し手の運搬輪	底部外側現化	
3-2 239	青磁	瓶		4層	(09)	4.5	灰オ リーブ グリーン	灰オ リーブ グリーン	底盤	底盤2/3段	青磁底は露見足込クシ縫き文	透明輪・青磁底。Xb	
3-2 240	青磁	瓶		4層			オリーブ グリーン	オリーブ グリーン	底盤	口縫周わざりなしに残 れ	月輪り底盤わざりなしに残 れ	透明感あり	
3-2 241	青磁	瓶		中	13.7	(5.5)	灰	灰	底盤	口縫周わざりなしに残 れ	無支外縫ビホール多數有		
3-2 242	青磁	瓶		4層	(24)	4.0	明黄褐	明黄褐	底盤	底盤	青磁・青磁込品基盤サジ(底)色 外縫。透青	小窓か	
3-2 243	青磁	瓶		4層	(23)	5.0	オリーブ グリーン	オリーブ グリーン	底盤	底盤	青磁・青磁込品基盤サジ(底)色 く透青		

3-2区遺物觀察表9

測定 区 点番 号	種類	形態	出土遺構	層位	DP (m)	器高 (m)	底径 (cm)	内側色	外側色	胎土	残存状況	相想と特徴	備考	
32-214	青磁	瓶		未	(2.4)	4.2	4.0	明緑灰	灰	高台完形	塑付・高脚部の足込のみ黒艶仕様 く、瓶身は、足込部スタンプ文。	14～15世紀		
32-215	青磁	瓶	4層	(2.7)	6.2	オーバー リップ フローラー	6.1	灰	灰	高台面1/3残	塑付・高脚部、裏面灰褐色、内側、 足込、靠花文、外側、ロココ風			
32-216	青磁	瓶	未	(1.0)	6.1	オーバー リップ フローラー	6.1	灰	灰	高台面1/3残	高台見込部黒褐色、内側、足込部、 輪・ボーダー・ラッセル、淡色			
32-217	青磁	瓶	4層	(3.2)	6.2	オーバー リップ フローラー	6.1	白	白	高台面1/2残	泥付小口・輪・足込は無い、塑付 ・高脚部・瓶身一様まで施釉、外側 にナット無。	重文系のある青磁と考える		
32-218	青磁	瓶	4層	(6.5)	5.1	オーバー リップ フローラー	5.1	白	白	高台面1/2残	塑付まで施釉、外側、片側ケツリ 蓋無系？ D層(留唐)			
32-219	青磁	小瓶	4層	3.0	3.2	オーバー リップ フローラー	3.0	白	白	高台面2/3残、高 台付込部なし	高台から丸みを帯びて立ち上がる。 蓋付付込部、人字有			
32-220	白磁	瓶	4層	11.3	3.1	5.8	灰白	白	白	高台面1/3残底部 付込部2/3残	平底から輪の上から上がる。口縁 外反、口縁端部、内側内底部底部 黒褐色、裏面銀褐色、外側、底 部周囲無	白磁底内銀(高田)		
32-221	青磁	瓶	4層	(1.1)	4.8	オーバー リップ フローラー	4.8	灰	灰	高台一部残	新開口ぎみ底部黒漆、底部ケツリ	透明釉		
32-222	白磁	瓶	4層	(3.3)	5.2	灰白	5.2	白	白	高台面わずかに残	輪底三角形に浅く高い凸台、下平 一高脚黒漆			
32-223	白磁	瓶	4層	(1.3)	3.6	灰白	3.6	白	白	高台面わずかに残	開口し高脚部に施残る。体部 下部黒漆	白萬能		
32-224	白磁	瓶	4層	(6.1)	(2.0)	灰白	灰白	白	白	口縁周囲わずかに残	大きな玉頭の輪	外側 ピンホール有 万能		
32-225	白磁	合子 蓋	中空(1) 4層			灰白	灰白	青	青	青	青	平底大青蓋内底黒漆	透明釉	
32-226	瓦器	瓶	4層	7.9	1.1	6.1	灰	灰	灰	未	未	平底丸みから膨らむ、外反、外側、口 縁付付込部黒漆付サム、内側、 足込から中央以外黒漆付ナダ、切り離 しなし	外側 脱付付着物	
32-227	瓦器	瓶	4層	8.1	1.6	4.1	灰	灰 (銀)	白	未	未	平底丸み、口縁黒走、平底丸み、 口縁付付込部、外反、口縁付付込 ナダ付(手離ち？)、切り離しなし	内面 青素燒直筒、外側 粘土ヶツ有	
32-228	瓦器	瓶	4層	8.1	1.6	4.0	灰	灰	灰	未	未	平底丸みのから膨らむ、外反、外側、口 縁付付込部黒漆付サムニギナダ、体部黒漆付エ 内側、口縁付付込ナダ、切り離しなし		
32-229	瓦器	瓶	4層	7.9	1.5	5.8	黑灰	黑灰	黑灰	未	未	平底丸み膨らむ内底黒、外反、凸 底付込部とも1/2残	前素燒着部く黄灰色	
32-230	瓦器	瓶	4層	7.8	(1.6)	5.8	灰白	灰	灰	未	未	口縁付付込部黒走、外反、内側、口 縁付付込部1/2残	口縁付付込部黒走、外反、内側、口 縁付付込ナダ、切り離しなし	
32-231	瓦器	瓶	4層	7.2	(1.6)	5.8	灰	明オ リップ フローラー	白	未	未	口縁付付込部黒走、外反、内側、口 縁付付込部1/2残	口縁付付込部黒走、外反、内側、口 縁付付込ナダ、切り離しなし	表面薄い黒漆の付着物 (灰)
32-232	瓦器	瓶	4層	7.7	1.6	3.3	灰	未	未	未	未	丸底平なから膨らむ内底黒、外 反、口縁付付込部、体部、脚やせん、 口縁付付込ナダ、足込み、體ナダ黒 漆付(手離ち？)、切り離しなし	底部中央内底み黄み。外側 脱付付着物	
32-233	瓦器	瓶	4層	6.8	(1.2)	黑灰	黑灰	未	未	未	未	平底丸みの中央付付込付サム付で付 た口縫、脚やせん、外側、口縁付付込 ナダ付(手離ち？)、切り離しなし	前素燒着部	
32-234	瓦器	瓶	4層	8.0	1.3	3.1	灰黃	灰	未	未	未	平底丸みの口縫付付込部は外反、外側、 口縁付付込ナダ付	外側 付付込部(西漢の可視部)、内側脱付付着 物	
32-235	瓦器	瓶	4層	7.7	1.7	2.8	黑灰	黑灰	未	未	未	丸底丸み口縫付付込部黒走、外反、 内側、口縁付付込ナダ付	前素燒着部くオサ エヌ、切り離しなし	彫形復元
32-236	瓦器	瓶	4層	8.2	1.6	6.1	灰	白	白	未	未	平底丸みの腹部口縫付付込部は外反、 内側、口縁付付込ナダ付	外側 丸底口縫、手離す底部	
32-237	瓦器	瓶	4層	7.1	1.1	5.5	灰白	灰	未	未	未	平底丸みの腹部から脇・腰・闊く、身 は浅い、外側、口縁付付込ナダ	身は浅い、腰は闊く	
32-238	瓦器	瓶	4層	7.6	1.1	5.8	灰黃	灰黃	未	未	未	平底丸みの腹部から脇・腰・闊く、 身は浅い、外側、口縁付付込ナダ	身は浅い、腰は闊く	黄素燒着物
32-239	瓦器	瓶	4層	7.5	0.9	5.6	灰	灰	未	未	未	平底丸みの腹部から脇・腰・闊く、 身は浅い、外側、口縁付付込ナダ	身は浅い、腰は闊く	黄素燒着物の付着物 (灰)
32-240	瓦器	瓶	4層	8.3	(1.2)	灰	灰	未	未	未	未	口縁付付込部	口縁付付込部	
32-241	瓦器	瓶	4層	8.3	(1.2)	灰	灰	未	未	未	未	瓶底丸みともわざ かに残	瓶底丸み口縫付付込部黒走、 内側、口縁付付込ナダ、足込付付込ナダ	内面 瓦器裏蓋とんじな し
32-242	瓦器	瓶	4層	7.5	1.1	5.6	黑灰	黑灰	未	未	未	瓶底丸みともわざ かに残	瓶底丸み口縫付付込部黒走、 内側、口縁付付込ナダ	内面 瓦器裏蓋とんじな し
32-243	瓦器	瓶	4層	7.0	0.9	5.0	灰黃	灰黃	未	未	未	瓶底丸みの腹部から脇・腰・闊く、 身は浅い、外側、口縁付付込ナダ	身は浅い、腰は闊く	
32-244	瓦器	瓶	4層	8.0	1.2	6.2	黑灰	黑灰	未	未	未	平底丸みの腹部から脇・腰・闊く、 身は浅い、外側、口縁付付込ナダ	身は浅い、腰は闊く	前素燒着物

3-2区遺物観察表10

測定 試 験 番 号	種別	形態	出土遺構	層位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	内面色	外削色	胎土	残存状況	想定と特徴	備考	
3-2 275 瓦器 盆			4層	7.5	1.5			黒灰	青浦 蛍子多	高部中央部欠損 口縁わずかに擦傷	手込みり青浦瓦をかぶせた上 がら、内面はとも高部凹凸、全体 に擦れオサニ、切り離しなし。			
3-2 276 瓦器 盆			4層	8.7	1.5	5.0		灰	灰	普通	底部口縁ともわずかに残る	平底がみら底部から残る白磁。 内面擦ナギ、切り離しなし		
3-2 277 瓦器 盆			4層	10.9				黒灰	黒灰	普通	底部 口縁とも わずかに残る	口縁無し、口縁部瓦を張り付けて いる		
3-2 278 瓦器 杯			4層	12.7	2.7			灰	灰白		高部底半周のみ、高い壁部、1.9cmは 底部から残る白磁、口縁ナギ、全体 に擦れオサニ、内面は底部瓦を多く、 見込み洗浄法の瓦をガタキ、切り 離しなし。底土埋立		直腹	
3-2 279 瓦器 梗?			4層	13.1	(21)			灰	灰	普通	口縁周1/2残	口縁二段に外反、口縁二段ナギ	起伊?	
3-2 280 瓦器 盆			4層	9.9	(20)			黒灰	黒灰	普通	口縁周1/2残	口縁二段に弱く外反、口縁二段ナ ギ	透窓の跡より窓い、紀伊型 1-1目盛付?	
3-2 281 瓦器 頭頂			4層	13.3	1.8cm			灰白	青浦	普通	口縁周わずかに残	浅い・単脚式頭頂、頭脚な段、外腹、 口縁擦ナギ。内面、壁に土寄せ	直脚の器形と考えるが不定 的。直腹。底土埋立。底部擦痕はと くなし。土脚質の焼きの良さ。	
3-2 282 瓦器 盆			4層	11.8	(30)			灰	灰	普通	口縁周わずかに残	口縁二段に外反、口縁二段ナギ	紀伊型の可能性	
3-2 283 瓦器 梗?			4層	12.2	(29)			灰黄	黄灰	普通	口縁周1/2残	全体に黃瓦有、白磁瓦1-2cmに外 反、外腹、口縁二段ナギ底部擦痕ナ ギ。	内面 黄素瓦底、紀伊型 セニ	
3-2 284 瓦質土 盆			4層	14.8	(37)			灰黄	黄灰	普通	口縁周1/2残	口縁つまみ上り、底部上方に丸む。 全体に手づくね状。	直腹。謎?	
3-2 285 瓦器 盆			4層	8.8	1.6	6.8		黒灰	青浦	普通	底部口縁周わずかに残	手込みみの底部頭頂外化	内面灰素燒など土質質の 焼成度。焼成場 濃青瓦底 か。	
3-2 286 瓦器 梗?			4層	10.6	(23)			灰白	灰白	普通	口縁周一部残	口縁外反、外腹、口縁擦ナギ。内面 口縁相接ナギ(ハナマダギ)。	灰素燒などとんどなし。	
3-2 287 瓦器 梗?			4層	12.1	3.1	3.2		灰	灰	普通	高台変形 口縁周 1/2残	高台小腰頭頂が残す三丁目脚。 変形化、口縁周1/2残、外腹、口 縁擦ナギ。全体、壁に土寄せ、 内腹、口縁周ナギ、全体擦痕ナ ギ。足らみ手づくねがざるが 頭頂化しハナマダギ。切り離しな し。	高台 粘土層があり平滑感 なし。	
3-2 288 瓦器 梗?			4層	12.0	3.25	2.65		灰	青浦	普通	底部変形 口縁周 1/2残	高台腰小腰頭頂が残す三丁目脚化。 外腹、口縁周ナギ、全体擦痕ナ ギ。足らみ手づくねがざるが 頭頂化しハナマダギ。切り離しな し。		
3-2 289 瓦器 梗?			4層	11.9	(30)			青浦	青浦	普通	口縁周一部残	浅い・単脚式頭頂外腹に、外腹、口 縁擦ナギ全体擦痕ナギ。内面、相 い手づくね	二次既熱? 全体土脚質に 古い色味 多分は良い。	
3-2 290 瓦器 梗?			4層	11.2	(32)			黒灰	青浦	普通	底部中央欠損 口 縁周1/3残	全体に窓化、若干有り頭頂外化。 頭頂に付ける粘土層は少く、 頭頂擦痕ナギ。外腹、口縁周ナギ部擦 痕ナギ。内腹、相い手づくね。 切り離しなし。		
3-2 291 瓦器 梗?			4層	12.1	3.6	2.8		灰白	灰白	普通	口縁周のみ擦痕	高台腰小腰頭頂が残す三丁目脚化。 外腹、内腹、口縁ナギ、全体 擦痕ナギ。内腹、相い手づくね。 頭頂化しハナマダギとミゼキ	内面 粘土層が瓦の上に 付ける。口縁周1-2cmが素燒着 外腹付着	
3-2 292 瓦器 梗?			4層	(21)	3.2			灰	灰	普通	底部残	輪扁高者、弓脚化・板柱土。頭頂 に付ける粘土層は少く、 頭頂擦痕ナギ。外腹、口縁周ナギ部擦 痕ナギ。内腹、相い手づくね。 切り離しなし。	輪なつくり	
3-2 293 瓦器 梗?			4層	12.5	(34)			灰白	灰白	普通	高台わずかに残る	手あり、高台腰小腰頭頂化。 口縁はとく外腹なし。外腹、1.3 頭頂ナギ。全体擦痕ナギ。内腹、 頭頂化しハナマダギとミゼキ	灰素燒着前(弱い頭頂質)	
3-2 294 瓦器 梗?			4層	14.8	(31)			灰青瓦	青浦	普通	高台周1/2残	浅い・全体、口縁周1/2残、全体擦 痕ナギ。内腹、相い手づくね。	外腹 热然による変色、經 かな光る粒子多く入る。	
3-2 295 瓦器 梗?			4層	(21)				灰	灰	普通	底部周1/2残	高台腰小腰頭頂の外腹弱い、外 腹、口縁ナギ、底部一部擦痕ナ ギ。内腹、口縁ナギ強い擦痕ナ ギ。相い手づくね		
3-2 296 瓦器 梗?			4層	12.6	3.0			灰	灰	普通	底部変形 口縁周 1/2残	浅い・全体による頭頂化した高 台。内腹、セキ	乍期	
3-2 297 瓦器 梗?			4層	10.3	2.15			灰青 一部黑 灰	青浦	普通	底部周1/2残	高台腰小腰頭頂の外腹弱い、外 腹、口縁ナギ、底部一部擦痕ナ ギ。内腹、口縁ナギ強い擦痕ナ ギ。相い手づくね	V期 11世纪代?	
3-2 298 瓦器 梗?			4層	11.8	2.9			灰青	青浦	普通	底部周1/2残	浅い・体部、丸底で高台なし、口縁 外腹弱い。内腹、相い手づくね。	内面ととも灰素燒着後、附 外付着物多	
3-2 299 瓦器 梗?			4層	11.6	(30)			灰青	青浦	普通	口縁周わずかに残	浅い・相接、外腹、口縁擦ナギ、体 部擦痕ナギ。	灰素燒着はとんどなし、弱 い頭頂質	
3-2 300 瓦器 梗?			4層	11.3	(26)			灰白	灰白	普通	口縁周一部残	口縁小さく体部淡くなると考えら れる。外腹、口縁ナギ、体部擦痕ナ ギ。内腹、わざかにミゼキ抵抗	灰素燒着はとんどなし、弱 い頭頂質	

3-2区遺物觀察表11

測定 式 寸 寸 多 多 種 類	形 形 形	出土遺構	層位	ODP cm	表面 cm	底面 cm	内側色	外側色	胎土	残存状況	想定と特徴	備考
32 301 瓦器	板		1層	122 (26)	灰白	灰白	普通	普通	口縁周一部残	口縁少々く侈部底へ口縁外反、外 縁、口縁ナメ、底部指ササム、内面 にぎれ目1条	瓦器破壊部、 松土混り有	
32 302 瓦器上 器	板状		1層	(16)	灰	灰白	普通	普通	底部わずかに残 焼乳	手盤乳、平らから立ち上がる。	手盤 松土混り無、更に指 く収容、在地の土器 植林 の可能性もある。	
32 303 瓦器	板		1層	114 (36)	灰	に赤い 裏面	普通	普通	高台・高台一部残 口縁周一部残	西・東部に外縁反張、高台側面 く、内化、地内凹、外縁、口縁指 ササム底部ササム、切り離しなし	二次改修と考る赤面	
32 304 陶質器	板		1層		灰白	灰白	良	普通	底部わずかに残	輪高から丸みを帯びて立ち上がる 外縁、強い斜面感	輪高・底質と見られた輪軸の 可能性	
32 305 瓦器	板		1層		に赤い 裏面	普通	普通	高台わずかに残	窓・板面三角形の高台			
32 306 瓦器上 器	皿型		1層	25.3 (10.4)	黄灰	黄灰	細かな移粒 多	普通	口縁周一部残	内壁少々の凹凸、底部は削り成す。 口縁下折れ、内縁、底土層に擦 り切れ目有	内壁 内壁削り出	
32 307 瓦器上 器	皿型		1層	20.1 (6.2)	灰	灰			口縁周一部残	口縁下に追加した底面三角の残 焼がつく。底部はササム	口縁削り出、 底部ササム	
32 308 瓦器上 器	皿型		1層	21.0 (7.5)	黄灰	灰	普通	普通	口縁周わずかに残	口縁下に不規則な凹凸がある。 底下内側に凹凸	外縁 瓦器付着	
32 309 瓦器上 器	皿型		1層	11.4 (4.0)	に赤い 裏面	灰	普通	普通	口縁周わずかに残	口縁下に薄い凹		
32 310 土陶質 器皿	皿型		中		灰	灰	細かな白い 移粒	普通	口縁周一部残	内側する口縁下に残る凹	推測型 15世紀?	
32 311 石製品	石磚		中	18.1 (2.6)	帶鐵灰	帶鐵灰			口縁周わずかに残 焼乳	口縁下に不規則な凹凸の跡がある。 底下内側に凹凸	木刀片頭 13世紀~14世紀 頭下内側 14世紀	
32 312 重複系 圓筒形	石口 筒		1層	30.6 (3.1)	灰	灰	普通	普通	口縁周わずかに残	口縁周無い	外縁 口縁周無い	
32 313 重複系 圓筒形	石口 筒		1層	26.5 (4.1)	灰	灰	普通	普通	口縁周わずかに残	口縁周無い、底面厚い、体延長い	外縁 口縁周無い	
32 314 重複系 圓筒形	石口 筒		1層	(39)	2.0	灰	普通	普通	底部周一部残	手筋から聞く、内面回転ナメ、回 転系有り	外縁 粘土被み上げ前の 作り方有り、裏面厚い、 底面周無い	
32 315 重複系	石口 筒		1層	22.6 (6.2)	に赤い 縫	17.45± 1mm の跡記	1mm~2mm大 きな跡記	普通	口縁周わずかに残	口縁周部断面を示す。体延長的、 外内縫、回転ナメ	宝鏡町口縁周2型 2型式 14世紀	
32 316 櫛前地	櫛跡		小	17.7 6.7	縫	縫	1mm~2mm大 きな跡記	月牙孔のみ一部残	底面剥落、外縫、回転地		器汚れ	
32 317 櫛前地	櫛跡		1層		36.9	青黄	青黄	2mm大の口	口縁周わずかに残	口縁周部面上に痕跡		
32 318 櫛前地	櫛跡		中	21.2 (6.9)	灰	带鐵灰				大きくてくちばし形の痕跡は底を成しわ ざらず下方に重なる。内面とも 強い小切欠ナメ	瓦質と器、胎土 胎質に透 け、底地不明	
32 319 瓦器	縫		1層	6.2 (3.1)	黑灰	黑灰	普通	普通	口縁周わずかに残			
32 320 宝鏡地	大型		中	40.2 (6.7)	に赤い 縫	普通	普通	口縁周わずかに残	口縁周大きく底面断面を複数する	奈良町に土器を拾う 大 きな底盤を生む 9型式? 1400~		
32 321 雷紋地	大型		中	51.0 (4.3)	に赤い 縫	普通	普通	口縁周わずかに残	大きな玉の口縁	奈良町に土器を拾う 大 きな底盤を生む 9型式? 1400~		
32 322 宝鏡地	縫		4層	65.6 (5.6)	灰	灰	普通	普通	口縁周のみわずかに残	口縁上部のみに痕跡。口縁中央、 縫ナメで四角、外縫、回転ナメ底	奈良(中野) 5~6m型式	
32 323 瓦器上 器			1層			灰白	灰	1mm~2mm大 きな跡記	底部わずかに残る		瓦質で軽量。龟山系?	
32 324 宝鏡地	縫		中			普通	普通	全体ののみわずかに 残る	底部のヌクンゲ模様が残る			
32 325 瓦器	縫		中			黑灰			口縁周無い	口縁周玉ねぎ形になり下方向上折れ、半 中央はナメナマヒナマヒとなる。外 縫、口縫ナメ、内縫、口縫強いナ メ版工真んか	東南アジアの可能性	
32 326 石器	石磚		1層	9.5 19	分幅 10					サヨカイト、四隅式無釉石磚、扶 桑里窯(繩文時代の古窯跡)	重量 0.7 g	
32 327 石器	白石		1層	9.5 72	分幅 9.3					御石、半円弓石(西に御石御置石 は摩理にようじき子)子孫れる	重量 260 g	
32 328 石器	風石		半負	分幅 3.25	2.3					御石、舟形御置石とも御石によう じき子孫有る、金葉飴石による と考える宿有、金葉飴石	重量 321 g	
32 329 石器	風石		1層	9.5 17.8	分幅 8.5					御石、2面御置、御石、御置石による 參拝付有る、元赤色?、黒御石か	重量 1370 g	
32 330 石器	御石		4層	9.5 16.0	分幅 12.3					御石、御石に貼付有る、御石(内縫、 外縫)により子孫られる。この御 石を上にしためやう不安定	重量 2010 g	
32 331 石器	御石		1層	9.5 8.7	分幅 8.6					御石、御石に貼付有る、御 石に貼付有るなし	重量 600 g	
32 332 旗石	板状		4層	9.5 7.0	分幅 2.1	0.6			板状鉄製品、万子 の可能性	重量 24.6 g		
32 333 旗石	板状		半負	9.5 6.2	分幅 1.5	0.6			旗石、旗石折り垂 れ、先端尖鋭	重量 135 g		
32 334 旗石	旗石		4層	9.5 4.5	分幅 1.2	0.5				重量 33 g		

3-2区遺物観察表12

測定 式 寸 数 番 号	種別	剖面	出土遺構	層段	口径 cm	高さ cm	底径 cm	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
32 325 土器 直鉢				4層	全員 4.6	全幅 2.8	全厚 0.7				直鉢形舟型。L字型に曲り、左端 わずかに欠損。		重量 5.8 g
32 326 土器 直鉢				4層	全員 3.3	全幅 1.0	全厚 0.5				直鉢形。底面欠損。 底面方形。中空底。 底部修理。		重量 2.1 g
32 327 土器質 土器	土器質 土器	手 下 層	8.3	1.55	浅青釉	浅青釉				普通	直口圓筒とも一部 残存。	手すりのみの底部から開く。切り離 し全く。	
32 328 土器質 土器	土器質 土器	手 下 層	8.2	1.15	6.6	浅青釉	浅青釉	普通	直口圓筒とも 1/2残		直口圓筒状の底面から大きく 開き古い底部。内面とも封緘痕。 切り離し不明瞭直口。		
32 329 土器質 土器 高白 小盤		手 下 層	6.1	2.5	4.0	西青釉	西青釉	普通	高白周2/3残		直角高台から大きくて高く、浅歩 し白。内部内面とも同様ナメ		
32 330 土器質 土器 杯		手 下 層	(23)	8.2	浅青釉	浅青釉					丸みを帯びた平底から高く、内面のみに 開く。外側同様白。切り離し。な く底盤がつくり的	器内の相例あまりない。	
32 331 土器質 土器 杯		手 下 層	(25)	6.5	浅青釉	に高い 程度		普通	直口周1/2残		薄い円盤状の平底から立ち上 がる。内部中央に開口して存在		
32 332 土器質 土器 杯		手 下 層	(17)	(33)	浅青釉	浅青釉		普通	口縁周わざかに残		大きく開く。底部は端部反ぞみ。外 側、口縁周ナメ	有より拘の可逆性が高い。	
32 333 土器質 土器 杯		手 下 層	(38)	13.8	瘦	瘦	瘦	普通	口縁周わざかに残		口縁外及び内面に1条沈窓	内面わざかに赤色残り。赤 色能形の可逆性	
32 334 瓦質 土器 杯		手 下 層			黃灰	黃灰	黃	口縁周わざかに残			口縁ゆるやかに内板	板と考える	
32 335 瓦器 瓦		手 下 層	(50)	(22)	灰白	高十 リーブ					口縁ゆるやか。口縁にまみ上げ る端部わざかに内板。		
32 336 土器質 長颈 甕		手 下 層	304	(54)	に高い 程度	に高い 程度	2mm太 の移	口縁周わざかに残			口縁に溝し方やさうづ縫。 内面、口縁周ナメ	内面 口縁周付着	
32 337 土器質 土器 小皿		5層	7.8	2.2	5.7	に高い 程度	に高い 程度	普通	口縁ゆるやか		平底から高く開く。外側、底盤周 部ナメ。内板、内縁周ナメ。内縫 部は内板ナメ。静止系形の可 逆性	内面に赤切引に赤が書き 付いた跡跡。	
32 338 土器質 土器 高白 小盤		5層	7.6	2.7	4.1	に高い 程度	に高い 程度	普通	完形		円盤状高台大きく開く体形。 体部内板、外板、内縁周ナメ。底盤 部は内板ナメ。静止系形の可 逆性	丁寧な作り	
32 339 土器質 土器 板状 高台		5層	(30)	5.3	黃灰	黃灰		直口周1/2残	普通		直角高台の内板。小底の内縁 部が付くとよろしくなる。底込み 部分は付くる。内縫周ナメ		
32 340 土器質 土器 杯		5層	11.5	3.4	8.6	に高い 程度	に高い 程度	普通	直口周わざかに残 口縁周1/2残		底込みを付けると立ち上がる。 内縫周ナメ		
32 341 土器質 土器 杯		5層	11.9	3.2	7.2	青釉	青釉	7mm太 の移	口縁周わざかに残 入れる		平底から高く開く。底盤周外壁も 内板。口縁周ナメ。内板、底盤 部は内板ナメ。内縫周ナメ。内 縫部は内板ナメ	直角一部分中央に筋の方 の粘土腰付。表面現存具 材	
32 342 土器質 土器 杯		5層	11.0	3.3	6.0	に高い 程度	に高い 程度		直口周とむわ き小皿		平底から高く底盤周外壁も 内板。口縁周ナメ。内板、底盤 部は内板ナメ。内縫周ナメ。内 縫部は内板ナメ		
32 343 土器質 土器 杯		5層	12.1	4.0	7.5	浅青釉	浅青釉		直口周2/3残 直口周1/2残		直口周とむわ き小皿	直口周上部に筋し上げか。 内縫周。内縫部は内板ナメ。	
32 344 土器質 土器 杯		5層	11.2	6.1	7.1	浅青釉	浅青釉	普通	口縁定形		平底から高く開く。底盤周外壁も 内板。口縁周ナメ。内板、底盤 部は内板ナメ。内縫周ナメ。内 縫部は内板ナメ	内面 口縁付着	
32 345 土器質 土器 杯		5層	11.5	3.9	7.2	西青釉	西青釉	普通	口縁 周とも 一張残		直口周とむわ き小皿		
32 346 土器質 土器 杯		5層	(25)	6.7	浅青釉	浅青釉					円盤状高台底落ちこぼり、内面、 深い内縫。内縫周ナメによく埋 伏のタリ。内縫周ナメ。内縫部 は内板ナメ。内縫部は内板ナメ	タリ引板に木質織物用	
32 347 土器質 土器 杯		5層	(22)	7.7	に高い 程度	に高い 程度					直口周とむわ き小皿		
32 348 土器質 土器 杯		5層	(15)	6.8	黄白	黄白	良	直口周一張残			直口周とむわ き小皿		
32 349 土器質 土器 高白 小皿		5層	(24)	5.6	浅青釉	浅青釉	良	直口周1/2残			直口周とむわ き小皿		
32 350 土器質 土器 杯		5層	(45)	5.1	浅青釉	浅青釉	良	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 351 土器質 土器 杯		5層	(18)	5.8	瘦	青釉	普通	直口周1/2残			直口周とむわ き小皿		
32 352 土器質 土器 杯		5層 (下層)	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残			直口周とむわ き小皿		
32 353 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残			直口周とむわ き小皿		
32 354 土器質 土器 杯		5層 下	(18)	5.8	瘦	青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 355 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 356 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 357 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 358 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 359 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 360 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 361 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 362 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		
32 363 土器質 土器 杯		5層 下	(29)	6.1	瘦	浅青釉	普通	直口周1/2残 直口周			直口周とむわ き小皿		

3-2区遺物観察表13

調査 区 分	回数 番号	種類	器形	出土遺構	層位	DTP cm	器高 cm	底径 cm	内側色	外側色	胎土	残存状況	相想と特徴	備考	
3-2	364	土器部	瓶		5層	(16)	6.3	浅黄褐	浅黄褐	普通	高台変形	高台見込みより掘出し高台の芯を少し丸みを持てなく、高台込みダメ。既に高台。	相想？ 白瓷系罐入？		
3-2	365	黑色土 器部	瓶		5層	(15)	6.0	オリーブ 黒	灰	織かせ砂粒 入心	高台面1/2段	井が大きめ前面四角のしっかりした輪高台。足込みとガタ	黑色土器部 粗い感じ		
3-2	366	瓦器	瓶		5層	9.7	(23)	灰白	灰白	普通	口縁開わざかに残	陶・瓦器部屋外反い、外削、口縁開わざか、内削、胎・壊損等々	B-Sart		
3-2	367	白磁	瓶		5層	15.3	(49)	灰白	浅黄	良	口縁開1/2段	口縁開大きな玉手、外斜縁、外削1/4の芯、外削、口縁開わざか	内部ピンホール有		
3-2	368	白磁	瓶		5層 (17)	(25)	5.6	灰白	灰白	高台面1/2段底部 埋没	平底からわざかに腰に丸みを持て立ち上がる。外削底部はすかに輪ハサ	白磁瓶A型			
3-2	369	石器	砾石		5層	全員	全幅 80					砂岩または花崗岩、表面無凹、表面粒子ふれると、裏面、表面風化	重量 50.1 g		
3-2	370	石器	石斧		5層	全員	全幅 10.5					褐色花崗岩、打削痕有、石斧、本削部分			
3-2	371	瓦器	小瓶		5層- 2	7.1	1.3		灰	灰	普通	高台開口縁開わざ かに残	平底部のある底口縁外反、外削、口縫開子テ部底開口サニ、切り離しなし	外削 裂割吸盤強い	
3-2	372	瓦器	瓶		5層- 2	12.7	(30)		黒灰	黒灰	普通	高台わざかに残 口縁開1/2段	(陶)・底部開口長く外反古薄い瓶 底三均折、外削、口縁二段ナット 底開口サニ、内削、胎・壊損等々	紀伊型?	
3-2	373	石器	砾石		5層- 2	全員	全幅 8.10					砂岩、片面に凹み、経年には崩行型、擦れなし	重量 69.0 g		
3-2	374	石器	砾石		5層- 2	全員	全幅 7.9					砂岩、片面に崩行による凹み、経年には打削痕なし	重量 58.0 g		
3-2	375	黑漆器			6層	(16)	11.0	灰	灰	普通	高台面1/4段	底部部に高台、高台内削張りナット脚在底	内削、半寸付内削比ナット脚在底		
3-2	376	土器質 土器	瓶		6層	(33)	口縁開 等	浅黄褐	普通	普通	高台変形	断面内削部のしっかりした筋輪高台、丸みを帯びて立ち上がる、外削、口縫開子テ部底開口サニ、内削、胎・壊損等々	高台等5個		
3-2	377	手づく ね	瓶		6層	10.8	2.0	5.4	浅黄	浅黄褐	普通	底基1/2段 口 縁開わざかに残物 持着し	手づくねも丸みを帶び頗る C内削中央溝巻筋1つ、不明	内削に軸上とも巻き上げ底 手づくねか	
3-2	378	瓦器	瓶		6層	10.1	(15)		灰	深灰	普通	高台1/2段 口縫 開のL2段	丸底のみにならうと考えられる底部 から丸く外反する1段脚、当削、口縫開子テ部底開口サニ、内削、胎・壊損等々	白磁瓶A型、内削 口縫開 化、使用痕 10箇記録～11 記録半	
3-2	379	白磁	瓶		吉祥	18.2	(5.3)		灰白	灰白	普通	口縫開1一部残	口縫上部、表面的な立体感、体部下 部済弱、外削、剥離痕		
3-2	380	土器質 土器	瓶		幾乱	(24)	6.1	浅黄褐	浅黄褐	普通	底基周3/4段 残 底	底盤から大きく剥離、内削中剥離 痕	内削に粘土巻き上げ底 幾乱		
3-2	381	瓦器	瓶		幾乱	(1.1)	5.5	9.6	灰	普通	高台変形	断面三角形の丁寧な作りの底の大 きな高台、見込み器の芯1ガタ、切 切り痕なし	相違 第一まで？		
3-2	382	宋青瓷	大盤		直板	(26)	(22)	口縫開 等	口縫開 等			上下に大きめに施された口縫開部 割れとは密着しない			



## 第IV章 3-3区の調査

### 1.3-3区の概要

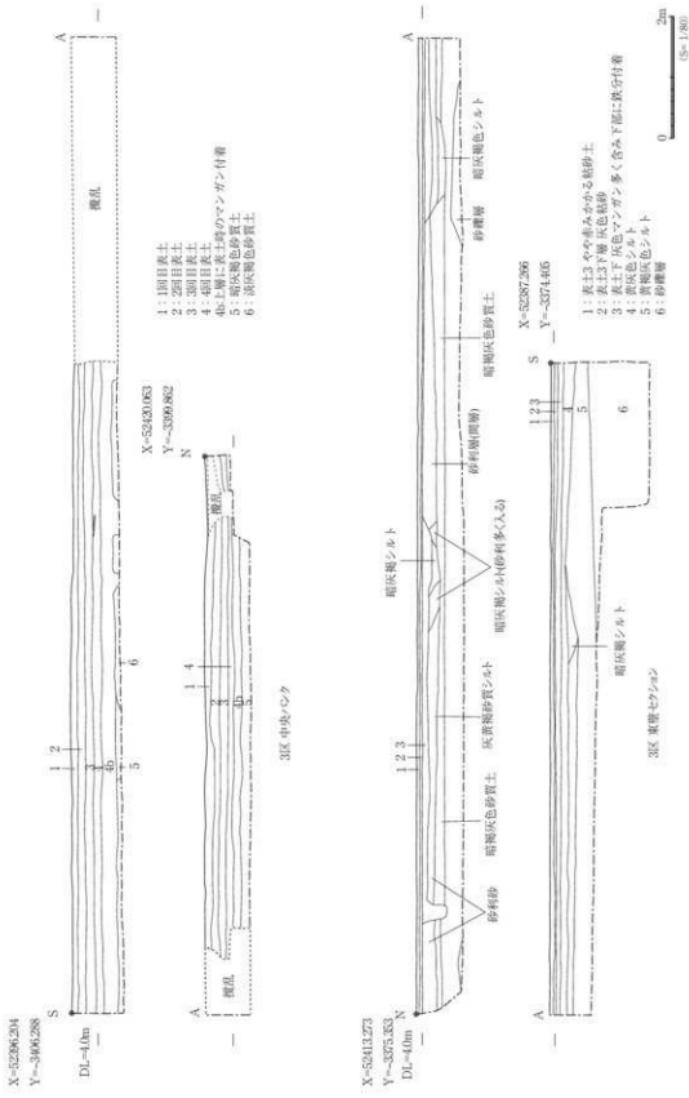
3地点は城山東山麓に位置し各調査区の中で現況では最も仁淀川に近接する調査地点である。3-1区は3地点を調査の便宜上3分割した南端部に位置し北側を3-2区と接している。調査前は宅地及び水田となっており、標高は約55.5mであった。基本層序は3-1区と同様で1~6層に大きく分けることができ4~6層が遺物包含層となっている。遺物包含層から出土した遺物も3-1区と同様に古代から近世までの遺物が出土している。出土遺物では13世紀半ばから14世紀と考えられる高台の退化した瓦器が多く出土していることが注目される。3-1区と異なる点として12世紀代と考えられる遺物がやや多い点が上げられる。

遺構は、上面、下面の二面で検出しており、上面では土坑5基、ピット109個、溝跡1条、井戸跡1基などを検出した。また下面からは土坑33基、ピット401個、溝跡1条、性格不明遺構4ヶ所を検出した。ピットは多く検出できたが掘立柱建物跡として復元できたものは6棟のみであった。



※ 3地点拡張区については「上ノ村遺跡Ⅱ」で報告

4-1図 調査区位置図



#### 4-2図 セクション図

## 2. 上面の遺構と遺物

上面で検出した遺構は土坑5基、ピット109個、溝跡1条、井戸跡1基である。遺構検出標高は3.8~3.9mで検出遺構埋土は7種類を確認しており灰褐色粘質土と暗褐色粘質土がほとんどである。灰褐色粘質土、暗褐色粘質土は4層相当と考えられ、当該埋土の遺構は4層出土遺物に伴う時期の可能性が高いと考えられる。遺構の分布は中央部と調査区西側山裾に偏った状態で分布している。

以下は精査の結果欠番とした遺構である。

土坑 SK6

ピット P3・P12・P14・P15・P21・P29・P71・P72・P96・P111・P115・P122・P123

### (1) 土坑 (SK)

土坑は5基検出しておりSK3を除きいずれも長方形のプランをもつものである。遺構埋土から土師質土器、瓦器などの中世に属する遺物が出土しているが出土量は少なく細片が出土するのみである。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	0.94 × 0.79 × 0.23	長方形	逆台形	N - 21° - W	土師質土器・瓦器		
SK2	1.93 × 1.10 × 0.12	長方形	皿状	N - 88° - W	土師質土器・瓦器・備前焼		
SK3	0.78 × 0.74 × 0.41	円形	舟底形	N - 84° - E	土師質土器・須恵器		一段底
SK4	1.42 × 0.77 × 0.19	長方形	椭形	N - 4° - E	瓦器・瓦質土器・常滑焼・須恵器	13世紀半ば	相模型瓦器が一期
SK5	0.92 × 0.60 × 0.15	長方形	皿状	N - 16° - W	土師質土器・瓦器・常滑焼		

表4-1 上面土坑一覧表

SK1

SK1は調査区東端部で検出した平面形は梢円に近い長方形状の土坑である。長軸0.94m、短軸約0.8m、深さ約23cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。埋土は1層が暗灰褐色粘砂土、2層が褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器が出土しているが細片が多く、図示できた1は被熱した瓦器である。

SK2

SK2は調査区中央部で検出した。平面形は長方形で長軸約1.9m、短軸約1.1m、深さ約12cmを測り浅く平坦な土坑である。断面形は皿状で埋土は1層が灰褐色粘砂土、2層が黄褐色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、備前焼擂鉢が出土している。

SK3

SK3は調査区中央部の遺構が密集する場所で検出した円形の土坑である。直径は約0.8m、深さは約41cmを測る。二段底状で埋土は1層は暗灰褐色粘砂土に黄褐色小礫が混じる土、2層は暗灰褐色粘砂土である。埋土中から土師質土器細片が5点出土している。

SK4

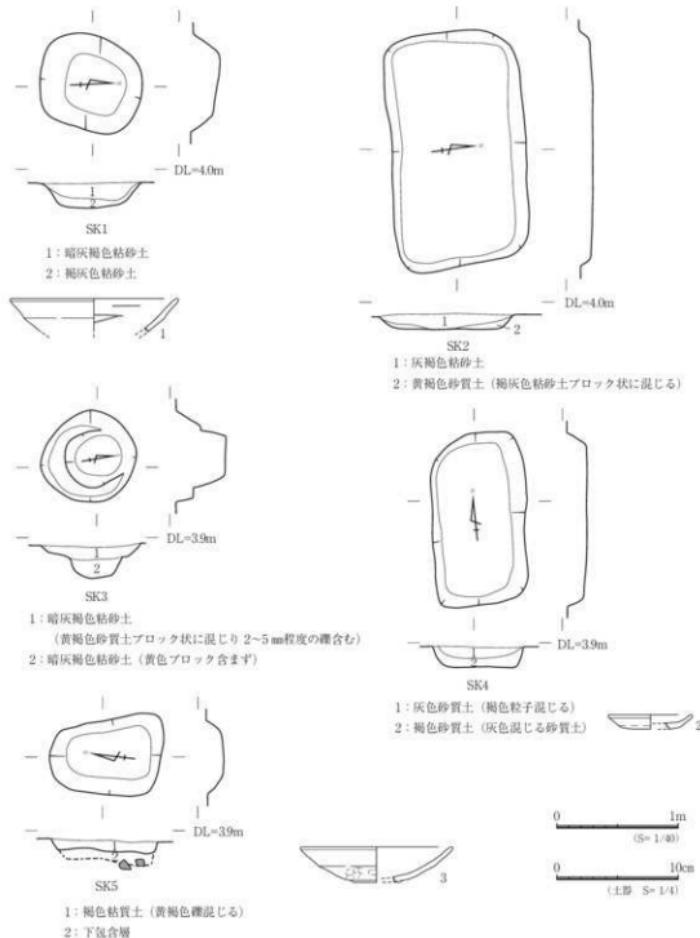
調査区西側より検出した長方形の土坑である。長軸は約1.4m、短軸は約0.8m、深さは約20cmを測る。断面形は箱形で遺構埋土は1層が灰色に褐色粒子が混じる砂質土、2層は褐色に灰色混じる砂質土であった。埋土中からは瓦器細片が約30点と須恵器の細片が1点出土している。図示できた2は瓦器皿で平坦な器形である。



4-3図 上面造構全体図

## SK5

SK5は調査区西側で検出した。平面形は橢円に近い長方形状で長軸約0.9m、短軸約0.6m、深さ約15cmを測る。断面形は皿状で埋土は褐色粘質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、常滑焼が出土している。図示できた3は瓦器碗で高台は扁平になっており和泉型瓦器碗IV期と考えられる。被熱によって赤変している。



4-4図 SK1～5

## (2) 井戸跡 (SE)

SE1は調査区西側で検出した遺構である。検出時 $6.6 \times 7.0$ mの不整形な円形プランを呈していた。検出埋土は他の遺構と異なり、黄褐色砂質土で部分によって異なっていた。このため埋土が異なった部分を当初 IKO1 と IKO2 として遺構番号を付けた。検出面下約 40cm、標高約 3.45 m で石の集中した部分が確認した。上層の 20cm程度の石を除去すると大きな石が中央部の空間を囲む様に円形に配置された状態を検出でき石積の井戸枠であることを確認した。このため IKO1・2 は井戸掘方とし SE1 は石積み井戸枠本体の遺構番号とした。

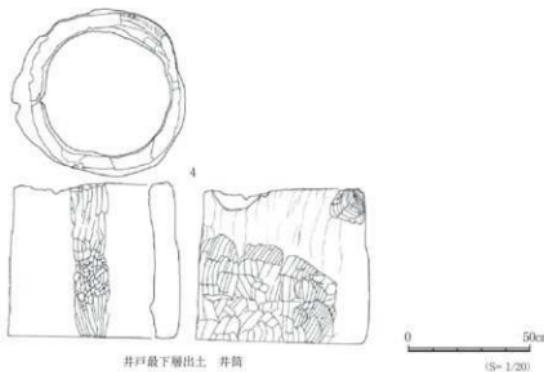
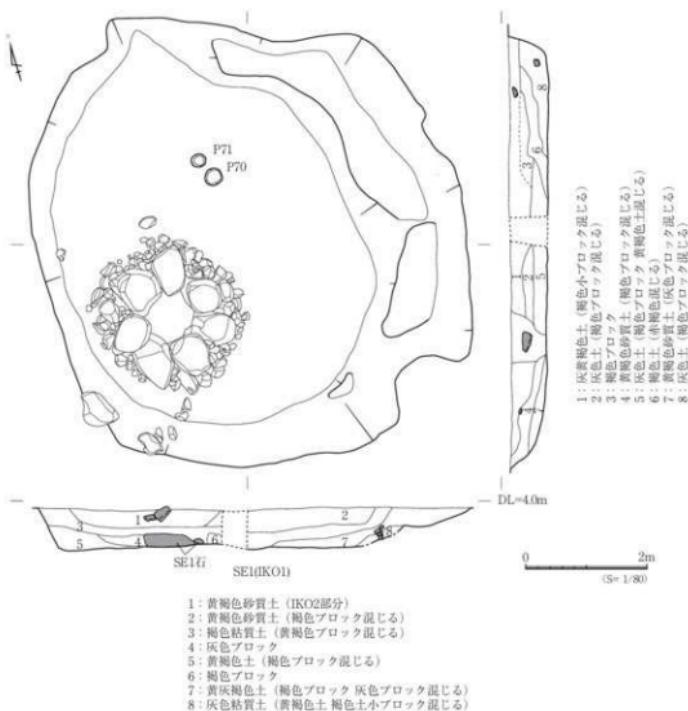
調査は井戸枠内部の掘削から行い、石組みの確認を行ったところ非常にしっかりした石組みであることが判明した。このため安全を確認しながら内部を掘削し石組み最下部まで約 4.3 m 検出を行い、最下部下に削り抜き井戸枠が存在することを確認することができた。しかし、井筒部分については安全確保が困難と判断し井戸枠内部調査を終了した。

掘方部分は安全確保を行なながら調査するためには、大規模な掘削を必要とすることから人力掘削による調査を断念し、重機掘削による半截により井筒検出までの調査を行った。

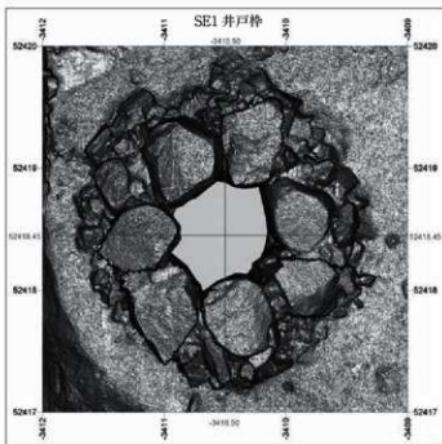
石組み井戸枠は、内径約 0.7 m、深さ約 4.3 m で上端から最下部まで円筒形の断面形を呈する。

検出面では井戸枠組石の外側に直径約 2.4 m の範囲に裏込め状の直径 20cm 程度の割石がみられ、組石は裏込めに向かって長軸を取り、短軸を井戸枠内部の表面とする構造がみられた。組石に用いられた石材は長軸約 70cm、短軸約 50cm、幅約 15 ~ 20cm の白色砂岩質のものである。最下部の井筒は削り抜き式の木製で外径 62cm、内径 50cm、高さ 62cm を測る。樹種鑑定は行ってないが肉眼観察では松の可能性が高いと考える。

埋土の状況は石組が検出されるまでの掘方埋土はブロック状になっており埋め戻しが想定される。井戸枠内部は粘土状になっていた。また井筒内部には砂が多量に詰まった状態であった。埋土中から出土した遺物は、掘方部分から中世遺物が多く出土し特に瓦器碗、瓦器皿が多く出土している。3 地点で検出した他の中世遺構と差異は認められないが 1 点近世遺物が出土しており、中世遺構を壊して掘り込まれた可能性を示している。井戸枠内部からは遺物の出土は少ないが近世陶磁器 3 点図示できた。22 は内野山窯産の銅緑釉碗で外面透明釉、内面銅緑釉が施釉されている。内野山窯 I 期、1610 年を上限として 17 世紀第 2 四半期頃（「内野山北窯跡」1996 年 佐賀県教育委員会）のものと考えられる。この井戸跡は近世初頭の時期と考えられる。



4-5図 SE1



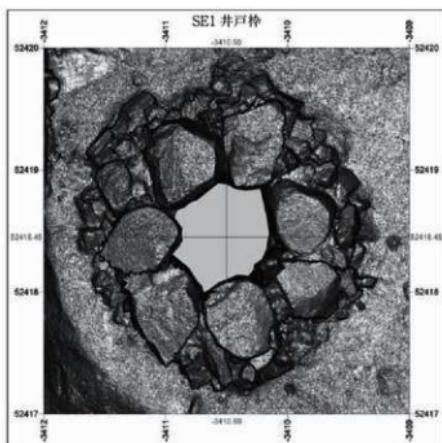
SE1 井戸枠東側

SE1 井戸枠西側



4-6図 SE1

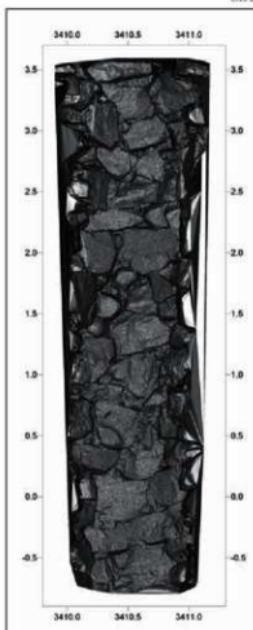
0 1m  
(S=1/40)



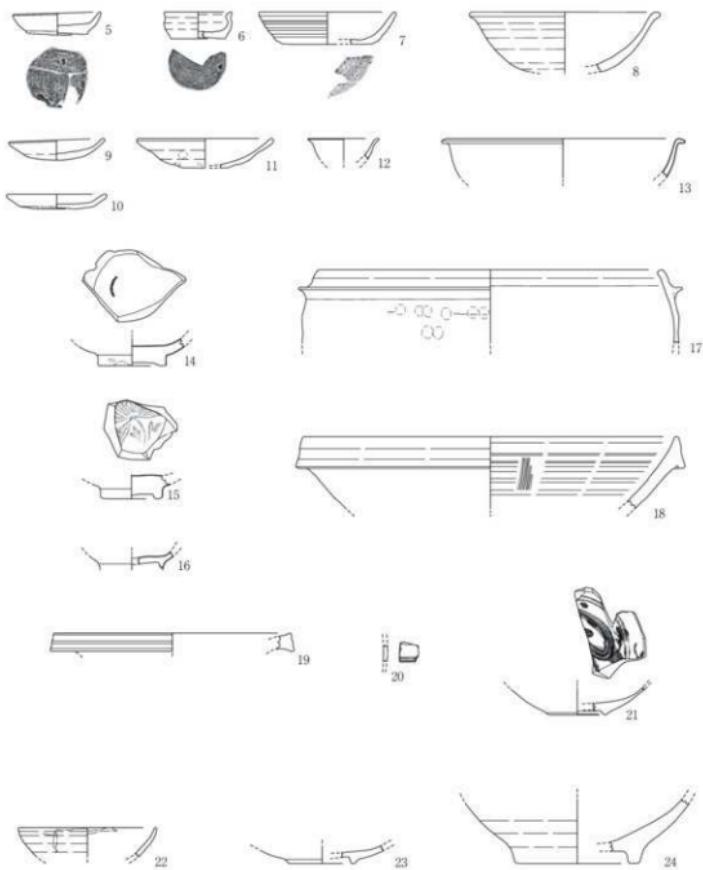
SE1 井戸枠北側



4-7 図 SE1



0 1m  
(S= 1/40)



4 - 8 図 SE1 出土遺物

### (3) 溝跡 (SD)

溝跡は SD1 と SD7 の 2 条検出しており、SD7 は 3-2 区で検出した SD7 の延長部分である。

#### SD1

SD1 は調査区西側で検出した東西方向の遺構である。検出規模は延長約 3.7 m、上端幅 0.5 m、深さは約 16 cm を測り断面形は箱形である。埋土は灰褐色粘砂土に黒褐色ブロックで多く混じり下層では黒褐色ブロックが少なくなる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器の細片が出土している。図示できるものはなかったが、瓦質のしっかりした鍔が付く羽釜口縁が出土している。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	主軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD1	3.7 × 0.5 × 0.16	直線	箱形	N - 88° - E		土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器		
SD7	2.25 × 0.5 × 0.2	直線	U 字状	N - 2° - W	3-1 区 SD25	近世陶磁器、土師質土器	3-2 区 SD7 と同一	

表 4-2 溝跡一覧表

### (4) 石列

調査区西側で検出した。石列 1 は 3-2 区南端部で検出した東西方向の石列である。3-3 区で検出した南北方向石列 2 とは直交し、石列 3 ともほぼ直交する。石列 1-3 の内側部分は多量の黄褐色砂質小砾を含み整地土の可能性が考えられる。このため石列 1-3 は整地に伴う区画石列の可能性が考えられるが、石列 1 の西端部は石列 2 より西側に延びていることや石列 1 に並行する石列が検出できなかつたことなどから確定できない。石列内側からはピットが検出されているが建物跡は復元できなかつた。下面では溝状の窪地と考えられる下 IKO2 を検出していることから、これに伴う地業が行われた可能性は高いと考えられる。

#### 石列 1

石列 1 は 3-2 区南端部で検出した東西方向の石列である。検出長は 6.1 m、軸方向は N - 80° - W である。検出標高は約 4.0 m で三段になる部分もみられ基底部の標高は 3.6 m である。石の大きさは比較的大きなものが多く長軸 80cm、短軸 60cm、高さ 15cm の石もみられる。石材は白色の砂岩である。

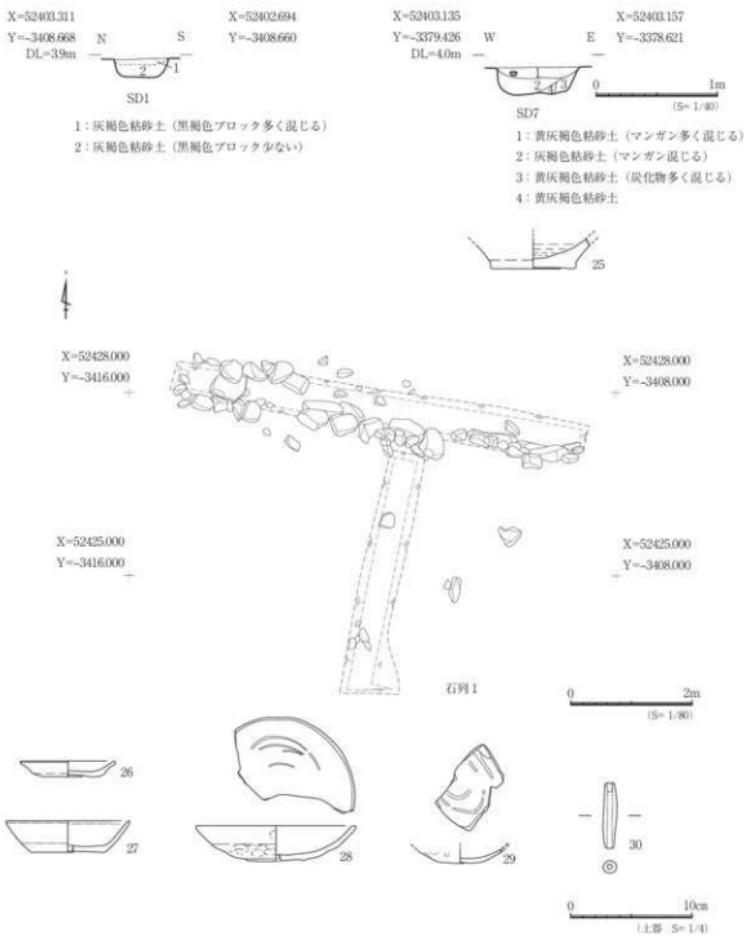
#### 石列 2

石列 2 は石列 1 の南西で検出した南北方向の石列である。検出長は 5.8 m、軸方向は N - 10° - E で石列 1 と直交する。検出標高は約 3.6 ~ 3.7 m で積み石状にはならない。石の大きさは石列 1 のものに比べて小さなものが多く大きなものでも長軸 30cm、短軸 25cm 程度である。石材は白色の砂岩のものがほとんどであるが、黄褐色風化礫もみられる。

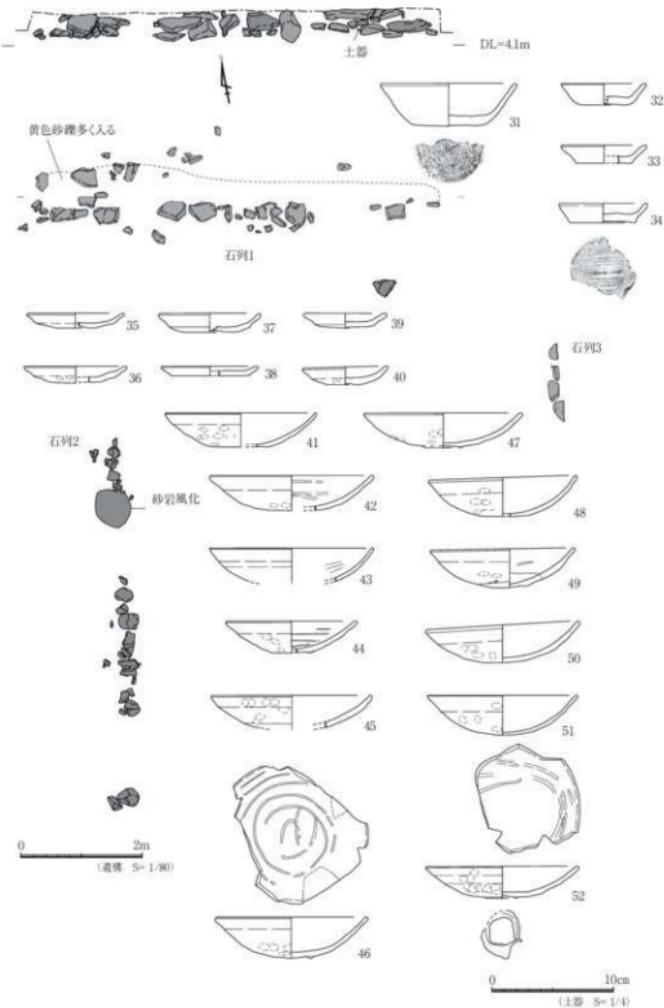
#### 石列 3

石列 3 は 4 石が並ぶのみであったが、石列 1・2 が整地層を区画する石列の可能性が考えられたため検出を行うと石列 2 に並行する状態で石が並んだため石列とした。検出長は 1.3 m、軸方向は N - 8° - E である。

検出標高は約 3.6 ~ 3.7 m で石列 2 と同様に積み石状にはならない。石は長軸でも 20cm を超えるものが無く小さい。石材は白色の砂岩である。



4 - 9 図 SD1・7・石列 1



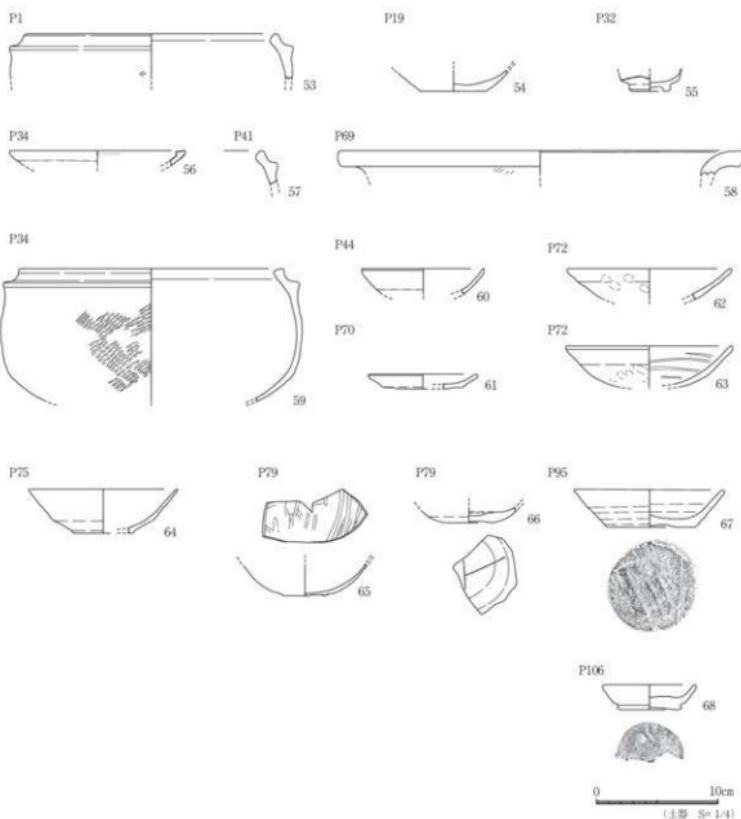
4-10図 石列1・2・3

## (5) ピット (P)

上面では検出時 P1 ~ 124 までを遺構番号を付けたが調査の結果、13 個が欠番となりピットと確認できたものは 109 個であった。出土遺物が図示できたピットと下層で検出したピットと掘立柱建物跡の柱穴になる可能性がある物だけを下記の表にして特徴をあげる。

遺構名	平面形	長径 × 短径 (底径) (cm)	深さ (cm)	埋土	回数	遺物	備考
P1	円形	50	43	褐色色粘質土	53	播磨型土器買刃茶 16世紀代の可能性	
P19	円形	35	46	褐色色粘質土	54	土師質土器底部 摩耗	
P30	不整形	100 × 58	47				
P32	円形	60	73	褐色色粘質土	55	白磁 八角直 15世紀後半	
P33	円形	20	49				S83
P34	椭円形	60 × 53	50	褐色色粘質土	56-59	56施釉 斧刃鋸歯の可能性 59播磨型土器買刃茶 16世紀代の可能性	
P41	円形	26	30	褐色色粘質土	57	播磨型土器買刃茶 16世紀代の可能性	P27に切り合う
P44	円形	44	15	褐色色粘質土	60	白磁頭小盤丸い体部	P45を切る
P45	椭円形	50 × 32	44	褐色色粘質土		土師質土器 丸盤	S83
P46	円形	30	30	褐色色粘質土		土師質土器 丸盤	S83
P47	椭円形	58 × 50 杜直 16	47	灰褐色色粘質土		土師質土器 丸盤	S81桂瓶
P50	椭丸方形	46	30	灰褐色色粘質土			S81
P52	円形	32	40	褐色色粘質土			P32と切り合う
P53	円形	28	17	褐色色粘質土			P45と切り合う
P56	不整形	50 × 28		灰褐色色粘質土		土師質土器	P33と切り合う
P57	不整形	52 × 29	34	灰褐色色粘質土		土師質土器	P59と切り合う 2個の可能性
P59	円形	30	25	褐色色粘質土			P57と切り合う
P69	円形	32	29	褐色色粘質土	58	灰褐色 壺	
P70	円形	28	15	青褐色色粘質土	61	瓦器直 圓平な彩羽	SE1 壺が鉢横出窓で検出 直側か
P72	円形	34	52	灰褐色色粘質土	62-63	63瓦器柄 口縁外反長い	
P75	円形	32	29	褐色色粘質土	64	土師質土器杯 海手	斜直状部分有り
P79	椭円形	52 × 34	53	褐色色粘質土	65-66	65瓦器碗 斜面小さな三角形の高台 66直底器 外底へラ記号	
P95	椭円形	32 × 25		褐色色粘質土	67	土師質土器杯 底部切り離し底無し板口 もししくはヘラ痕跡	
P106	円形	19	33	褐色色粘質土	68	土師質土器小皿 体部丸み、回転系切り	
P110	椭円形	60 × 48	39	褐色色粘質土		土師質土器 丸盤	S81
P112	円形	46	15	褐色色粘質土		土師質土器 丸盤	S83

表4-3 上面ピット計測表



4-11図 上面ピット出土遺物

### 3. 下面の遺構と遺物

下面で検出した遺構は掘立柱建物跡を6棟とピット列1条、土坑33基、ピット401個、溝跡1条、性格不明遺構4ヶ所である。遺構検出標高は約3.6mで遺構検出埋土は上面と同じく7種類確認しており暗褐色粘質土の遺構がほとんどだが、灰褐色粘質土の埋土の遺構が約10%混じる。暗褐色粘質土は5層相当と考えられ、5層出土遺物に伴う時期の遺構の可能性が高いと考えられる。遺構の分布は中央部と調査区西側山裾に偏った状態で分布しているのは上面の状況と同じであるが中央部の密集度が高くなり南側まで遺構の分布が広がっている。

以下は精査の結果欠番とした遺構である。

土坑 下SK12・下SK14・下SK23

ピット 下P5・下P8・下P10・下P15・下P16・下P17・下P18・下P34・下P63・下P66・下P92・下P112・下P115・下P140・下P164・下P238・下P301・下P309・下P314・下P321・下P322・下P323・下P376・下P400・下P401

#### (1) 掘立柱建物跡・柱穴列 (SB・柱穴列)

掘立柱建物跡は調査中は建物跡と認識することはできなかったが、上面、下面で検出したピットから6棟を図上復元することができた。主に下面で検出したピットが柱穴となっているが一部上面で検出したピットが柱穴となる掘立柱建物跡もみられる。上面、下面で検出したピットで一つの掘立柱建物跡を復元した理由として、上面遺構の埋土となる4層相当包含層出土遺物と下面埋土となる5層相当包含層出土の遺物に明瞭な時間的差異が認められないこと、ピットの分布がほぼ同一であること、掘立柱建物跡の柱穴としたピットの底面のレベルがほぼ同一であることなどがあげられる。

SB1～3は重複している。またSB4・5は近接している。SB1～5はピットが最も集中する調査区中央部で検出した。柱穴列1はピットが1.5～1.8mの等間隔で並ぶが、対面側が無く建物跡にはならなかった。

遺構名	梁行×桁行(間)	梁行×桁行(m)	棟方向
SB1	1×2	18×3.6	N-60°-W
SB2	2×3	28×5.1	N-86°-W
SB3	1×2	15×3.3	N-75°-W
SB4	1×3	18×5.4	N-88°-W
SB5	1×2	20×3.8	N-90°-W
SB6	2×2	20×3.6	N-82°-W
柱穴列1	4	69	N-80°-W

表4-4 掘立柱建物跡計測表

SB1

SB1は調査区東側に位置し下IKO2に隣接しSB2とは重複している。柱穴は5個を検出しており、梁行1間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は1.6～2.0mを測り、建物規模は1.8m×3.6mで面積は6.48m<sup>2</sup>である。棟方向はN-60°-Wである。検出した柱穴では上面で検出したものが3個、下面で検出したものが2個である。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で柱穴規模は直径40～50cmである。埋土中からは土師質土器、瓦器が出土するがいずれも細片で図示できるものはなかった。



4-12図 下面造構全体図

## SB2

SB2は調査区東側に位置しSB1・3と重複している。柱穴は10個を検出しており、梁行2間×桁行3間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が1.3m、桁行が1.3～1.8mを測る。建物規模は2.8m×5.1mで面積は14.28m<sup>2</sup>である。棟方向はN-86°-Wである。検出した柱穴では上面で検出したものが6個、下面で検出したものが4個である。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で柱穴規模は直径25～50cmである。埋土中からは土師質土器、瓦器、青磁が出土しているがいずれも細片で図示できるものはなかった。

## SB3

SB3は調査区東側に位置しSB2と重複している。柱穴は6個を検出しており、梁行1間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が1.3～1.5m、桁行が1.5～1.8mを測る。建物規模は1.5m×3.3mで面積は5.25m<sup>2</sup>である。棟方向はN-75°-Wである。検出した柱穴では上面で検出したものが3個、下面で検出したものが3個である。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で柱穴規模は直径35cm程度である。埋土中からは土師質土器、瓦器でいずれも細片で図示できるものはなかった。

## SB4

SB4は調査区中央部に位置しSB5と隣接している。柱穴は7個を検出しており、梁行1間×桁行3間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が1.8m、桁行が1.5～2.0mを測る。建物規模は1.8m×5.4mで面積は9.72m<sup>2</sup>である。棟方向はN-88°-Wである。検出した柱穴はすべて下面で検出したものである。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で柱穴規模は直径20～55cm程度である。埋土中からの出土遺物は少なく下P144から瓦質擂鉢の細片が出土したのみである。

## SB5

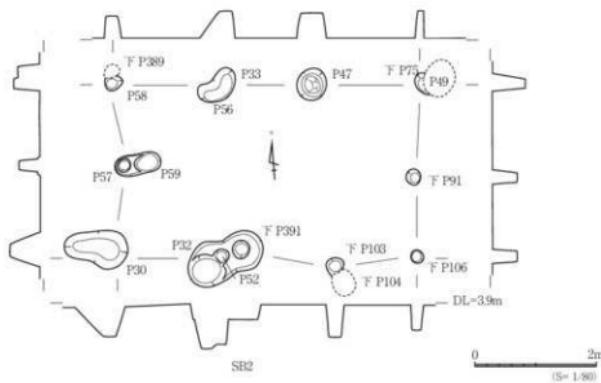
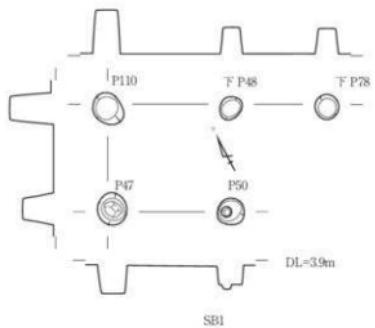
SB5は調査区中央部に位置しSB4と隣接し並行している。柱穴は5個を検出しており、梁行1間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が2.0m、桁行が1.8～2.0mを測る。建物規模は2.0m×3.8mで面積は7.6m<sup>2</sup>である。棟方向はN-90°-Wである。検出した柱穴はすべて下面で検出したものである。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土、黄褐色粘質土で柱穴規模は直径50～90cmである。埋土中からの出土遺物は少なく土師質土器、瓦器細片がわずかに出土するのみである。

## SB6

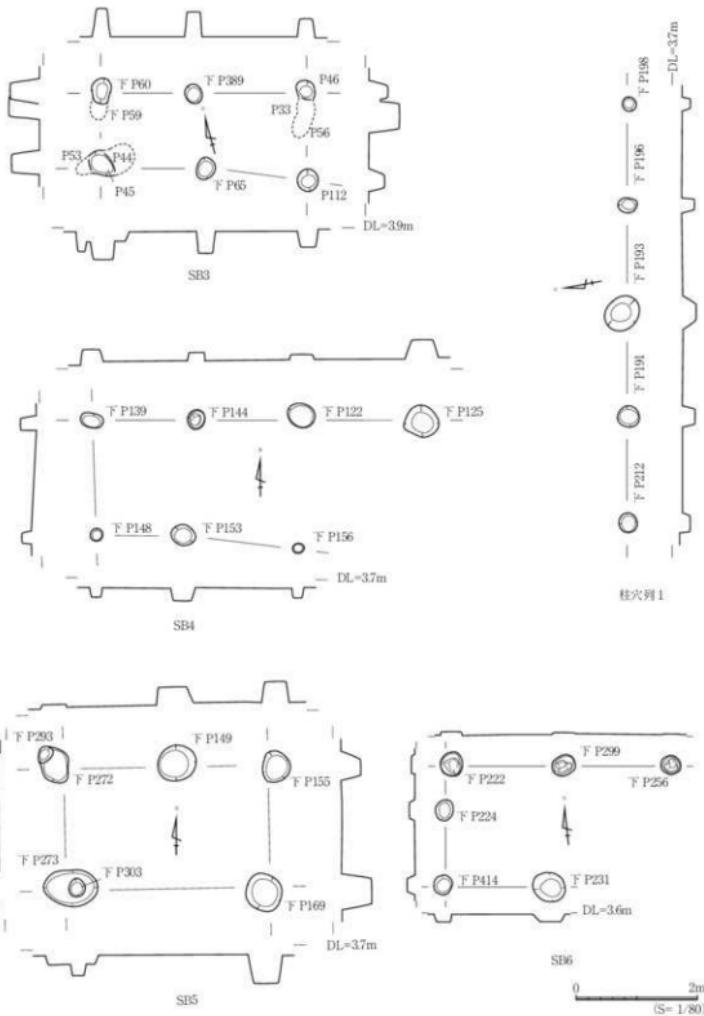
SB6は調査区南側に位置し他の掘立柱建物跡からは離れている。柱穴は6個を検出しており、梁行2間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行が0.8～1.2m、桁行が1.8mを測る。建物規模は2.0m×3.6mで面積は7.2m<sup>2</sup>である。棟方向はN-82°-Wである。検出した柱穴はすべて下面で検出したものである。柱穴埋土は灰褐色粘質土、暗褐色粘質土で下P229のみ茶褐色粘質土である。柱穴規模は直径40～60cmである。埋土中からの出土遺物は他の掘立柱建物跡と同じく少ない。土師質土器、瓦器細片がわずかに出土するのみで図示できるものはなかった。柱穴列1

柱穴列1は調査区南側に位置する。1.7～1.8mの等間隔で直列する柱穴5個を検出するが対応する柱穴を確認することができず建物跡を復元することはできなかった。柱穴列全長は6.9mで方

向はN-80°-Wである。検出した柱穴はすべて下面で検出したものである。柱穴規模は直径25~60cmを測る。柱穴埋土は全て暗褐色粘質土である。埋土中からの出土遺物は土師質土器、瓦器細片がわずかに出土するのみで図示できるものはなかった。



4-13図 SB1・2



4 - 14 図 SB3 ~ 6・柱穴列 1

## (2) 土坑 (SK)

土坑は下面では33基検出しており下SK1～33までの遺構番号を付け調査した。精査の結果下SK12・14と下SK23は検出のみで欠番とした。遺構埋土は暗褐色粘質土のものが多く主に暗い褐色系の色調の埋土であるがわずかに灰色土のものもみられる。埋土からは土師質土器、瓦器などの中世に属する遺物が出土しているが白磁や東播系須恵器などの古代末の遺物も出土している。細片の出土が多く図示できる遺物は少なかった。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
F SK1	1.52 × 1.06 × 0.13	長方形	南北	N = 16° - W	土師質土器・瓦器・青磁・鐵鉄		F P89に切られる
F SK2	1.60 × 0.95 × 0.38	扇円形	東西	N = 83° - W	土師質土器・瓦器・青磁	13世紀半～	和泉型瓦器N型
F SK3	1.78 × 0.95 × 0.27	扇円形	南北	N = 0° - E	土師質土器・瓦器・青磁・鐵鉄		F P220に切られる
F SK4	1.04 × 1.04 × 0.16	円形	南北	N = 32° - W	土師質土器・瓦器・扇形器		
F SK5	1.10 × 1.00 × 0.29	扇円形	南北	N = 24° - W	土師質土器・瓦器		
F SK6	1.23 × 1.01 × 0.31	扇円形	南北	N = 7° - E	土師質土器・瓦器		灰入る
F SK7	3.92 × 0.57 × 0.12	溝状	南北	N = 84° - E	土師質土器・瓦器		
F SK8	2.98 × 0.65 × 0.26	溝状	南北	N = 8° - E	土師質土器・瓦器・東播系須恵器・青磁・土錐	14世紀～	F P127に切られる
F SK9	1.29 × 0.51 × 0.12	扇円形	南北	N = 8° - W			F P269に切られる
F SK10	1.43 × 0.80 × 0.07	扇円形	南北	N = 58° - W	土師質土器・瓦器・白磁・青磁		和泉型瓦器N型
F SK11	1.46 × 0.97 × 0.92	扇円形	南北	N = 68° - W	土師質土器・瓦器		
F SK12	欠番						
F SK13	1.20 × 1.03 × 0.16	扇円形	南北	N = 80° - W	土師質土器・瓦器		
F SK14	欠番						
F SK15	1.13 × 0.75 × 0.24	扇円形	U字状	N = 22° - W	土師質土器・瓦器・青磁		
F SK16	2.14 × 1.89 × 0.25	長方形	二段状	N = 57° - E	土師質土器・瓦器・青磁・丸形容器		近世土坑の可能性
F SK17	1.45 × 1.45 × 0.34	円形	南北	N = 30° - W	土師質土器・瓦器・黒色土器・埴輪器		近世土坑の可能性
F SK18	1.23 × 1.17 × 0.38	扇円形	U字状	N = 21° - W	土師質土器・瓦器		近世土坑の可能性
F SK19	1.76 × 1.32 × 0.38	扇円形	南北	N = 65° - E	土師質土器・瓦器・白磁・青磁		近世土坑の可能性
F SK20	1.22 × 0.78 × 0.08	長方形	南北	N = 0° - E			
F SK21	3.22 × 0.46 × 0.27	溝状	南北	N = 3° - E	土師質土器・瓦器		
F SK22	4.71 × 0.56 × 0.27	溝状	南北	N = 79° - W	土師質土器・瓦器	13世紀半～	
F SK23	欠番						
F SK24	(1.20) × 1.31 × 0.16	扇円形	南北	N = 81° - W	土師質土器・瓦器・瓦質土器・青磁		
F SK25	0.92 × 0.84 × 0.10	扇円形	南北	N = 31° - W	土師質土器・瓦器・東播系須恵器・焰形器		床面より F 3515
F SK26	1.25 × 0.51 × 0.20	扇円形	南北	N = 56° - E	土師質土器・瓦器・東播系須恵器	13世紀半～	東播系須恵器期～
F SK27	2.39 × (1.68) × 0.33	-	南北	N = 13° - E	土師質土器・瓦器・須恵器・白磁・近世陶磁器・土錐・鐵鉄		
F SK28	1.67 × 0.86 × 0.16	扇円形	南北	N = 43° - W			
F SK29	1.37 × 1.31 × 0.11	円形	南北	N = 67° - W	須恵器		床面からピット
F SK30	1.33 × 0.86 × 0.26	扇円形	南北	N = 30° - W	共生土器		共生
F SK31	1.63 × 1.22 × 0.11	扇円形	南北	N = 18° - E	土師質土器・瓦器・青磁		
F SK32	0.74 × 0.68 × 0.07	扇円形	南北	N = 21° - E	土師質土器・瓦器		
F SK33	(1.75) × 1.31 × 0.06	-	南北	N = 68° - W	土師質土器・瓦器		

表4-5 下面土坑計測表

### 下 SK3

下 SK3 は調査区中央部南側で検出した長方形の土坑である。長軸は約 1.8 m、短軸約 1.0 m、深さは約 27cm を測る。断面形は逆台形である。埋土は 1 層が黄褐色砂質土、2 層は褐灰色粘砂土に灰色土が混じった土である。埋土中から土師質土器、瓦器、青磁の細片と鉄釘が出土している。図示できた 69 は土師質土器小皿で底部は回転糸切りである。70 は平底の青磁皿で内面には櫛描き文が施される同安窯系の青磁と考えられる。

### 下 SK8

下 SK8 は調査区東側で下 P127 に切られた状態で検出した溝状の土坑である。長軸は約 3.0 m、短軸約 0.65 m、深さは約 26cm を測り、長軸 N - 8° - E である。断面形は逆台形状である。埋土は 1 層が灰褐色砂質土に砂利が混じる土、2 層は淡灰褐色砂質土である。埋土中から土師質土器、瓦器、東播系須恵器、青磁、土錐片が出土している。図示できた 72 は完形の瓦器碗で口径に比して器高が低く高台は無くなっている。二次被熱によると考えられる赤変がみられる。和泉型瓦器Ⅳ期でも新しい時期のものと考えられ 13 世紀後半以降の時期と考えられる。

### 下 SK16

下 SK16 は調査区で検出した土坑で検出時は方形の土坑であったがトレーナによる断面観察で二段底状になってることが確認できていたため、上層埋土を掘削し検出作業を行うと中央よりやや東側で円形プランを確認することができた。完掘状態は方形土坑の床面に円形土坑が存在する形となっている。長方形土坑の長軸は約 2.1 m、短軸約 1.9 m、深さ約 25cm を測り、長軸方向は N - 57° - E である。円形土坑は直径約 1.45 m で深さ約 10cm を測る。掘方は直線的で二段になる。埋土は長方形土坑部分が灰色砂質土に黄褐色粒子が混じった土と灰色粘質土である。円形土坑は灰色粘質土に砂利が混じったものであった。いずれも灰色の埋土であり、円形土坑は長方形土坑の一部と考えられ同一造構と考えられる。埋土中からは土師質土器、瓦器、青磁、常滑焼又は備前焼と考えられる炻器などが出土している。図示できた 73 は青磁の盤で口縁部は薄手で内面には植物を描いたとみられる陰刻文がみられる。

### 下 SK17

下 SK17 は下 SK16 に隣接する円形の土坑である。直径は約 1.45 m を測り断面形は箱形を呈する。

埋土は 1 層は淡い灰褐色砂質土に砂利が混じる土、2 層は灰色粘質土であった。埋土中からは、土師質土器、黒色土器、瓦器、須恵器の細片が出土し摩耗しているものが多い。図示できた 75 は黒色土器 A 類の可能性がある瓦器である。

### 下 SK19

下 SK19 は SK16 に隣接する楕円形の土坑である。長軸は約 1.8 m、短軸は約 1.3 m、深さ約 38 cm を測り長軸方向は N - 65° - E である。断面形は箱形で埋土は 1 層は灰色粘砂土に褐色粒子が混じった土、2 層は灰色粘砂土に砂利が混じった土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、白磁、青磁の細片が出土している。図示できた 76 は平底の青磁皿で内面には櫛描き文が施され、底部は露胎している。同安窯系の青磁と考えられる。

### 下 SK22

下 SK22 は中央部西側で下 P366・372・373 と切り合った状態で検出した東西方向の溝状の土坑である。長軸約 4.7 m、短軸約 0.6 m、深さ 27cm を測り長軸方向は N - 79° - W である。断面形

は舟底状で埋土は1層が暗褐色粘砂土に黄褐色砂質小礫と黄灰色砂が入った土、2層は暗灰褐色粘砂土に黄褐色砂質小礫が入った土である。土師質土器、瓦器が出土している。図示できた77は底部回転糸切りの小皿、78は瓦器碗で高台は退化し扁平になっている。

#### 下 SK26

下SK26は調査区南西部で検出した楕円形の土坑である。土坑の規模は長軸約1.2m、短軸約0.5m、深さ約20cmを測る。断面形は箱形を呈する。埋土は1層が灰黄褐色粘質土に黄褐色砂質小礫が混じる土、2層は灰黄褐色粘質土である。埋土中には炭化物が入る。埋土中からは土師質土器、瓦器、東播系須恵器の細片が出土している。図示できた79は東播系須恵器片口鉢口縁である。

#### 下 SK27

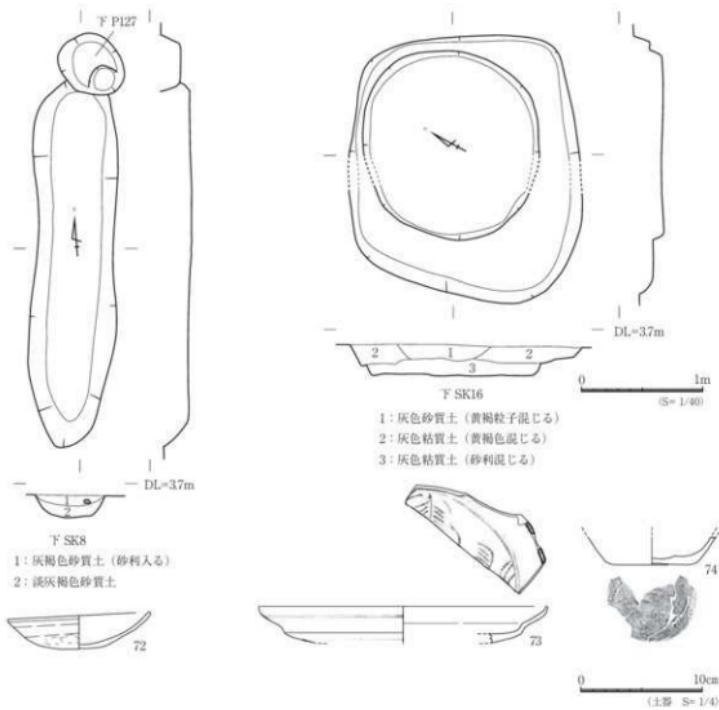
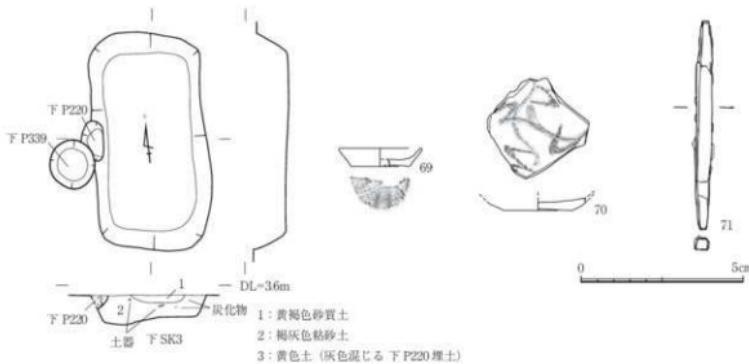
下SK27は調査区南西部で検出した土坑で西側を調査区によって切られる。検出長は約22m、上端幅約1.7m、深さ33cmを測る。検出時輪郭が明瞭でないため調査区西壁にかけて設定した確認トレンチで確認を行ったところ4b相当層から掘削開始し4a相当層が埋土になっていることが判明した。また中央部にピット状の落ち込みが確認できたが平面確認はできなかった。土坑埋土は1層は淡灰褐色粘砂土に黄褐色砂質小礫が少し混じった土、2層は淡褐灰色粘砂土で3層の落ち込み部分は淡褐灰色粘砂土に小礫が混じる土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、東播系須恵器、白磁、土錐、鉄釘が出土しており、図示できた80は白磁碗IV類の底部と考えられる。

#### 下 SK29

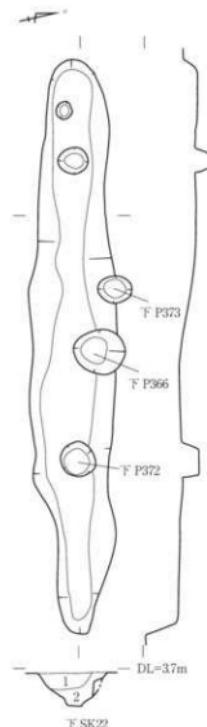
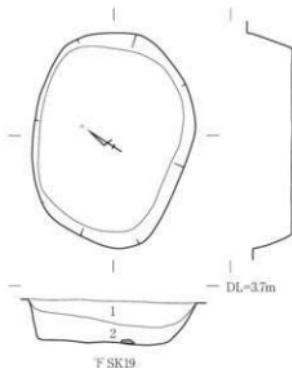
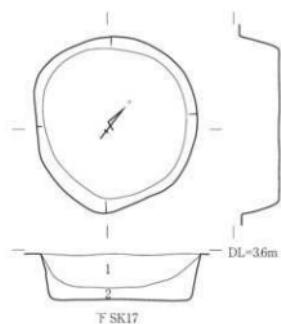
下SK29は調査区西側で検出した円形の土坑で床面からはピットを検出している。土坑の規模は直径約1.3m、深さ約11cm、ピットは直径約25cm、深さ約5cmを測る。埋土は淡い黄灰褐色粘質土で人頭大の石が入る。埋土中からは出土遺物は少ないが図示した83は完形の瓦器皿で扁平な器形であるが大きく歪んでいる。

#### 下 SK31

下SK31は中央部南西側で検出し下SK25に隣接した楕円形の土坑である。土坑の規模は長軸約1.6m、短軸約1.2m、深さ約11cmを測り長軸N-18°-Eである。断面形は皿状で浅く埋土は暗褐色粘質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器細片と図示した84の青磁盤が出土している。内面無紋の盤である。



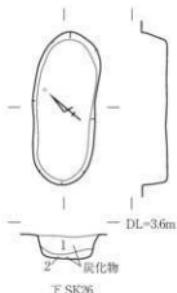
4 - 15 図 下 SK3・8・16



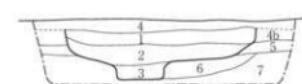
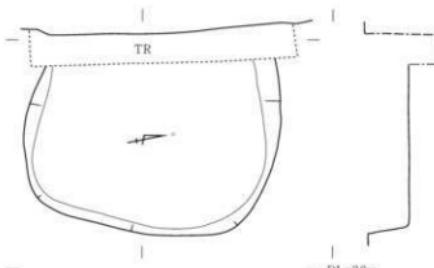
0 1m  
(S= 1/40)

0 10cm  
(上部 S= 1/4)

4-16図 下 SK17・19・22

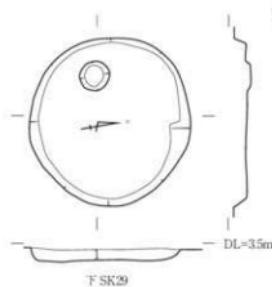


1: 灰黄褐色(漬った色)粘質土(黄色砂質小礫入る)  
2: 灰黄褐色(漬った色)粘質土

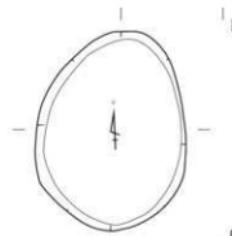


- 1: 淡灰褐色粘砂土(黄色砂質少しある)
- 2: 淡褐色粘砂土
- 3: 淡褐色粘砂土(少し繊多い)
- 4: 暗褐色粘質土(多量に黄色砂質織入する)
- 4b: 黄褐色粘質土(黄褐色織含む)
- 5: 黄褐色粘砂土
- 6: 明黄色褐色粘砂土
- 7: 黄褐色粘砂土

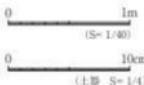
F SK27



1: 淡黄灰褐色粘質土(人頭大石入る)



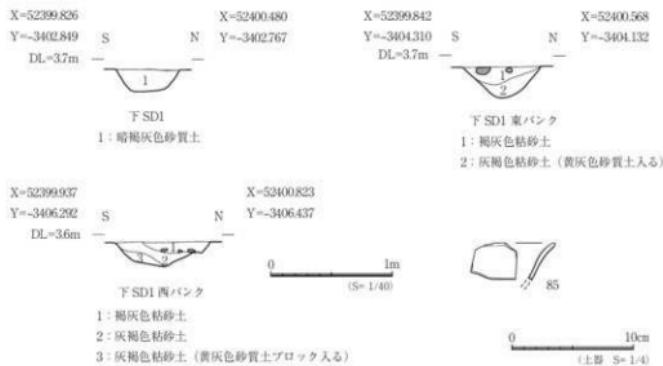
F SK31



## (3) 溝 (SD)

溝跡は2条検出している。SD5は3-2区SD8の延長部分と考えられIKO2に接続し終結していると考えられる。下SD1は不整形な溝状を呈する遺構で検出長約7mで調査区内で終結している。下SD1

下SD1は調査区西側で検出した溝状遺構である。上面で検出したSD1の南東約3mに並行するように位置する。不整形な溝跡で東西方向に約5m延びたのち南北方向に約2m延長し終結しており検出長は約7mである。上端幅は約0.5~1.0m、深さは約25~33cmを測る。断面形は箱形からU字状で埋土は褐灰色粘砂土、灰褐色粘砂土に黄灰色砂質土が入った土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、青磁、白磁が出土している。85は白磁八角皿である。また図示できなかったが口禿げ口縁の白磁の細片も出土している。



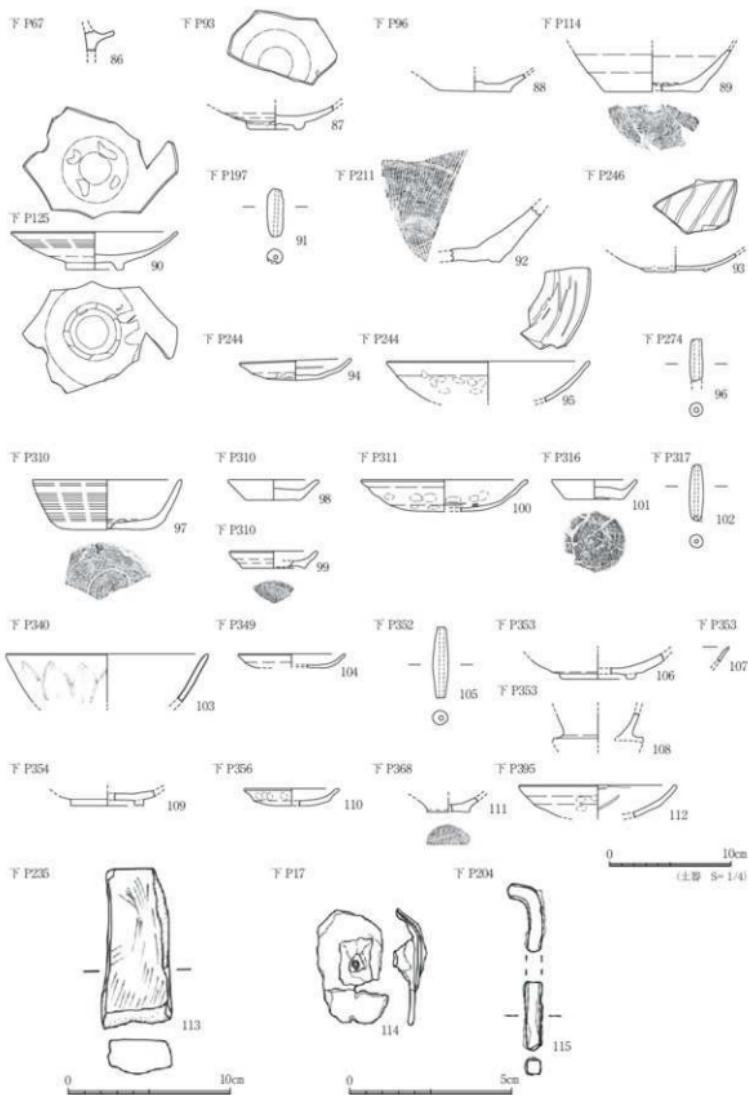
4-18図 下SD1

## (4) ピット (P)

下面では検出時、下P1~415までを遺構番号を付けたが調査の結果、ピットと確認できたものは401個であった。出土遺物が図示できたピットと掘立柱建物跡の柱穴となるピットだけを表にして特徴をあげた。

造構名	平面形	長径×短径(直徑)(cm)	高さ(cm)	埋土	回収No.	遺物	備考
F P148	扇円	40 × 35	15	暗褐色粘質土		土師質土器	S81
F P160	扇円	42 × 33	26	暗褐色粘質土		土師質土器	S83
F P64	円形	40	15	暗褐色粘質土		鉄釘重さ約 1g 土師質土器 瓦器	
F P45	扇円	35 × 35	12	暗褐色粘質土		土師質土器 瓦器	S83
F P67	円形	53	20	暗褐色粘質土	86	瓦器 土師質土器 瓦器 青磁	S82
F P75	扇円	45 × (35)	20	暗褐色粘質土		青磁	S82
F P78	扇円	33 × 30	17	暗褐色粘質土			S83
F P93	円形	21	12	暗褐色粘質土	87	銅鋸柄 内面濃緑色 外面淡緑色 土師質土器 瓦器 土師質土器	近畿
F P96	円形	30	18	黄褐色粘質土	88	黒釉美しい土師質土器底部	
F P103	円形	30	22	暗褐色粘質土		土師器上器	S82
F P106	円形	20	14	茶褐色粘質土			S82
F P107	椭円形	55 × 42	33	暗褐色粘質土		鉄釘重さ約 1g 土師質土器 瓦器	
F P114	円形	30	27	暗褐色粘質土	89	土師質土器 瓦器 手切り 瓦器	近畿 S84
F P125	不整円形	58 × 55	31	黄褐色粘質土	90	銅鋸柄 内外面ともも濃緑感の強い輪	近畿 S84
F P129	扇円	40 × 25	26	暗褐色粘質土			S84
F P144	扇円	35 × 28	15	暗褐色粘質土		瓦質鉢	S84
F P148	円形	20	15	暗褐色粘質土			S84
F P149	円形	60	29	暗褐色粘質土		土師器上器	S85
F P153	扇円	40 × 35	20	暗褐色粘質土			S84
F P165	扇円	50 × 45	34	暗褐色粘質土			S86
F P166	扇円	20 × 15	15	暗褐色粘質土			S84
F P169	方形	60	47	暗褐色粘質土		土師器上器	S86
F P191	円形	35	20	暗褐色粘質土		土師器上器	柱穴例1
F P193	扇円	60 × 50	22	暗褐色粘質土		土師器上器 瓦器	柱穴例1
F P194 (円形)	45	15	暗褐色粘質土		鉄釘重さ約 4g 土師器上器 瓦器	F SK3, F P193 に切ら	
F P196	扇円	30 × 25	21	暗褐色粘質土		土師器上器 瓦器	
F P197	円形	27	20	暗褐色粘質土	91	土師器上器 瓦器	柱穴例1
F P198	円形	25	13	暗褐色粘質土		土師重さ 4g 土師器上器	柱穴例1
F P211	椭円形	56 × 36	19	暗褐色粘質土	92	側面焼程鉢 土師器上器	2つのビット状になる
F P212	円形	30	17	暗褐色粘質土		土師器上器 瓦器	柱穴例1
F P222	扇円	40 × 35	12	暗褐色粘質土		土師器上器	S86
F P224	扇円	35 × 30	17	暗褐色粘質土		土師器上器 瓦器	S86
F P233	扇円	55 × 50	24	暗褐色粘質土		土師器上器 瓦器	S86
F P244	不整円形	36 × 30	22	暗褐色粘質土	94-95	94は(?)完形瓦器、95口径大きさ (162cm) 土師器上器	
F P246	円形	38	21	暗褐色粘質土	93	無頭小さな三角形の高台、平坦な底部	S86
F P256	円形	30	2	暗褐色粘質土			S86
F P272	方形	60 × 45	4	暗褐色粘質土			S85
F P273	扇円	90 × 60	15	暗褐色粘質土		土師器上器	S85
F P274	円形	29	21	暗褐色粘質土	96	土師 重さ 2.4g 土師器上器	S85
F P293	扇円	30 × 23	26	暗褐色粘質土			S85
F P299	扇円	50 × 33	7	灰褐色粘質土		土師器上器 瓦器	S86
F P303	扇円	30 × 27	32	暗褐色粘質土		瓦器	S85
F P310	扇円形	34 × 28	27	暗褐色粘質土	97 ~ 99	土師質土器小皿、杯 97-99回転系切り	
F P311	円形	20	18	暗褐色粘質土	100	瓦器 残り体盤 土師器上器	
F P316	円形	34	24	灰褐色粘質土	101	土師質土器小皿 回転系切り 瓦器	F IKO2を切る
F P317	椭円形	42 × 34	25	黃褐色粘質土	102	土師 重さ 43g 土師器上器 瓦器	柱穴状部分底径 20cm 深さ 25cm
F P340	円形	50	22	暗褐色粘質土	103	青磁 磁蓮瓣文 土師器上器 瓦器	
F P349	円形	44	31	暗褐色粘質土	104	瓦器 直土師器上器	
F P352	扇円形	70 × 48	15	暗褐色粘質土	105	土師 重さ 62g 土師器上器 瓦器	
F P353	円形	55	20	暗褐色粘質土	106 ~ 108	106 土師質瓦底部 108 土師質体盤より突出する底部 107 黒色土器口縁内面沈澱	
F P354	円形	31	21	暗褐色粘質土	109	土師質瓦底部 底部回転系切り	
F P366	不整形	110 × 65	36	灰褐色粘質土	110	瓦器 残り素焼き弱い 土師質器 瓦器	BKO1の腹部分で検出 したビット状遺構 遺物 は中古でも近世の可能性
F P368	不整円形	34	37	暗褐色粘質土	111	底窓器底部 膨張系切り 土師器上器 瓦器	F IKO2を切る
F P389	扇円	33 × 30	20	灰褐色粘質土			S83
F P395	椭円形	19 × 16	9	暗褐色粘質土	112	瓦器 檻口縁二段にナテ	
F P414	扇円形	42 × 30	25	灰褐色粘質土		土師器上器 瓦器	S85

表4-6 下面ビット計測表



4-19図 下面ピット出土遺物

## (5) 性格不明遺構 (IKO)

下 IKO として遺構番号を付けた遺構は 3 基検出している。下 IKO2・3 は遺物が集中して出土した部分、下 IKO1 は 3-2 区から続く SD5 (3-2 区 SD8) の終端部に位置しており溝跡関連遺構の可能性が考えられる。

### 下 IKO1

下 IKO1 は調査区北東部に位置する楕円形の土坑状の遺構で北側は溝状に細くなり攪乱によって切られており北側辺は SD5 と切り合っている。土坑中央部西よりには遺構を横断するように 50cm 大の河原石が石列状に並んでいる。遺構の検出規模は長軸約 9.2 m、短軸 4.4 m、深さ約 50cm を測る。遺構埋土は 1 層が暗黄褐色粘砂土、2 層は黄褐色粘砂土、3 層は褐色粘砂土で床面は砂礫土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器須恵器、青磁、備前焼などの細片が出土しているが図示できたのは柱状高台の底部だけである。混入と考えられる近世陶磁器が 1 点出土するがそれ以外はすべて中世の遺物であるため中世の遺構と考えられる。不定型な遺構であるが区画溝の可能性が考えられる 3-2 区の SD8 やその延長と考えられる SD5 に接続している可能性が高く、区画溝終端の水溜状遺構の可能性が考えられる。区画溝終端の水溜状遺構は時期は 15 世紀代と考えられ田村遺跡群でもみられる。

### 下 IKO2

下 IKO2 は調査区西側の石列状遺構で区画された部分の下層から検出した南北方向の不整形な溝状の遺構である。検出長は長軸約 13.6 m、上端幅約 2.4 m、深さ約 10cm を測る。断面形は皿状を呈し埋土は濁った灰色砂質土で下層には鉄分が沈殿付着する。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、白磁、青磁、土錘などが多く出土し、特に土錘は 41 個出土し 15 個を図示した。重さは 3.7 ~ 5.9 g の小型のもので端部がめくれる様に欠損したものが多い。119 は小型の無文の青磁碗である。

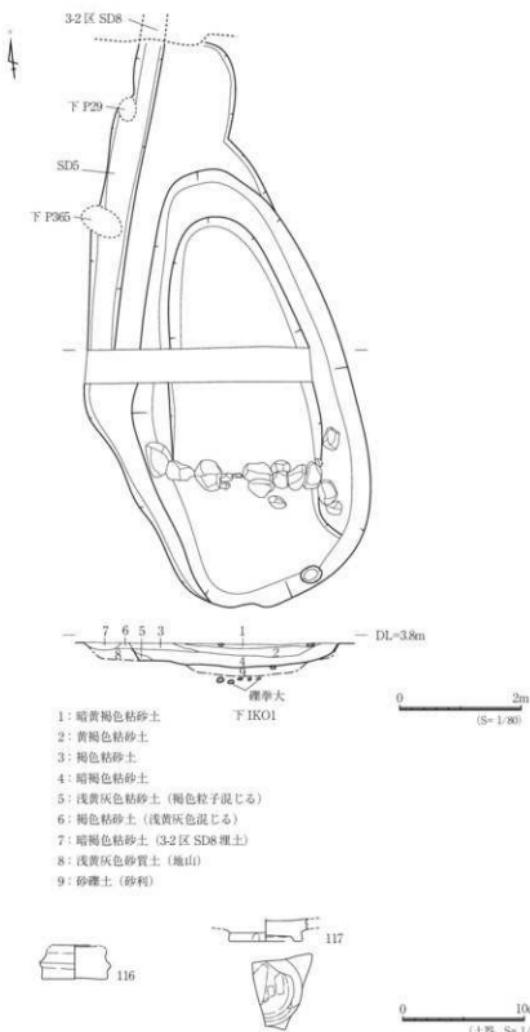
下 IKO2 は上面で多くの土器が出土した遺物集中 1~3 と重なり、遺物集中 4 も隣接している。これらは下 IKO2 を形成する一連のものと考えられ、遺物集中 1~4 出土の遺物は下 IKO2 に伴うものと考えられる。

遺物集中から特に瓦器が多く出土し完形復元できるのが多い。また瓦器皿が目立ち平底状で口縁のみ短く外反させた特徴的な遺物が出土している。瓦器碗は口径に比べて器高が低くなり、高台が退化したものがほとんどで 146 のように高台が無いものもみられる。

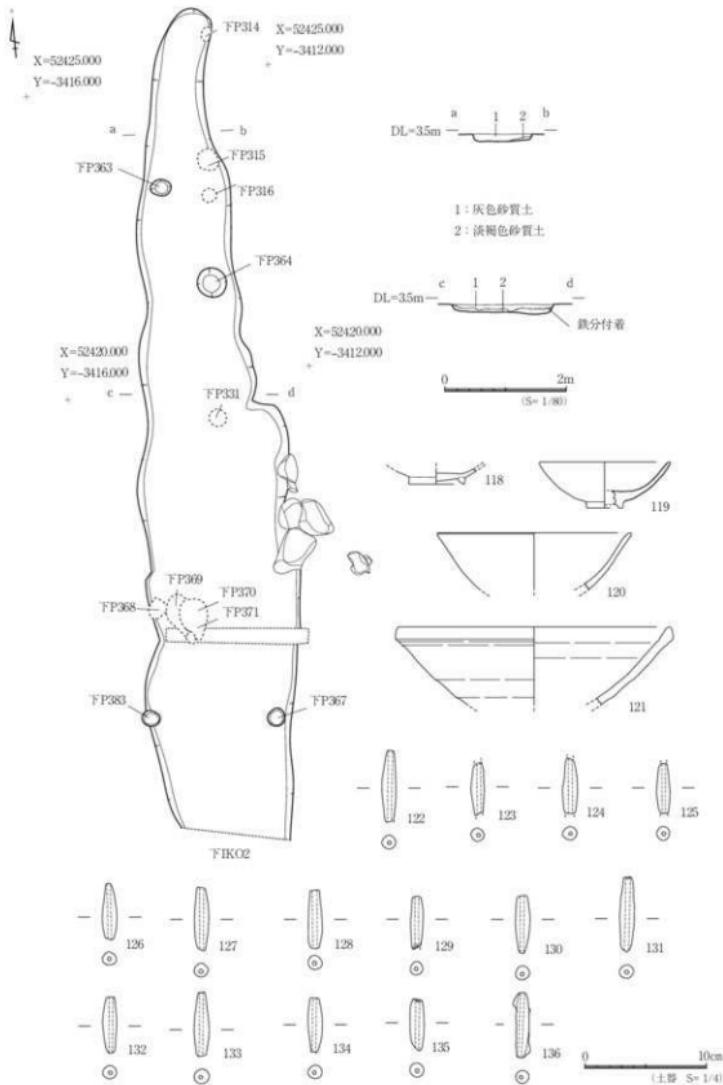
下 IKO2 は溝状の窪地部分に土器を廃棄するとともに埋め立ててゆき最終的に石列で区画し整地した可能性が考えられる。

### 下 IKO3

下 IKO3 は調査区西側で検出した楕円形の遺構で西側端部を調査区に切られる。検出規模は長軸約 3.4 m、短軸約 1.7 m、深さ約 8cm を測る。埋土は暗褐色粘質土の焼土、炭化物が多くはあるものの、土師質土器細片約 50 点、須恵器細片 5 点、白磁細片 1 点、2cm 大の粘土塊 1 点が出土している。掘方のある土坑でなく焼土、炭化物のまとまった平面的範囲の可能性が高い。



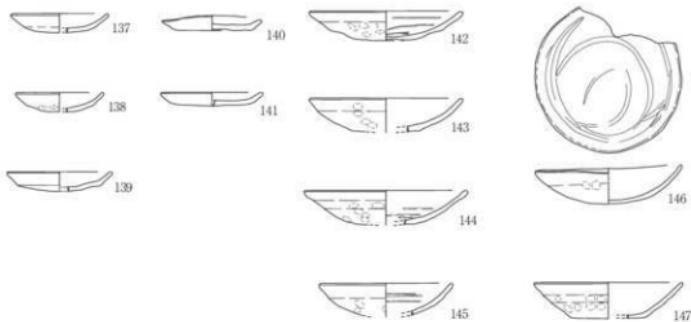
4-20図 下 IKO1



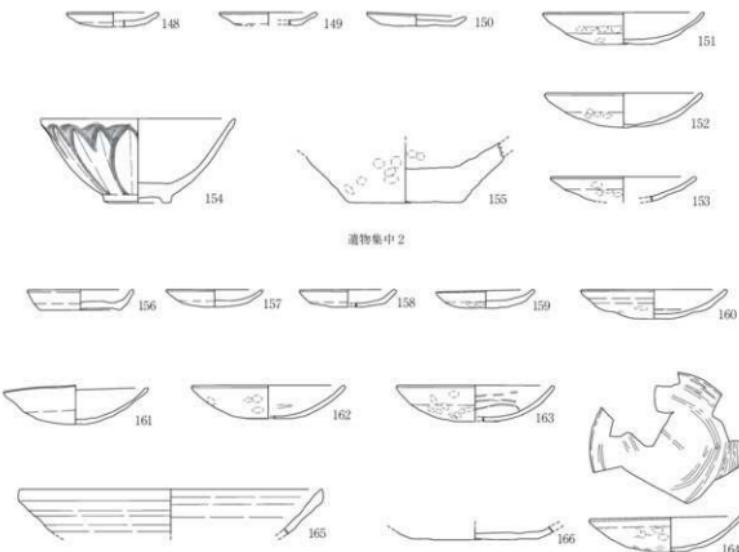
4 - 21図 下IKO2



4-22図 下 IKO2 遺物出土分布



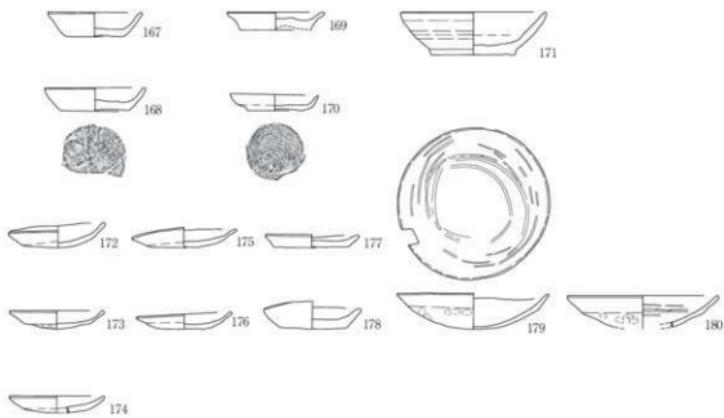
遺物集中 1



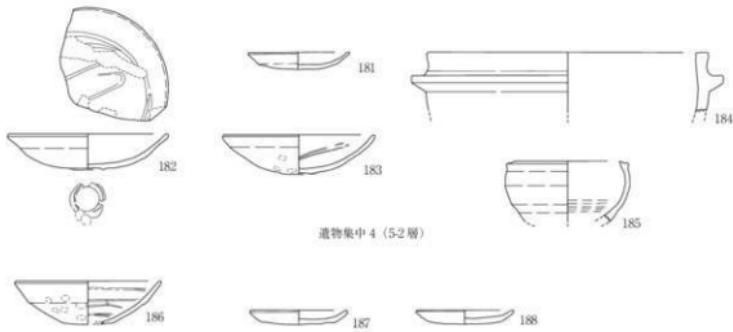
遺物集中 2

0 10cm  
(土器 S=1/4)

遺物集中 3 (4 層)



遺物集中3(5層)

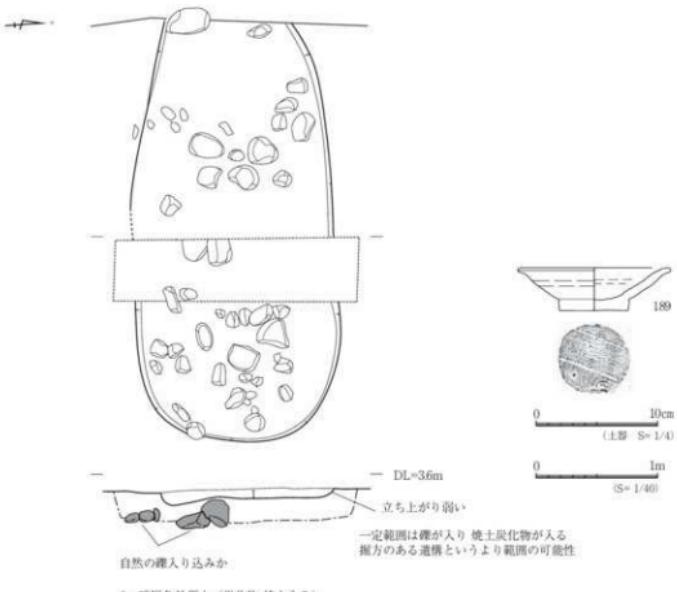


遺物集中4(5-2層)



遺物集中4

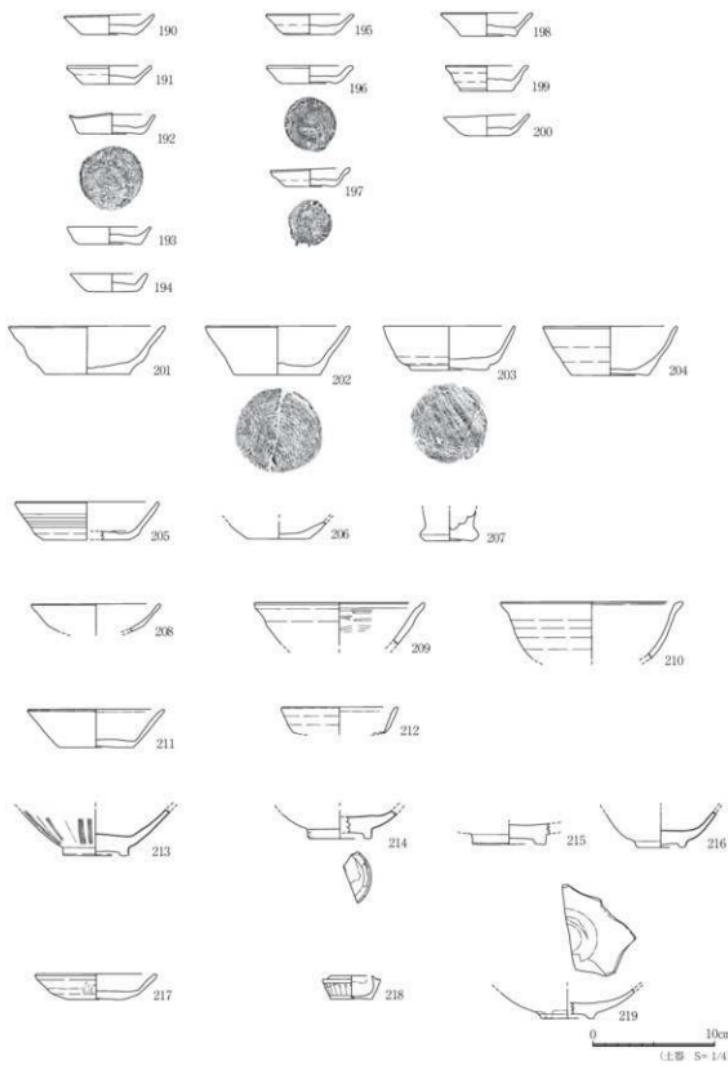
0 10cm  
(土器 S=1/4)



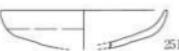
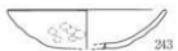
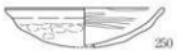
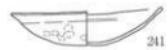
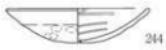
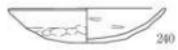
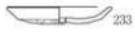
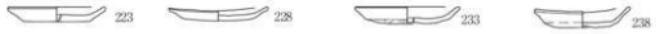
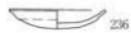
1: 墓褐色粘質土 (炭化物 塵土入る)

FIKO3

4 - 25 図 下 IKO3

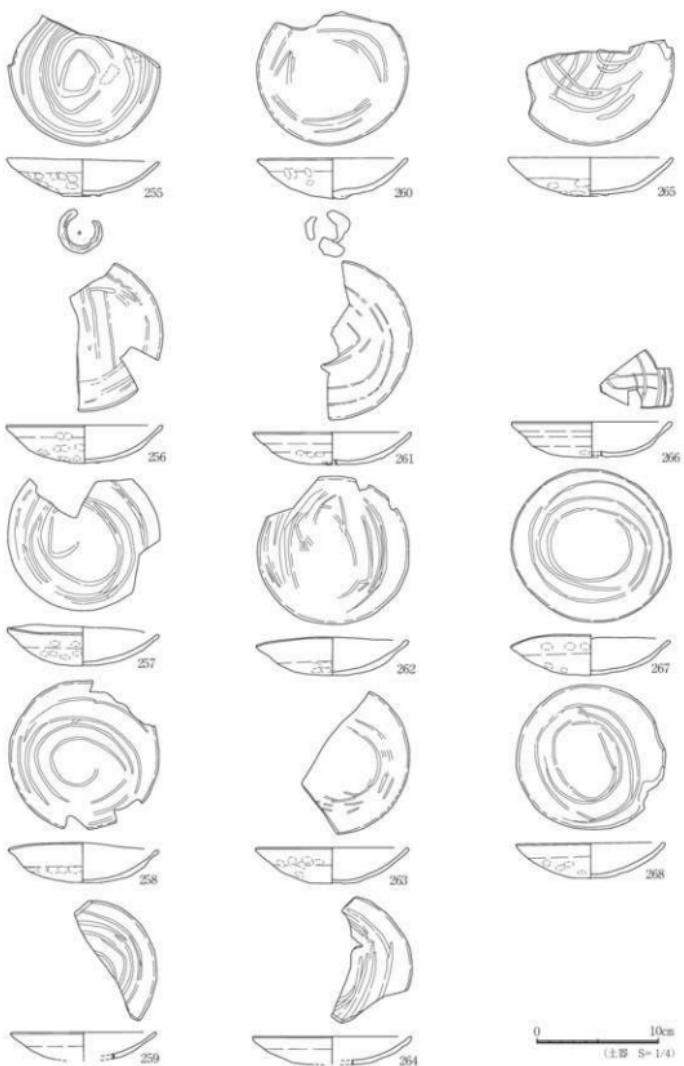


4-26図 包含層4層出土遺物1

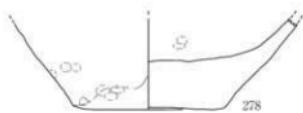
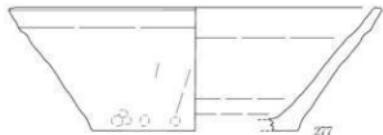
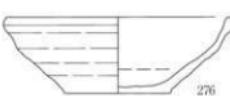
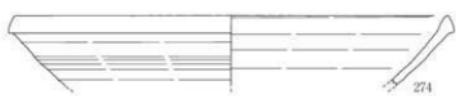
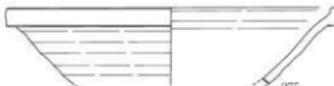
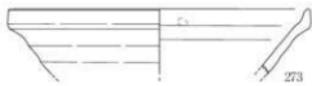
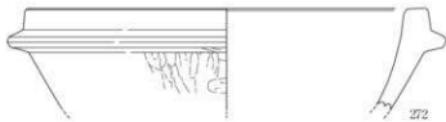
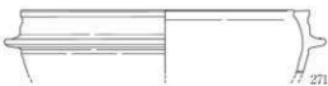
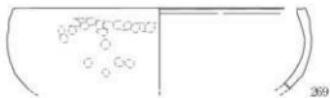


0 10cm  
(上部 S=1/4)

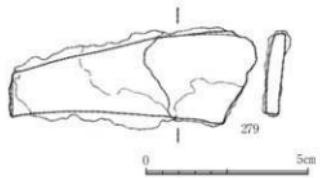
4-27図 包含層4層出土遺物2



4-28図 包含層4層出土遺物3

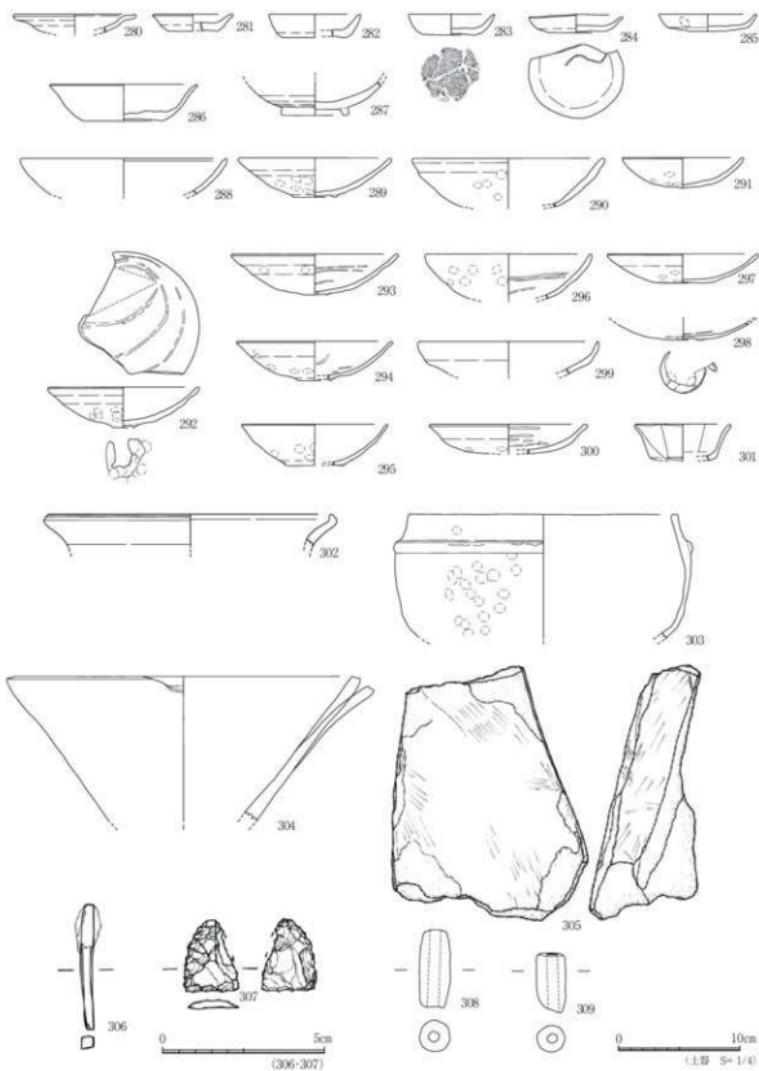


0 10cm  
(土器 S=1/4)

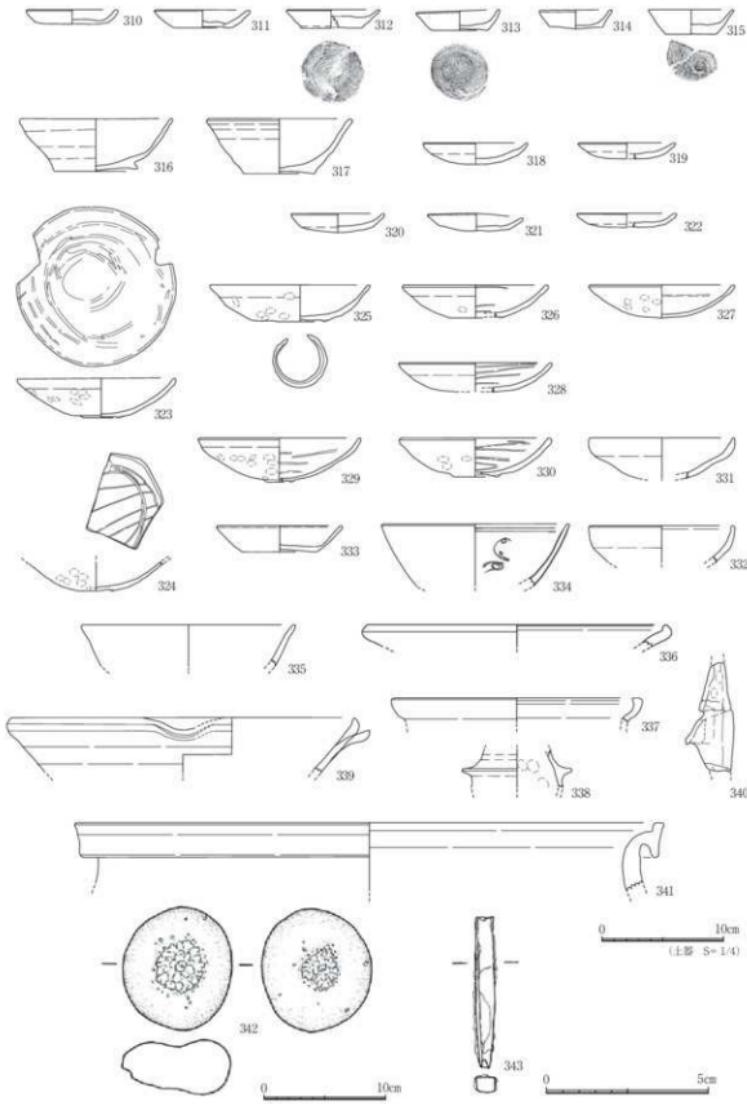


0 5cm

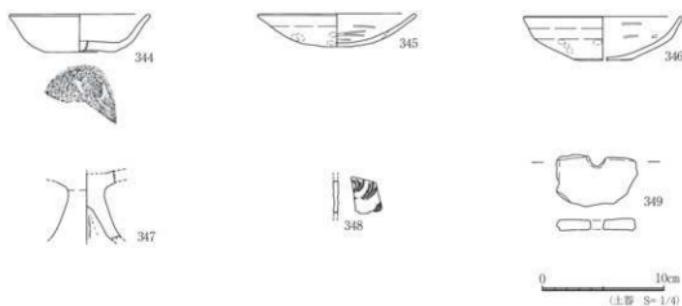
4-29図 包含層4層出土遺物4



4-30図 包含層5層出土遺物



4-31図 包含層5-2層出土遺物



0 10cm  
(土器 S=1/4)

4-32図 包含層出土遺物



3-3区遺物觀察表1

測定 区 番号	測定 多号	種類	器形	出土遺構	層段	日付 (年)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外側色	胎土	残存状況	特徴と特徴	備考			
33 1	瓦器	圓	SEI	マ	13.8	(27)	17.51± 4.75	に深い 黃	青	白縁附わざかに 残	口縁外反		二次焼成				
33 2	瓦器	圓	SEI	マ	6.7	(12)	黄	黄	青	白縁附わざかに 残	口縁外反、外削、口縁ナデ	底表面吸い					
33 3	瓦器	圓	SEIS	マ	12.4	29	4.0	17.51± 4.75	に深い 黃	穢なる赤茶色 紅入る	青	瓦頂口縁附と もわざかに残	温半瓦高台口縁外反残。外側作部 脚ナゼニ。足柱瓦台	二次焼成で赤茶			
33 4	木棒	角筒		外洋	内排 50D	高さ 620								短小			
33 5	土師質 土器	小壺	SEI		7.2	19	5.0	粗	褐	普通	底部突起。口縁 開口2.3cm	内腹瓦状の底部から丸みを帯びて 立ち上がり、赤褐色					
33 6	土師質 土器	小壺	SEI		5.5	22	4.5	粗	褐	青	底部開口2.3cm。 口縁開口1.2cm	平底開口2.3cm。幅く下方を向く。内面 とも口縁ナデ、回転本彫り	ミキチャアでなくこれ で実用? 他真しく 内凹、表面均好良好				
33 7	土師質 土器	壺	SEI		10.9	27	17.51± 4.75	に深い 黃	脚つき	青	口縁開口一部残	底部から立ち上がる。器高低め、各 に脚つき軸孔。回転未彫り					
33 8	土師質 土器	圓	SEI		15.0	(49)	黄	黄	青	青	口縁開口一部残	丸みを帯びた弧形。口縁大きくなり 外削、脚ナゼニ					
33 9	瓦器	圓	SEI		7.6	18	8.0	灰白	灰白	青	底部残。口縁開 口1.3cm	分厚赤み有。口縁附わざかに外削。片 内側とも軸孔ナデ、内腹中央突出指痕 等、切削痕なし。	内面 灰素板はほとんど なし				
33 10	瓦器	圓	SEI		7.9	12	8.0	灰	灰	青	口縁開口1/4	平底弧形の底盤。幅く外斜する口縁 外削。口縁指すエラボテナナ。底部 脚ナゼニ。切削痕なし。					
33 11	瓦器	圓	SEI		11.1	(24)	灰	灰	1mmの大筋跡 多い	青	口縁附わざかに残 残	口縁。全体底盤、底縁強め。口縁幅く 二段になる。脚ナゼニ。外削。口縁 ナゼニ。脚ナゼニ。					
33 12	白陶	瓶	SEI	マ S	5.8	(18)	8.0	白	白	良	口縁附わざかに 残	小型瓶。口縁端外反					
33 13	青磁	圓	SEI		18.9	(33)	9.5	オーバー グ	9.5	良	口縁附わざかに 残	口縁赤み有。全体に薄手。口縁端 外削。口縁ナゼニ					
33 14	青磁	圓	SEI			(23)	5.6	9.5	オーバー グ	灰	青	底部変形	白色見込み残。口縁ナゼニ				
33 15	青磁	瓶	SEI		(20)	5.1	オーバー グ	9.5	良	青	口縁1/2残	青い塊斑、底盤青い。内面見え込み。 青磁。青磁見込み濃駆駆。口に軸孔 ナゼニ。脚ナゼニ。					
33 16	青磁	SEI			1.55		綠	綠	良	青	底部一部残	緑茶色の内面底の無が等子にか かる。全体に薄手。					
33 17	瓦質 土器	羽皿	SEI	マ 2層	27.9	(60)	灰	灰	青	青	口縁附わざかに残	口縁上に1枚重ねて軸孔残。口縁下 うすく小さな折れ三脚の脚が付く。 外削。口縁端外反。					
33 18	輪廻燒 器	盤	SEI		30.8	(59)	17.51± 4.75	粗	17.51± 4.75	粗	许多に入る	口縁附わざかに残	内面表面凹凸ふぶれる				
33 19	近縁ear 近縁器	SEI			19.1	(15)	17.51± 4.75	黒い粒子入る	青	青	口縁端の凹凸	外削。青色に供氷浮き出る。底部有 軸孔。口縁大きくなり四脚	近縁又は近現代 青磁から滑落				
33 20	近縁ear 近縊器	盤	SEI				灰色に うすく 赤みが かる	灰	青	良	青	外削端極。青磁色身付文。内面露 出	近縊器類か				
33 21	青磁	SEI			(22)	4.8	灰白	灰白	青	青	青	底部一部残	青磁底盤に沿った青い高台。タコ目 のみ露頭粘着の底盤。白磁輪、足込み、 内面、表面軸孔ナゼニ	船上、陶質ゴルト 底板に発色。津州窯 安土朝山			
33 22	近縊ear 近縊器	圓	SEI	マ	11.0	(24)	6.0	白	過磁	青	口縁附わざかに 残	内腹、過磁色輪。外腹、透明輪に一 度白磁。					
33 23	近縊ear 近縊器	盤	SEI	マ		(15)	高台 5.4	明鏡	明鏡	白	青	口縁附わざかに 残	青、白磁に深い紫色のうすい輪音付 の底盤。	近縊器			
33 24	近縊ear 近縊器	盤	SEI	マ		(53)	10.2	過磁	青	青	青	口縁附わざかに 残	青白無地底盤。内腹、施釉輪青 盤。	近縊器			
33 25	土師質 土器	杯	SEI	マ		(25)	6.9	粗	17.51± 4.75	赤い粒子入る	青	青	青	内腹青白。内腹、同心内臓の回転青 盤。	底部外腹保材蓋		
33 26	瓦器	圓	石列1- 内	マ	7.6	13	5.8	灰	灰	青	青	青	青	青中央に凹凸してわずかに凹む。内 腹凸起有り。口縁外反。外内削。口 縁端ナゼ。切削痕なし。	内腹とも隆起と考 え谷行青白		
33 27	白磁	圓	石列1- 内	マ	18.1	26	6.1	灰白	灰白	青	青	青	青	青	青白の内腹青白。内腹白色。外 側面青白。内腹下手と底盤青白。下半手 青白側面青白。輪邊有り。見入る。	白面底盤	
33 28	瓦器	圓	石列1- 内	マ	12.8	(29)	16.0	灰	灰	青	青	青	青	青	青白の内腹青白。内腹白色。口 縁端ナゼ。口縁外反。青白追化し形 鉢化。青白、口縁端ナゼ底盤青白ササ ム。内腹、青白ナゼナキ(ハラナササ)。	内面	
33 29	瓦器	圓	石列1- 内	マ		(11)	17.51± 4.75	粗	青	青	青	青	青	青	青白の内腹青白。内腹白色。口 縁端ナゼ。口縁外反。青白追化し形 鉢化。青白、口縁端ナゼ底盤青白ササ ム。内腹、青白ナゼナキ(ハラナササ)。	内面	
33 30	土師質 土器	土壺	石列1- 内	マ	全高 5.4	全幅 1.1	孔径 0.4	孔径	青	青	青	青	青	中央部分に通水孔 設け、回転ナゼ内腹、見込み回転底盤 軸孔切	重量5kg		
33 31	土師質 土器	杯	石列1	4号	10.9	35	6.2	に深い 黃	に深い 黃	穢なる赤茶色 紅入る	青	青	青	青	青白なぐ底盤。切り離しなし。	手づくね狀に成形か	

3-3区遺物観察表2

測定 区	測定 番号	標別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	内底色	外底色	胎土	現存状況	形態と特徴	備考
33	32	土師質 土器	小瓶	石列1	4層	68	1.8		褐	褐	細かな砂粒入 る	口縁周1/2残、 壺身	壺底から縫合に立ち上がる	
33	33	土師質 土器	小瓶	石列1	4層	68	1.5		褐	褐	細かな赤色砂 粒入る	口縁周1/2残、 壺身	壺底から外反がみに近く、同様系切 り	
33	34	土師質 土器	小瓶	石列1	4層	72	1.6	5.4	に赤い 黄澄	に赤い 黄澄	良	底部周1/4残、 口縁周わずかに残	壺底から矧く膨張的に開く。外側周 部ナラ形輪郭名付り呪日壺	内面薄く横打垂
33	35	瓦器	瓶	石列1	4層	78	1.2		黒灰	16	細かな白い砂 粒入る	口縁周1/2残	壺底から縫合部に開き、外側周 部ナラ形輪郭名付り呪日壺	
33	36	瓦器	瓶	石列1	マ	82	1.3		黒灰	黒灰	細かな白い砂 粒入る	口縁周一部残	壺底周外及び内面口縁ナラ、体部 斜め丸み、口縁ナラ、底部斜めナラ 三内弧、底部近辺まで外側周部ナラ 切り落し無	外側から縫合部に開き、外側周 部ナラ形輪郭名付り呪日壺
33	37	瓦器	瓶	石列1	4層	83	1.6		灰	灰	細かな白い砂 粒入る	口縁周1/4残	口縁外反張、口縁ナラ、口縁下槽方 角ナラ、底部斜めナラ切り落し無	外側周部外反張、外側周部ナラ、 底部斜めナラ
33	38	瓦器	瓶	石列1	マ	26	0.8	6.4	黒灰	青透	底部周1/2残下 口縁周1/4残	底部周1/2残下、 口縁周1/4残	底部周外反張、口縁周外反張ナラ、 底部斜めナラ	底部一部底板吸着なし オサヌ起り壁なし
33	39	瓦器	瓶	石列1	4層	67	1.2		黒灰	黒灰	細かな白い砂 粒入る	口縁周わずかに残	手造りの状態から外反及、開いて口縁、 切り落し無	外側周部外反張、外側周部ナラ
33	40	瓦器	瓶	石列1	マ	68	1.5	3.0	灰	灰	青透	底部周 2/3残	底部周外反張、口縁周ナラ、底部 斜め丸み、口縁周外反張ナラ底部 斜めナラ、底部中央丸み	底部一部底板吸着なし オサヌ起り壁なし
33	41	瓦器	瓶	石列1	マ	12.3	2.8		灰青	灰青	細かな白い砂 粒入る	口縁周一部残	底部周外反張、口縁周ナラ、底部 2/3残ナラ	底部周外反張
33	42	瓦器	瓶	石列1	マ	12.4	2.8		白灰 に赤い 黄澄	口縁周 に赤い 黄澄	細かな白い砂 粒入る	口縁周わずかに残	口縁周外反張ナラ、 底部斜め丸み	口縁周に赤い砂 粒入る、外側周部ナラにしがれ直 ナラ傾く
33	43	瓦器	瓶	石列1	マ	12.4	2.8		白灰 に赤い 黄澄	口縁周 に赤い 黄澄	細かな白い砂 粒入る	口縁周わずかに残	口縁周外反張ナラ、 底部斜め丸み	口縁周に赤い砂 粒入る、外側周部ナラにしがれ直 ナラ傾く
33	44	瓦器	瓶	石列1	4層	10.5	2.6		に赤い 黄澄	に赤い 黄澄	細かな白い砂 粒入る	口縁周わずかに残	形態化した輪底部、口縁外反張外 部ナラ	外側内とも底板吸着無 ナラ傾く
33	45	瓦器	瓶	石列1	4層	13.1	2.7		灰	灰	青透	底部欠損、口縁 周2/3残	底部欠損、口縁周2/3残、 底部2/3残ナラ	口縁周外反張、外側周2/3の輪底部 周ナラ
33	46	瓦器	瓶	石列1	5層 -2	12.2	3.4	3.3	灰白	灰白	青透	高台底変形、口 縁周4/5に残	要分化した低い高台底板吸着外、 口縁ナラ底板吸着外周に凹凸ナラ内凹 部ナラ	内凹とも底板吸着無 ナラ傾く
33	47	瓦器	瓶	石列1	4層	12.7	2.9	2.9	灰白	灰白	青透	1mm次の角輪 底入	要分化した輪底部、口縁外反張外 部ナラ	内凹とも底板吸着無 ナラ傾く
33	48	瓦器	瓶	石列1	マ	12.0	3.1		灰白	灰白	青透	底部1.1、口縁 周3/4残	底部1.1、口縁周3/4残、 底部2/3残ナラ	底部周外反張、口縁周外反張外 部ナラ
33	49	瓦器	瓶	石列1	マ	11.6	3.3	3.2	灰白	灰白	2mm次の砂粒 入る	底部1.1、口縁 周1/2残	底部1.1、口縁周 1/2残	底部周外反張、口縁周外反張外 部ナラ
33	50	瓦器	瓶	石列1	マ	12.5	3.1		灰白	灰白	青透	底部周、口縁全 周2/3残	底部周、口縁全 周2/3残	底部周外反張、口縁周外反張外 部ナラ
33	51	瓦器	瓶	石列1	マ	12.2	3.3		灰白	灰白	青透	底部周、口縁周 1/2残	底部周、口縁周 1/2残	底部周外反張、 口縁周外反張外 部ナラ
33	52	瓦器	瓶	石列1	4層	12.2	2.6	2.6	灰	灰	青透	高台底変形、口 縁周一部残	高台底変形、口 縁周一部残	底部周外反張、 口縁周一部残
33	53	土師質 土器	器皿	P1	マ	20.2	3.8		青透	青透	細かな砂粒多 い	口縁周わずかに残	底内側する口縁、口縁周部、口 縫下、小さな筋部付く、外側、口縁 ナラ傾く	縫型
33	54	土師質 土器	P19	マ	11.8	5.4	に赤い 黄澄	に赤い 黄澄	赤色粒子入る	青透	細かな砂粒多 い	青透周外変形、口 縁周1/2残	青透周外変形、口 縁周1/2残	底平から聞く体部 腹
33	55	白磁	八角 瓶	P32	マ	11.5	3.4		灰白	灰白	青透	高台底2/3残	小さな赤色、体部周一高台露頭、 通縫感ある底盤入	腹
33	56	織部?	P31	マ	14.4	1.2		灰白	オリーブ 青	青透	口縁周わずかに残	口縁周部受け継ぐになる、外側、口縁 ナラ傾く	織口底部	
33	57	土師質 土器	器皿	P11	マ	12.6	3.8		に赤い 黄澄	に赤い 黄澄	青透	口縁周わずかに残	内側する口縁、口縁周部、口 縫下、小さな筋部付く、内側、口縁 ナラ傾く	縫型
33	58	單足器	P69	マ	32.9	2.0	に赤い 黄澄	に赤い 黄澄	細かな砂粒入 る	青透	細かな砂粒入 る	底大さく口縁、内側、腹周向ヶ 二枚側	底内側する口縁、口縁周部、口 縫下、大きな筋部付く、内側、口縁 ナラ傾く	縫内側する口縁、口縫底部、口 縫下、大きな筋部付く、内側、口縁 ナラ傾く
33	59	土師質 土器	器皿	P51	マ	21.6	10.9		青透	青透	細かな砂粒多 い	口縁周わずかに残	底内側する口縁、口縫底部、口 縫下、大きな筋部付く、内側、口縁 ナラ傾く	縫型
33	60	白磁	丸瓶	P74	マ	10.0	2.1		灰白	灰白	青透	口縁周わずかに残	底内側する口縁、乳白色の釉薬入、 底部ナラ	底内側する口縁、 底部ナラ
33	61	瓦器	瓶	P70	マ	8.8	1.2	6.6	青透	青透	細かな砂粒	口縁周わずかに残	底内側する口縁、青透	底内側する口縁、 底部ナラ
33	62	瓦器	瓶	P72	マ	13.1	2.9		灰	灰	良	口縁周わずかに残	口縁外反張、外側、口縁周ナラ、 底部ナラ	底内側する口縁、 底部ナラ

3-3区遺物觀察表3

遺物 名 ( <i>IC</i> )	出 所 (多 少)	種類	形 状	出土遺構 (層)	目 寸 (cm)	留 高 (cm)	底 径 (cm)	内 面 色	外 面 色	胎 土	残存状況	特徴と特 徴	備考		
33 63 瓦器 器皿	瓦器	圓	下SK2	マ	13.4	3.4	灰	灰	灰	良	口縁部一部残	口縁部く外反。外面、口縁部ナメ。体 部留めオマレ。外面、側面内凹せり起 立。			
33 64 上頭質 土器	土器	下SK3	マ	12.2	3.6	5.0	橙	橙	角縫合部入る 内縫合部	良	高台周2/3残	泥混有。うすい凹窓高台 埋め直し。			
33 65 瓦器 器皿	瓦器	下SK3	マ	(26)	3.2	灰	灰	良	高台周2/3残	断面三角形の扁平な高台残。切り 離しなし。					
33 66 離散器 瓦器	瓦器	下SK3	マ	(13)		灰	灰	白い砂粒入る 内縫合部	良	高台周一部残	半斜状の底面。底部外側うへハラ 記号。内窓凹。外底。強い回転感。 切り離しなし。				
33 67 上頭質 土器	土器	下SK3	マ	12.3	3.1	7.3	下SK3 内縫合部 内窓	下SK3 内窓	細かな砂粒多 く	良	口縫合部変形 高台	手すから複数の内縫合部で窓く。外縫 合上口縫合部。外縫合部強いて砂粒多 く。内窓、内窓ナメ。内底、同心円状に 凹む。切離しなし。板口部かへ り残。			
33 68 上頭質 土器	土器	小皿	下SK6	マ	7.4	2.1	5.8	下SK6 内窓	下SK6 内窓	赤色粒子入る 内縫合部	良	泥留部、口縫合部と もL2残	全体に赤みあり。うすい回転高台狀 にする。背きら上がる体部。内面、体 部留めナメ。回転感切離。	内面 わざかにテール 付着	
33 69 上頭質 土器	土器	小皿	下SK3	マ	6.7	1.5	4.7	下SK3 内窓	下SK3 内窓	細かな砂粒入 る	良	泥留周2/2残, C型周一部残	半斜から窓く立ち上がる。外縫合 部留めナメ。回転感切離。		
33 70 瓦器 器皿	瓦器	下SK3	マ	(11)	5.6	6.0	灰	良	泥留变形	半斜、瓦器外縫合部、内縫合部、標 記号△。良品。透明感の強い輪	河岸带 瓦				
33 71 瓦器 器皿	瓦器	下SK3	マ	全員 6.5	全厚 0.6	0.5	灰	良	泥留		両面滑美丸。断面方形。鉄錆の可逆 性	重量 3kg			
33 72 瓦器 器皿	瓦器	下SK8	マ	下層	11.7	3.1	3.0	洪善堆	洪善堆	12.25 内縫合部 内窓	良	变形	口縫合部話ぐやや肥厚する。外縫 合、口縫合部ナメ体部留めオマレ。切 離しなし。	二次燃焼 瓦器	
33 73 瓦器 器皿	瓦器	下SK16	マ	23.7	(30)	9.8	オリーブ オリーブ	9.8 オリーブ	良	口縫わざかに残	口縫合部をも開く縫合部はつまみ上げ る。内縫合部留め。脂粉丸	口縫合部に比して若狭う とい。種々なく外縫合 セザリ地出焼			
33 74 上頭質 土器	土器	下SK16	マ	(23)	6.4	浅腹	浅腹堆	良	泥留周1/2残	半斜から窓く立ち上がる。内縫合部、泥留 部2本指で中央部に横ナメ。回転感切離					
33 75 瓦器 器皿	瓦器	下SK17	マ	(35)	4.4	灰	灰	灰	灰	良	細かな角縫合部	口縫合部がかり 黒色土器 A類の 可逆性あるが 黑膏板 縫合なり。	胎土半規で外縫合色が かり 黑色土器 A類の 可逆性あるが 黑膏板 縫合なり。		
33 76 瓦器 器皿	瓦器	下SK19	マ	(10)	6.0	洪善	洪善	良	泥留	泥留わざかに残	外縫合下部~底部露部、内縫合見込。 標記文、透明感のある輪、外縫合~泥留 部内窓△	泥留張ける			
33 77 上頭質 土器	土器	下SK22	マ	21	1.5	4.6	下SK22 内窓	下SK22 内窓	縫合部変形	良	泥留わざかに残 内窓	口縫合部、内窓わざかに開く。内窓 部内窓△に横敷設。回転感切離			
33 78 瓦器 器皿	瓦器	下SK22	マ	11.8	3.1	3.0	浅腹堆	浅腹堆	高台周、口縫合部 ともわざかに残	良	高台周、口縫合部 ともわざかに残	口縫合部、高台周半に肥厚する。内縫 合△内窓△に横敷設。回転感切離	二次燃熱		
33 79 離散器 瓦器	瓦器	下SK26	マ			灰	灰	泥留入込	良	口縫わざかに残	口縫合部。土子に大きさ低減。内縫 合△内窓△に横敷設	高台周△口縫 合			
33 80 白陶 器皿	白陶	下SK27	マ	(24)	7.5	灰白	灰白	泥留入込	良	高台周1/2残	低い瓶底。内縫合部、外縫合、下部~泥留 部露	白陶柄付			
33 81 土器	土器	下SK27	マ	全員 5.3	全厚 1.1	0.4	孔打 1.0	孔打 0.4	12.25 内窓	良	土跡、充実、膨大付中央部	重量 4kg			
33 82 瓦器 器皿	瓦器	下SK27	マ	全員 2.9	全厚 0.9	0.6				良	直射、泥留。先 端欠損。外縫合部 内窓△、中空部、水 切跡	重量 2kg			
33 83 瓦器 器皿	瓦器	下SK29	マ	8.4	2.1	6.4	灰	灰	良	口縫合部	大きくなじむ。口縫合部横設。外縫 合留めナメ。体部留めオマレ。切 離しなし。	地成良く一部いぶし 状態			
33 84 青釉 器皿	青釉	下SK31	マ	23.8	(35)	オリーブ 青	オリーブ 青	小さな黒い點 穴丸	良	口縫わざかに残	水平に窓く。口縫合部をなし。口 縫合部泥留。良品。内窓△	削除地成する 胎土他一部泥留青色 部分有			
33 85 白陶 器皿	白陶	下SK31	マ	16.2	(31)	9.0	灰白	灰白	良	口縫わざかに残	口縫合部。外縫合部。地ハギ				
33 86 瓦質 土器	瓦器	下SK37	マ	(37.5)			黄	黄	良	泥わざかに残	うす手の握				
33 87 青釉 陶器	青釉	下SK39	マ	(29)	高台 1.4	頃	頃	オリーブ 青	良	高台周2/3残	内面、青緑色和紅ノ以状跡ハギ。外縫 合留めナメ。	近世鋼繩			
33 88 上頭質 土器	土器	下SK39	マ	(14)	6.0	12.25 内窓	12.25 内窓	赤い粒子入 る	良	泥留周2/3残	内縫合部になる底部	上頭質土器杯の可逆性 高△			
33 89 上頭質 土器	土器	下SK114	マ	(35)	7.8	12.25 内窓	12.25 内窓	細かな砂粒多 く	良	泥留周1/2残	半斜から窓く。外縫合、回転感△。内 縫合、泥留△。静止切り	厚手			
33 90 青釉 陶器	青釉	下SK125	マ					オリーブ 青	良	高台周変形。12 25内窓△	しかもりた高台く丸を並びた 体部。内窓とく決縫合部の透感の 個々。内縫合、外縫合△に横 ハサ△。コの字の内縫合、体部△泥留跡。 高台變形。移止め跡。外縫合、回転感△ 青釉	透底 繩織			
33 91 土器	土器	下SK197	マ	全員 0.0	全厚 1.25	0.3					土跡、青釉面欠損、青色	重量 4kg			
33 92 傷痕 陶器	陶器	下SK211	マ		(46)		12.25 内窓	12.25 内窓	良	泥留わざかに残	泥留なく入る泥留内底にも泥留。外 縫合部近く回転感	傷痕の発現			

3-3区遺物観察表4

測定 式 番号	種別	形態	出土遺構	層位	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	内底色	外底色	胎土	残存状況	形容と特徴	備考	
33 93 瓦器 棒 T P246 フ					0.5	5.0	4.5	灰	灰	良	高台周一部埋	表面小さな三脚形の窓な高台。高台は木くら瓦底平。内面は込平(引抜き)。外底は木くら瓦付高台。		
33 94 瓦器 圓 T P246 フ					9.1	1.9	4.1	灰	灰	良	1m大の砂利 入る	全体も焼成。口縁外反。丸底やみ。口縁側ナメラ底。内面に窓なし。	口縁外反。丸底やみ。口縁側ナメラ底。内面に窓なし。	
33 95 瓦器 棒 T P246 フ					16.2	0.3		灰	灰	良	口縁わざかに残	口縁外反。口縁側ナメラ底。内面に窓なし。	口縁大きい	
33 96 土師 T P271 フ	金鉢	全幅 35 全厚 1.1	孔径 0.4									土師、灰塗。欠損	重量 3kg	
33 97 土師質 土器 棒 T P330 フ					12.2	4.1	7.6	灰青釉	灰青釉	細かい粒土	高台部。口縁周 とも一部残	立ち上がりがよく立ち立つ体感。口縁周 は外反。細かい粒状凹凸。内面、 強い斜面感。回転し易い		
33 98 土師質 土器 小皿 T P330 フ					7.3	1.7	4.5	に高い 壁	に高い 壁	細かな砂粒多	高台部変形。 窓間 1/2周。口 縁周 1/2周。	一度回転しながら手から昇る。外反 するの口口、内面、底底、口縁周	円錐の底座から巻き上 げる底跡	
33 99 土師質 土器 小皿 T P330 フ					2.2	1.1	3.2	橙	橙	良	高台部。高台周 とも一部残	底切りこなって立ち立つた芋瓶の底 感。底底すり切れて、立ち上がりがし、再び、二 段の回転ナメ。回転底足切	地底直く 小わらけ状	
33 100 瓦器 棒 T P311 フ					13.6	0.6		黒灰 一張口	灰		口縁周一部埋	口縁周。窓。外反。浅い底感。足 底すり切	口縫外反。外底に窓側ナメ。ナメで 二次熱成 → 強牽索	
33 101 土師質 土器 小皿 T P216 フ					4.8	1.6	4.8	に高い 青釉	に高い 青釉		窓周間半周。口 縁周わざかに残 持続者なし	手底から巻き上がる。回転底足 あり		
33 102 土師 T P317 フ	金鉢	全幅 4.65 全厚 1.1	孔径 0.3									土師、灰塗底わざかに欠損。蓋大様 中央部	重量 4kg	
33 103 背面 棒 T P240 フ					16.5	(10)		オーリーブ	オーリーブ	良	口縁一部残	弱井文 片側 窓有		
33 104 瓦器 圓 T P269 フ					8.6	(2.2)		黒灰	黒灰	細かな砂粒多	口縁周わざかに 残	浅い底感。口縁周く外反。外底、 口縫側ナメ。底底ナメナ。		
33 105 土師 T P252 フ	金鉢	全幅 5.8 全厚 1.3	孔径 0.4									土師、灰塗。蓋大様中央部	重量 6.2kg	
33 106 土師器 棒 T P253 フ					21.1	6.0	川白	浅黄緑			高台周 1/4周。 窓	窓のある西面、丸みを帯びて立ち上 がる体感。	窓底直く窓底	
33 107 黒土器 B型 棒 T P253 フ								黑	黑	墨色人土	口縁周わざかに 残	口縁内側小さな斜土になる	黒土器 B型個人	
33 108 土師器 棒 T P253 フ					(2.3)	7.4	浅黄緑	に高い 赤茶色 の糸			高台内側が焼落 する	底底より突出する窓底か ら		
33 109 土師器 棒 T P254 フ					(1.2)	6.0	橙	橙	普通	高台一部埋	高台中央窓凹む。蓋日高台回転系切 り			
33 110 瓦器 圓 T P256 フ					7.8	1.4		灰黒	灰黒	細かな砂粒多	口縁周 1/3周	丸底がちの窓底。口縁外反。内面口縁 ナメナメ。足底ナメ。切り離しなし。右 足底有	素面端着・内外面と毛 面	
33 111 瓦器器 棒 T P268 フ					1.2	3.4	川白	灰白	良	高台周 1/2周	内側高台の底部。外側内面とも同 形ナメ。蓋小口型	瓦器器 小型器機		
33 112 瓦器 棒 T P269 フ					12.6	(2.6)	灰	灰		口縁周わざかに 残	口縫底。底底有。口縫外 反有。外底、口縫二段にナメ			
33 113 石製品 研石 T P226 フ	金鉢	全幅 (3.4)	全厚 (1.2)									黄岩表面欠損表面。研磨面。表面粗 糙な研磨底有	重量 1.5kg	
33 114 鋼器 F P17	金鉢	全幅 3.5	全厚 2.0									直底。横合さ いが阿一側面。圓 底。柄に舟形 先端欠損。足底 修理	直底。横合さ いが阿一側面。圓 底。柄に舟形 先端欠損。足底 修理	直底 4.5g。うすい板状 底底中央から、斜状突 起有。全長 6.
33 115 鋼器 剣 T P204 フ	金鉢	全幅 (5.6)	全厚 1.1											重量 2.3kg
33 116 土師質 土器 棒 T DE03 1/2					28			に高い 壁	赤褐色子多く 入る		窓周間変形	直底高台中央突起出。切り離しなし	柱状高台 延部の可能 性	
33 117 近復 背面 T DE03 1/2					1.8	6.0	川白	灰白	窓質質		背筋、窓見詰まで施釉。筋目縫。つ やのない「白美輪			
33 118 土師質 土器 背面 T DE02 TH1 1/2					1.3	4.6	浅黄緑	浅黄緑	筋っぽい	高台周 2/3 周	前面三脚形の輪底。蓋高台	地底直く 窓底		
33 119 背面 棒 T DE02 1/2					10.6	3.8	3.0	緑灰	緑灰	良	高台周。口縫周 とも 1/3 周	小窓の瓶。骨付一部残。高台見込剥離。 透明感の強い物		
33 120 背面 棒 T DE02 1/2					15.8	(6.7)	頬灰青	灰	良	口縁周わざかに 残	底った骨手の瓶。ビンホール有			
33 121 瓦器器 F DE02 1/2					2.4	0.5		灰	灰	口縫底底張固い。外側粘土積み上 げ瓶	口縫底底張固い。外側粘土積み上 げ瓶	直底		
33 122 土師 T DE02	金鉢	全幅 1.5	全厚 1.1									片側底底欠損。DE02出土の他のもの より大きい	重量 5kg	
33 123 土師 T DE02	金鉢	全幅 0.4	全厚 0.3									両側底底欠損	重量 3kg	
33 124 土師 T DE02	金鉢	全幅 0.4	全厚 0.3									両側底底欠損	重量 5kg	
33 125 土師 T DE02	金鉢	全幅 0.4	全厚 0.3									両側底底欠損	重量 3.5kg	

3-3区遺物觀察表5

測定 値 (cm)	測定 多号	種類	器形	出土遺構	層段	日付 (cm)	留目 (cm)	内面色	外側色	胎土	残存状況	特徴と特徴	備考
33	126		土器	F DK001		全高 17	全幅 12	孔径 0.3				両端部わずかに欠損。	重量 37g
33	127		土器	F DK002		全高 12	全幅 12	孔径 0.4				両端部わずかに欠損。	重量 44g
33	128		土器	F DK002		全高 18	全幅 12	孔径 0.4				片側端部欠損	重量 52g
33	129		土器	F DK002		全高 64	全幅 10	孔径 0.3				両端部欠損	重量 34g
33	130		土器	F DK002		全高 75	全幅 11.5	孔径 0.3				両端部欠損	重量 42g
33	131		土器	F DK002		全高 63	全幅 12	孔径 0.4				片側端部欠損。他の DK002 出土のものより長い	重量 55g
33	132		土器	F DK002		全高 66	全幅 12	孔径 0.3				両端部欠損	重量 65g
33	133		土器	F DK002		全高 53	全幅 13	孔径 0.3				両端部欠損	重量 52g
33	134		土器	F DK002		全高 69	全幅 12	孔径 0.3				両端部欠損	重量 42g
33	135		土器	F DK002		全高 63	全幅 12	孔径 0.3				両端部。欠損	重量 32g
33	136		土器	F DK002		全高 54	全幅 11	孔径 0.3				両端部欠損。底分付着	重量 48g
33	137	瓦器	瓦	遺物集中 1	29	155		灰	灰	普通	白羅周1/4残	口縁歪む。丸みを帯びた底部口縁外 斜削。口縁ナナメ。底部端子ササ 内斜削とも他成時斜削 底付	内斜削とも他成時斜削 底付
33	138	瓦器	瓦	遺物集中 1	21	16		灰	灰	普通	細かな白い印 見える	口縁歪む。丸みを帯びた底部の口縁 外反外削。口縁ナナメ。底部端子ササ 内斜削。口縁ナナメ	内斜削とも白色、底 焼き跡
33	139	瓦器	瓦	遺物集中 1	85	16	に赤い 青黄	に赤い 青黄	青黄	普通	大きな白い印 見える	口縁歪む。底反底部平盤部分少し 外反削。口縁ナナメ。底部端子ナナメ	二大斑斑
33	140	瓦器	瓦	遺物集中 1	29	125		灰	灰	普通	2mmの大い 丸	全体に歪む。底小さな器形平底から直 ぐ開口。外削。口縁端子ナナメ	他成時斜削底付着物 底付
33	141	瓦器	瓦	遺物集中 1	80	11		黒灰	黒灰	普通	細かな白い印 見える	口縁周1/2残	底平な器形平底から底く圓く。外削 口縁端子ナナメ。底付
33	142	瓦器	瓦	遺物集中 1	124	235		黒灰	黒灰	普通	白い砂粒多く 入る	口縁周1/2残	砂粒化した。輪高の口縁歪み口縫 外反二段で底外削。口縁二段式。段削 ササエナメナメ。下段削り内削ナナ メ。底上段り付けるの輪高部にならない なし
33	143	瓦器	瓦	遺物集中 1	132	27		黒灰	黒灰	普通	白い砂粒多く 入る	口縁周1/4残	口縁外反凹い。外側小石が押さ凸凹 押さ。口縁端子ナナメ。内削等付ナ ナメ
33	144	瓦器	瓦	遺物集中 1	133	28		灰	灰	普通	1mmの大い 丸	口縁周く外反外削。二段に前いナナ メ内削	外削。口縁歪い黒な燒 き跡
33	145	瓦器	瓦	遺物集中 1	107	26		灰	灰	普通	白い砂粒入る	口縁外反外削。口縁ナナメ内削。幅の 狭いナナメ	外削。口縁歪い黒な燒 き跡
33	146	瓦器	瓦	遺物集中 1	118	32		灰	灰	普通	1mmの大い 丸	全体に歪む。口縫外反しない。外削。 口縁端子ナナメ。底へナナメの脚 付ける。切り離し無	外側にも底表面 歪む
33	147	瓦器	瓦	遺物集中 1	120	295		灰黒	灰黒	普通	細かな白い印 見え	口縁周1/2残	口縫異常。二段に前い底付平田字の部分 ある。口縫ナナメ。外削。口縁端子ナ ナメ。底付内削ナナメ
33	148	瓦器	瓦	遺物集中 2	24	12		黒灰	黒灰	普通	細かな白い印 見え	丸みを帯びた底部。口縫外削。外削。 口縫ナナメ。底付近迄まで外削方 向ナナメ。見込小槽ナナメ	他成時斜削底付着物
33	149	瓦器	瓦	遺物集中 2	29	11		灰	灰	普通	細かな白い印 見え	口縫周わざかに 入る	底付を帯びた底部。口縫外削。外削。 口縫ナナメ。底付近迄まで外削方 向ナナメ。見込小槽ナナメ
33	150	瓦器	瓦	遺物集中 2	80	11		黒灰	黒灰	普通	白い砂粒入る	口縫周2/3残	口縫周部端子口縫歪み口縫外削。 口縫端子ナナメ。底付近迄まで外削方 向ナナメ。底付内削ナナメ
33	151	瓦器	瓦	遺物集中 2	129	26		黑	黑	普通	白い砂粒入る	口縫周1/3残	口縫周部端子口縫歪み口縫外削。 口縫端子ナナメ。底付近迄まで外削方 向ナナメ。底付内削ナナメ
33	152	瓦器	瓦	遺物集中 2	128	28		黒灰	黒灰	普通	白い砂粒入る	口縫周2/3残	口縫歪い。外削は弱い。切り離し底無 し凸凹付
33	153	瓦器	瓦	遺物集中 2	107	26		黒灰	黒灰	普通	細かな白い印 見え	口縫周一部	口縫外反弱い。外削。口縫ナナメ。下傾 付
33	154	青磁	碗	遺物集中 2	15.9	69	5.5	灰 オリーブ オリーブ	青 オリーブ オリーブ	青磁	細かな移入 入る	青白突起。口縫 1.5cm。底付 無限可	底端部青磁付一部まで施釉 I - 5型。青白見込み 青磁有り
33	155	青磁 土器	罐	遺物集中 2		(49)	9.6	黄灰	に赤い 青	青磁	赤色砂粒多量 に入る	底端部は2段定 形。青白突起差し 青白端子ナナメ	厚手の底部
33	156	土器質 土器	小皿	遺物集中 3	4層	86	165	6.6	に赤い 青	青磁	青白い砂粒 入る	底端部。口縫周 とも一部底 青白端子ナナメ	平底の底部。底部中央で削出外削二 段付ナナメ底付
33	157	瓦器	瓦	遺物集中 3	4層	28	14	黒灰	黒灰	普通	3mmの大い 丸	丸みを帯びた底部外削。口縫ナナメ 底付	外側にも底表面 歪む無し
33	158	瓦器	瓦	遺物集中 3	4層	29	14	黒灰	黒灰	普通	細かな白い印 見える	口縫周わざかに 入る	口縫外反弱い。外削。口縫ナナメ。底付

3-3区遺物観察表6

測定 式 測定 番号	測定 部位	形態	出土遺物	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	内底色	外底色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
33 159 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	4層	7.65	1.5			黒灰	黒灰		口縁開1/2周	丸みを帯びた低窪口縁外反外側、口縁ナデ、ナデ+筋出模様ナエ	口	
33 160 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	4層	11.8	2.1			灰白	暗灰		口縁開一部陶	口縁外反側に低窪外側、口縁ナデ+内側、胎土+ガラス質に墨無し	内側とも灰素燒墨無 とんと無し	
33 161 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	4層	11.8	3.2			灰	灰		1mmの鉢底入る 変形	全体に丸い口縁で内側も丸い内側、口縁ナデより墨無し	内側とも灰素燒墨無 い	
33 162 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	4層	12.1	2.7			暗灰	白い鉢底入る		口縁開一部陶	口縁ナデ、内側墨、底・外側外反、口縁ナデ+墨無し	内側ナデより墨無し	
33 163 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	4層	12.8	2.95			黒灰	削離		1cm大の角難 入る	高台窓型、口縁 周1/2周	高台の名前と見られる鉢底上部墨付 口縁開反側+外側、口縁ナデ、底張 墨ナシ内側、ヒリヒリ底張上部	内側二次被熱の可逆性
33 164 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	4層	12.25	2.95	2.8		に高い 灰灰	に高い 灰灰		高台窓型、口縁 周1/2周	強烈化して底張にならない高台窓外 反弱い、外側、口縁ナデ。底張墨ナ シ内側、墨無し	内側とも灰素燒墨無 い	
33 165 重複系 重複器 瓦器	片口 片脚	蓮瓣集中 3	4層	21.6				灰	灰		2mm大の白い 鉢底入る	口縁開一部陶	口縁開部分+底張なし墨無し先 端丸み内側、倒脚ナデ	
33 166 不明 不明	面	蓮瓣集中 3	4層	(11)	107			灰灰	に高い 鉢底多 く入る		一部陶	うすく平底の底部	内側クール付着	
33 167 上脚質 上器	小瓶	蓮瓣集中 3	5層	7.6	2.1	1.8		に高い 度	に高い 度		底部周、口縁周 とも2.2周。半 周	半周から斜めに立ち上がる	やや太振りな小瓶	
33 168 上脚質 上器	小瓶	蓮瓣集中 3	5層	8.0	1.9	5.6		浅黄青	浅黄青		底部周1/2周、 口縁開わずかに 直角	底部周1-2周、 口縁開わずかに 直角	底部周1-2周、 口縁開わずかに 直角	
33 169 上脚質 上器	小瓶	蓮瓣集中 3	5層	7.6	1.5	5.8		浅黄青	直角+膨肚 入る		底部周1-2周、 口縁開わずかに 直角	底部周1-2周、 口縁開わずかに 直角	底部周1-2周、 口縁開わずかに 直角	
33 170 上脚質 上器	小瓶	蓮瓣集中 3	5層	7.3	1.1	4.6		相	相		底部周1-2周、 口縁開わずかに 直角	底部周1-2周、 口縁開わずかに 直角	底部周1-2周、 口縁開わずかに 直角	
33 171 上脚質 上器	面	蓮瓣集中 3	5層	11.7	3.5	6.9		に高い 相	に高い 相		底部周1-2周、 口縁開1-2周	内側高台状の底張から開いて、当面内 部ナシ内側同心内底付オフコロ低 窓切り		
33 172 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	2.8	21	6.0		黒灰	黒灰		口縁わざかに内 側	全体に墨、丸みを帯びた低窪口縁 外反、底張墨付オフコロ、切り離し 墨無し		
33 173 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	2.7	1.5			黒灰	黒灰		口縁開1/3周	丸みを帯びた低窪口縁外反、内側、口 縁ナデ、口縁下端方底張ナシ内 部ナシ内側、足跡軸方底張ナシ切り離 し地質上		
33 174 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	2.6	1.4			黄灰	黄灰		口縁開一部陶	口縁外反側に聞く口縁外反、口縁ナ シ内側	内側とも底成時降 伏付着	
33 175 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	8.1	1.05	6.1		黄灰	黄灰		口縁わざかに内 側	部分に墨、底張ふくれる、口縁外 反、内側底張付オフコロアーチ切り離 し地質上		
33 176 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	2.7	2.1			黒灰	黒灰		口縁開一部欠損	手紙茎の底張付オフコロ外反、内側、口 縁ナデ、足跡軸方底張ナシ内側、 底張底付オフコロ墨無し		
33 177 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	2.1	1.1	6.1		黒灰	黒灰		注記定期	圓柱形手紙軸から聞く外反、内側、 口縁ナデ、底張墨ナシ内側、底張 底付オフコロ墨無し		
33 178 上脚質 上器	小瓶	蓮瓣集中 3	5層	7.8	1.75	5.6		相	相		1cm大の小石 入る	口縁わざかに内 側、半軽	厚手で重い	
33 179 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	12.3	(16)			灰	灰		7mm大の角難 入る	高+側壁、外反する口縁、内側、口 縁ナデ、底張ナシ内側、口縁ナデ+墨 付込み墨ナデ、墨無し+オキナキ	内側とも灰素燒墨無 い	
33 180 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	12.3	(26)			灰	灰		口縁開1/2周	外反する口縁、内側、口縁ナデ、 底張ナシ内側、口縁ナデ、セキナ		
33 181 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 3	5層	2.2	8.2	1.1		黒灰	黒灰		口縁開わざかに内 側	丸をもつた底張付オフコロ外反、内側、口 縁ナデ+墨無し	内側、灰素燒墨無い	
33 182 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 1	5層-2	12.8	2.9			暗灰	尾白		高台窓型、口 縁開1/2周	底張付の底張付外反、口縁外反はと こ無し内側、口縁ナデ、セキナデ、セキナ		
33 183 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 1	5層-2	12.8	2.9			灰	灰		2mm大の細か な角難入る	底張付の底張付外反、口縁外反はと こ無し内側、口縁ナデ+墨無し+セキナ		
33 184 上脚質 上器	面	蓮瓣集中 1	5層-2	21.8	(50)			に高い 相	に高い 相		口縁開わざかに内 側	底張付の底張付外反、口縁外反はと こ無し内側、口縁ナデ+墨無し+セキナ	内側に付まわり	
33 185 小型 上器	面	蓮瓣集中 1	5層-2	8.6	(50)			に高い 相	に高い 相		口縁開1/2周	口縁開部分+底張り 外反、底張ナ シ内側、下手筋入り口縁ナデ	上脚質上器羽量ニ チュ	
33 186 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 1	5層-2	11.9	(39)			灰	黒灰		1-2mmの大 鉢底入る	全体に底張付外反+内側、内側、口 縁ナデ+墨無し		
33 187 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 1	5層-2	7.6	1.2			黒灰	黒灰		2mm大の鉢底 入る	底張付の底張付外反、底張付内側、 口縁ナデ+墨無し	内側とも灰素燒墨無 い	
33 188 瓦器 瓦	面	蓮瓣集中 1	5層-2	7.6	1.15			黒灰	黒灰		1mm大の角難 入る	底張付の底張付外反、底張付内側、 口縁ナデ+墨無し	内側とも灰素燒墨無 い	

3-3区遺物観察表7

測定 区 (K)	測定 多号	種類	器形	出土遺構	層段	日付 (年)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外側色	胎土	残存状況	特徴と特點	備考
33 189	上部質土器	瓶	下DC03	マ	120	35	5.6	17.5×14.5	白	青緑	普通	高台窓口。口縁 周1/2残	内側高台、外傾して開き口幅扩大さ く外流。外内面とも回転ナメ。回転 式主力。	地成員。かわらけ状 態保存
33 190	上部質土器	小瓶	リ層	75	16	4.6	17.5×14.5	白	織かな黒い縦 筋入る	青緑	普通完形。口縁 周2.3残。胎民 式主力。	平軽柔。陶円平底から腰く開く回転 式主力。		
33 191	上部質土器	小瓶	リ層	69.0	15	4.4	青緑	青緑	織かな砂粒入る	青緑	普通完形。口縁 周1.2残。胎民 式主力。	平軽から開き口幅わずかに外流。外 流。回転ナメ胎民式主力。		
33 192	上部質土器	小瓶	リ層	68	17	5.4	19.5×16.5	灰青緑	灰青緑	青緑	普通	口縁 周 2/3残。 胎民式主力。	高台から外反茎みに聞く	内面タケル目付。内面 胎土巻き板
33 193	上部質土器	小瓶	リ層	69	14	5.0	白	青緑	織かな黒い縦 筋入る	青緑	普通一部欠損	平軽から立ち上がる。内面圓錐 形ナメ胎民式主力。	地成員。かわらけ状 態。	
33 194	上部質土器	小瓶	リ層	72.0	17	4.2	白	青緑	1mmの大糸網 入る	青緑	完形。厚乳	平軽から微弱の腫く立ち上がる 内面中央突起茎みに輪郭あり		
33 195	上部質土器	小瓶	リ層	72.0	17	4.2	白	青緑	青緑	青緑	普通完形。口縁 周わざかに残。胎 民式	内面圓錐形の底面が反して開く。 外流。回転ナメ胎民式主力。		
33 196	上部質土器	小瓶	石列	リ層	68	14.5	白	青緑	青緑	青緑	普通完形。口縁 周1.2残。胎 民式	底面から背反茎みに聞く。内面。見 込み凹凸ナメ胎民式主力。		
33 197	上部質土器	小瓶	リ層	66	16	4.0	白	青緑	織かな白い縦 筋入る	青緑	口縁周一部欠損	底面から外反茎みに聞く	地成員。かわらけ状 態。	
33 198	上部質土器	小瓶	リ層	73	19	4.6	白	青緑	青緑	青緑	口縁 周 2/3残。 胎民式主力。	底面から立ち上がる。		
33 199	上部質土器	小瓶	リ層	67	21	4.2	白	青緑	織かな白い縦 筋入る	青緑	普通周1.2残。口 縁周1.2残。胎 民式	底面から円錐高台の底部。口縁周 外反底盤二段式胎民式		
33 200	上部質土器	小瓶	リ層	70	18	3.4	白	青緑	青緑	青緑	普通周1.2残。胎 民式	底面から立ち上がる。内面圓錐 形ナメ胎民式主力。		
33 201	上部質土器	杯	リ層	62.6	4.0	6.9	青緑	浅青緑	織かな赤茶色 筋入る	青緑	普通1.2残。口 縁周1/2残。胎 民式	全体歪み。平面形。胎円口盤から体 第二段ややこに二段の圓錐		
33 202	上部質土器	杯	リ層	61.8	4.0	7.1	白	青緑	織かな白い縦 筋入る	青緑	普通完形。口縁 周1.2残。胎 民式	底面からめ上方に立ち上がる。や や手すり回転系切り		
33 203	上部質土器	杯	リ層	60.7	4.1	6.2	白	青緑	1mmの大糸網 入る	青緑	普通完形。口縁 周わざかに残。胎 民式	内面圓錐形も底面から立ち上がる。55 瓶。回転ナメ胎民式主力。		
33 204	上部質土器	杯	リ層	60.6	4.0	6.3	白	青緑	織かな赤茶色 筋入る	青緑	普通1.2残。口 縁周1.2残。胎 民式	全底部。底面から立ち上がる。外 面「口縁周ナメ胎民式」見豊景		
33 205	上部質土器	杯	リ層	61.8	3.1	7.3	白	青緑	織かな赤茶色 筋入る	青緑	普通周1.2残。口 縁周1.2残。胎 民式	底面から立ち上がる。底盤。体盤部の 弱い回転系。底盤も1/3残。	外内面とも底面吸収強化 し。上輪器底。器底四 四分。	
33 206	上部質土器	杯	リ層	64	3.2	浅黄	白	青緑	織かな赤茶色 筋入る	青緑	普通周1.2残。胎 民式	底面から		
33 207	上部質土器	粗底 高台	リ層	65	2.0	1.5	白	青緑	織かな白い縦 筋入る	青緑	底面1/2欠損	底状盤から突出する底盤切り離し。底 盤無し。		
33 208	瓦	瓶	リ層	65.5	2.3	17.5	白	青緑	織かな赤茶色 筋入る	青緑	口縁周わざかに残	口縁外底		
33 209	細縫 陶瓶	瓶	リ層	63.9	2.5	9.6	白	青緑	青緑	青緑	口縁周1/2残	口縁外底。口縁内底ナメにより段 なる。うやうやしく内面にねじれなし。	胎土埋陶。うすい種。 京都成。	
33 210	粗底	瓶	リ層	64.8	4.7	9.6	白	青緑	織かな白い縦 筋入る	青緑	口縁周わざかに残	丸を帯びた底盤口縁外底外腹。斜 軸ナメ。	白色に発色。白底	
33 211	白瓶	瓶	リ層	61.0	3.1	6.2	白	白	白	白	底部周完形。口 縁周1/2残	内面とも口縁部底盤部底部。外腹 陶輪底面に限る。	胎民底。	
33 212	白瓶	瓶	リ層	62	2.2	6.0	白	白	白	白	口縁周1/2残	内腹と口縁部底盤部底。外腹 陶輪底面に限る。		
33 213	青瓶	瓶	リ層	63.6	5.4	9.6	オリーブ グリーン	白	オリーブ グリーン	白	高台周完形	底面のある底盤部が開口。内面の一 部までかかる。	I - 5 項	
33 214	青瓶	瓶	リ層	62	5.2	9.6	オリーブ グリーン	白	オリーブ グリーン	白	高台周1/2残	底面のある底盤部が開口。傾仄な 底盤外斜面。三段の回転ケズリ底盤 部で込む。	瓶底斜。	
33 215	青瓶	瓶	リ層	61	6.0	9.6	オリーブ グリーン	白	オリーブ グリーン	白	高台周完形	底面のある底盤部が開口。傾仄な 底盤外斜面。斜面付けて有施無ビン ホール有り。	瓶底斜。	
33 216	青瓶	瓶	リ層	60	4.1	9.6	オリーブ グリーン	白	オリーブ グリーン	白	高台周完形	底面弱い輪郭貫入あり。外腹外斜 面で施無。一部斜口に残る。	小瓶。肩立ち感ある	
33 217	青瓶	瓶	リ層	56	20.5	4.3	オリーブ グリーン	白	オリーブ グリーン	青緑かな紺緑	底盤完形。口 縁周1/2残	底面から地盤上に開き口斜。底盤 外斜面斜面。三段の回転ケズリ底盤 部で込む。	青組目 I b - 12 貝紀半 年。	
33 218	青白瓶	子口	リ層	34	1.9	3.4	明緑風	白	白	白	底盤周。口縁周 とも1/4残	小口の口子に蓋受けあり。体部花文 付き。		
33 219	花葉 陶瓶	瓶	リ層	25.0	4.3	オリーブ グリーン	白	オリーブ グリーン	白	白	高台周1/2残	輪郭から丸みを發揮せず。内面見 込み丸みの状況外底通透性を底盤下部 まで施無。外腹斜面にラウンドアッテ リ。	近道無縫隙。内野山裏 か。	
33 220	瓦	瓶	リ層	29	1.2	浅黄	青緑	青緑	織かな白い縦 筋入る	青緑	口縁周とも1/2残 。表面丸みに施無し。	青緑。陶円筒等器形底盤の底 面。口縁周外反り切り離し施無し。		
33 221	瓦	瓶	リ層	26	1.3	黑白	黒	黒	黒	黒	口縁周とも1/2残 。表面丸みに施無る。			

3-3区遺物観察表8

測定 式 番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	内底色	外底色	胎土	保存状況	形態と特徴	備考
33 222	瓦器	瓶		1層	78	12	6.3	灰白	灰白	Im大の角難入る	口縁周1/2残	平底。好みの底面は外側。外側、黄褐色オサエの内側、口縁ナダ。ヘリテラブリ難し。無施釉。	外内側とも黄素燒着無し。粘土離れ有利
33 223	瓦器	瓶		1層	78	12	5.0	黑灰	灰	普通	口縁周1/4残	平底の後部、口縁周1/2外側、内側焼付。在這まで外側にナダで切り離し。施釉無し。	外内側とも黄素燒着良好
33 224	瓦器	瓶		1層	79	14		黑灰	黑灰	Im大の角難入る	口縁周わずかに残	平底気泡の底面。口縁外側、外側、口縁ナダ。底部はオサエで切り離し。無施釉。	焼成時隣坑付着物
33 225	瓦器	瓶		1層	82	14		灰白	灰白	変形	全体少しづつ、丸みを帯びた底面。口縁周1/2外側、外側、口縁ナダ。体部はオサエの内側、底部は口縁まで外側にナダで、足込部はナダで切り離し。無施釉。	外内側とも黄素燒着面白い	
33 226	瓦器	瓶		1層	76	14		黑灰	黑灰	細かな白粒子入る	口縁周7残	歪み有りの底面。口縁外側、外側、底部はオサエで切り離し。無施釉。	外内側とも燒成時隣坑付着物
33 227	瓦器	瓶		1層	77	10		灰	灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残	細かな凹形平底及び底部。口縁周1/2外側に難し。無施釉。	
33 228	瓦器	瓶		1層	80	15		黄灰	黄灰	変形	細かな凹形平底及び底部。口縁周1/2外側に難し。無施釉。	外内側とも黄素燒着面白い	
33 229	瓦器	瓶		1層	81	12		黑灰	黑灰	Im大の角難入る	底部周。口縁周とも2/3残	細かな凹形平底及び底部。口縁周1/2外側、外側、口縁ナダ。底部はオサエの内側、底部は口縁まで外側にナダで、足込部はナダで切り離し。無施釉。	外内側とも黄素燒着面白い
33 230	瓦器	瓶		1層	83	17		暗灰	暗灰	細かな白い砂粒入る	口縁周一部残	丸みを帯びた底面。口縁外側、外側、底部周1/2外側に難し。口縁ナダで切り離し。	焼成時隣坑付着物
33 231	瓦器	瓶		1層	75	19		灰	灰	普通	変形	丸みを帯びた底面。口縁外側に内側に少し凸の外側、外側、口縁ナダ。底部はオサエ。内側底面迄まで外側にナダで、足込部はナダで切り離し。無施釉。	外内側とも黄素燒着有趣
33 232	瓦器	瓶		1層	78	18		暗灰	暗灰	黑色粒子入る	口縁周一部欠損、厚壁	丸みを帯びた底面。口縁周1/2外側に難し。無施釉。	
33 233	瓦器	瓶		1層	81	14		黑灰	黑灰	細かな白い砂粒入る	口縁周L4残	口縫外側外側、口縫ナダ。体部はオサエの内側、底部は口縫までナダ。足込部はオサエ	外内側とも黄素燒着良好
33 234	瓦器	瓶		1層	79	18		灰白	灰白	2mmの角難入る	変形	全体に歪む丸みを帯びた底面。口縫外側に難し。無施釉。	外内側とも黄素燒着はんど無し。粘土離れ有利
33 235	瓦器	瓶		1層				灰	灰	変形	丸みを帯びた底面。口縫外瓦。外側、口縫ナダアレ基盤オサエ。内側、口縫一部端アレ基盤オサエ。切り離し無施釉。		
33 236	瓦器	瓶		1層	77	19		黑灰	黑灰	Im大の角難入る	口縫周1/3欠損	わずかに歪む。丸みを帯びた底面。口縫外側外側。口縫ナダで切り離し。無施釉。	底部粘土離れ有利
33 237	瓦器	瓶		1層	78	16		灰	灰	変形	全体に歪む。底面が少し凹む。口縫外側外側。口縫ナダで切り離し。無施釉。		
33 238	瓦器	瓶		1層	76	17		灰	灰	変形	全体に歪む。底面が少し凹む。口縫外側外側。口縫ナダで切り離し。無施釉。	一部底辺に黃素燒着	
33 239	瓦器	瓶		1層	76	12		暗灰	暗灰	Im大の角難入る	口縫周1/3残	口縫外側外側。口縫ナダ。	外内側とも黄素燒着無し。
33 240	瓦器	瓶	石列	1層 (13.0)	28	(26)	从白	从白	細かな白い砂粒入る	口縫周一部残	口縫周も歪く外側外側。口縫ナダ。体部はオサエの内側、口縫ナダ。	外内側とも黄素燒着はほとんど無い。	
33 241	瓦器	瓶	遺物集中 2. 中	1層	12.2	31		黑灰	黑灰	Im大の角難入る	口縫周一部残	口縫外側外側。口縫ナダ。内側はオサエ。1/2以上はナダで切り離し。無施釉。	内側とも黄素燒着。外側オサエナダ。
33 242	瓦器	瓶		1層	12.0	28		暗灰	暗灰	2mmの大角難入る	口縫周一部残	口縫外側。底面高さは付かない。考えらる。当初、体部はオサエ。内側はナダで切り離し。無施釉。	
33 243	瓦器	瓶		1層	12.8	3. 2		灰	灰	赤色粒子入る	口縫周わずかに残	口縫外側なし。当初、体部はオサエ。内側はナダで切り離し。無施釉。	化成地の可能性
33 244	瓦器	瓶		1層	11.9	28		暗灰	暗灰	2mmの大角難入る	口縫周 L1残	口縫外側。外側、口縫周1/2アレ。内側はナダで切り離し。無施釉。	
33 245	瓦器	瓶	石列	4層	13.2	31		灰	灰	細かな砂粒入る	底部 1/2残、 口縫周1/4残	底部高さの名前が記載できる。口縫周2段に外側、内側、口縫ナダ。体部はオサエの内側。脚部はオサエ有利で切り離し。	二次被熱の可能性
33 246	瓦器	瓶		1層	12.7	(28)	に長い 青緑	に長い 青緑	白い砂粒入る	口縫周一部残	口縫黄(二段)に外側、外側、口縫ナダアレ。内側はナダで切り離し。無施釉。	係員 黏土離れ	
33 247	瓦器	瓶		4層	13.5	0.5		黑灰	黑灰	普通	口縫周わずかに残	全体に歪む口縫周外側。外側、口縫ナダアレ。内側はナダ有利で切り離し。無施釉。	
33 248	瓦器	瓶		1層	12.3	3. 2		黑灰	黑灰	変形			

3-3区遺物観察表9

測定 区 (区)	測定 多号	種類	器形	出土遺物	層段	日付 (年)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外側色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
33 249	瓦器	筒		4層	125	26	灰白	灰白	白い粒子入る	白い	白	口縁周1/2残	口縁内丸、底面は内面で分かる。外側、口縁部等はサンド、内面、瓶底等はラメナ。手で触ると、切って離さない。	底部、粘土層れ有り	
33 250	瓦器	筒		4層	(132)	(32)		灰	灰	3mmの大穴粒入る	白	白	口縁周一部残	底面真っ白の名残で粘土層付近二段に分れる。外側、口縁等、全体を指すサンド内面、瓶底等が手で切り離し難い。	
33 251	瓦器	筒		4層	136	(31)	灰白	灰	細かな砂粒入る	白	白	口縁周1/4残	直筒的な体形。口縁上部を向く側のみ上凹形。底部矢張り気泡有り。	不定型な器形。在地帯内全面素燒け有り	
33 252	瓦器	筒		4層	128	(30)	灰	暗灰	細かな砂粒入る	白	白	口縁周わざか2/4	口縁直立込み、瓶底丸く成める内面、口縁ナダ	不定型な器形。在地帯内全面素燒け有り	
33 253	瓦器	筒	石列-S	4層	(143)	24	灰白	灰白	細かな白い砂粒入る	灰白	灰白	口縁周2/3残	軽量化し規則にならない高台粘土底全面素燒け	内面とも表素燒けはんどん無し、粘土層れ有り	
33 254	瓦器	筒		4層	(22)	44	灰	灰白	細少な白い砂粒入る	灰白	灰白	口縁周3/4残	規則化し規則化しないがしっかりした高台、内面凹込みまで密閉なミガリ付近有り		
33 255	瓦器	筒		4層	125	31	灰白	灰白	白い砂粒入る	白	白	高台2/5	軽量化した字形で輪高台にならない粘土層付内面に丸く盛り込み且つ凹く、重ね堆積も含め、外側、口縁等サンド	内面とも表素燒けはんどん無し	
33 256	瓦器	筒	石列-S	4層	127	31	暗灰	灰白	白い砂粒入る	灰白	灰白	口縁周1/2残	軽量化した輪高台、口縁外側、外側、口縁ナダ、底面等オサシ、内面、口縁ナダ、土色等有り頭付有り	内面とも表素燒けはんどん無し	
33 257	瓦器	筒		4層	122	31	灰	灰	1mmの大穴粒入る	白	白	口縁周一部欠損	全体において口縁は内側で外側、内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド	底部粘土層れ有り	
33 258	瓦器	筒		4層	120	325	灰	灰				完形	全体に歪む口縁と外反、外側、口縁等サンド、内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド		
33 259	瓦器	筒		4層	118	(22)	黑灰	黑灰	細かな砂粒入る	白	白	口縁周1/3残	口縁部のみ外反、大きめ圓筒形底付、口縁等サンド内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド	外側底部灰沈れ有り	
33 260	瓦器	筒		4層	120	33	黑灰	黑灰	1mmの大穴粒入る	白	白	口縁周一部欠損	口縁部反張、底を粗面仕上げ、輪高台にならなく軽量化する為、不完全形、口縁等サンド内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド	表面に小石が混入する程ナダ	
33 261	瓦器	筒		4層	129	275	暗灰	暗灰	1mmの大穴粒入る	白	白	口縁周1/2残	手で形態化した高台口縁丸く二段ナタ付、口縁一段ナタ内面、土色等有り頭付有り		
33 262	瓦器	筒		4層	122	315	灰	灰				完形	全体に歪む口縁で外反、外側、口縁等サンド、内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド		
33 263	瓦器	筒		4層	123	29	黑灰	黑灰	白い砂粒多く入る	白	白	口縁周1/2残	口縁部反張、底を粗面仕上げ、輪高台にならなく軽量化する為、不完全形、口縁等サンド内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド	外側底部削除有り	
33 264	瓦器	筒		4層	128	23	灰白	灰白	白い砂粒多く入る	白	白	口縁周1/3残	口縁部反張、底を粗面仕上げ、輪高台にならなく軽量化する為、不完全形、口縁等サンド内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド	内面とも表素燒けはんどん無し	
33 265	瓦器	筒		4層	(136)	32	37	灰	灰	細かな白い砂粒入る	白	白	高台周1/3残、口縁周2/3残	軽量化した輪高台、輪高台にならなく外反、外側、口縁等サンド内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド	
33 266	瓦器	筒	石列-S	4層	131	29	黑	黑				底面周、口縁周ともわざかに残	全体に歪む口縁で外反、外側、口縁等サンド、内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド		
33 267	瓦器	筒		4層	128	33	灰	灰	7~8mmの大いき小孔入る	白	白	口縁周定形	全体に歪む口縁で外反、口縁周、底付等、外側、口縁等サンド内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド		
33 268	瓦器	筒		4層	121	295	黑灰	黑灰	白い砂粒入る	白	白	口縁周1/3残	口縁部反張、底を粗面仕上げ、輪高台にならなく軽量化する為、不完全形、口縁等サンド内側で外側と並んで、内面、口縁等サンド	全体に前素燒	
33 269	瓦質土器	罐		4層	20	67	灰白	黄	細かな白い砂粒入る	白	白	口縁周わざかに残	口縁わざかに内面、罐底面をすり外側、口縁、横方に沿うサクサクの面口縁等付、口縁等ハサ		
33 270	瓦質土器	罐		4層	15.6	(32)	橙	橙	細かな砂粒多く入る	白	白	口縁周わざかに残	口縁部反張、罐底面に切り掛けられる口縁に小さな凹が付く	擦音型目皿	
33 271	土師質土器	罐		4層	25.6	(53)	灰白	灰白	白い砂粒多く入る	白	白	口縁周わざかに残	口縁部反張し底面をなし上方を向く口縁に書が付く	大きな厚手、茎、ヒョウ、足、脚、12世紀後半-13世紀前半	
33 272	石器	石器		4層	22.0	63						口縁周一部残			
33 273	青磁器 青磁器	片口 瓶		4層	21.6	(54)	灰	灰	細かな白い砂粒入る	白	白	口縁周上方に張出し、内側、外側ナダ、口縁等、口縁等			
33 274	青磁器 青磁器	片口 瓶	石列-S	4層	35.3	(58)	灰	灰	細かな白い砂粒入る	白	白	口縁周わざかに残	口縁周底部張出し、内側、内面等ナダ、口縁等	底部凸凹有り	
33 275	青磁器 青磁器	片口 瓶		4層	26.8	63	灰	灰	細かな白い砂粒入る	白	白	口縁周上部底張、外側、口縁周下部等	底面凹、口縫状隙間多く丸みを帶び複数個あり外側、外面凸に凹底張、内面、内側、内面等ナダ付底等		
33 276	青磁器 青磁器	片口 瓶		4層	18.5	113	88	白	白	白い砂粒多く入る	白	白	口縫状隙間で底面をなし上方を向く口縫に書が付く	内面表面粒子つぶれていない、14世紀後半-15世紀前半	

3-3区遺物観察表10

測定 式 番号	種別	形態	出土遺構	層位	CHP (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	内底色	外底色	胎土	保存状況	形態と特徴	備考	
33 227	常滑焼	片口 鉢		4層	29.4	10.1	17.0	褐	灰黄	細かな砂粒入る	口縁開一底閉	平底から直腹部に向く側面外削。口縁開わずかに内削。口縫ナメ		
33 228	陶質 土器	鉢		4層	(25)	12.4	浅黄褐	浅黄褐	赤色の砂粒多 量に入る	底部完形	底盤から開きぎみに立ち上がる	大型斜生土器底部		
33 229	陶器	板状 鉢		4層	全高 7.6	全幅 29	全厚 0.7			先端。基部欠損	扁平な板状。やや済曲。先端薄陥ぐ。	重量 28.5g		
33 230	土加賀 土器	小皿		5層	10.0	(15)		浅黄褐	灰	細かな赤色の 粒入る	口縁開わずかに 内削	舟形口と水平に開き上方に小さく傾 み上げる	この字狀口縁盤か II 世紀代の可塑性	
33 231	土加賀 土器	小皿		5層	6.3	1.0	4.3	にひい 程	にひい 程	細かな赤色の 粒入る	口縁開わずかに 内削	平底から口縁外削。外縁二段にナメ 回転底あり		
33 232	土加賀 土器	小皿		5層	7.5	1.9	5.2	にひい 程	にひい 程	細かな赤色の 粒入る	底部周。口縁開 とも1/3残	平底から立ち上がる。外縁二 段にナメ軸切切り		
33 233	土加賀 土器	小皿		5層	7.9	1.7	4.7	にひい 程	にひい 程	細かな砂粒多 量入る	完形。外縁厚削	底盤から立ち上がる。外縁回転ナメ 底盤あり		
33 234	瓦器	瓶	集中3	5層	2.6	1.5	6.2	灰	暗灰		口縁開2/3残	手延ぎみの底盤みを引いて裏。口 縫外削。外縁。口縫ナメ。底盤厚すら 無し	粘土解れ。粘土切りぬ み有り	
33 235	瓦器	瓶		5層	8.0	1.4		灰	灰	2mm丸の焦痕 入る	口縁開1/4残	底盤から開きぎみに立ち上る。口縫 外削。内縫足見込み凹凸の程度	内縫外削。外縫。口縫ナメ。底盤厚すら 無し	
33 236	土加賀 土器	瓶		5層	12.0	3.0	6.6	にひい 程	にひい 程	細かな砂粒入る	底部周。口縁開 とも1/2。單 耳	平底から開きぎみに立ち上る。口縫 外削。内縫足見込み凹凸の程度		
33 237	集落器	瓶		5層	(25)	5.1		浅黄	浅黄	白い砂粒入る	高台開1/2残	やや不規則形の瓶高台から底盤みを引 いた体形。内縫足見込み凹凸の程度 下部底盤にうきびり感有	内縫。表面フルフル	
33 238	瓦器	瓶		5層	16.8	(30)		灰	灰	2mmの粒状 丸	口縁開一部残	口縫底部内縫式底糸に残になる	水呑瓶型 12 世紀 代の可塑性	
33 239	瓦器	瓶		5層	12.4	3.2	3.5	にひい 程	にひい 程	細かな白い砂 粒	高台開1/2残。 口縁開一部残	底盤がんこつりして低い内縫口縫 既外反張。外縫。口縫二段ナメ	2次焼成による変形	
33 240	瓦器	瓶		5層	15.6	(40)		灰黄	灰黄	細かな砂粒多 量入る	口縁開一部残	厚手。口縫なく外削。外縫。口縫ナメ	厚手。重たい。不規 則形推進ササ	
33 241	瓦器	瓶		5層	9.8	2.5					口縫底部丸化した丸みを帯び た唇形	和田型瓦呑瓶形既 14 世纪前半		
33 242	瓦器	瓶		5層	12.4	3.3		黑灰	黑灰	細かな白い砂 粒入る	底部周開形。口 縫開1/2残	和田化した開底なさざな白口。口縫 既外反張。外縫。二段ナメ。体延薄す ら中縫内ハナナメの低いミキサホ 下部開口有		
33 243	瓦器	瓶		5層	15.1	3.0		暗灰	暗灰	細かな白い砂 粒入る	口縫開一部残	和田化した高台。口縫既 外反張。外縫。口縫二段ナメ。體延薄す ら中縫内ハナナメの低いミキサホ 下部開口有		
33 244	瓦器	瓶		5層	12.7	3.2	2.6	灰白	灰白	細かな白い砂 粒入る	高台周完形。口 縫開一部残	形態化した高台。口縫既 外反張。外縫。二段ナメ。体延薄す ら中縫内ハナナメの低いミキサホ 下部開口有	内縫と底筋吸着は止 と無し	
33 245	瓦器	瓶		5層	11.9	3.4		黑灰	黑灰	細かな白い砂 粒入る	高台周。口縫開 一部残	底盤既に高台。体延薄め。口縫既 外反張。外縫。二段ナメ。体延薄す ら中縫内ハナナメの低いミキサホ 下部開口有	不定形。難な作り	
33 246	瓦器	瓶		5層	13.6	(37)		灰	灰	細かな砂粒入 る	口縫既上も1/2 残	全高に口縫既外反張。口縫既 外反張。内縫凸起有り。外縫。口縫既 外反張	既成既好いし手筋 底盤作成	
33 247	瓦器	瓶		5層	12.2	2.4		暗灰	暗灰	細かな白い砂 粒入る	口縫開わずかに 内削	既外反張。内縫既 外反張。内縫既外 反張	既成既好いし手筋 底盤作成	
33 248	瓦器	瓶		5層	12.5	2.4		黑灰	黑灰	細かな白い砂 粒入る	口縫開わずかに 内削	ゆるやかな丸みを帯びた底盤。口縫既 外反張して高く外削。口縫ナメ内縫、 底盤ナメ	即ち既好いし手筋、 底盤作成	
33 249	瓦器	瓶		5層	0.4			灰白	黑灰	底盤。口縫開 1/3残	底盤。口縫開 1/3残	既既好いし手筋、 底盤作成		
33 250	瓦器	瓶		5層	12.6	(27)		灰白	灰白	細かな砂粒多 量入る	口縫開わずかに 内削	既外反張。内縫既 外反張。内縫既外 反張	既既好いし手筋、 底盤作成	
33 251	白陶	瓶		5層	7.7	(3.0)		灰白	灰白	良	口縫開一部残	内縫に口縫既外反張。口縫既 外反張。内縫既外 反張	既既好いし手筋、 底盤作成	
33 252	土器器	瓶		5層	23.0	(27)		褐	褐	茎付。砂粒多 く入る	口縫開わずかに 残	口縫既上も1/2 残	内縫のみ見る口。口縫既 外反張。内縫既外 反張	既既好いし手筋、 底盤作成
33 253	瓦器 土器	片口 鉢	集中3	5層	22.0	(30.2)		灰	灰	細かな赤色多 量入る	口縫開わずかに残	内縫のみ見る口。口縫既 外反張。内縫既外 反張	既既好いし手筋、 底盤作成	
33 254	常滑燒	片口 鉢		5層	29.0	(32.0)		赤灰	赤灰	白い砂粒多く 入る	口縫開一部残	直線的内縫に開き底盤既外反張 内縫。口縫ナメ内縫、底盤ナメ	内縫。既分洋起出	
33 255	石器	研石		5層	全高 16.0	全幅 (8.1)						既既好いし手筋、 底盤作成	重量 263.5g	
33 256	瓦器	瓶		5層	22	1.6	0.3						サヌサヌイ形。直筒式。瓶底尖	重量 10kg

3-3区遺物観察表11

測定 区 (cm)	測定 多量	種類	器形	出土遺構	層段	日付 (cm)	露高 (cm)	復元 (cm)	内面色	外側色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
33 308		土師			5層	全高 6.1	今朝 2.5	孔径 0.9					大型土器孔口定形。表面掌持。	重量 35kg	
33 309		土師			5層	全高 4.85	孔径 2.4	0.9					大型土器内鉢形	重量 23kg	
33 310	土師質 土器	小瓶			5層 -2	7.2	1.15	4.0	口縁内 横	口縁内 横	細かな鉢形に入る	直部 周1.3cm、 口縁周わざかに 風	扁平な器形平面から底く立ち上がる 口縁。内縁口縁内横。底部深くサム 足付。内縁上に施墨無し。	瓦器様の器形。発色土 器化。焼成の痕跡か 付。	
33 311	土師質 土器	小瓶			5層 -2	7.7	1.45	4.9	口縁内 横	口縁内 横	細かな鉢形多 量に入る	变形	浅平な器形平面から底く立ち上がる 内縁。内縁口縁内横から上方に立ち 上がる外縁に斜めナメ軸系切り抜 へぐ起こし。	円錐形の器形底部が内筋 上に上げて底部。斜面 ナメ軸系。	
33 312	土師質 土器	小瓶			5層 -2	7.5	1.5	5.0	口縁内 横	口縁内 横	細い口縁内 横	底部周内横。口 縁内横	手の掌で運ぶ底から直進的に開く口 縁。内縁口縁内横切り	手の掌で運ぶ。底から直進的に開く口 縁。内縁口縁内横切り	
33 313	土師質 土器	小瓶			5層 -2	6.8	1.7	4.6	浅青釉	浅青釉	細かな赤茶色の 粒を入れる	孔口定形	手から立ち上がる。表面剥離ナメ 軸へぐ起こし内縁内横	手から立ち上がる。表面剥離ナメ 軸へぐ起こし内縁内横	
33 314	土師質 土器	小瓶			5層 -2	3.9	1.6	4.5	口縁内 横	口縁内 横	細かな鉢形入 る	底部周。口縁周 とも一様な黒	手から立ち昇る上方に立ち上がる 底部周。内縁内横。内縁口縁内横切 り底部周	手から立ち昇る。内縁内横	
33 315	土師質 土器	小瓶			5層 -2	7.0	2.0	4.2	口縁内 横	口縁内 横	跡少ない	底部周。口縁周 とも1/2強	手から立ち昇る上方に立ち上がる。内 縁口縁内横切り	手から立ち昇る上方に立ち上がる。内 縁口縁内横切り	
33 316	土師質 土器	杯			5層 -2	3.3	6.9	6.9	根	根	細かな赤茶色の 粒を入れる	底部周内横。口 縁内横	薄手、茎み有り底から斜め上方に 立ち上がり。内縁剥離ナメ	薄手、茎み有り底から斜め上方に 立ち上がり。内縁剥離ナメ	
33 317	土師質 土器	杯			5層 -2	11.6	4.5	5.9	口縁内 横	口縁内 横	細かな赤茶色の 粒を入れる	底部周内横。口 縁内横1/2強	手から立ち昇る。内縁剥離ナメ 軸へぐ起こし	手から立ち昇る。内縁剥離ナメ 軸へぐ起こし	
33 318	瓦器	瓶			5層 -2	8.4	1.75		黒	黒	細かな角輪入 る	口縁周1/4強	丸みを帯びた底部口縁外反張。外 縁、口縁オサハナ切り出し直 接無し。	丸みを帯びた底部口縁外反張。外 縁、口縁オサハナ切り出し直 接無し。	
33 319	瓦器	瓶			5層 -2	7.8	1.3		黒	黒	細かな角輪入 る	口縁周1/3強	丸みを帯びた底部口縁外反張。外 縁、口縁オサハナ切り出し直 接無し。	丸みを帯びた底部口縁外反張。外 縁、口縁オサハナ切り出し直 接無し。	
33 320	瓦器	瓶			5層 -2	2.4	1.55		黒	黒	細かな角輪入 る	底部周。口縁周 とも1/2強	丸みを帯びた底部口縁外反張。外 縁、口縁オサハナ切り出し直 接無し。	丸みを帯びた底部口縁外反張。外 縁、口縁オサハナ切り出し直 接無し。	
33 321	瓦器	瓶			5層 -2	7.7	1.6		黒	黒		底部周。口縁周 とも1/2強	丸みを帯びた底部口縁外反張。外 縁、口縁オサハナ切り出し直 接無し。	丸みを帯びた底部口縁外反張。外 縁、口縁オサハナ切り出し直 接無し。	
33 322	瓦器	瓶			5層 -2	8.4	1.75		黒	黒	2mmの大口縫 なれ縫入る	口縁周一部縫	扇平等な直縫。手すき底。口縁外 縫。内縁内横ナメ。体圓度ナシ。中筋 部無縫隙。ナメ切欠。直筋無し。	扇平等な直縫。手すき底。口縁外 縫。内縁内横ナメ。体圓度ナシ。中筋 部無縫隙。ナメ切欠。直筋無し。	
33 323	瓦器	瓶			5層 -2	12.8	3.25		黒	黒	細かな白い跡 粒を入れる	高台周1/2強。 口縁周1/2強	少々くび出た直縫。L字型直縫外 縫。口縁一部にさがりが有り直縫外 縫。口縁上部縫隙ナメ。ナメ切欠 ナメエ。内縁。脚圓度ナシ直縫外縫	少々くび出た直縫。L字型直縫外 縫。口縁一部にさがりが有り直縫外 縫。口縁上部縫隙ナメ。ナメ切欠 ナメエ。内縁。脚圓度ナシ直縫外縫	
33 324	瓦器	瓶			5層 -2		2.4	2.6	黒	黒		高台周一部縫	粒状化した直縫。内縫見込み。行 き止まり	内縫見込み。行 き止まり	
33 325	瓦器	瓶			5層 -2	13.1	3.0	3.9	黒	黒	1mmの大口縫 多量に入る	底部周。口縁周 とも1/2強	底部周。口縫内 横	底部周。口縫内 横	
33 326	瓦器	瓶			5層 -2	11.7	3.7		黒	黒	細かな白い跡 粒を入れる	高台周一部縫	粒状化した直縫。内縫見込み。行 き止まり	粒状化した直縫。内縫見込み。行 き止まり	
33 327	瓦器	瓶			5層 -2	11.6	2.7		黒	黒	細かな白い跡 粒を入れる	高台周一部縫	内縫等々口縫内 横	内縫等々口縫内 横	
33 328	瓦器	瓶			5層 -2	12.4	3.24		黒	黒	細かな白い跡 粒を入れる	口縫周3/4強。 底部周1/2強	口縫周3/4強。底部周1/2強	内縫等々口縫内 横	
33 329	瓦器	瓶			5層 -2	13.0	3.6		黒	黒		高台周。口縫周 とも1/2強	少少化した高台。1/2前頭口縫外縫 口縫二段によるが直縫外。口縫 ナメ切欠。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	少少化した高台。1/2前頭口縫外縫 口縫二段によるが直縫外。口縫 ナメ切欠。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	
33 330	瓦器	瓶			5層 -2	12.1	3.2		黒	黒		高台周1/2強	口縫周1/2強。口縫周1/2強	口縫周1/2強。口縫周1/2強	
33 331	瓦器	瓶			5層 -2	11.9	3.3		黒	黒	細かな鉢形入 る	口縫周一部縫	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	
33 332	瓦器	瓶			5層 -2	11.5	3.0		黒	黒	細かな鉢形入 る	口縫周わざかに 風	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	
33 333	白磁	瓶			5層 -2	10.3	2.15	6.0	白	白	直	底部周1/2強。 口縫周1/2強	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	
33 334	白磁	瓶			5層 -2	15.3	5.1		オーブ	オーブ	直	口縫周わざかに 風	口縫周1/2強。 口縫周1/2強	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠
33 335	白磁	瓶			5層 -2	17.3	3.4		オーブ	オーブ	直	口縫周わざかに 風	口縫周1/2強。 口縫周1/2強	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠	口縫周1/2強。直縫。内縫見込み。行 き止まり。内縫ナメ。脚圓度ナシ 直縫外縫。ナメ切欠
33 336	土師質	瓶			5層 -2	21.6	1.0		にあり 横	にあり 横	にあり 横	鉢形多量に入 る	口縫周わざかに 風	口縫周わざかに 風	口縫周わざかに 風

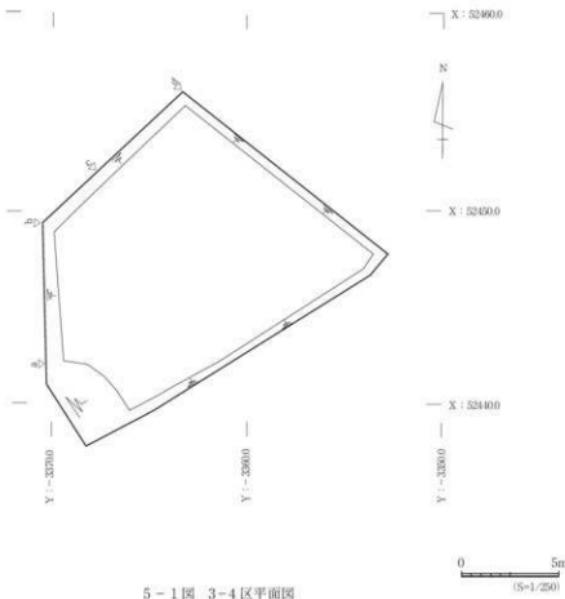
3-3区遺物観察表12

測定 式 番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	内底色	外底色	胎土	現存状況	形態と特徴	備考
33 337 瓦器 上部 溝				5層 - 2	19.8	(2.0)		灰	灰	細かな苔多 く入る	口縁圍わずかに 残	受け口既の口縁外内面ともナゴ	13 青紀後半か
33 338 小型 上部 茅葺				5層 - 2		(3.2)		灰白	灰白	細かな苔多 く入る	口縁四隅あり、口縁下に窪内面。 内側から青銅鋤跡ナゴ、内側面サニエ後 半	外側僅分量、内内面苔多く入る。内内 面に虫食き(シロアリ)ナゴ。 使用した可能性有り	
33 339 重複点 片口 底色器				5層 - 2	28.1	(4.5)		灰	灰	白い砂粒入 る多く	口縁、片口一部 残	口縁復元はとんど根拠なく失る。内内 面、内側ナゴ内面。底、側面にナゴ	
33 340 瓦器 上部 茅葺				5層 - 2		(8.9)		黒灰	黒灰	苔多く入る		能入品の三足脚小	
33 341 瓦器 壁				5層 - 2	18.1	(5.6)		深青緑	暗赤褐	砂粒多、大き な砂粒入る	口縁わざかの残	口縁下に瓦隙、縫合状になる	13 青紀後半 - 14 青紀前 半
33 342 石器 研石				5層 - 2	全長 10.1	全幅 8.9	全厚 1.5					研磨面中央凹凸。側面一部端打 痕	重量 56g
33 343 瓦器 壁				5層 - 2	全長 17	全幅 0.6	全厚 0.5					先端、基部とも 欠損。前面方舟	
33 344 上部質 上部 梨				4層	11.3	41	6.0	に高い 程	に高い 程	細かな赤色砂 粒入る	底部一端残。口 縁圍わずかに残	手洗立ち上がりやすい。口縁外反立ち 程	
33 345 瓦器 梨				4層	12.6	27		黒灰	黒灰	Jam大の角難 入る	口縁外反立ち、残い口縁外面。口縁 圍わずかに残	手洗立ち上がりやすい。内内面良 好有り切刃難し痕無し	
33 346 瓦器 梨 PL23				4層	12.7	(36)		灰白	灰白		高台周。口縁 囲 ヒモ一部残	筒手で整化した高台口縁無痕跡、 口縁ナゴノ政。高台高台	内内面とも黄素彫着良 好
33 347 上部器 真形				5層 - 2		(65)		橙	橙		胎部わざかに残	粗胚、粗小い内面シボリ口残る	
33 348 青白釉 梨瓶		TR14				(27)		オリーブ 灰	オリーブ 灰	頬真		青白釉瓶瓶頬部分	
33 349 不明 不明				5層 - 2				に高い 程	に高い 程	細かな砂粒に 入る	何處部。内腹中央部に径 12mmの孔 跡或孔穿孔	二次利用の可能性	

## 第V章 3-4・5区の調査

### 1.3-4区の調査

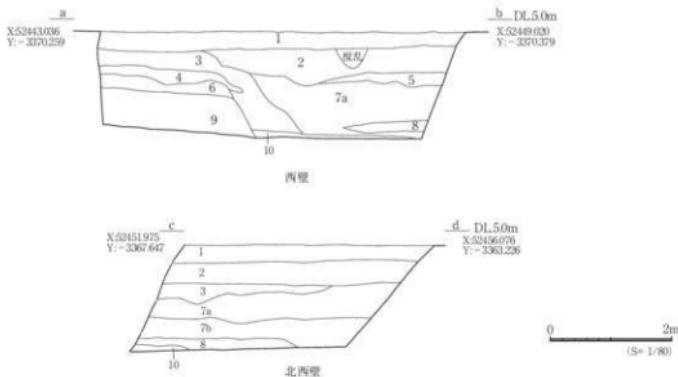
3-1区の東隣、現堤防内側直下にある調査区で170mを測る。現表土下2m程掘り下げたが、図示したようにシルト、砂、礫の堆積が厚く見られ生活面の形成は全く確認できない。遺物も見られない。3-1区東端部の法面から東側は仁淀川の河川堆積である。3-1区には近世遺構が確認されていることから近世以降の堆積と考えられる。この付近の仁淀川の流れは、時代が下るにしたがって東に動いている。



### 2.3-5区の調査

#### (1) 基本層準 (5-4図)

3地点東部の調査区で550mを測る。東側の大部分は、近世以降の河川堆積で遺物・遺構は認められなかった。基本層準は調査区上半分の東壁と東壁から東に屈曲する北壁で観察した。仁淀川に隣接する調査区であることから3-1区に比べて全体に砂層が多くなっている。護岸の可能性のある石積痕跡も認められる。



- 1：表土  
 2：にぶい黄褐色砂  
 3：にぶい黄褐色小漂混ざりのシルト  
 4：灰褐色砂  
 5：黄褐色シルト  
 6：にぶい黄褐色シルト～砂  
 7a：にぶい黄褐色砂  
 7b：灰褐色砂  
 8：灰褐色砂  
 9：灰褐色砂～漂  
 10：にぶい黄褐色シルト

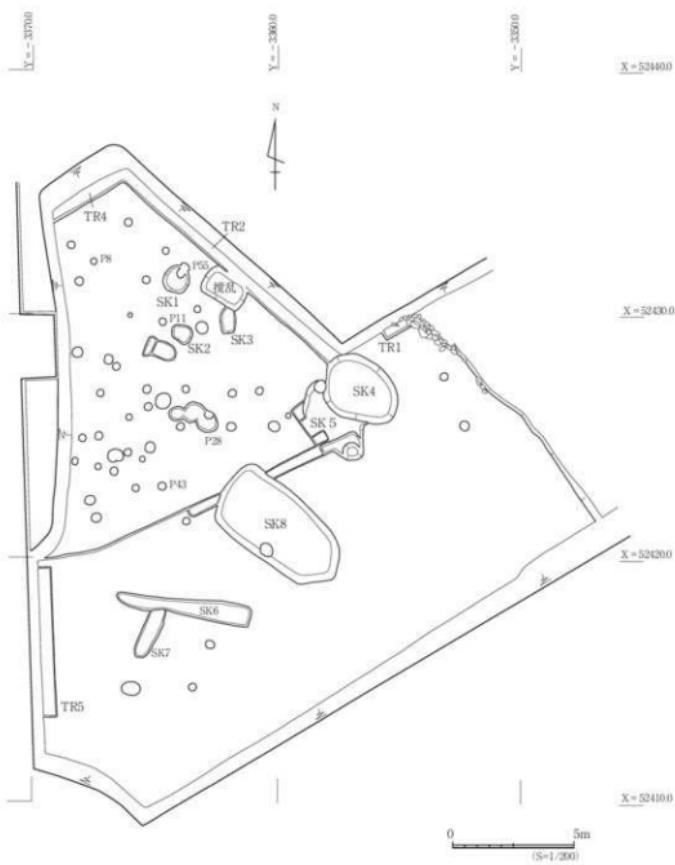
5-2図 3-4区基本層準

① 北壁基本層準

- 1：客土で層厚 20～30cm前後を測る。
- 2：灰褐色細砂層で層厚 8～18cmを測る。旧耕作土である。
- 3：にぶい黄橙色細砂層で層厚 8～20cmを測り東に(仁淀川に)向かって層厚が厚くなっている。
- 4：灰黃褐色細砂層で層厚 10cm前後を測る。
- 5：にぶい黄褐色砂層で層厚 60cm以上を測る。
- 6：黄橙色細砂層で層厚 60cm前後を測る。図示したように人頭大あるいはそれ以上の大きさの砂岩角礫を含むが、これは後述する7層の法面に積まれた護岸石積みが崩落したものと考えられる。
- 7：小礫を含む黄橙色シルト層で層厚 20～30cmを測る。東端は法面を形成しており下半には護岸の石積みが見られ、上部は垂直に削られている。中世の遺物包含層を形成している。
- 8：にぶい黄橙色シルトで層厚 20cm以上を測る。上面は中世の遺構検出面である。

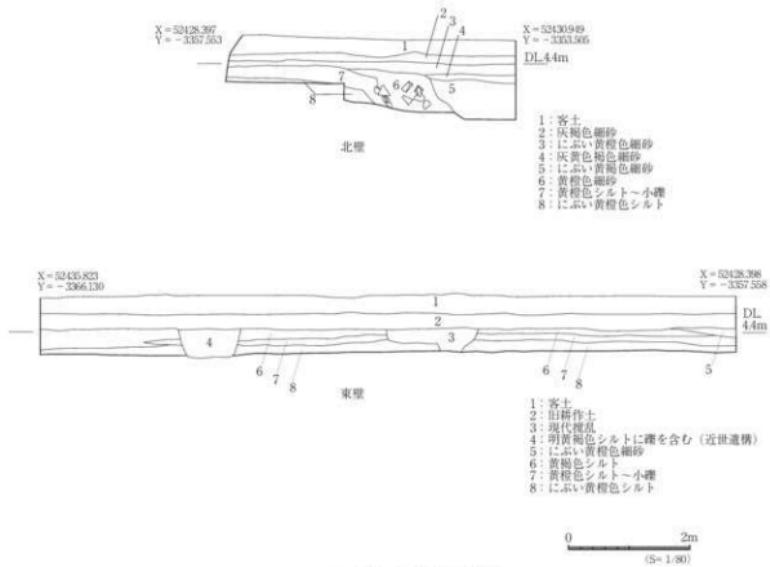
② 東壁基本層準

- 1：客土で層厚 30cm前後を測る。
- 2：灰褐色細砂層で層厚 20～25cmを測る。旧耕作土である。
- 3：現代擾乱である。



5-3図 3-5区造構全体図

- 4: 近世造構埋土である。
- 5: 北壁の3に対応する層準である。南端部においてのみ認められる。
- 6: 黄褐色シルトである。北部では30cmの層厚を示すが南に寄るにつれて層厚を減じ南端部で5に切られている。
- 7: 北壁の7に対応する層準である。層厚は5~15cmを測る。
- 8: 北壁の8に対応する層準である。層厚は10~20cmを測る。



5-4図 3-5区基本層準

## (2) 遺構と遺物

### ① 土坑

#### SK1 (5-5図)

調査区北部にある。長軸 1.14m、短軸 1.1m の楕円形を呈し深さ 12cm を測る。北部を P55 に切られている。埋土は 1 ~ 3cm 大の礫を含む褐色シルトである。遺物は埋土から土師質土器片 20 点余りと瓦器細片数点が出土している。土師質小皿 1 を図示し得たのみである。

#### SK2 (5-5図)

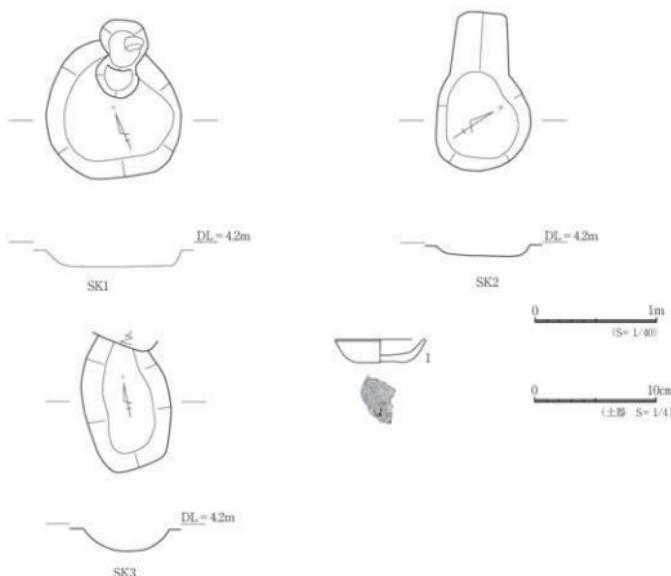
SK1 の南にある。長軸 0.92m、短軸 0.76m の不整形の平面形を呈し、深さは 10 ~ 15cm を測る。埋土は SK1 と同じである。遺物は埋土から土師質土器細片 10 点程が出土している。

#### SK3 (5-5図)

SK1 の南にある。一部を現代擾乱に切られているが、長軸 1.2m 前後、短軸 0.72m の楕円形状をなす。埋土は 1 ~ 3cm 大の礫を含む灰褐色シルトである。土師質土器細片 25 点、瓦器細片 2 点、東播系捏鉢細片 1 点が出土しているが図示できるものはない。

#### SK4 (5-6図)

調査区の中央部にあり SK5 を切っている。長軸 3.44m、短軸 2.56m の楕円形を呈し、深さ 20cm 前後を測る。埋土は 1: 1 ~ 3cm 大の礫を含む明黄褐色シルト、2: にぶい黄橙色シルトである。遺



5-5図 SK1~3平面・エレベーション・出土遺物  
SK1(土師質小皿:1)

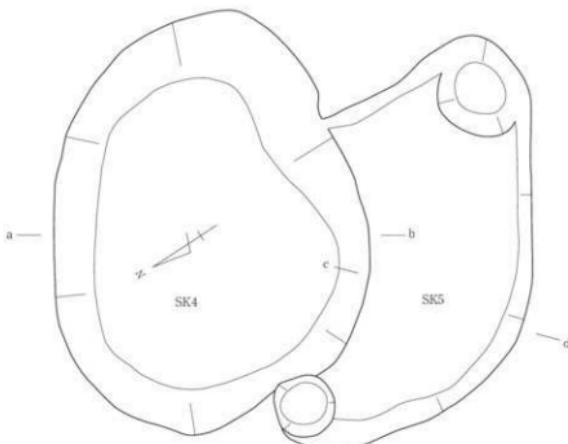
物は埋土1から土師質土器細片50点余り、瓦器片10点余り、東播系捏鉢、唐津系灰釉陶器、床面から中国銭が8枚接着した状態で出土している。永楽通寶1枚(Z1)、○元○寶(Z2)、開元通寶2枚(Z3)は判読できるが他は摩耗と発着により銭種は不明である。Z1は銭径2.5cm、内径2.1cm、孔は一辺0.58cm、Z2は銭径2.3cm、内径1.95cm、孔は一辺0.65cm、Z3は銭径2.3cm、内径1.7cm、孔は一辺0.65cmである。土器は、2が唐津系灰釉陶器皿、3は東播系捏鉢、4は土師質杯、5は同小皿である。17世紀初めの土坑である。

#### SK5(5-6・7図)

SK4に切られる平行四辺形状の平面形を図示したが、輪郭を明確に示すことは難しい。長軸2.7m、短軸2m前後、深さ15~20cm前後の土坑と考えられる。埋土は1~3cm大の礫、炭化物を多く含む黄褐色シルトである。遺物は多く出土しており土師質土器片250点を中心に、瓦器や青磁細片が見られる。6~10は土師質小皿、11~20は同杯、21~22は土師器椀底部、23~29は瓦器椀、30~31は青磁碗である。土師質杯19はハケ状原体による横ナデ調整が認められる。

#### SK6(5-8図)

調査区南部にありSK7と切り合っているが先後関係は不明である。長軸5.5m、短軸0.9mの溝

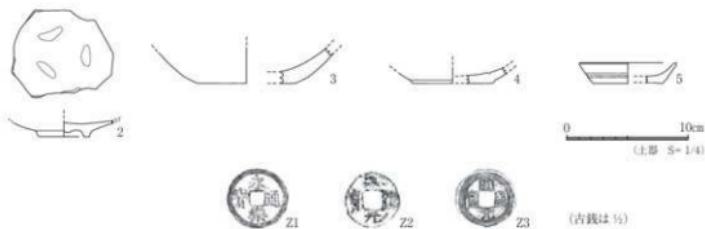


1: 明黄褐色シルト (1~3cmの粗を含む明黄褐色シルト)  
2: にぶい黄褐色シルト



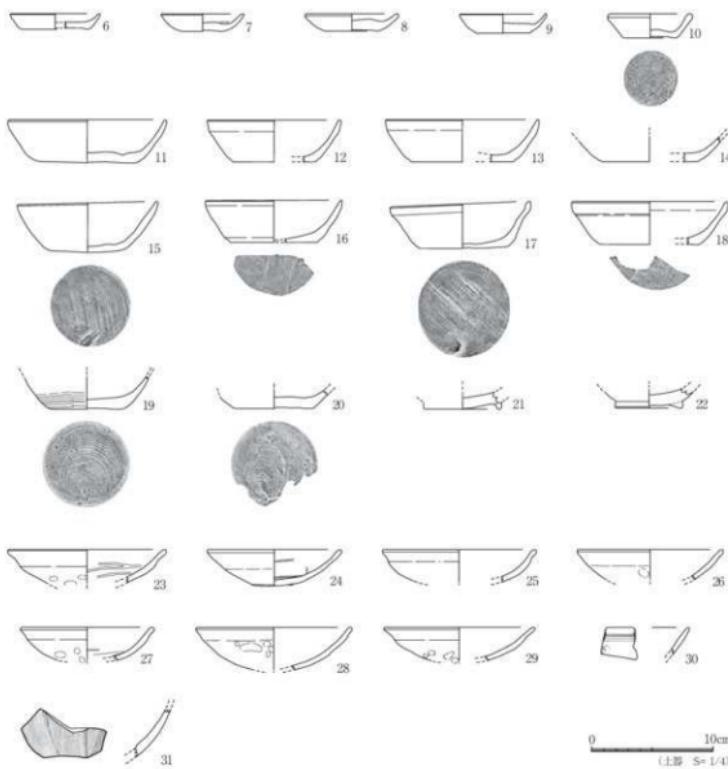
1: 黄褐色シルト (炭化物、1~3cm大の粗含む)

0 1m  
(S=1/40)



5~6図 SK4・5平面・セクション及び出土遺物

SK4 (唐津系灰釉陶器皿: 2 東播系捏鉢: 3 土師質杯: 4 同小皿: 5 中国銭: Z1~3)



5~7図 SK5出土遺物  
(土師質小皿: 6~10 同杯: 11~20 土師器碗: 21~22 瓦器碗: 23~29 青磁碗: 30・31)

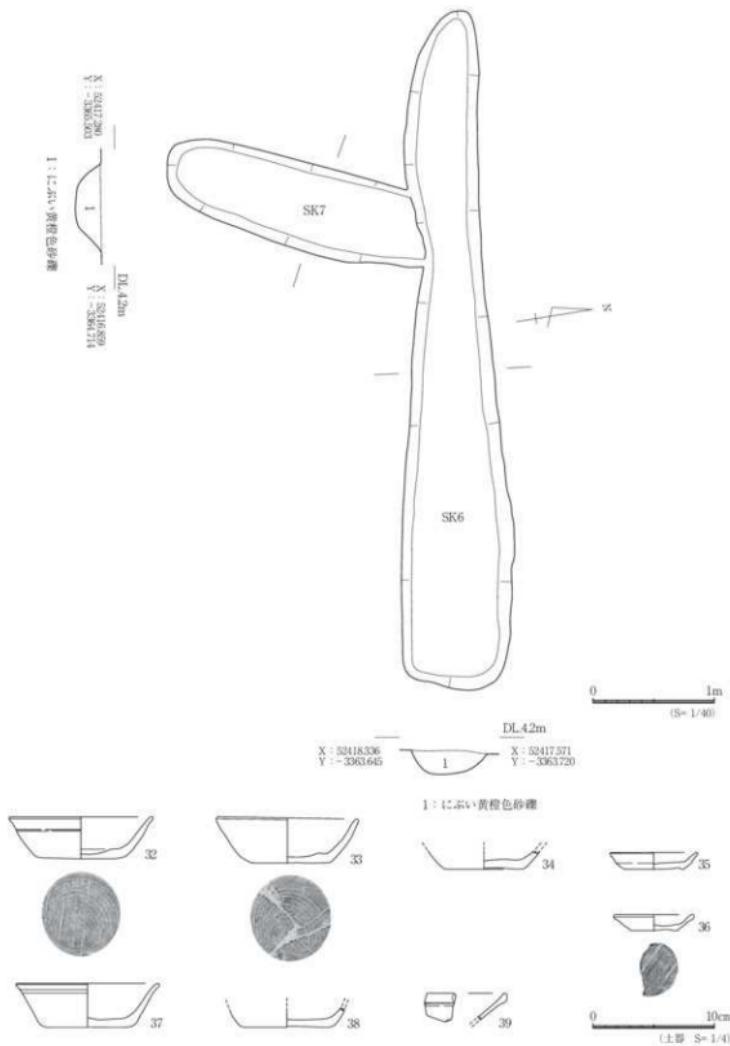
状を呈し、深さは20cm前後である。埋土はにぶい黄橙色砂礫層である。遺物は土師質土器細片が多く出土している。32~34は土師質杯、35・36は同小皿である。

#### SK7 (5~8図)

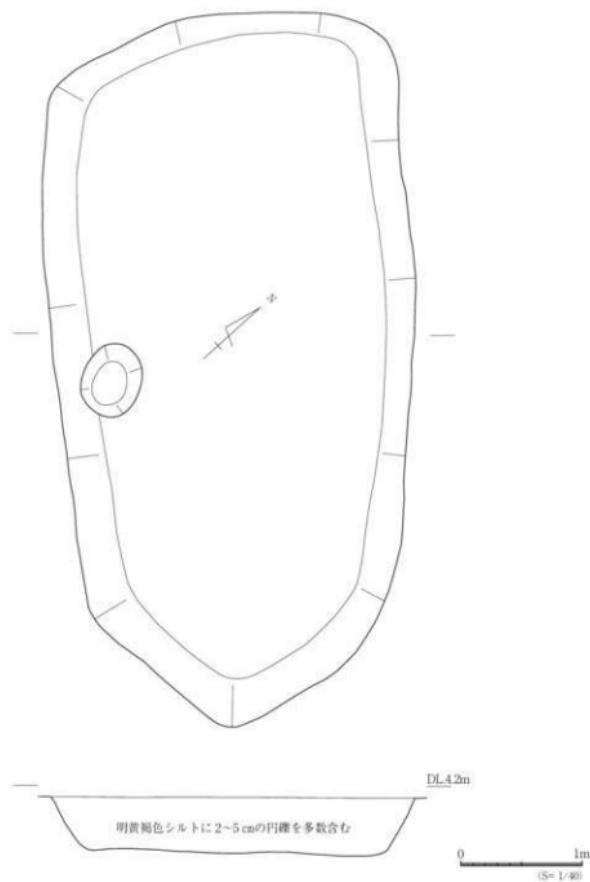
確認長軸2.2m、短軸0.7mの溝状を呈し、深さ20cmを測る。埋土はにぶい黄橙色砂礫層である。遺物は埋土中から土師質土器細片を中心に出土している。37・38は土師質杯、39は白磁碗である。

#### SK8 (5~9・10図)

調査区中央にある。長軸5.8m、短軸2.95mで五角形状を呈し、深さは25cm前後を測る。埋土は2~5cm大の礫を含む明黄褐色シルトである。遺物は土師質土器片が500点余りと最も多く瓦器は僅少である。他に常滑、備前、東播系捏鉢、白磁、青磁などの細片が見られる。遺物は、41は土



5-8図 SK6・7 平面・セクション及び出土遺物  
SK6 (土師質杯: 32~34 同小皿: 35・36) SK7 (土師質杯: 37・38 白磁碗: 39)

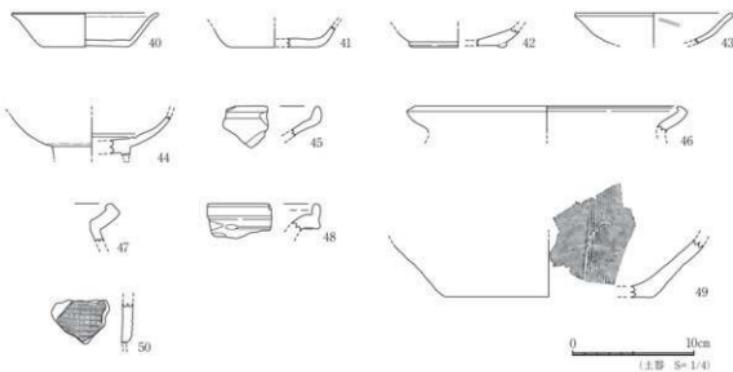


5-9図 SK8 平面・セクション

師器杯、42は土師質椀、43は瓦器椀、40は白磁皿、44は同碗底部、45は東播系捏鉢、46・47は紀伊型甕、48は常滑甕、49は備前捏鉢、50は瓦質甕の細片である。

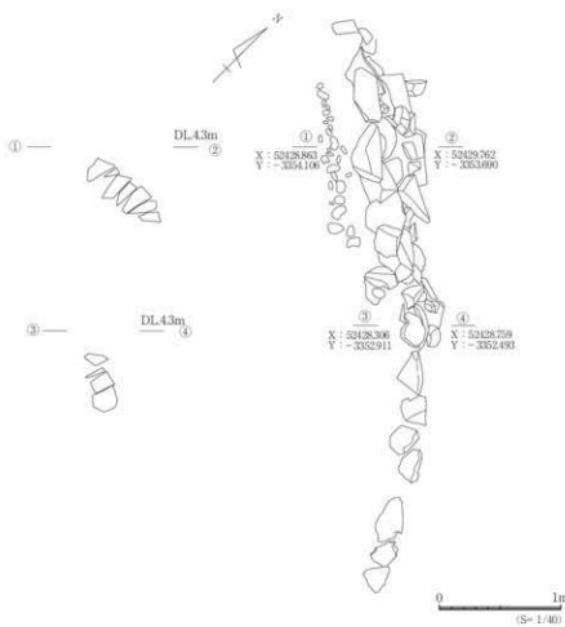
## ② 護岸状遺構（5-11図）

既に触れたように北壁の7層の法面に護岩と考えられる石積みが確認できた。平面的には北壁から南に向かって僅かに弧を描きながら長さ4.7mの範囲に人頭大の角礫が列状に並び、法面には45

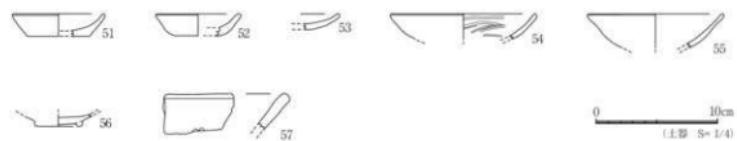


5-10図 SK8出土遺物

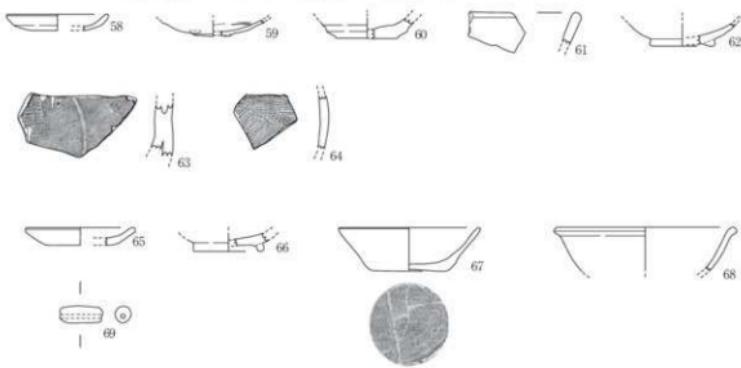
土師質杯：41 同椀：42 瓦型椀：43 白磁皿：40 白磁碗：44 東播系挂鉢：45  
紀伊型甕：46・47 常滑甕：48 備前挂鉢：49 瓦質甕：50



5-11図 渡岸状遺構

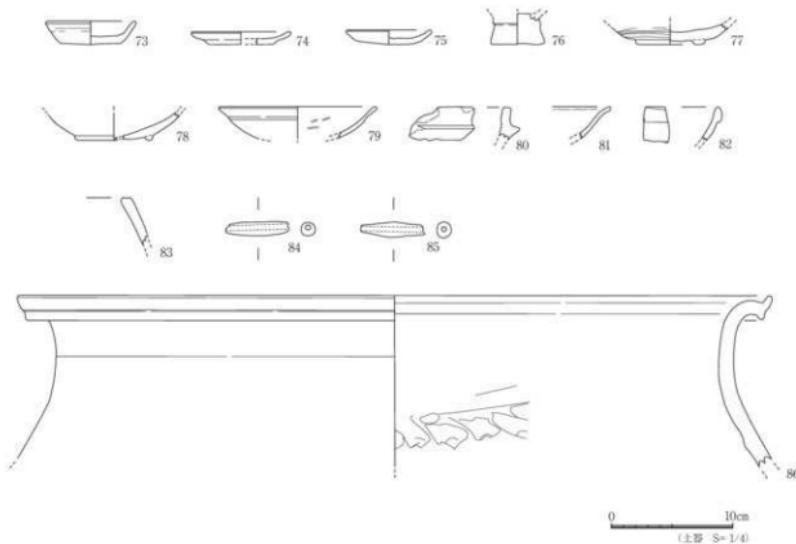


5-12図 ピット出土遺物  
 P8（瓦器小皿：53）P11（土師質小皿：52）瓦器椀：54）P28（土師器椀：56）  
 P43（土師質小皿：51）P55（瓦器椀：55）陶器鉢：57）



5-13図 トレンチ出土遺物  
 トレンチ2（瓦器小皿：58 瓦器椀：59 土師質杯：60 陶器鉢：61 土師器椀：62 常滑窯：63 陶器甕：64）  
 トレンチ3（土師質小皿：65 同杯：67 土師器椀：66・68 土師質土鍾：69）  
 トレンチ4（土師質杯：72）  
 トレンチ5（土師器椀：71 瓦器椀：70）

~70°の角度で礫を斜めに小口積みをしている。確認できる石積みの高さは60cm程度、積み石の数は4個から10個程度で、南に行くに従って残りが悪い。北壁断面で見たように7層の法面は、かなり切り立っているところから意識的な法面の整形が成された後に礫が積上げられたものと考えられる。遺物が見られないことから次期比定は難しいが、7層が中世の遺物包含層となっていることか、中世以降、そして17世紀初めのSK4の存在から、17世紀初め頃に構築時期を求めることが妥当ではなかろうか。すなわち近世初期の護岸として理解することができよう。この護岸から川側には遺構面は存在せず厚い河川堆積が続いていることから、この護岸が近世初期の生活面と河川域との境界をなしていたものと考えられる。この護岸は3-1区の東端で検出した石列に続き、さらに南700mで確認された大規模護岸（2地点）に続く可能性も考えられる。当調査区は近世初期の仁淀川流域の景観復元を行う上で重要な地点である。



5-14図 3-5区包含層出土遺物

土師質小皿：73 同足高台杯：76 土師器椀：77 須恵器椀：78 瓦器椀：79 同小皿：74・75  
白磁皿：81 同碗：82 瓦質羽釜：80 土師質鍋：83 常滑甕：86 土師質土鍤：84・85

#### ③ ピット出土の遺物（5-12図）

ピットからは、土師器椀（P28: 56）、土師質小皿（P11: 52、P43: 51）、瓦器椀（P11: 54、P55: 55）、瓦器小皿（P8: 53）、産地不明の陶器鉢（P55: 57）などが出土している。

#### ④ トレンチ出土の遺物（5-13図）

TR2 からは瓦器小皿（58）、同椀（59）、土師質杯（60）、土師器椀（62）、常滑甕（63）、産地不明の陶器甕（64）、同じく鉢（61）が出土している。TR3 からは土師質小皿（65）、同杯（67）、土師器椀（66・68）、土師質土鍤（69）が出土している。TR4 からは土師質杯（72）が出土している。TR5 からは土師器椀（71）、瓦器椀（70）が出土している。基本的に後述する包含層遺物と変わらない。

#### ⑤ 包含層出土の遺物（5-14図）

ほとんどが7層出土である。細片が多く図示できるものは少ない。土師質小皿（73）、同足高高台杯（76）、土師器椀（77）、須恵器椀（78）、瓦器椀（79）、同小皿（74・75）、白磁碗（82）、同白磁口禿皿（81）、瓦質羽釜（80）、土師質鍋（83）、常滑甕（86）、土師質土鍤（84・85）が出土している。古代末から中世中頃までの時代幅を持っている。

表3-5区土器観察表1

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
1	土師質小瓶	SK1	(72)	19	(40)	胎土 にぶい黄褐色	内外横ナデ調整、糸切り。	器高指數 24.6
2	唐津系灰釉壺形器	SK4		(13)	(41)	胎土 にぶい黄褐色	足込みに砂目3点あり。	1610~ 1630年
3	東播系若跡	*		(29)	(8.0)	胎土 灰色	内外横ナデ調整。	
4	土師質杯	*		(12)	(6.6)	胎土 褐色	内外横ナデ調整、糸切り。	
5	土師質小瓶	*	(8.0)	17	(5.8)	胎土 浅黄褐色	*	
6	土師質小瓶	SK5	(72)	13	(5.4)	胎土 褐色	*	
7	*	*	(6.8)	14.5	(3.4)	胎土 にぶい黄褐色	内外横ナデ調整、糸切り。強い横ナデ調整により内底縁部が凹出を呈す。	
8	*	*	(7.7)	14	4.5	胎土 褐色	内外横ナデ調整、糸切り。	器高指數 18.2
9	*	*	7.2	16	4.4	胎土 にぶい黄褐色	*	器高指數 22.2
10	*	*	(7.0)	20	4.4	胎土 浅黄褐色	*	
11	土師質杯	*	(13.0)	35	8.2	*	*	器高指數 26.9
12	*	*	(11.0)	34	(6.8)	*	内外横ナデ調整、糸切り。口縁部が内溝気味に立上がる。	
13	*	*	(12.6)	35	(8.4)	*	内外横ナデ調整、糸切り。	
14	*	*	(2.1)	(7.8)	*	胎土 にぶい黄褐色	*	
15	*	*	11.6	4.0	6.2	胎土 浅黄褐色	内外横ナデ調整、糸切り。底部に板目状圧痕あり。	器高指數 34.4
16	*	*	(11.2)	(3.4)	(7.2)	胎土 にぶい黄褐色	内外横ナデ調整、糸切り。口縁部が内溝気味に立上がる。底部に板目状圧痕あり。	
17	*	*	11.5	3.6	7.4	胎土 浅黄褐色	内外横ナデ調整、糸切り。底部に板目状圧痕あり。	器高指數 31.3
18	*	*	(12.8)	(3.5)	(8.0)	*	内外横ナデ調整、糸切り。口縁部がやや内側に屈曲、外縁保け。	
19	*	*	(2.6)	6.0	*	*	外面はハケ状底部に横ナデ調整、糸切り。	
20	*	*	(1.5)	6.5	*	胎土 にぶい黄褐色	内外横ナデ調整、糸切り。	
21	土器器	*	(1.4)	(6.0)	*	胎土 浅黄褐色	内外横ナデ調整。	
22	*	*	(1.6)	(5.4)	*	*	内外横ナデ調整、糸切り。	
23	瓦器	*	(13.0)	(2.8)	*	胎土 青灰色	口縁部外縁横方向の強いナデ調整、体部外面は凹凸が顯著。	
24	*	*	(11.0)	3.0	(3.3)	胎土 褐色	器脚的な高台。	
25	*	*	(12.3)	(2.7)	*	胎土 黒色	口縁部外縁横方向の強いナデ調整、体部外面は指圧圧痕が跡でその上を弱く削っている。	
26	*	*	(11.7)	(2.5)	*	チャートの小礫を含む 青灰色	口縁部外縁横方向のナデ調整。	
27	*	*	(11.0)	(2.7)	*	胎土 灰色	*	
28	*	*	(12.8)	(3.5)	*	チャートの小礫を含む 灰白色	口縁部外縁横方向のナデ調整は弱い。	
29	*	*	(12.4)	(2.7)	*	胎土 灰褐色	口縁部外縁横方向のナデ調整によって段状をなす。	
30	青磁碗	*				灰白色釉	内面に切削痕による沈澱3条。	
31	*	*				灰色釉	鏡裏舟文を有す。	太宰府 分類I.5b
32	土師質杯	SK6	(11.8)	3.4	6.5	胎土 浅黄褐色	横ナデ調整、糸切り。板目状痕。内面にはハケ状底部による横ナデ調整。	器高指數 28.8

表3-5区土器觀察表2

遺物番号	種類	出土地点	口径(cm)	肩高(cm)	底径(cm)	胎土・色調	特徴	備考
33	土師質杯	SK6	11.7	3.7	6.4	陶土 浅黄褐色	横ナデ調整、赤切り。外面はハケ状原体による横ナデ調整。	
34	*	*			6.4	陶土 に赤い黄褐色	横ナデ調整、赤切り。	
35	土師質小皿	*	(7.2)	1.3	(4.4)	*	*	
36	*	*	(6.6)	1.3	(4.0)	陶土 浅黄褐色	横ナデ調整、赤切り。板状は直。	器高指数 19.7
37	土師質杯	SK7	11.8	3.6	6.9	*	横ナデ調整、赤切り。外面はハケ状原体による横ナデ調整。	器高指数 30.5
38	*	*	(1.6)	7.2	*	*	横ナデ調整、赤切り。	
39	白磁碗	*				白色精緻	玉縁口縁を有す。	太寧南 分類V
40	白磁皿	SK8	12.0	2.8	7.0	灰白色精緻	口丸、外底も施釉。	
41	土師質杯	*		(1.7)	(7.2)	陶土 浅黄褐色	横ナデ調整、赤切り。	
42	土師質碗	*		(1.5)	(7.5)	*	内外面剥耗が激しい。断面カマボコ状の高台を施付。	
43	瓦器碗	*	(2.6)	(2.5)		チャートの小繩・粗粒砂 を含む灰色	口縁部外側方向ナデ調整。	
44	白磁碗	*				白色精緻	見込みに太い横線。外面は高台脇まで施釉。	太寧南 分類V
45	東播系 青磁	*				陶土、底部は灰色、口縁部 は黒色	口縁部は自然輪がかかる。内外面四角ナデ調整。	
46	紀伊窑 型	*	(2.30)	(2.3)		チャート他の繩・粗粒砂 を多く含む 粗色	口縁部端部挿まし上げ、内外側ナデ調整。	
47	*	*				陶土 に赤い黄褐色	口縁部外側ナデ調整、堆部は上に張張。	
48	青滑 型	*				陶土 灰色	外面方向ナデ調整。	
49	難波 粗体	*		(4.8)	(17.0)	小繩を含む に赤い褐色	外面に条縞8条、内面は剥耗が激しい。	
50	瓦質 型	*				灰白色 粗粒砂を含む	外面格子叩き、内面ナデ調整。	
51	土師質 小皿	P43	(7.6)	1.8	(5.0)	陶土 浅黄褐色	横ナデ調整、赤切り。	
52	*	P11	(7.0)	1.8	(4.8)	*	*	
53	瓦器 小皿	P8				陶土 青黒色	口縁部横方向ナデ調整。	
54	瓦器 碗	P11	(1.8)	(2.1)		陶土 灰白色	口縁部外面の横方向ナデ調整はほとんど見られない。	
55	*	P55	(1.2)	(2.8)		チャート他の粗粒砂を含む 灰白色	口縁部横方向ナデ調整。	
56	土師器 碗	P28		(1.6)	(3.8)	陶土 灰白色	台形状の高台を貼付。内面へラ磨き。	
57	陶器 鉢	P55				粗粒砂を多く含む 灰土リーブ色	内外面に灰釉施釉。產地不明。	
58	瓦器 小皿	TR2	(8.4)	1.4	(4.4)	陶土 灰色	口縁部外面横方向ナデ調整。	
59	瓦器 碗	*		(1.3)	(3.0)	チャートの粗粒砂を含む 灰白色	外面は凸凹が顯著。	
60	土師質 杯	*		(1.7)	(5.0)	陶土 浅黄褐色	内外側ナデ調整。	
61	陶器 鉢	*				粗粒砂を多く含む 灰土リーブ色	内外面に灰釉施釉。產地不明。	
62	土師器 碗	*		(1.9)	(5.0)	陶土 灰白色	内外横ナデ調整。	
63	青滑 型	*				陶土 褐褐色	外面に製造状の押印。	
64	陶器 型	*				陶土 青灰色	外面平行叩き、内面はナデ調整。	

表3-5区土器観察表3

遺物番号	機種	出土地点	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	粘土・色調	特徴	備考
65	土器質小瓶	TR3	(9.0)	1.4	(5.4)	粘土 浅黄褐色	横ナデ調整、赤切り。	
66	土器質碗	*		(1.5)	(5.6)	*	断面長方形のしっかりした高台を勘付。器表の荒れが激しい。	
67	土器質杯	*	(11.6)	3.6	(6.2)	*	内外横ナデ調整、赤切り。	
68	土器質碗	*	(15.0)	(3.6)		*	内外横ナデ調整。	
69	土器質土瓶	*				*	全長3.5cm、径1.4cm、孔径0.3cm、重さ6.1g	
70	瓦器碗	TR5	(12.0)	(2.7)		粘土 暗灰色	口縁部外縁横方向ナデ調整。	
71	土器質碗	*	(1.6)	(6.8)		チャート他の粗粒砂を多く含む 浅黄褐色	外縁弱い削り、高台勘付には段状をなす。	
72	土器質杯	TR4		(2.5)	(8.0)	粘土 褐色	横ナデ調整、赤切り。	
73	土器質小瓶	包合層	(7.4)	1.9	(5.0)	粘土 浅黄褐色	*	器高指數 26.4
74	瓦器小瓶	*	(8.2)	1.0	(5.2)	粘土 灰色	*	
75	*	*	(7.0)	1.2	(5.4)	粘土 黑色	口縁部外縁横方向のナデ調整。	
76	土器質足高台杯	*		(2.5)	4.4	粘土 浅黄褐色	横ナデ調整、赤切り。	
77	土器質碗	*		(1.7)	(5.2)	チャート他の粗粒砂を含む 浅黄褐色	太い勘付高台、外面はハケ状原体による横方向ナデ調整の上をナデ調整。	
78	頭部器碗	*		(2.2)	(6.0)	石英・チャートの粗粒を含む 灰黄色	断面カマボコ状の勘付高台、外面弱い削り、内面ナデ調整。	
79	瓦器碗	*	(13.0)	(2.6)		粘土 灰色	口縁部外縁横方向の強いナデ調整。	
80	瓦質器皿	*				頁岩・チャートの小礫を含む	内外横ナデ調整。	
81	白磁皿	*				白色無釉	口縁部露胎、口禿の皿。	
82	白磁碗	*				*	玉緑状口縁部を有す。	太宰府 分類B'
83	土器質土瓶	*				石英・小礫を多く含む 灰黄色	内外横方向ナデ調整、外面削ける。	
84	土器質土瓶	*				粘土 浅黄褐色	全長5.2cm、径1.1cm、孔径0.6cm、重さ4.5g	
85	*	*				*	全長5.3cm、径1.2cm、孔径0.4cm、重さ4.4g	
86	常滑甕	*	(62.0)	(14.0)		粘土 灰色	口縁部4上に大きめ強し口肩部は段状をなす。頭部外面はハケ状原体による横方向ナデ調整。	



# 第VI章 自然科学的分析

## 1. 上ノ村遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TACセンター

大澤正己・鈴木瑞穂

### 1. いきさつ

上ノ村遺跡は高知県土佐市新居上ノ村土居に所在する。平成18年度には、14～15世紀と推定される土坑（SK1）出土鍛冶関連遺物の分析調査を実施している。その結果、すべて鍛錬鍛冶作業に伴う遺物と判明しており、小鍛冶に伴う廃滓土坑と推定された（注1）。

また今回地点3から複数の鉄滓が出土したため、さらに当遺跡での鉄器生産の実態を検討すべく、金属学的調査を行う運びとなった。

### 2. 調査方法

#### 2-1. 供試材

Table1に示す。鍛冶関連遺物計9点の調査を行った。

#### 2-2. 調査項目

##### (1) 内眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴や、特殊金属探知機での反応の有無など、調査前の観察所見を記載した。

##### (2) マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、ここでは顕微鏡埋込み試料の断面全体を、低倍率で撮影した写真を指す。当調査は顕微鏡検査よりも、広範囲で組織の分布状態、形状、大きさなどが観察できる利点がある。

##### (3) 顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μと1μで鏡面研磨する。

また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。なお金屬鉄部の調査では、5%ナイタル（硝酸アルコール液）を腐食（Etching）に用いた。

##### (4) ピッカース断面硬度

ピッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行い、文献硬度値に照らして、鉄滓中の晶出物の判定を行った。また金属組織の硬さ測定も同様に実施した。

試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は100～200gfで測定した。

### (5) EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) 調査

鉱滓中の鉱物組成や、金属中の非金属介在物、金属合金各相の組成の確認を目的とする。

試料面（顕微鏡試料併用）に真空中で電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し定性的な結果を得る。更に標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。

反射電子像（COMP）は、調査面の組成の違いを明度で表示するものである。重い元素で構成される金属（合金）や鉱滓中の晶出物ほど明るく、軽い元素で構成される晶出物ほど暗い色調で示される。これを利用して組成の違いを確認後、定量分析を実施した。

また元素の分布状態を把握するため、反射電子像に加えて、適宜特性X線像の撮影も行った。

### (6) 化学組成分析

出土遺物の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（SiO<sub>2</sub>）、酸化アルミニウム（Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K<sub>2</sub>O）、酸化ナトリウム（Na<sub>2</sub>O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）、酸化クロム（Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、五酸化磷（P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO<sub>2</sub>）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

## 3. 調査結果

### Na 1：楔形鍛治滓

(1) 肉眼観察：やや偏平な形状の楔形鍛治滓片である。側面2面が破面。広い範囲が黄褐色の土砂で覆われる。滓の地の色調は灰褐色で、表層部の風化が進んでいる。上下面とも最大1cm程の木炭痕による凹凸が著しい。また表面や破面には細かい気孔が点在するが、重量感のある滓である。

(2) 顕微鏡組織：Photo.1 ①に示す。①中央は滓中のごく微細な金属部である。5% ナイタルで腐食したところ、亜共析組織（C < 0.77%）が確認された。また滓中には、白色粒状結晶ウスタイト（Wustite : FeO）、淡灰色柱状結晶ファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）が晶出する。鍛錬鍛治滓の晶癖である。

(3) ピッカース断面硬度：Photo.1 ①の金属鉄部の硬度を測定した。白地のフェライトに少量の層状パーライトが析出する鉄粒で、硬度値は152Hvであった。組織に見合った値である。また紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、白色粒状結晶の調査も実施した。硬度値は479Hvであった。ウスタイトの文献硬度値450～500Hv（注2）の範囲内であり、ウスタイトに同定される。

(4) 化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）50.69%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.04%、酸化第1鉄（FeO）49.00%、酸化第2鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）17.96%の割合であった。造滓成分（SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O）27.74%で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）は2.70%と低値である。また製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）は0.34%、バナジウム（V）が0.04%と低値であった。酸化マンガン（MnO）0.18%、銅（Cu）も< 0.01%と低値である。

当資料は鉄酸化物と、炉材（羽口・炉壁）ないしは鍛接剤（粘土汁・薬灰）などの溶融物（造滓

成分)が主成分であった。製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分 ( $TiO_2$ 、V、 $MnO$ ) は低減傾向が顕著で、鉄素材を熱間で鍛打加工した時に生じる、高温沸し鍛接の鍛鍊鍛治滓である。

#### No.2: 梶形鍛治滓

- (1) 肉眼観察: 不定形の梶形鍛治滓片である。側面2面は破面。滓の色調は暗灰色で、上下面とも細かい木炭痕が密に残る。滓破面には細かい気孔が多数散在するが、重量感のある滓である。また下面には1個所瘤状の錆化鉄部がある。特殊金属探知機の反応はないが、磁着は強い。
  - (2) 顕微鏡組織: Photo.1 ②~④に示す。②は試料表層に付着する。鍛造剥片(注3)である。これも鉄素材を熱間で鍛打するときに生じる、微細な鍛治関連遺物である。
  - ③④は滓部である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。高温沸し鍛接の鍛鍊鍛治滓の晶癖である。また滓中に点在する、ごく微細な明白色粒は金属鉄である。
  - (3) ピッカース断面硬度: Photo.1 ④の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は476Hv、ウスタイトに同定される。
  - (4) 化学組成分析: Table2に示す。全鉄分 (Total Fe) 50.09% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.06%、酸化第1鉄 ( $FeO$ ) 55.54%、酸化第2鉄 ( $Fe_2O_3$ ) 9.81% の割合であった。造滓成分 ( $SiO_2$  +  $Al_2O_3$  +  $CaO$  +  $MgO$  +  $K_2O$  +  $Na_2O$ ) は 31.20% で、このうち塩基性成分 ( $CaO$  +  $MgO$ ) は 3.74% と低めである。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン ( $TiO_2$ ) は 0.28%、バナジウム (V) 0.02% と低値であった。酸化マンガン ( $MnO$ ) も 0.20%、銅 (Cu) < 0.01% と低い。
- 当資料も梶形鍛治滓 (No.1) と酷似する鉱物・化学組成であり、鍛鍊鍛治滓の特徴を有する。

#### No.3: 梶形鍛治滓

- (1) 肉眼観察: 平面不整梢円状の梶形鍛治滓である。側面にごく小さな破面があるが、ほぼ完形の滓と推定される。滓の地の色調は暗灰色で、広い範囲に黄褐色の土砂が固着する。上下面とも長さ1cm程の木炭痕による凹凸が著しい。
  - (2) 顕微鏡組織: Photo.1 ⑤~⑦に示す。⑤は滓中のごく微細な木炭破片で、木口面が観察される。発達した道管が分布する広葉樹材の黒炭であった。
  - ⑥⑦中央の明白色粒は金属鉄である。5% ナイタルで腐食したところ、ほとんど炭素を含まないフェラライト (Ferrite: *a*鉄) 単相の組織が確認された。また滓中には、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色盤状結晶ファイヤライトが晶出する。鍛鍊鍛治滓の晶癖である。
  - (3) ピッカース断面硬度: 紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、淡灰色柱状結晶の調査を行った。硬度値は624Hvであった。ファイヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファイヤライトに同定される。
  - (4) 化学組成分析: Table2に示す。全鉄分 (Total Fe) 45.03% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.05%、酸化第1鉄 ( $FeO$ ) 37.65%、酸化第2鉄 ( $Fe_2O_3$ ) 22.47% の割合であった。造滓成分 ( $SiO_2$  +  $Al_2O_3$  +  $CaO$  +  $MgO$  +  $K_2O$  +  $Na_2O$ ) は 33.06% で、このうち塩基性成分 ( $CaO$  +  $MgO$ ) は 3.20% と低値である。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン ( $TiO_2$ ) は 0.51%、バナジウム (V) 0.04% と低値であった。酸化マンガン ( $MnO$ ) も 0.10%、銅 (Cu) < 0.01% と低値である。
- 当資料も梶形鍛治滓 (No.1, 2) と同様、製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分 ( $TiO_2$ , V,  $MnO$ ) は低減傾向が顕著であり、鉄素材を熱間で鍛打加工した時に生じる、高温沸し鍛接の鍛鍊鍛治滓に分

類される。

#### No.4：ガラス質滓

- (1) 肉眼観察：16g 弱で不定形小型のガラス質滓である。破面はなく完形の滓である。色調は灰白色～黒色で軽い質感の滓である。炉材（羽口・炉壁）ないしは鍛接剤（薬灰・粘土汁）の溶融物と推定される。
- (2) 顕微鏡組織：Photo.2 ①に示す。ごく微細な灰褐色樹枝状結晶マグнетай特（Magnetite：Fe3O4）が暗黒色ガラス質滓中に晶出する。

(3) 化学組成分析：Table.2 に示す。全鉄分（Total Fe）は 5.66% と低値であった。金属鉄（Metallic Fe）は 0.02%、酸化第1鉄（FeO）1.72%、酸化第2鉄（Fe2O3）6.15% の割合であった。造滓成分（SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O）88.37% と高値であるが、塩基性成分（CaO + MgO）は 2.15% と低値であった。砂鉄起源の二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）も 0.77%、バナジウム（V）< 0.01% と低値で、酸化マンガン（MnO）0.22%、銅（Cu）< 0.01% と少ない。二酸化チタンが 0.77% と今回調査資料で最も高いのは、羽口もしくは粘土汁中の砂鉄混在の傾向であろう。

当資料は粘土溶融物（SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）が主成分であった。熱間加工に伴い、鍛打羽口先端が溶融して生じたガラス質滓の可能性が高い。

#### No.5：椀形鍛治滓

(1) 肉眼観察：94g とやや小型の椀形鍛治滓である。側面にごく小さな破面があるが、ほぼ完形の滓である。また側面に黒色ガラス質滓部分がみられるが、これは羽口先端溶融物と推定される。また滓の地の色調は暗灰色で、細かい凹凸が著しい。滓部は比較的緻密で、重量感がある。

- (2) 顕微鏡組織：Photo.2 ②～⑥に示す。②は滓中の微細な木炭破片である。
- ③上側の粒状暗色部および④は粒状滓（注4）、また③中央は鍛造剥片である。熱間での鍛打加工に伴う微細遺物の付着が確認された。
- ⑤⑥中央の明白色粒は金属鉄である。5% ナイタルで腐食したところ、フェライト単相の組織を呈する。また滓中には、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。高温沸し鍛接鍛鍊鍛治滓の晶癖である。
- (3) ピッカース断面硬度：紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、白色粒状結晶の調査を行った。硬度値は 438Hv であった。ウスタイトの文献硬度値より若干軟質の値となつたが、測定時の亀裂等の影響を受けた可能性が高い。

(4) 化学組成分析：Table.2 に示す。全鉄分（Total Fe）52.20% に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.03%、酸化第1鉄（FeO）40.09%、酸化第2鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）30.04% の割合であった。造滓成分（SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O）21.69% で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）は 1.71% と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）は 0.27%、バナジウム（V）0.03% と低めであった。また酸化マンガン（MnO）0.17%、銅（Cu）も 0.01% と低値である。

当資料も鉄酸化物が主成分で、一部に炉材（羽口・炉壁）ないしは鍛接剤（粘土汁・薬灰）などの溶融物（造滓成分）を付着する。製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO<sub>2</sub>、V、MnO）は低減傾向が顯著で、鉄素材を熱間で鍛打加工した時に生じる、高温沸し鍛接鍛鍊鍛治滓に分類される。なお、鍛打派生の微細遺物である粒状滓や鍛造剥片の付着があった。

## No.6：椀形鍛治滓

- (1) 肉眼観察：80gとやや小型で偏平な椀形鍛治滓である。側面にごく小さな破面があるが、ほぼ完形の滓である。色調は黒灰色で、表面には流動状の凹凸や細かい木炭痕が残る。気孔は少なく、緻密で重量感のある滓である。
- (2) 顕微鏡組織：Photo.2⑦に示す。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。鍛鍊鍛治滓の晶癖である。
- (3) EPMA 調査：Photo.5 の1段目に滓部の反射電子像（COMP）を示す。17 のガラス質部分の定量分析値は 42.4%SiO<sub>2</sub> - 23.3%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> - 5.8%CaO - 8.2%K<sub>2</sub>O - 2.9%Na<sub>2</sub>O - 13.1%FeO であった。非晶質珪酸塩で、鉄分（FeO）をかなり固溶する。
- 18 の淡灰色盤状結晶の定量分析値は 72.3%FeO - 28.5%SiO<sub>2</sub> であった。ファイヤライト（Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>）に同定される。19 のごく微細な暗茶褐色多角形結晶の定量分析値は 63.4%FeO - 39.2%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> であった。ヘーシナイト（Hercynite: FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）とマグネタイト（Magnetite: FeO·Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）を主な端成分とする固溶体（注5）と推定される。20 の白色粒状結晶の定量分析値は 106.8%FeO であった。ウスタイト（Wustite: FeO）に同定される。
- また 26 の微小白色粒の定量分析値は 90.8%Fe - 10.5%Cl であった。金属鉄（Metallic Fe）で、塩素（Cl）は廃棄後の二次的な影響と推測される。
- (4) 化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分（Total Fe）47.88% に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.05%，酸化第1鉄（FeO）44.91%，酸化第2鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）18.48% の割合であった。造滓成分（SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O）は 31.09% で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）は 1.48% と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）は 0.26%、バナジウム（V）が < 0.01% と低値であった。また酸化マンガン（MnO）0.12%、銅（Cu）< 0.01% と低い。
- 以上の鉱物・化学組成から、当資料も高温沸し鍛接鍛鍊鍛治滓に分類される。

## No.7：椀形鍛治滓

- (1) 肉眼観察：50g弱のごく小型の椀形鍛治滓破片である。側面1面が破面。色調は暗灰色で、表面には流動状の凹凸や細かい木炭痕が残る。気孔は少なく、緻密で重量感のある滓である。
- (2) 顕微鏡組織：Photo.3 ①～⑤に示す。①は粒状滓、②③は鍛造剥片である。熱間での鍛打加工に伴う微細遺物が付着している。
- ④⑤は滓部である。ごく微細な白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。低温型素還へ時の鍛鍊鍛治滓の晶癖である。
- (3) ピッカース断面硬度：Photo.3 ⑤の淡灰色柱状結晶の硬度を測定した。硬度値は 659Hv であった。ファイヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファイヤライトに同定される。
- (4) 化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分（Total Fe）40.24% に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.06%，酸化第1鉄（FeO）35.64%，酸化第2鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）17.84% の割合であった。造滓成分（SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O）39.59% と高めであるが、このうち塩基性成分（CaO + MgO）は 1.88% と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）は 0.45%、バナジウム（V）0.02%、また酸化マンガン（MnO）0.22%、銅（Cu）< 0.01% と低値であった。
- 以上の鉱物・化学組成から、当資料は酸化目減りを配慮した低温型鍛鍊鍛治滓に分類される。

#### No.8：橢形鍛治滓

- (1) 肉眼観察：74g 弱とやや小型の橢形鍛治滓である。破面ではなく、完形の滓と推定される。滓の地の色調は暗灰色で、上面は端部がやや膨らんでおり、下面は細かい木炭痕による凹凸が著しい。
- (2) 顕微鏡組織：Photo.3 ⑥～⑧に示す。⑥は滓中の木炭破片である。
- ⑦⑧は滓である。白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色盤状結晶ファイヤライトが晶出する。鍛錬鍛治滓の晶癖である。
- (3) ピッカース断面硬度：Photo.3 ⑧の淡灰色盤状結晶の硬度を測定した。硬度値は 674Hv であった。ファイヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファイヤライトに同定される。
- (4) EPMA 調査：Photo.6 の 1 段目に滓部の反射電子像 (COMP) を示す。12 のガラス質部分の定量分析値は  $41.5\% \text{SiO}_2 - 20.8\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 7.6\% \text{CaO} - 3.5\% \text{K}_2\text{O} - 4.6\% \text{Na}_2\text{O} - 14.8\% \text{FeO}$  であった。非晶質珪酸塩で、鉄分 ( $\text{FeO}$ ) をかなり固溶する。
- 13 の暗褐色多角形結晶の定量分析値は  $53.0\% \text{FeO} - 44.6\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 1.9\% \text{TiO}_2$  であった。ヘーシナイト (Hercynite:  $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$ ) で、微量チタン ( $\text{TiO}_2$ ) を固溶する。また 14 の微小暗褐色多角形結晶の定量分析値は  $70.9\% \text{FeO} - 14.7\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 12.5\% \text{TiO}_2$  であった。マグネタイト (Magnetite:  $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$ ) とヘーシナイト (Hercynite:  $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$ )、ウルボスピニル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ ) を主な端成分とする固溶体と推定される。
- 15 の白色粒状結晶の定量分析値は  $102.8\% \text{FeO}$  であった。ウスタイト (Wustite:  $\text{FeO}$ ) に同定される。
- 16 の淡灰色盤状結晶の定量分析値は  $73.9\% \text{FeO} - 28.8\% \text{SiO}_2$  であった。ファイヤライト (Fayalite:  $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ ) に同定される。
- (5) 化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分 (Total Fe) 52.36% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.05%、酸化第1鉄 ( $\text{FeO}$ ) 55.47%、酸化第2鉄 ( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) 13.14% の割合であった。造滓成分 ( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ) 26.73% で、このうち塩基性成分 ( $\text{CaO} + \text{MgO}$ ) は 14.0% と低値であった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン ( $\text{TiO}_2$ ) は 0.48%、バナジウム (V) 0.04%、酸化マンガン ( $\text{MnO}$ ) 0.19%、銅 (Cu) < 0.01% と低値である。
- 以上の鉱物・化学組成から、当資料も鍛錬鍛治滓に分類される。

#### No.9：微細遺物

- (1) 肉眼観察：送付された土壤サンプルを水洗後、磁力の強い微細遺物を回収して供試材とした。なかにはごく微細な鐵滓片、鍛造剥片、木炭破片、鉄化鉄などの鍛冶関連遺物が含まれる。ただし砂粒など、鍛冶関連遺物以外の混入物もかなり観察される。
- (2) マクロ組織：Photo.4 ①に示す。鍛治滓片、粘土塊、粒状滓、鍛造剥片、木炭破片、鉄化鉄などの微細な鍛冶関連遺物が確認される。
- (3) 顕微鏡組織：Photo.4 ②～⑦に示す。②は粒状滓、③は鍛造剥片の拡大である。
- また④⑤はごく微細な鍛治滓破片である。ともに白色粒状結晶ウスタイト主体で、鍛錬鍛治滓と推定される。
- さらに⑥は木炭破片、⑦は鉄化鉄の拡大である。鉄化鉄の金属組織痕跡は不明瞭で、炭素含有量を検討することはできなかった。
- 当資料中には、鉄素材を熱間で鍛打加工する際に生じた、微細な鍛冶関連遺物が確認された。

#### 4.まとめ

上ノ村遺跡地点3出土鍛冶関連遺物は、前回分析調査を実施した土坑（SK01）出土遺物と同様、すべて鍛錬鍛治作業に伴う遺物であった。この結果から、当遺跡では純度の高い鉄素材を鍛冶原料として、主に熱間での鍛造鉄器製作を行った鍛錬鍛治作業を行ったと推定される。詳細は以下の通りである。

- (1) 出土楕形鍛治滓（No.1～3、5～8）は、すべて鍛錬鍛治滓に分類される。いずれも鉄酸化物と、炉材（羽口・炉壁）ないしは鍛接剤（粘土汁・藁灰）などの溶融物（造滓成分）が主成分であった。また製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO<sub>2</sub>、V、MnO）は低減傾向が著しい。純度の高い（製錬～精鍛鍛治滓成分を含まない）鉄素材を熱間で鍛打加工した時の反応副生物の特徴を有する。鉄器製作工程は折り返し曲げ鍛接の高温作業から素延べ成型の低温作業へと変化する。鉱物相からその辺の挙動も窺われた。
- (2) ガラス質滓（No.4）は粘土溶融物（SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）が主成分であった。熱間加工より鍛治羽口先端が溶融して生じた、ガラス質滓と推定される。
- (3) また微細遺物（No.9）や、楕形鍛治滓表層に付着した土砂中（No.2、5、7）には、粒状滓・鍛造剥片などに、熱間での鍛打作業に伴う微細遺物が多数確認された。
- (4) 楕形鍛治滓および微細遺物中の木炭破片（No.3、5、8、9）は、すべてごく微細で樹種同定は困難な状態であった。しかし、発達した道管の分布する広葉樹材の黒炭が1点確認できた。

（注）

(1) 大澤正己・鈴木瑞穂「上ノ村遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」「上ノ村遺跡」2007高知県立埋蔵文化財センター提出資料

(2) 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968

ウスタイトは450～500Hz、マグнетタイトは500～600Hz、ファイヤライトは600～700Hzの範囲が提示されている。

(3) 鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌（金肌）やスケールとも呼ばれる。鍛治工程の進行により、色調は黒褐色から青味を帯びた銀色（光沢を発する）へと変化する。粒状滓の後続派生物で、鍛打作業の実証と、鍛治の段階を抑える上で重要な遺物となる（注6）。

この鍛造剥片や粒状滓は極めて微細な鍛治派生物であり、発掘調査中に土中から肉眼で識別するのは難しい。通常は鍛冶鉢の床面の土砂を水洗することにより検出される。鍛冶工房の調査に当っては、鍛治炉を中心にメッシュを切って土砂を取り上げ、水洗選別、秤量により分布状態を把握できれば、工房内の作業空間配置の手がかりとなりうる重要な遺物である（注7）。鍛造剥片の酸化膜相は、外層は微厚のヘマタイト（Hematite: Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、中間層マグネットタイト（Magnetite: Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>）、大部分は内層ウスタイト（Wustite: FeO）の3層から構成される。このうちのヘマタイト相は1450℃を越えると存在しなく、ウスタイト相は570℃以上で生成されるのはFe-O系平衡状態図から説明される（注8）。

鍛造剥片を王水（塩酸3：硝酸1）で腐食すると、外層ヘマタイト（Hematite: Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）は腐食しても侵されず、中間層マグネットタイト（Magnetite: Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>）は黄変する。内層のウスタイト（Wustite: FeO）は黒変する。

鍛打作業前半段階ではウスタイト（Wustite: FeO）が粒状化を呈し、鍛打仕上げになると非晶質化する。鍛打作業工程のどの段階で行なっていたか推定する手がかりとなる。

(4) 粒状滓は鍛治作業において凹凸を持つ鉄素材が鍛冶炉の中で赤熱状態に加熱されて、突起部が溶け落ちて酸化され、表面張力の関係から球状化したり、赤熱鉄塊に酸化防止を目的に塗布された粘土汁が酸化膜と反応して、これが鍛打の折に飛

散して球状化した微細な遺物である。

- (5) 黒田吉益・源訪兼位『偏光顯微鏡と造岩鉱物 [第2版]』共立出版株式会社 1983

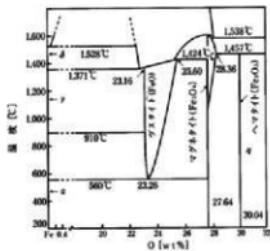
第5章 鉱物各論 D. 尖晶石類・スピネル類 (Spinel Group) の記載に加筆

実品石類の化学組成的一般式は  $XY_2O_4$  と表記できる。X は 2 値の金属イオン、Y は 3 値の金属イオンである。その組み合いでいろいろの種類のものがある。(略)

- (6) 大澤正己「房総風土記の丘実験試料と発掘試料」「千葉県立房総風土記の丘 年報15」(平成3年度) 千葉県房総風土記の丘 1992

(7) 大澤正己「奈良尾遺跡出土銅鉛関連遺物の金属学的調査」「奈良尾遺跡」(今宿バイパス関連埋蔵文化財調査報告書 第13集) 福岡県教育委員会 1991

(8) 大澤正己「房総風土記の丘で発見された銅鉛関連遺物」「総合地誌」2000



Fe-O系平衡状態図

表6-1 供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	出土位置	遺物名稱	推定年代	計測値 大きさ(ミリ) 重量(g)	メタル検 査	調査項目					備考
							マグロ 鉛	銀 鉛	U- <sup>238</sup> 鉛同位 素比	玉川河床 PMMA	EPMA	化学分析 耐火度 加熱
No.1	上ノ村	地盤	橢形鏡面浴	中世	86×65×31 1425	なし	○	○	2.05	○	○	○
No.2	+	+	橢形鏡面浴	75×62×34 105.0	なし	○	○	○	○	○	○	○
No.3	+	+	橢形鏡面浴	97×70×38 185.0	なし	○	○	○	○	○	○	○
No.4	+	+	ガラス質鏡	60×47×24 15.79	なし	○	○	○	○	○	○	○
No.5	+	+	橢形鏡面浴	67×63×24 93.5	なし	○	○	○	○	○	○	○
No.6	+	+	橢形鏡面浴	64×58×22 80.0	なし	○	○	○	○	○	○	○
No.7	+	+	橢形鏡面浴	39×47×28 49.5	なし	○	○	○	○	○	○	○
No.8	+	+	橢形鏡面浴	67×46×39 73.5	なし	○	○	○	○	○	○	○
No.9	+	+	橢形鏡	-	-	なし	○	○	-	-	-	-

表6-2 供試材の化学組成

表6-3 出土遺物の調査結果のまとめ

件号	通路名	出土位置	遺物名	遺物年代	測定結果				化學組成(%)	所見		
					Total Fe	F <sub>0.3</sub> <sup>c</sup>	2価基性 化合物	TiO <sub>2</sub>				
No.1	上ノ村	地表3	輪形鏡冶鉄炉	中世	微小金属熟成物表面鏡、半面W+F	30.69	17.96	2.70	0.34	0.04	0.18	27.74
No.2	*	*	輪形鏡冶鉄炉	*	住吉造削片、微小金属熟成物表面W+F	30.09	9.81	3.74	0.28	0.02	0.20	31.20
No.3	*	*	輪形鏡冶鉄炉	*	木炭灰片、広葉樹、微小金属熟成物表面W+F	45.63	22.47	3.20	0.51	0.04	0.10	33.06
No.4	*	*	ガラス質鏡	*	溶渣ガラス質鏡、M.	5.66	6.15	2.15	0.77	0.22	0.22	88.37
No.5	*	*	輪形鏡冶鉄炉	*	木炭灰片、粒状灰、鉛造削片付鏡、半面W+F	52.20	30.04	1.71	0.27	0.03	0.17	21.69
No.6	*	*	輪形鏡冶鉄炉	*	溶渣ガラス質鏡 M.とJの鏡體部分F	47.88	18.48	1.48	0.26	0.12	0.12	31.09
No.7	*	*	輪形鏡冶鉄炉	*	木炭灰片、粒状灰、鉛造削片付鏡、薄層鏡	40.24	17.84	1.88	0.45	0.02	0.22	39.59
No.8	*	*	輪形鏡冶鉄炉	*	木炭灰片、溶渣W+H+MとHとの鏡溶化部分F	52.36	13.14	1.40	0.48	0.04	0.19	26.73
No.9	*	*	織機遺物	*	粒状灰片、鉛造削片、溶渣W+M、木炭灰片、溶化部分W+M	—	—	—	—	—	—	—
W.Waste	[FeO·Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> ·CaCO <sub>3</sub> ]	—	M.Magnetite	[Fe <sub>3</sub> O <sub>4</sub> ]	H.Hematite	[Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> ]	—	—	—	—	—	熱闇での操作(工作)に伴う融融物質

THE JOURNAL OF CLIMATE

## 2. 上ノ村遺跡出土土器の年代学的調査

土佐市新居上ノ村遺跡3点出土土器の年代学的調査

藤尾慎一郎・坂本 稔（国立歴史民俗博物館）

### (1) 調査の概要

2008年2月25日、高知県埋蔵文化財調査センターにおいて、土佐市新居上ノ村遺跡3地点で出土した縄文晩期に比定された無刻目突帯文7点の付着炭化物を採取し、前処理後、測定を行った。計3点から測定値を得ることが出来た。

本稿では、土器付着炭化物から得られた測定値について報告し、その実年代について考察する。無刻目突帯文土器は、鹿児島の入佐式、大分の上菅生B式（現在では上菅生B式古）や広島の中山B式のように晩期中葉に位置づけられる土器である。晩期中葉は大洞BC式を指標とし、その年代はAMS—炭素14年代測定の結果、前1100年ごろと考えられている。

今回の測定結果は、土佐における晩期中葉の年代もさることながら、西部瀬戸内の無刻目突帯文土器との年代関係を考える上でも貴重な測定例となる。

調査の結果、炭素14年代値は、 $3055 \pm 45 {}^{14}\text{C BP}$ 、 $3160 \pm 40 {}^{14}\text{C}$ 、 $3180 \pm 50 {}^{14}\text{C BP}$ であった。この炭素14年代は大洞B式の炭素年代と整合的な年代を示している。

以下、本稿では2で測定試料が付着していた土器について述べる。3は前処理について記す（坂本）。4で得られた炭素14年代値をもとにした測定結果を報告し（坂本）、5で考察を行った（藤尾・坂本）。なお試料調整は、歴博年代研究グループの坂本が行った。

### (2) 測定試料

測定試料は3点とも付着土器炭化物である。1は口頭部の、突帯下に付着していた。見た目は吹きこぼれ様にみえる。2は深鉢底部内面に付着していた。煮焦げの可能性がある。3は深鉢湾曲部外面に付着していた。見た目は吹きこぼれた様にみえる。

### (3) 試料処理

採取試料には、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において洗浄処理を実施した。アセトン中の超音波洗浄の後、年代測定試料に対する一般的な処理方法である酸・アルカリ・酸処理（AAA処理）を施した。自動処理装置[1]を用い、80°Cの温度下で1規定濃度（1N）の塩酸と1Nの水酸化ナトリウム溶液中で不純物を溶出させた後、純水で十分に洗浄した。

乾燥させた試料からは、元素分析計を接続した真空装置[1]を用いて、試料中の炭素を二酸化炭素として抽出し精製した。精製された二酸化炭素は装置内で水素と混合し、還元反応によりグラファイト炭素に転換した。同様の操作で、炭素14を含まないブランク試料（添川理化学炭素：No.75795A）、炭素14の標準試料（米国標準技術局シユウ酸：SRM4990C、通称 NIST OxII）のグラファイト炭素を調製した。グラファイト炭素は AMS (Accelerator Mass Spectrometry: 加速器質量分析法) 測定に供するため、専用のホルダに充填した。炭素14年代測定は、東京大学タンデム加速器研究施設のAMS装置（NEC: Pelletron 5UD）で実施した。

AAA処理の済んだ試料は、一部を分取して昭光通商（株）に送付し、炭素・窒素の安定同位体分析を依頼した（Thermo Electron : DELTAplus Advantage）。sq

#### (4) 測定結果

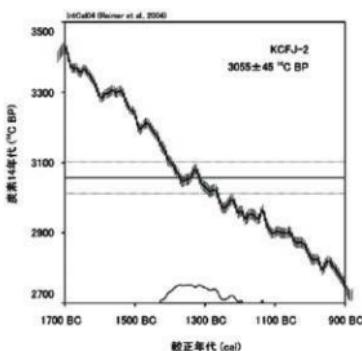
測定試料と結果の一覧を表1に示す。試料番号は、整理の目的で歴博が付したものである。測定機関番号のMTC-は、東京大学 tandem 加速器研究施設のAMS装置で測定されたことを表す。炭素14年代は、同位体分別効果を補正した炭素14濃度を元に、その半減期を5,568年と仮定して計算された経過年数を、西暦1950年からさかのぼった値である。報告値は下一桁を丸めることが慣習的に行われている。

炭素14年代はモデル年代であり、実際の歴上の年代を求めるには年代の判明した試料の炭素14年代と比較する、較正(calibration)が必要である。較正曲線IntCal04に基づき、正プログラムRHCを用いて導いた較正年代の範囲を表中に示す。試料の実際の年代は、この範囲に $2\sigma$  (95.4%)の確率で存在する。較正年代の確率密度分布を6-1図に示す。

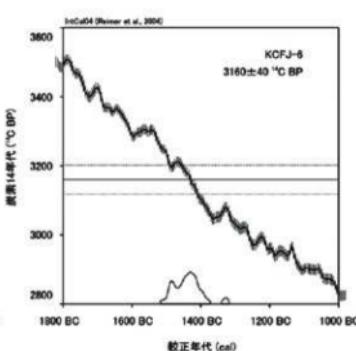
炭素・窒素分析の結果を表1に合わせて示す。炭素の安定同位体比( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比)、窒素の安定同位体比( $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$ 比)は、それぞれの標準物質の値からの偏差の千分率を $\delta$ 値として表す。 $\delta^{13}\text{C}$ 値はいずれも-25‰前後の値を示し、また炭素と窒素の濃度比(C/N比)も比較的高いことから、典型的な陸上植物を起源とする炭化物と予想される。1と3の $\delta^{15}\text{N}$ 値は13‰前後と高いが、これも外面に付着した炭化物として典型的な値である。一方、2の $\delta^{15}\text{N}$ 値は4‰台で、調理に伴って土器内面に付着した内容物に起源を持つ値と予想される。

表6-4 土器付着炭化物の測定結果一覧

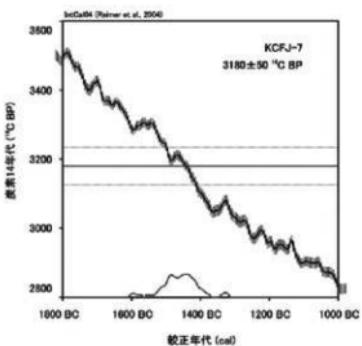
#	試料番号	採取部位	測定機関番号	炭素14年代 ( $^{\text{14}}\text{C BP}$ )	較正年代 (cal BC)	確率	$\delta^{13}\text{C}$ 値 (‰)	$\delta^{15}\text{N}$ 値 (‰)	C/N比
1	KCFJ-2	口縁部外面	MTC-11520	$3055 \pm 45$	1425 - 1205 1205 - 1195 1140 - 1135	94.0% 0.9% 0.6%	-25.8	12.9	25.0
2	KCFJ-6	底部内面	MTC-11504	$3160 \pm 40$	1515 - 1375 1335 - 1320	92.3% 3.1%	-24.4	4.36	13.1
3	KCFJ-7	胴部外面	MTC-11505	$3180 \pm 50$	1605 - 1575 1555 - 1550 1535 - 1370 1340 - 1315	2.8% 0.4% 89.6% 2.6%	-25.4	13.4	25.1



6-1図 上ノ村1の確率密度分布



6-2図 上ノ村2の確率密度分布



6-3図 上ノ村3の確率密度分布

## (5) 考察

歴博年代グループでは、無刻目突帯文土器の測定をこれまで1点行っている<sup>1</sup>。大分市玉沢条里跡7次調査で出土した上生晩B式古の1点である<sup>2</sup>。6-4図に示した土器は、 $2905 \pm 30$   $^{14}\text{CBP}$  (MTC - 07427) で、この土器に伴う深鉢の炭素14年代は、 $2955 \pm 30$  (MTC - 07426) と  $2945 \pm 35$  (MTC - 07428) である。上ノ村遺跡出土土器に比べると、炭素14年代ベースで100炭素年から150炭素年、新しい測定値を示している。

逆に言うと上ノ村遺跡出土土器が古い値を示しているわけだが、まず疑わなければならないのは海洋リザーバー硬化の影響を認められるという点である。坂本は、 $\delta^{13}\text{C}$  値はいずれも -25‰前後 の値を示し、また炭素と窒素の濃度比 (C/N 比) も比較的高いことから、典型的な陸上植物を起源とする炭化物と予想されるとしているので、その影響は考慮しなくともよさそうである。

また坂本によれば、1と3は $\delta^{15}\text{N}$ 値が13‰前後と高く、ススの値としては典型的な数値を占めているが、2は $\delta^{15}\text{N}$ 値が4‰台なので、調理対象の影響が出ているという判断である。

となれば上ノ村遺跡の測定値が年代的に古いことをより示している可能性が高まる。晩期初頭の標識である大洞B1式の炭素14年代は、岩手県一戸町山井遺跡から出土した木胎漆器のウルシの炭素14年代が、 $2940 \pm 40$  (IAAA - 40514) で、校正年代は前1280～前1250年ごろと考えられている。

九州南部の晩期初頭に比定される鹿児島県南さつま市諺訪牟田遺跡出土の入佐式の炭素14年代は、 $2990 \pm 30$  (Beta - 176043) なので、上菅生B式古は晩期初頭よりはわずかに若い数値を示すが、上ノ村遺跡から出土した無刻目突帯文土器は、縄文後期までさかのばる値を示している。要するに高知西部の無刻目突帯文土器の方が刻目文土器より単に古いだけでなく、後期末でさかのばることを意味している。

ちなみに近年話題になっている韓国の青銅器時代早期、突帯文土器の炭素14年代は2900台などで、九州の無刻目突帯文土器の炭素14年代にきわめて近い。

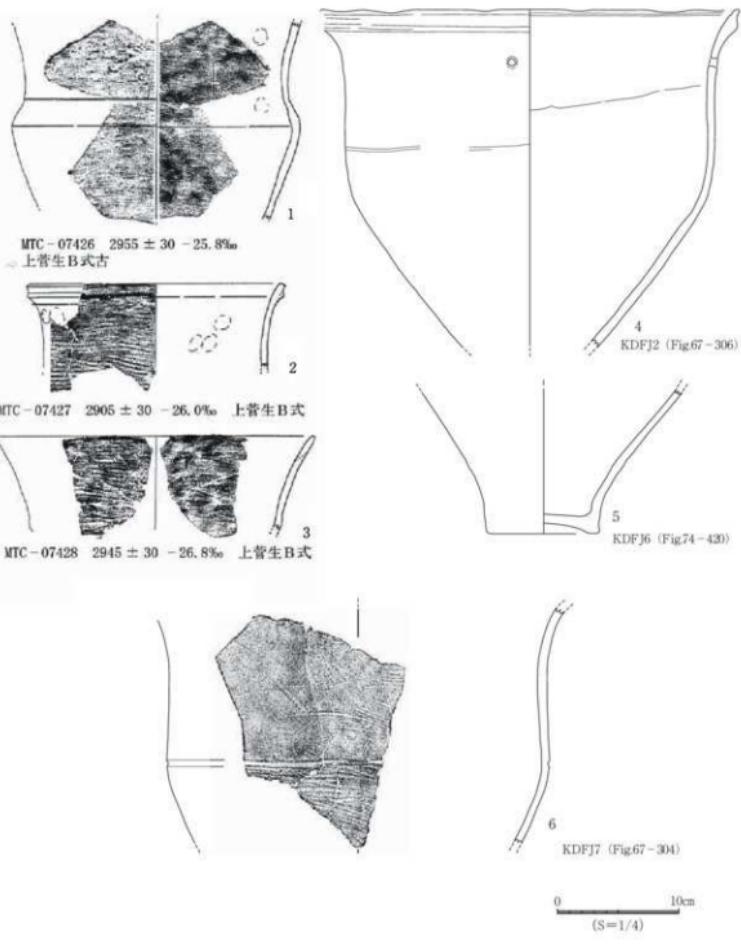
無刻目突帯文土器が縄文後期までさかのばるのか、晩期初頭までさかのばるのか、九州と高知では出現年代に差があるのか、といった年代的位置づけについては、もう少し測定例を増やした上で慎重に検討する必要があるだろう。

#### 謝辞

国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室は、科学研究費補助金（学術創成）「弥生農耕の起源と東アジア－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－」（西本豊弘研究代表）の実施に伴って整備されたもので、今回の試料調製においてはその資源の一部が利用された。炭素14年代測定においては、東京大学大学院の松崎浩之准教授の助力を得たことを深謝する。

#### 文献

- 1 M Sakamoto et al. (in press). Design and Performance Tests of an Efficient Sample Preparation System for AMS -  $^{14}\text{C}$  Dating. Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B.
- 2 P. J. Reimer et al. (2004). IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0–26 Cal Kyr BP. Radiocarbon 46: 1029 – 1058.
- 3 今村峯雄 (2007). 炭素14年代校正ソフト RHC3.2について. 国立歴史民俗博物館研究報告 137: 79 – 88.
- 4 藤尾慎一郎・小林豪一 (2006) 「大分市玉沢条里遺跡出土土器に付着した炭化物の炭素14年代測定」『玉沢地区条里跡 第7次発掘調査報告』pp.129 – 140 大分市教育委員会
- 5 高知県教育委員会・財高知県文化財団埋蔵文化財センター (2011) pp.92 - 99



6-4 図 大分市玉沢条里跡第7次出土上晉生B式土器（1~3）と上ノ村遺跡出土土器（4~6）  
（文献4・5より）

### 3 - 1 区写真図版





3 地点調査前の全景 南上空から



同上 南東から

図版2



3 地点調査前の全景 北から



渡し場跡



3-1区上層完掘状況 真上から



同上 南側上空から

図版4



3-1 区上層石列 南から



同上 西から



3-1区上層石列 東から



3-1区北壁土層堆積状況①

図版6



3-1 区北壁土層堆積状況②



SD7



SD9 セクション



SK7



SK3 土瓶(3) 出土状況



3-1区中層完掘状況 直上から



同上 北上から

図版8



3-1区 SD20 置出土状況



同上遺物集中出土状況



3-1区 SD20 置出土状況 南から



同上 北から

図版 10



3-1 区中層集石 1 東から



同上 SD22・23 完掘状況 南から



3-1 区中層集石 1 南から



同上 西から

図版 12



SK10 完掘状況



SK12 セクション



SK14 セクション



SK15 検出状況（集石 1 E の縛を除去）



SK15 縛出土状況



SK15 完掘状況



SK17 土器出土状況



SK17



SK18 セクション



SK21 完掘状況



SK22 完掘状況



SK23 完掘状況



SK24 完掘状況



SK25 セクション



SK40 完掘状況



SK46 繰出土状況

図版 14



SK42 ~ 44 完掘状況



SK47



SD20 セクション



同左



SD20 セクション



SD22 セクション



SD23 セクション



SD25 セクション



SD20 の土器集中出土状況



同左 北から



同上東播磨系窯 291 出土状況



同左常滑窯 292 出土状況



同上集石間土器杯出土状況



集石 2



4 層土器集中



4 層出土の瓦器塊

図版 16



SD23 出土の青磁碗 380



4層土器集中1の青磁碗 495と瓦器椀 494



4層土器集中1の白磁碗 496



4層出土の青磁碗底部 690 「金玉満堂」銘



4層出土青磁皿 687



4層出土の白磁碗 696



4層出土の土師質土器杯



4層出土の瓦器椀



3-1区下層完掘状況

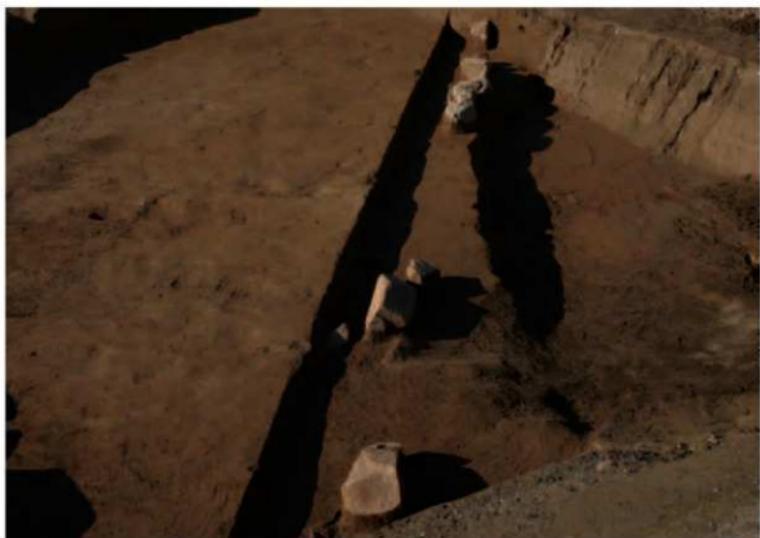


同上 北東方向上空から

図版 18



SK51 完掘と焼土の広がり（手前は SD31）



下層東端の石列



SK51 セクション



SD31 セクション



SD32 セクション



SD33 セクション



SD33 出土の瓦器碗



SD33 出土の青磁碗 589



SD33 出土の青磁碗 588



SD39 出土の東播系壺 638

図版 20



3-1区出土の土師質杯 (SK14:79)



同 (SK17:113)



同 (SK17:114)



同 (SK17:117)



同 (SK17:118)



同 (SK17:119)



同 (SK27:171)



同 (SK34:182)



3-1区出土の土師質杯 (SD20: 239)



同 (SD20: 245)



同 (SD20: 336)



同 (SD20: 337)



同 (SD20: 338)



同 (SD20: 339)



同 (SD20: 340)

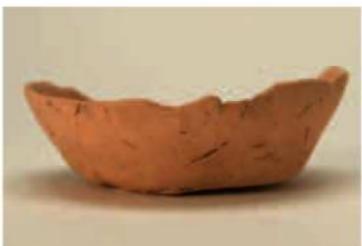


同 (SD20: 341)

図版 22



3-1区出土の土師質杯 (SD20:345)



同 (SD20:343)



3-1区出土の瓦器碗 (SD23:372)



同 (SD32:560)



同 (SD33:581)



同 (集石2:489)



同 (包含層:677)



同 (包含層:678)



3-1区出土の白磁碗（4層土器集中1：496）



同（4層土器集中1：497）



同（包含層：696）



3-1区出土の青磁碗（SD33：588）



同（SD33：589）



3-1区出土の土瓶（SK3：3）



3-1区出土の温石（包含層：710）



同左裏面

図版 24



3-1 区出土の東播系捏鉢



同常滑壳・鉢



3-1区出土の常滑甕脇部押印



3-1区出土の紀伊型甕

図版 26



3-1 区出土の青磁碗



同上内面



3-1 区出土の青磁皿（687）・碗底部



同白磁碗・皿

図版 28



3-1 区出土の近世陶磁器



同上内面

## 3－2 区写真図版





中面完掘状況 北から



中面完掘状況 上から

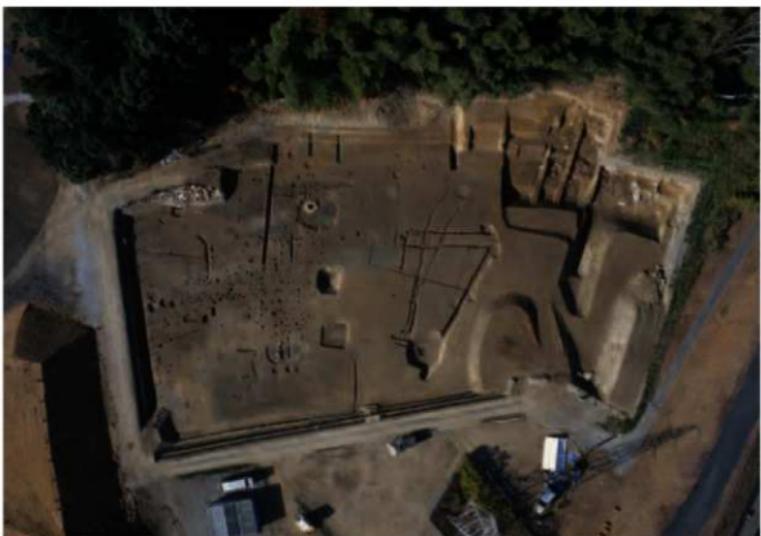
図版 30



中面完掘状況遠景 北から



中面完掘状況 南から



下面完掘状況 上から



下面完掘状況近景 北から

図版 32



SK1 遺物出土状況



SK38 遺物出土状況



SD20 遺物出土状況



SK38 遺物出土状況近景



SD20 遺物出土状況近景



SX1 検出状況



SX1 集石出土状況



瓦器出土状況

図版 33



青磁

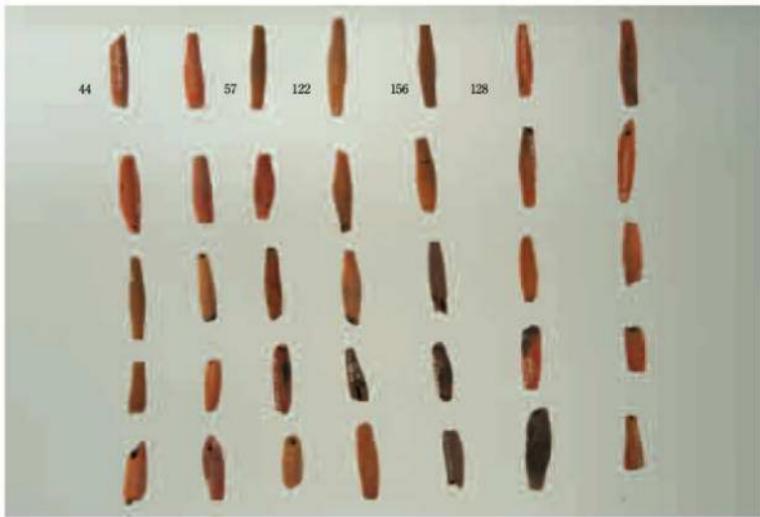


瓦器皿

図版 34



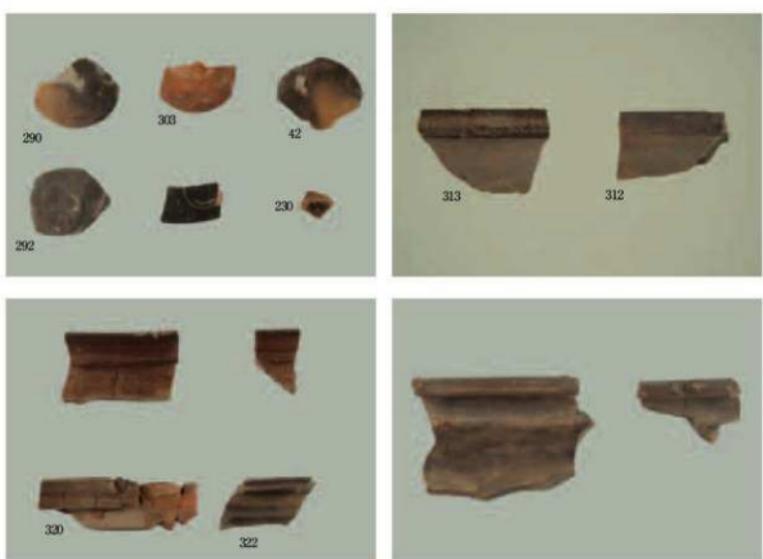
瓦質・土師質羽釜



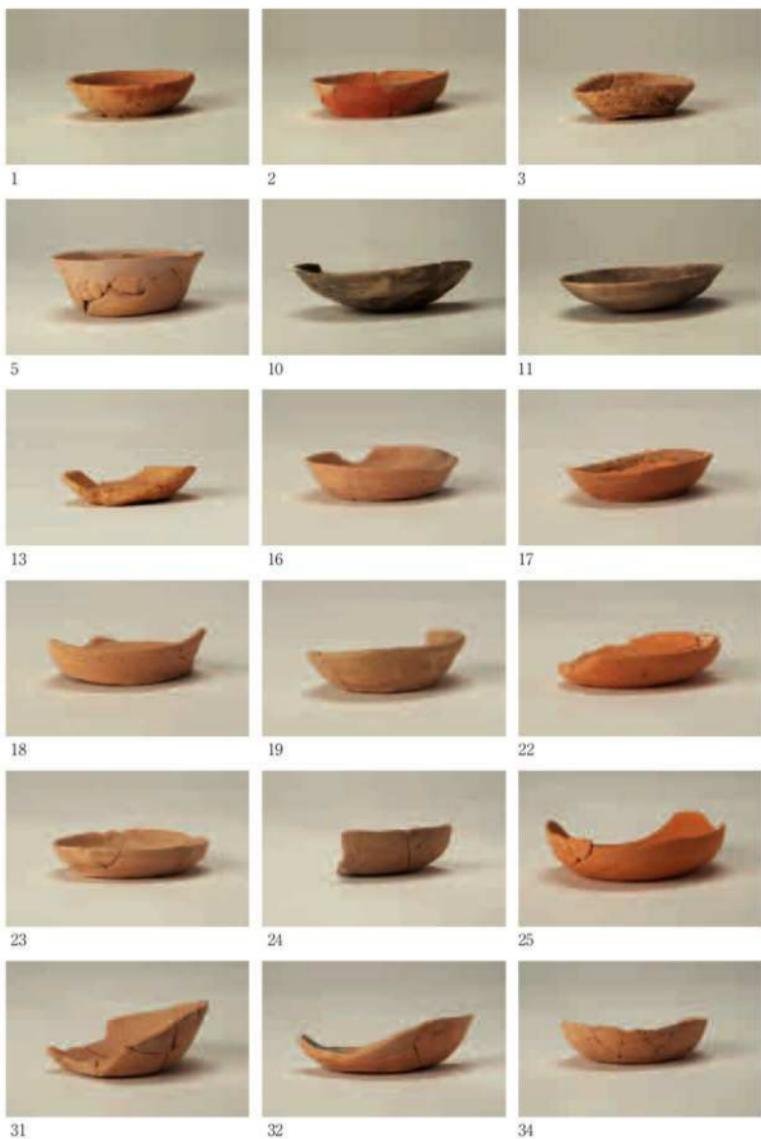
土錘



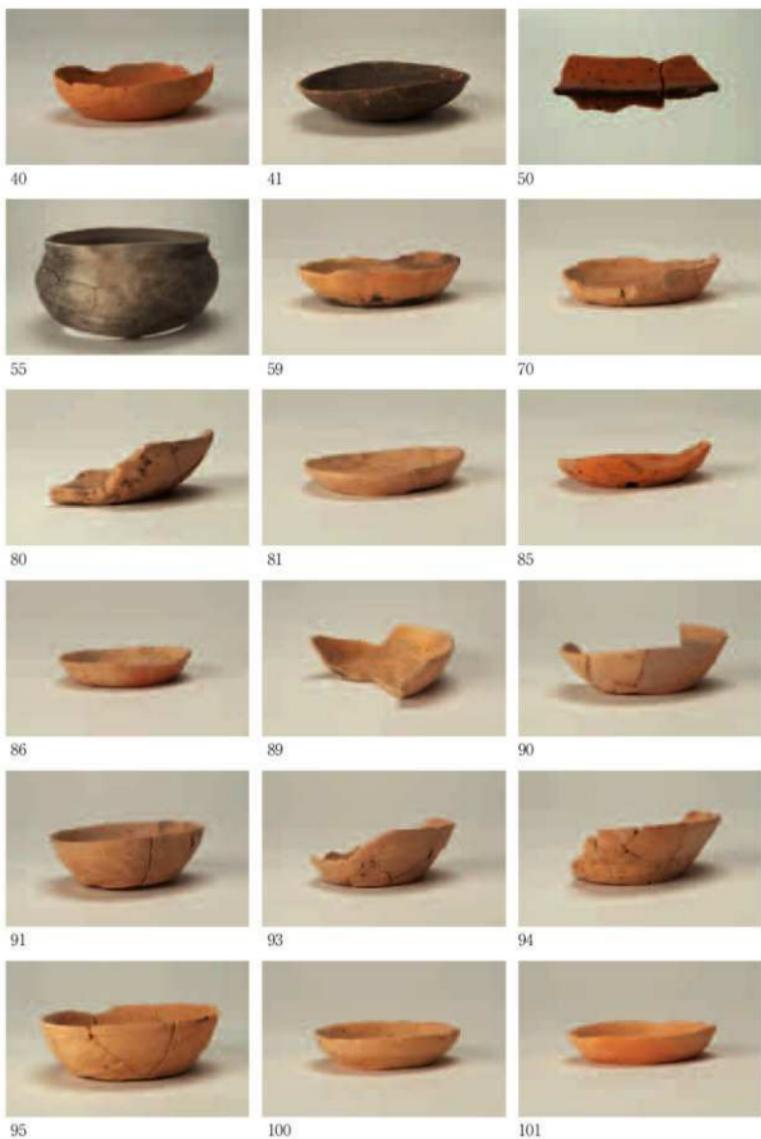
備前焼



図版 36



図版 37



図版 38



103



105



106



107



108



109



110



110



111



112



113



114



115



126



130



131



135



136

図版 39



図版 40



175



172



174



176



177



178



181



182



186



187



189



191



192



193



194



195



197



199

図版 41



199



200



201



205



207



210



213



214



215



219



219



225



234



249



250



255



255



256

図版 42



257



258



258



259



261



262



263



264



265



275



284



287



288



291



293



296



298



319



323



332



333



334



124 336



338



339



347



348



351



353



354



357



358



368



写真 1



写真 2



写真 3



### 3－3 区写真図版





上面完掘状況 上から



下面検出状況 南から

図版 45



下層完掘状況 上から



下面完掘状況 南から



下 SK3 出土状況



SE1 井戸枠検出状況



SE1 井戸枠検出状況近景



SE1 井戸枠完掘状況近景



SE1 井筒



SE1 井筒



石列 1 検出状況



石列 1 作業風景

図版 47



石列検出状況 南から



石列 1・2・3 北から



石列南側 南から



遺物集中 1 出土状況



遺物集中 2 出土状況



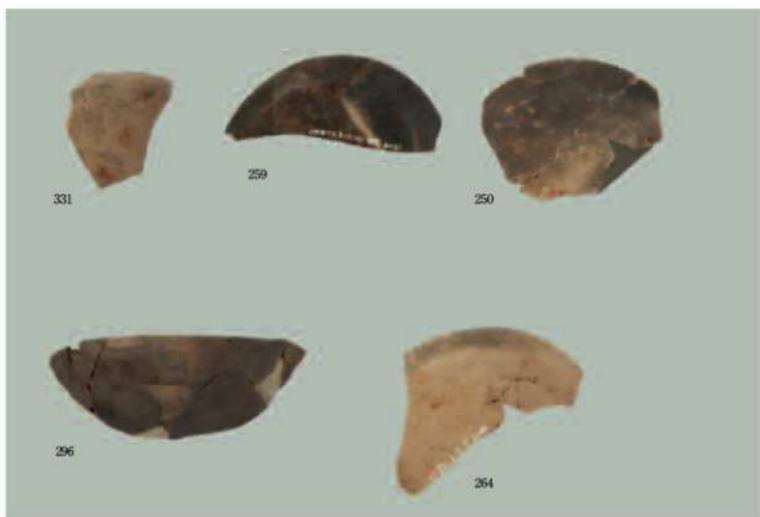
遺物集中 3



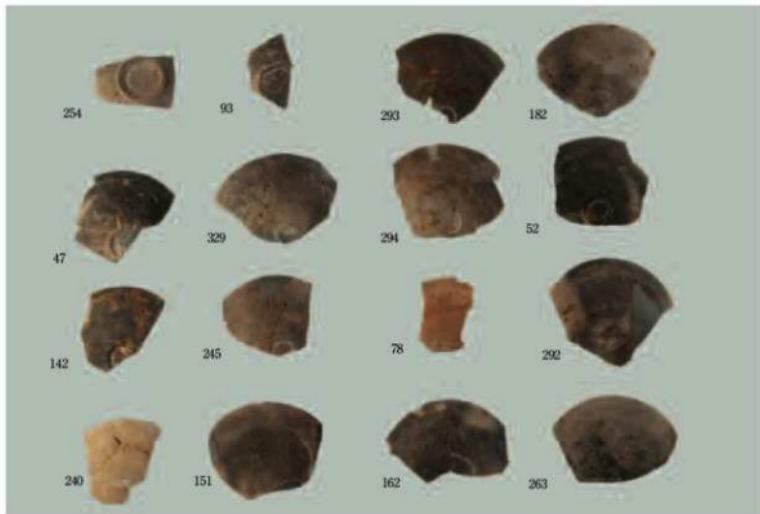
5 層瓦器出土状況



5 層 土鐘出土状況



瓦器塊

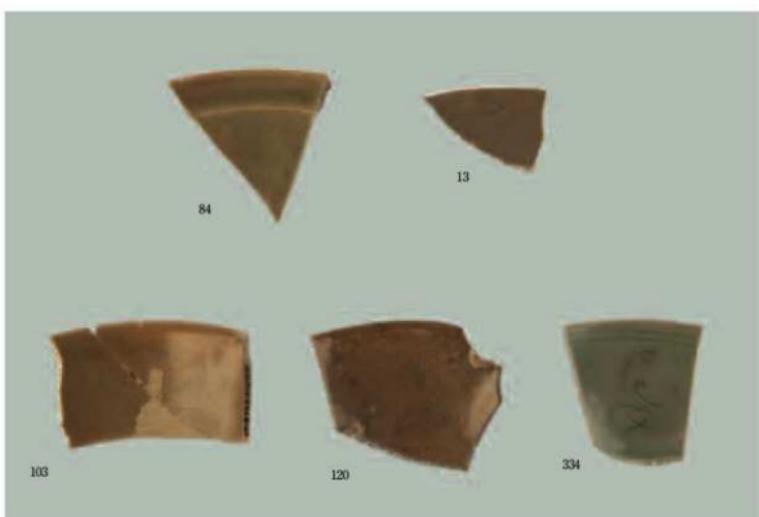


瓦器

図版 49



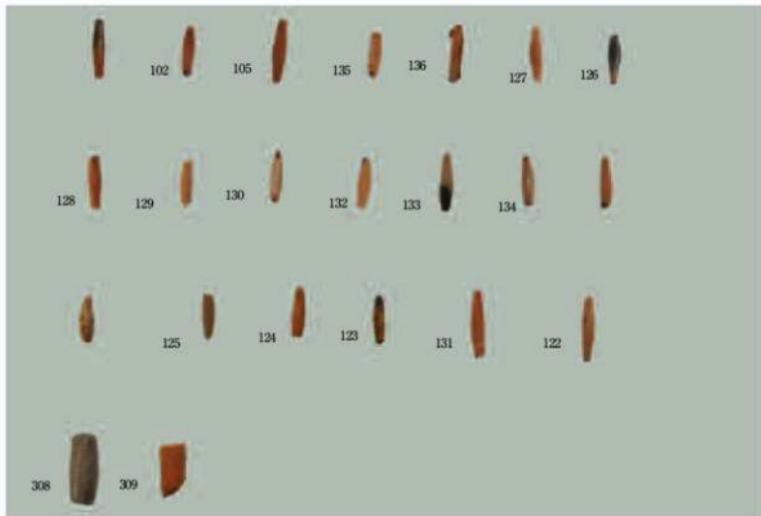
青磁外面



青磁内面

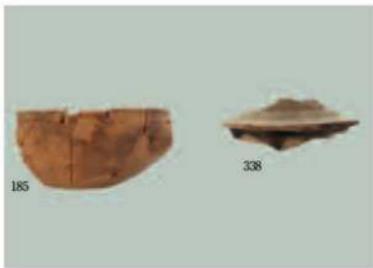
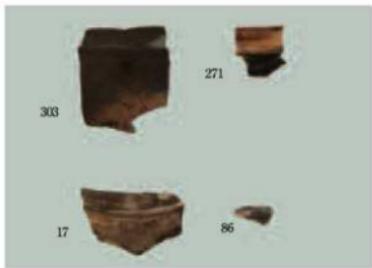
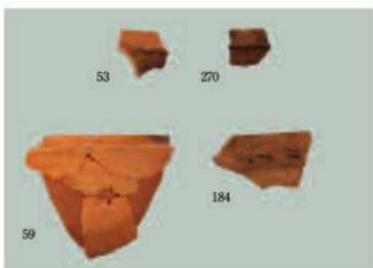
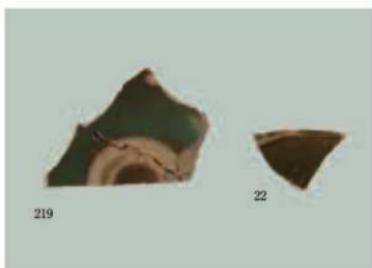
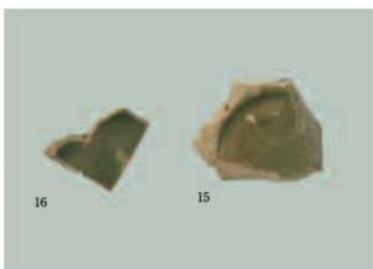
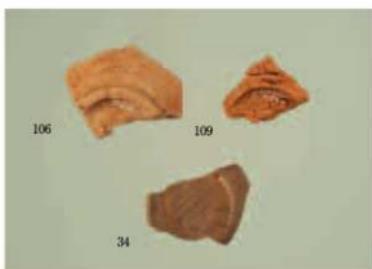


東播系須恵器

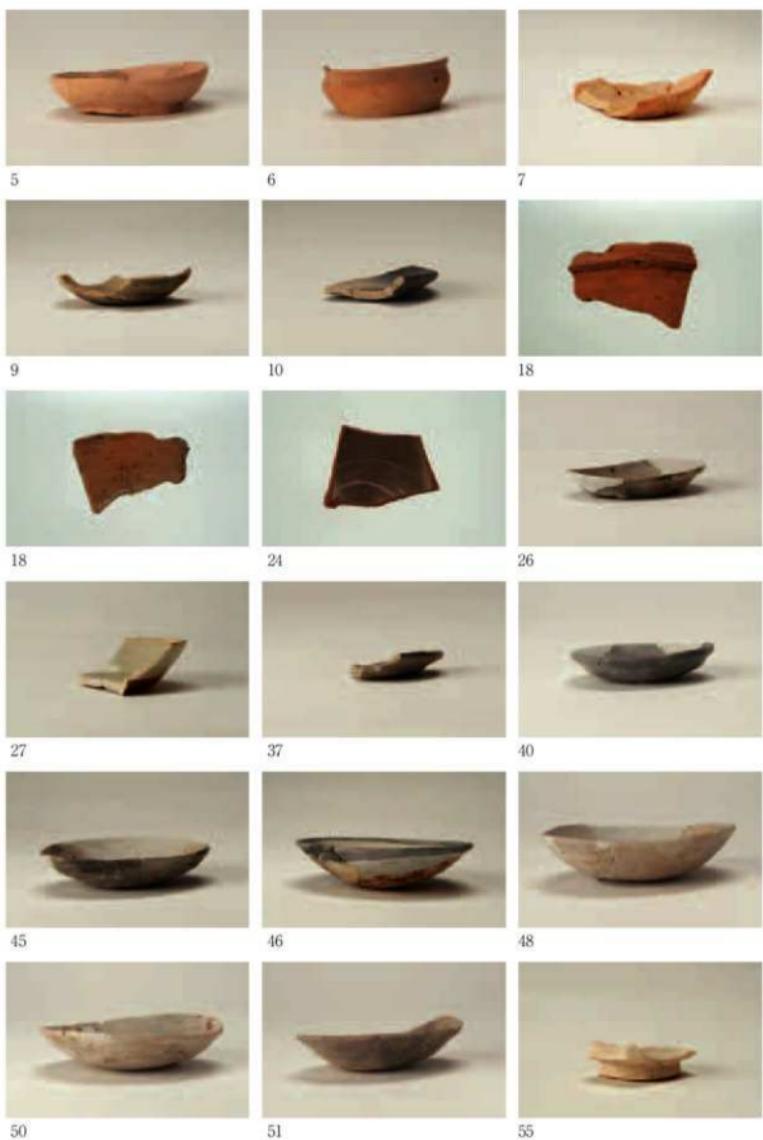


土鍤

図版 51



図版 52



図版 53



図版 54



104



108



110



114



116



119



119



137



139



140



141



146



148



150



152



154



159



161

図版 55



163



164



167



169



170



171



172



173



175



176



178



179



181



187



188



189

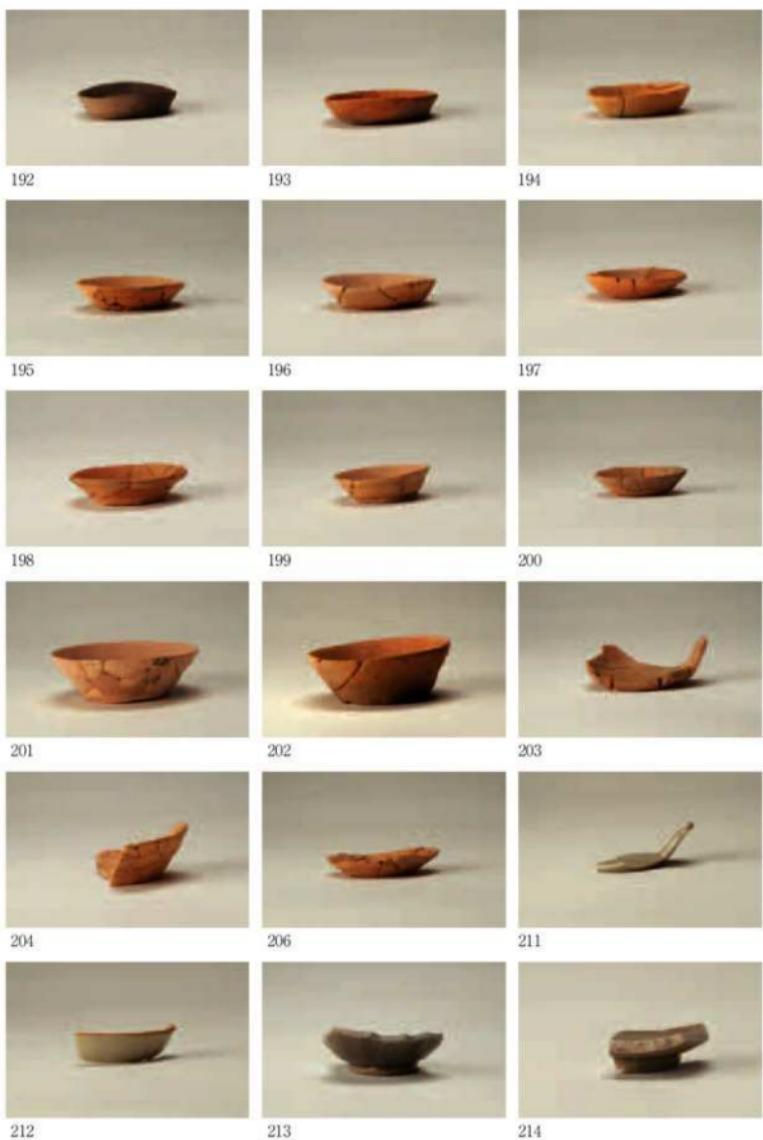


190



191

図版 56



図版 57



216



217



218



220



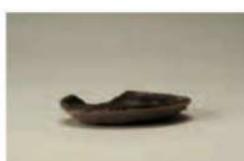
221



222



223



224



225



226



227



228



229



230



231



232



233



234

図版 58



図版 59



272



276



276



279



283



284



285



286



298



304



305



310



311



311



312



313



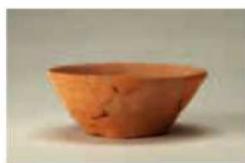
314



315



316



317



319



320



320



322



323



325



327



330



333



337



340



342



写真 1



写真 2



写真 3



## 3 - 4・5 区写真図版





3-4区完掘状況（西から）



同上（東から）

図版 62



3-5 区完掘状況



3-5 区東壁セクション



3-5 区護岸状造構（東から）



同上（北から）

図版 64



3-5区北岸セクションと護岸状遺構（南から）



3-5区護岸状遺構（南から）



3-5区SK4



3-5区SK5 遺物出土状況（右側はSK4）



3-5区SK5 遺物出土状況



3-5区SK8



3-5区SD3セクション



3-5区SD4セクション

# 自然化学分析写真図版



Photo.1 梶形鍛冶滓の顕微鏡組織

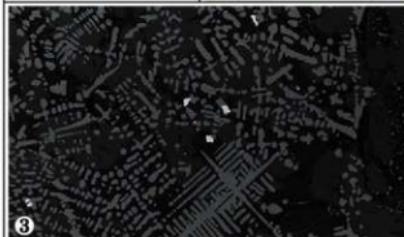
No1 梶形鍛冶滓

①×200 中央：金銅粒ニタル  
ル etch 車共析組織  
硬度：152Hv. (100gf)  
滓部ウスタイト・ファイアライト



No2 梶形鍛冶滓

②×400 付着鍛造薄片  
③×400 細白色粒：金銅鉄  
滓部ウスタイト・ファイアライト  
④×200 硬度：147 Hv. ウスター  
イト (200gf)



No4 梶形鍛冶滓

⑤×50 木炭破片、木口面：広葉  
樹材  
⑥×100 細白色粒：金銅鉄  
滓部ウスタイト・ファイアライト  
⑦×400 ⑥の拡大  
金銅鉄部：ナイタル etch  
フェライト単層



Photo.2 ガラス質滓・椀形鍛治滓の顕微鏡写真

No4 ガラス質滓 ①×100 ガラス質滓、マグネット イト		
No.5 梗形鍛治滓 ②×100 本炭破片 ③×100 上側暗色粒：粒状滓、 中央：鍛造薄片 ④×100 粒状滓 ⑤×100 明白色粒：金属鉄、滓 部：ウスタイト・ファイヤライト ⑥×400 ⑤の拡大 金属鉄部：ナイタル etch フェライト單層		
③		④
⑤		⑥
No.6 梗形鍛治滓 ⑦×100 漬部：ウスタイト・ ファイヤライト		

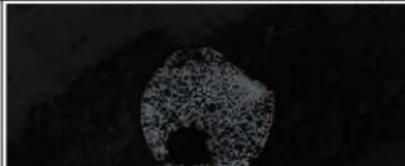
Photo.3 梱形鍛治滓の顕微鏡組織

No.7 梱形鍛治滓

- ①×200 粒状滓
- ②×200③×400 鋳造剥片
- ④×100 洋部：ウスタイト
- ⑤×200 洋部：微笑ウスタイト・ファイヤ、硬度659Hv。ファイヤライト(200gf)



① No. 7 ④



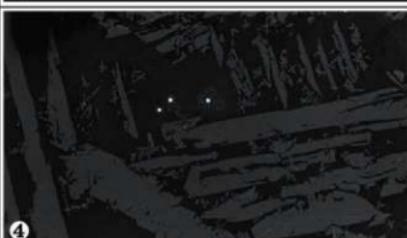
①



②



③



④



⑤

No.8 梱形鍛治滓

- ⑥×100 本炭破片
- ⑦×100 洋部：ウスタイト・ファイヤライト
- ⑧×200 同上、硬度674Hv。フェヤライト(200gf)



⑨ No. 8 ⑩



⑥



⑦



⑧

Photo.4 微細遺物の顕微鏡組織

No.7 梶形鍛治滓

- ①×20 マクロ組織
- ②×200 粒状滓
- ③×200 鍛造滓片
- ④⑤×50 鍛治滓片
- ⑥×100 木炭片
- ⑦×100 鋼化鉄



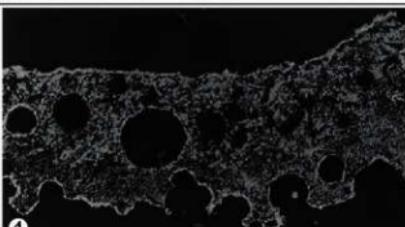
①



②



③



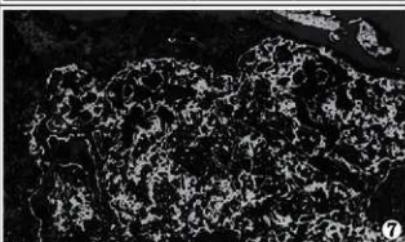
④



⑤



⑥



⑦

報告書抄録



高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第127集

## 上ノ村遺跡Ⅲ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V

編 集 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

発 行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

電話 088-864-0671

発行日 2012年3月15日

印 刷 株式会社 飛鳥